

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	日本文学 (読替科目: 文学を読む) 岩本 真理子 他	1学期	1	2	405
	1年				
	中国の漢字と文学 未定	2学期	1	2	
	1年				
	中国の人と文学 未定	1学期	1	2	
	1年				
	西洋史 (読替科目: 西洋史) 疇谷 憲洋	1学期	1	2	419
	1年				
	地中海世界の歴史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	1
	1年				
	東洋史 (読替科目: 東洋史) 内田 直文	2学期	1	2	420
	1年				
	日本史 (読替科目: 日本史) 内山 一幸	2学期	1	2	418
	1年				
	女性史 富安 兆子	2学期	1	2	2
1年					
女性と社会 (読替科目: ジェンダー論) 力武 由美	1学期	1	2	409	
1年					
哲学入門 (読替科目: 倫理学) 伊原木 大祐	2学期	1	2	422	
1年					
哲学の諸問題 堺 正憲	2学期	1	2	3	
1年					
倫理学原論 (読替科目: 現代社会と倫理) 伊原木 大祐	1学期	1	2	413	
1年					
応用倫理学 (読替科目: 現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	406	
1年					
文化と社会 (読替科目: 人間と文化) 重信 幸彦	1学期	1	2	373	
1年					
人権の歴史 (読替科目: 民主主義とは何か) 中道 壽一	1学期	1	2	407	
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	人権と社会 (読替科目:人権論) 柳井 美枝	1学期	1	2	408
	1年				
	現代と思想 (読替科目:思想と現代) 伊原木 大祐	1学期	1	2	404
	1年				
	経済と社会 (読替科目:グローバル化する経済) 前田 淳 他	1学期	1	2	416
	1年				
	現代社会と経営 (読替科目:企業と社会) 山岡 敏秀	1学期	1	2	412
	1年				
	社会学の考え方 (読替科目:社会学) 稲月 正	1学期	1	2	421
	1年				
	現代社会の解説 (読替科目:現代社会の諸問題) 山本 光英 他	2学期	1	2	414
	1年				
	暮らしの中の化学物質 (読替科目:暮らしと化学) 竹之下 芳也	2学期	1	2	402
	1年				
	地球...その生いたち (読替科目:地球の生いたち) 長井 孝一	2学期	1	2	400
	1年				
	地球と生命 (読替科目:自然史へのいざない) 重信 幸彦 他	2学期	1	2	401
	1年				
現代人のころ (読替科目:現代人のころ) 小松 佐穂子	1学期	1	2	403	
1年					
遺伝と生命 山根 明弘	2学期	1	2	4	
1年					
薬と暮らし 森 正明	2学期	1	2	5	
1年					
栄養と暮らし (読替科目:自己管理論)	2学期	1	2	380	
1年					
自然と社会の共生論 (読替科目:自然学のまなざし) 竹川 大介 他	1学期	1	2	399	
1年					
国際社会と日本 (読替科目:国際社会と日本) 中野 博文	1学期	1	2	417	
1年					

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名		学期	履修年次	単位	索引	
	担当者		クラス				
	備考						
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	現代世界の展望 (読替科目:現代の国際情勢)	金 鳳 珍	1学期	1	2	415	
			1年				
	支えあう世の中 (読替科目:共生の作法)	山本 光英 他	2学期	1	2	410	
			1年				
	北九州を知る (読替科目:北九州学)	小野 憲昭	2学期	1	2	411	
			1年				
	■外国語教育科目	英語I (読替科目:英語I)	木梨 安子	1学期	1	1	423
				律政1-I			
		英語II (読替科目:英語II)	木梨 安子	2学期	1	1	424
		律政1-I					
英語III (読替科目:英語III)		船方 浩子	1学期	1	1	425	
		律政1-I					
英語IV (読替科目:英語IV)		船方 浩子	2学期	1	1	426	
		律政1-I					
英語V (読替科目:英語V)		大塚 由美子	1学期	2	1	427	
		律政2-I					
英語VI (読替科目:英語VI)		大塚 由美子	2学期	2	1	428	
		律政2-I					
英語VII (読替科目:英語VII)		薬師寺 元子	1学期	2	1	429	
		律政2-I					
英語VIII (読替科目:英語VIII)		薬師寺 元子	2学期	2	1	430	
		律政2-I					
ドイツ語I (読替科目:ドイツ語I)		山下 哲雄	1学期	2	1	443	
		律政2年					
ドイツ語II (読替科目:ドイツ語II)		山下 哲雄	2学期	2	1	444	
		律政2年					
ドイツ語III (読替科目:ドイツ語III)	山下 哲雄	1学期	2	1	445		
		律政2年					
ドイツ語IV (読替科目:ドイツ語IV)	山下 哲雄	2学期	2	1	446		
		律政2年					

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
<ul style="list-style-type: none"> ■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■外国語教育科目 	フランス語I (読替科目：フランス語I)	1学期	2	1	447
	坂田 由紀	律政2年			
	フランス語II (読替科目：フランス語II)	2学期	2	1	448
	坂田 由紀	律政2年			
	フランス語III (読替科目：フランス語III)	1学期	2	1	449
	山下 広一	律政2年			
	フランス語IV (読替科目：フランス語IV)	2学期	2	1	450
	山下 広一	律政2年			
	スペイン語I (読替科目：スペイン語I)	1学期	2	1	451
	青木 文夫	律政2年			
	スペイン語II (読替科目：スペイン語II)	2学期	2	1	452
	青木 文夫	律政2年			
	スペイン語III (読替科目：スペイン語III)	1学期	2	1	453
	辻 博子	律政2年			
	スペイン語IV (読替科目：スペイン語IV)	2学期	2	1	454
	辻 博子	律政2年			
	ロシア語I (読替科目：ロシア語I)	1学期	2	1	439
	芳之内 雄二	律政2年			
	ロシア語II (読替科目：ロシア語II)	2学期	2	1	440
	芳之内 雄二	律政2年			
	ロシア語III (読替科目：ロシア語III)	1学期	2	1	441
ナタリア・シエストコーワ	律政2年				
ロシア語IV (読替科目：ロシア語IV)	2学期	2	1	442	
ナタリア・シエストコーワ	律政2年				
中国語I (読替科目：中国語I)	1学期	2	1	431	
野村 和代	律2年				
中国語II (読替科目：中国語II)	2学期	2	1	432	
野村 和代	律2年				
中国語III (読替科目：中国語III)	1学期	2	1	433	
大連交換教員	律2年				

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
		備考				
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■外国語教育科目	中国語Ⅳ (読替科目：中国語Ⅳ) 大連交換教員	2学期	2	1	434	
		律 2年				
	朝鮮語Ⅰ (読替科目：朝鮮語Ⅰ) 金 貞淑	1学期	2	1	435	
		律政 2年				
	朝鮮語Ⅱ (読替科目：朝鮮語Ⅱ) 金 貞淑	2学期	2	1	436	
		律政 2年				
	朝鮮語Ⅲ (読替科目：朝鮮語Ⅲ) 金 貞淑	1学期	2	1	437	
		律政 2年				
	朝鮮語Ⅳ (読替科目：朝鮮語Ⅳ) 金 貞淑	2学期	2	1	438	
		律政 2年				
	■情報処理教育科目	情報処理基礎 中尾 泰士	2学期	1	2	6
			1年			
ネットワーク通信 廣渡 栄寿		1学期	1	2	7	
		1年				
■健康管理教育科目	スポーツ科学 (読替科目：フィジカル・ヘルスⅡ) 高西 敏正	2学期	1	1	374	
		1年				
	スポーツ科学 (読替科目：フィジカル・ヘルスⅡ) 高西 敏正	2学期	1	1	375	
		1年				
	スポーツ科学 (読替科目：フィジカル・ヘルスⅡ) 徳永 政夫	2学期	1	1	376	
		1年				
	スポーツ科学 (読替科目：フィジカル・ヘルスⅡ) 徳永 政夫	2学期	1	1	377	
		1年				
	スポーツ科学 (読替科目：フィジカル・ヘルスⅡ) 加倉井 美智子	2学期	1	1	378	
		1年				
	スポーツ科学 (読替科目：フィジカル・ヘルスⅡ) 加倉井 美智子	2学期	1	1	379	
		1年				
	生涯スポーツⅠ(サッカー) (読替科目：フィジカル・エクササイズⅠ(サッカー)) 磯貝 浩久	1学期	1	1	381	
		1年				
生涯スポーツⅠ(テニス) (読替科目：フィジカル・エクササイズⅠ(テニス)) 原田 守治	1学期	1	1	382		
	1年					

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■健康管理教育科目	生涯スポーツI (バスケットボール) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI(バスケットボール)) 原田 守治	1学期	1	1	383	
			1年			
	生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI(バドミントン)) 美山 泰教	1学期	1	1	384	
			1年			
	生涯スポーツI (バレーボール) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI(バレーボール)) 美山 泰教	1学期	1	1	385	
			1年			
	生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI(バドミントン)) 鯨 吉夫	1学期	1	1	386	
			1年			
	生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI(バドミントン)) 鯨 吉夫	1学期	1	1	387	
			1年			
	生涯スポーツI (バレーボール) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI(バレーボール)) 高西 敏正	1学期	1	1	388	
			1年			
	生涯スポーツI (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズI(バドミントン)) 徳永 政夫	1学期	1	1	389	
			1年			
	生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII(バドミントン)) 磯貝 浩久	2学期	1	1	390	
			1年			
	生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII(バドミントン)) 原田 守治	2学期	1	1	391	
			1年			
	生涯スポーツII (バスケットボール) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII(バスケットボール)) 原田 守治	2学期	1	1	392	
		1年				
生涯スポーツII (バレーボール) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII(バレーボール)) 美山 泰教	2学期	1	1	393		
		1年				
生涯スポーツII (バレーボール) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII(バレーボール)) 美山 泰教	2学期	1	1	394		
		1年				
生涯スポーツII (サッカー) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII(サッカー)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	395		
		1年				
生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII(バドミントン)) 鯨 吉夫	2学期	1	1	396		
		1年				
生涯スポーツII (サッカー) (読替科目 : フィジカル・エクササイズII(サッカー)) 磯貝 浩久	2学期	1	1	397		
		1年				

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名		学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス				
	備考					
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■健康管理教育科目	生涯スポーツII (女性のスポーツ) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ))		2学期	1	1	398
	加倉井 美智子		1年			
	生涯スポーツIII		1学期	2	1	8
	徳永 政夫		2年			
	生涯スポーツIV		2学期	2	1	9
	加倉井 美智子		2年			
■留学生特別科目	日本語 A (読替科目：日本語 A)		1学期 (ペア)	1	2	455
	小林 浩明		留学生 1年			
	日本語 A (読替科目：日本語 A)		1学期 (ペア)	1	2	456
	小林 浩明		留学生 1年			
	日本語 B (読替科目：日本語 B)		1学期 (ペア)	1	2	457
	則松 智子 他		留学生 1年			
	日本語 C (読替科目：日本語 C)		2学期 (ペア)	1	2	458
	小林 浩明 他		留学生 1年			
	日本語 D (読替科目：日本語 D)		2学期 (ペア)	1	2	459
	清水 順子 他		留学生 1年			
	日本事情 (社会) A (読替科目：日本事情 (社会) A)		1学期	1	2	460
	山崎 勇治		留学生 1年			
	日本事情 (社会) B (読替科目：日本事情 (社会) B)		2学期	1	2	461
	山崎 勇治		留学生 1年			
■専門基礎教育科目	法学基礎演習I (専門基礎教育)		1学期	1	2	10
	今泉 恵子		1年			
	法学基礎演習I (専門基礎教育)		1学期	1	2	11
	植木 淳		1年			
	法学基礎演習I (専門基礎教育)		1学期	1	2	12
	岡 邦信		1年			
法学基礎演習I (専門基礎教育)		1学期	1	2	13	
岡本 博志		1年				
法学基礎演習I (専門基礎教育)		1学期	1	2	14	
落合 俊行		1年				

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基礎教育科目 ■専門基礎教育科目	法学基礎演習I (専門基礎教育) 小池 順一	1学期	1	2	15
		1年			
	法学基礎演習I (専門基礎教育) 重松 博之	1学期	1	2	16
		1年			
	法学基礎演習I (専門基礎教育) 高橋 衛	1学期	1	2	17
		1年			
	法学基礎演習I (専門基礎教育) 中山 布紗	1学期	1	2	18
		1年			
	法学基礎演習I (専門基礎教育) 二宮 正人	1学期	1	2	19
		1年			
	法学基礎演習I (専門基礎教育) 朴 元奎	1学期	1	2	20
		1年			
	法学基礎演習I (専門基礎教育) 矢澤 久純	1学期	1	2	21
		1年			
	法学基礎演習I (専門基礎教育) 山本 光英	1学期	1	2	22
		1年			
	法学基礎演習I (専門基礎教育) 吉村 弘	1学期	1	2	23
		1年			
法学基礎演習I (専門基礎教育) 福本 忍	1学期	1	2	24	
	1年				
法学基礎演習I (専門基礎教育) 國武 英生	1学期	1	2	25	
	1年				
法学基礎演習I (専門基礎教育) 大杉 一之	1学期	1	2	26	
	1年				
法学基礎演習II (専門基礎教育) 今泉 恵子	2学期	1	2	27	
	1年				
法学基礎演習II (専門基礎教育) 植木 淳	2学期	1	2	28	
	1年				
法学基礎演習II (専門基礎教育) 岡 邦信	2学期	1	2	29	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基礎教育科目 ■専門基礎教育科目	法学基礎演習II (専門基礎教育)	2学期	1	2	30
	岡本 博志	1年			
	法学基礎演習II (専門基礎教育)	2学期	1	2	31
	落合 俊行	1年			
	法学基礎演習II (専門基礎教育)	2学期	1	2	32
	小池 順一	1年			
	法学基礎演習II (専門基礎教育)	2学期	1	2	33
	重松 博之	1年			
	法学基礎演習II (専門基礎教育)	2学期	1	2	34
	高橋 衛	1年			
	法学基礎演習II (専門基礎教育)	2学期	1	2	35
	中山 布紗	1年			
	法学基礎演習II (専門基礎教育)	2学期	1	2	36
	二宮 正人	1年			
	法学基礎演習II (専門基礎教育)	2学期	1	2	37
	朴 元奎	1年			
	法学基礎演習II (専門基礎教育)	2学期	1	2	38
	矢澤 久純	1年			
	法学基礎演習II (専門基礎教育)	2学期	1	2	39
	山本 光英	1年			
法学基礎演習II (専門基礎教育)	2学期	1	2	40	
吉村 弘	1年				
法学基礎演習II (専門基礎教育)	2学期	1	2	41	
福本 忍	1年				
法学基礎演習II (専門基礎教育)	2学期	1	2	42	
國武 英生	1年				
法学基礎演習II (専門基礎教育)	2学期	1	2	43	
大杉 一之	1年				
外国文献研究I (専門基礎教育)	1学期	2	2	44	
今泉 恵子	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基礎教育科目 ■専門基礎教育科目	外国文献研究I (専門基礎教育) 落合 俊行	1学期	2	2	45
		2年			
	外国文献研究I (専門基礎教育) 吉村 弘	1学期	2	2	46
		2年			
	外国文献研究II (専門基礎教育) 中山 布紗	2学期	2	2	47
		2年			
外国文献研究II (専門基礎教育) 朴 元奎	2学期	2	2	48	
	2年				
外国文献研究II (専門基礎教育) 矢澤 久純	2学期	2	2	49	
	2年				
■専門教育科目 ■総合科目	個別研究指導I (読替科目：個別研究指導I) 今泉 恵子	1学期	4	2	256
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：個別研究指導I) 植木 淳	1学期	4	2	257
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：個別研究指導I) 岡 邦信	1学期	4	2	258
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：個別研究指導I) 岡本 博志	1学期	4	2	259
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：個別研究指導I) 落合 俊行	1学期	4	2	260
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：個別研究指導I) 小池 順一	1学期	4	2	261
		4年			
	個別研究指導I (読替科目：個別研究指導I) 重松 博之	1学期	4	2	262
	4年				
個別研究指導I (読替科目：個別研究指導I) 高橋 衛	1学期	4	2	263	
	4年				
個別研究指導I (読替科目：個別研究指導I) 中山 布紗	1学期	4	2	264	
	4年				
個別研究指導I (読替科目：個別研究指導I) 二宮 正人	1学期	4	2	265	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■総合科目	個別研究指導I (読替科目: 個別研究指導I) 朴 元奎	1学期	4	2	266
		4年			
	個別研究指導I (読替科目: 個別研究指導I) 矢澤 久純	1学期	4	2	267
		4年			
	個別研究指導I (読替科目: 個別研究指導I) 山本 光英	1学期	4	2	268
		4年			
	個別研究指導I (読替科目: 個別研究指導I) 吉村 弘	1学期	4	2	269
		4年			
	個別研究指導I (読替科目: 個別研究指導I) 福本 忍	1学期	4	2	270
		4年			
	個別研究指導I (読替科目: 個別研究指導I) 國武 英生	1学期	4	2	271
		4年			
	個別研究指導I (読替科目: 個別研究指導I) 大杉 一之	1学期	4	2	272
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 個別研究指導II) 今泉 恵子	2学期	4	2	273
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 個別研究指導II) 植木 淳	2学期	4	2	274
		4年			
	個別研究指導II (読替科目: 個別研究指導II) 岡 邦信	2学期	4	2	275
		4年			
個別研究指導II (読替科目: 個別研究指導II) 岡本 博志	2学期	4	2	276	
	4年				
個別研究指導II (読替科目: 個別研究指導II) 落合 俊行	2学期	4	2	277	
	4年				
個別研究指導II (読替科目: 個別研究指導II) 小池 順一	2学期	4	2	278	
	4年				
個別研究指導II (読替科目: 個別研究指導II) 重松 博之	2学期	4	2	279	
	4年				
個別研究指導II (読替科目: 個別研究指導II) 高橋 衛	2学期	4	2	280	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■総合科目	個別研究指導II (読替科目：個別研究指導II) 中山 布紗	2学期	4	2	281
		4年			
	個別研究指導II (読替科目：個別研究指導II) 二宮 正人	2学期	4	2	282
		4年			
	個別研究指導II (読替科目：個別研究指導II) 朴 元奎	2学期	4	2	283
		4年			
	個別研究指導II (読替科目：個別研究指導II) 矢澤 久純	2学期	4	2	284
		4年			
	個別研究指導II (読替科目：個別研究指導II) 山本 光英	2学期	4	2	285
		4年			
	個別研究指導II (読替科目：個別研究指導II) 吉村 弘	2学期	4	2	286
		4年			
	個別研究指導II (読替科目：個別研究指導II) 福本 忍	2学期	4	2	287
		4年			
	個別研究指導II (読替科目：個別研究指導II) 國武 英生	2学期	4	2	288
		4年			
	個別研究指導II (読替科目：個別研究指導II) 大杉 一之	2学期	4	2	289
		4年			
	憲法入門演習 (読替科目：憲法専門演習I) 植木 淳	1学期	3	2	226
		3年			
憲法入門演習 (読替科目：憲法専門演習I) 落合 俊行	1学期	3	2	227	
	3年				
刑法入門演習 (読替科目：刑法専門演習I) 山本 光英	1学期	3	2	232	
	3年				
刑法入門演習 (読替科目：刑法専門演習I) 大杉 一之	1学期	3	2	233	
	3年				
刑事訴訟法入門演習 (読替科目：刑事訴訟法専門演習I) 吉村 弘	1学期	3	2	236	
	3年				
民事訴訟法入門演習 (読替科目：民事訴訟法専門演習I) 小池 順一	1学期	3	2	250	
	3年				

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	法制史入門演習 (読替科目: 法制史専門演習I) 岡 邦信	1学期	3	2	224
		3年			
	刑事学入門演習 (読替科目: 刑事学専門演習I) 朴 元奎	1学期	3	2	238
		3年			
	企業法入門演習 (読替科目: 企業法専門演習I) 高橋 衛	1学期	3	2	252
		3年			
	企業法入門演習 (読替科目: 企業法専門演習I) 今泉 恵子	1学期	3	2	253
		3年			
	法哲学入門演習 (読替科目: 法哲学専門演習I) 重松 博之	1学期	3	2	222
		3年			
	国際法入門演習 (読替科目: 国際法専門演習I) 二宮 正人	1学期	3	2	242
		3年			
	労働法入門演習 (読替科目: 労働法専門演習I) 國武 英生	1学期	3	2	240
		3年			
	民法入門演習 (読替科目: 民法専門演習I) 福本 忍	1学期	3	2	244
		3年			
	民法入門演習 (読替科目: 民法専門演習I) 中山 布紗	1学期	3	2	245
		3年			
	民法入門演習 (読替科目: 民法専門演習I) 矢澤 久純	1学期	3	2	246
		3年			
行政法入門演習 (読替科目: 行政法専門演習I) 岡本 博志	1学期	3	2	230	
	3年				
憲法応用演習 (読替科目: 憲法専門演習II) 植木 淳	2学期	3	2	228	
	3年				
憲法応用演習 (読替科目: 憲法専門演習II) 落合 俊行	2学期	3	2	229	
	3年				
刑法応用演習 (読替科目: 刑法専門演習II) 山本 光英	2学期	3	2	234	
	3年				
刑法応用演習 (読替科目: 刑法専門演習II) 大杉 一之	2学期	3	2	235	
	3年				

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	刑事訴訟法応用演習 (読替科目: 刑事訴訟法専門演習II) 吉村 弘	2学期	3	2	237
		3年			
	行政法応用演習 (読替科目: 行政法専門演習II) 岡本 博志	2学期	3	2	231
		3年			
	民事訴訟法応用演習 (読替科目: 民事訴訟法専門演習II) 小池 順一	2学期	3	2	251
		3年			
	法制史応用演習 (読替科目: 法制史専門演習II) 岡 邦信	2学期	3	2	225
		3年			
	民法応用演習 (読替科目: 民法専門演習II) 福本 忍	2学期	3	2	247
		3年			
	民法応用演習 (読替科目: 民法専門演習II) 中山 布紗	2学期	3	2	248
		3年			
	民法応用演習 (読替科目: 民法専門演習II) 矢澤 久純	2学期	3	2	249
		3年			
	刑事学応用演習 (読替科目: 刑事学専門演習II) 朴 元奎	2学期	3	2	239
		3年			
	企業法応用演習 (読替科目: 企業法専門演習II) 今泉 恵子	2学期	3	2	254
		3年			
	企業法応用演習 (読替科目: 企業法専門演習II) 高橋 衛	2学期	3	2	255
		3年			
法哲学応用演習 (読替科目: 法哲学専門演習II) 重松 博之	2学期	3	2	223	
	3年				
国際法応用演習 (読替科目: 国際法専門演習II) 二宮 正人	2学期	3	2	243	
	3年				
労働法応用演習 (読替科目: 労働法専門演習II) 國武 英生	2学期	3	2	241	
	3年				
法学総論I (読替科目: 法学総論) 徳永 達哉	1学期	1	2	290	
	1年				
法学総論II (読替科目: 現代法曹論I) 迫田 学	2学期	1	2	291	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	法律実務特講 (読替科目：現代法曹論II) 川上 修	1学期	2	2	292
		2年			
	法学基礎演習I(専門教育) (読替科目：法学基礎演習I) 今泉 恵子	1学期	1	2	182
		1年			
	法学基礎演習I(専門教育) (読替科目：法学基礎演習I) 植木 淳	1学期	1	2	183
		1年			
	法学基礎演習I(専門教育) (読替科目：法学基礎演習I) 岡 邦信	1学期	1	2	184
		1年			
	法学基礎演習I(専門教育) (読替科目：法学基礎演習I) 岡本 博志	1学期	1	2	185
		1年			
	法学基礎演習I(専門教育) (読替科目：法学基礎演習I) 落合 俊行	1学期	1	2	186
		1年			
	法学基礎演習I(専門教育) (読替科目：法学基礎演習I) 小池 順一	1学期	1	2	187
		1年			
	法学基礎演習I(専門教育) (読替科目：法学基礎演習I) 重松 博之	1学期	1	2	188
		1年			
	法学基礎演習I(専門教育) (読替科目：法学基礎演習I) 高橋 衛	1学期	1	2	189
		1年			
法学基礎演習I(専門教育) (読替科目：法学基礎演習I) 中山 布紗	1学期	1	2	190	
	1年				
法学基礎演習I(専門教育) (読替科目：法学基礎演習I) 二宮 正人	1学期	1	2	191	
	1年				
法学基礎演習I(専門教育) (読替科目：法学基礎演習I) 朴 元奎	1学期	1	2	192	
	1年				
法学基礎演習I(専門教育) (読替科目：法学基礎演習I) 矢澤 久純	1学期	1	2	193	
	1年				
法学基礎演習I(専門教育) (読替科目：法学基礎演習I) 山本 光英	1学期	1	2	194	
	1年				
法学基礎演習I(専門教育) (読替科目：法学基礎演習I) 吉村 弘	1学期	1	2	195	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習I (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習I) 福本 忍	1学期	1	2	196
		1年			
	法学基礎演習I (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習I) 國武 英生	1学期	1	2	197
		1年			
	法学基礎演習I (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習I) 大杉 一之	1学期	1	2	198
		1年			
	法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 今泉 恵子	2学期	1	2	199
		1年			
	法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 植木 淳	2学期	1	2	200
		1年			
	法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 岡 邦信	2学期	1	2	201
		1年			
	法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 岡本 博志	2学期	1	2	202
		1年			
	法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 落合 俊行	2学期	1	2	203
		1年			
	法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 小池 順一	2学期	1	2	204
		1年			
	法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 重松 博之	2学期	1	2	205
		1年			
法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 高橋 衛	2学期	1	2	206	
	1年				
法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 中山 布紗	2学期	1	2	207	
	1年				
法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 二宮 正人	2学期	1	2	208	
	1年				
法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 朴 元奎	2学期	1	2	209	
	1年				
法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 矢澤 久純	2学期	1	2	210	
	1年				

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 山本 光英	2学期	1	2	211
		1年			
	法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 吉村 弘	2学期	1	2	212
		1年			
	法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 福本 忍	2学期	1	2	213
		1年			
	法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 國武 英生	2学期	1	2	214
		1年			
	法学基礎演習II (専門教育) (読替科目: 法学基礎演習II) 大杉 一之	2学期	1	2	215
		1年			
	外国文献研究I (専門教育) (読替科目: 外国文献研究I) 今泉 恵子	1学期	2	2	216
		2年			
外国文献研究I (専門教育) (読替科目: 外国文献研究I) 吉村 弘	1学期	2	2	217	
	2年				
外国文献研究I (専門教育) (読替科目: 外国文献研究I) 落合 俊行	1学期	2	2	218	
	2年				
外国文献研究II (専門教育) (読替科目: 外国文献研究II) 中山 布紗	2学期	2	2	219	
	2年				
外国文献研究II (専門教育) (読替科目: 外国文献研究II) 朴 元奎	2学期	2	2	220	
	2年				
外国文献研究II (専門教育) (読替科目: 外国文献研究II) 矢澤 久純	2学期	2	2	221	
	2年				
■理論法学科目	日本法制史 (読替科目: 日本法制史) 岡 邦信	2学期 (ペア)	2	4	295
		2年			
	紛争処理論 (読替科目: 紛争処理論) 林田 幸広	2学期	3	2	299
		3年			
法社会学 (読替科目: 法社会学) 林田 幸広	2学期	1	2	296	
	1年				
法哲学 (読替科目: 法哲学) 重松 博之	1学期	3	2	297	
	3年				

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■理論法学科目	法思想史 (読替科目:法思想史) 重松 博之	1学期	2	2	294
	2年				
	比較法社会史 (読替科目:比較法文化論) 篠森 大輔	集中	3	2	298
	3年				
■公法科目	日本国憲法原論 (読替科目:日本国憲法原論) 植木 淳	1学期	1	2	300
	1年				
	憲法人権論 (読替科目:憲法人権論) 植木 淳	2学期	1	2	301
	1年				
	憲法機構論 (読替科目:憲法機構論) 落合 俊行	1学期	2	2	302
	2年				
	憲法訴訟論 (読替科目:憲法訴訟論) 落合 俊行	2学期	2	2	303
	2年				
	行政法総論 (読替科目:行政法総論) 村上 英明	1学期(ペア)	2	4	304
	2年				
	行政争訟法 (読替科目:行政争訟法) 岡本 博志	2学期	2	2	305
	2年				
	国家補償法 (読替科目:国家補償法) 岡本 博志	1学期	3	2	306
	3年				
行政法特講 (読替科目:情報公開・個人情報保護法) 森脇 敦史	1学期	3	2	307	
3年					
■刑事法科目	刑法犯罪論 (読替科目:刑法犯罪論) 山本 光英	2学期(ペア)	2	4	308
	2年				
	刑事政策 (読替科目:刑事司法政策I) 吉村 弘	1・2学期(ペア)	3	4	312
	3年				
	刑事政策 (読替科目:刑事司法政策II) 朴 元奎	1・2学期(ペア)	3	4	313
	3年				
刑事訴訟法総論 (読替科目:刑事訴訟法総論) 吉村 弘	2学期	2	2	311	
2年					
刑法犯罪各論I (読替科目:刑法犯罪各論I) 大杉 一之	1学期	3	2	309	
3年					

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■刑事法科目	刑法犯罪各論II (読替科目：刑法犯罪各論II) 大杉 一之	2学期	3	2	310
	3年				
■社会法科目	社会法総論 (読替科目：社会法総論) 柴田 滋	2学期	1	2	314
	1年				
	雇用関係法 (読替科目：雇用関係法) 國武 英生	1学期	2	2	317
	2年				
	労使関係法 (読替科目：労使関係法) 國武 英生	2学期	2	2	318
	2年				
	社会サービス法 (読替科目：社会サービス法) 柴田 滋	1学期	2	2	315
	2年				
	所得保障法 (読替科目：所得保障法) 柴田 滋	2学期	2	2	316
	2年				
	独占禁止法I (読替科目：独占禁止法) 高場 俊光	1学期	3	2	319
	3年				
	知的財産法 (読替科目：知的財産法) 木村 友久	1学期	3	2	320
	3年				
環境法I (読替科目：環境法) 生野 正剛	集中	3	2	321	
3年					
社会法特講 (読替科目：社会法の現代的展開) 柴田 滋	1学期	3	2	322	
3年					
■国際関係法科目	国際法学 (読替科目：国際法I) 二宮 正人	1学期	2	2	323
	2年				
	国家管轄権論 (読替科目：国際法II) 二宮 正人	2学期	2	2	324
	2年				
	国際関係法特講 (読替科目：現代国際関係法) 中川 智治	2学期	3	2	326
	3年				
国際経済法 長岡 さくら	集中	3	2	50	
3年					
国際取引法 (読替科目：国際取引法) 大隈 一武	集中	3	2	325	
3年					

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■民事法科目	民法総則 (読替科目：民法総則) 矢澤 久純	1学期 (ペア)	1	4	327
		1年			
	物権法 (読替科目：物権法) 中山 布紗	2学期	2	2	328
		2年			
	債権法総論 (読替科目：債権総論) 中山 布紗	1学期 (ペア)	2	4	330
		2年			
	親族法 (読替科目：家族法) 小野 憲昭	1学期	1	2	329
		1年			
	相続法 小野 憲昭	2学期	2	2	51
		2年			
民事判決手続I (読替科目：民事訴訟法総論) 小池 順一	1学期	2	2	331	
	2年				
民事判決手続II (読替科目：民事訴訟法各論) 小池 順一	2学期	3	2	332	
	3年				
民事法特講 (読替科目：法律実務論I) 仰木 伸介	1学期	3	2	293	
	3年				
倒産処理手続 (読替科目：倒産処理法) 小池 順一	1学期	3	2	333	
	3年				
■商事法科目	会社法I (企業運営) (読替科目：会社法I) 高橋 衛	1学期	2	2	334
		2年			
	会社法II (企業金融) (読替科目：会社法II) 高橋 衛	2学期	2	2	335
		2年			
	有価証券法 (読替科目：企業取引法II) 前越 俊之	2学期	3	2	338
		3年			
	企業法特講 (読替科目：企業法の現代的展開) 木村 友久	2学期	3	2	340
		3年			
企業法総論 (読替科目：企業活動と法) 今泉 恵子	1学期	1	2	336	
	1年				
商取引法 (読替科目：企業取引法I) 今泉 恵子	2学期	2	2	337	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■商事法科目	金融取引法 (読替科目:証券市場と法) 前越 俊之	2学期	2	2	339
	2年				
■関連科目A	大衆化と政治 (読替科目:NPO論) 榎原 真二 他	1学期	1	2	357
	1年				
	地域研究 伊野 憲治	1学期	1	2	52
	1年				
	地方自治論 (読替科目:地方自治論) 森 裕亮	1学期	2	2	344
	2年				
	地方行政改革論 (読替科目:地方行政改革論) 森 裕亮	2学期	3	2	355
	3年				
	A S E A N 研究 篠崎 香織	2学期	2	2	53
	2年				
	途上国のエスニシテイ政策 篠崎 香織	1学期	3	2	54
	3年				
	国際関係論 (読替科目:対外政策論) 坂本 隆幸	2学期	1	2	360
	1年				
	ヨーロッパ政党政治研究 (読替科目:政党政治論) 五月女 律子	1学期	3	2	350
	3年				
	政策構想論 (読替科目:政策構想論) 中道 壽一	2学期	1	2	341
	1年				
	政治文化論 (読替科目:政治文化論) 中道 壽一	2学期	3	2	349
	3年				
	政治過程論 (読替科目:政治過程論) 松田 憲忠	2学期	1	2	347
	1年				
	政策過程論 (読替科目:政策過程論) 申 東愛	1学期	3	2	343
	3年				
	公共政策論 (読替科目:公共政策論) 榎原 真二	1学期	2	2	342
	2年				
	都市経済論 (読替科目:都市経済論) 古賀 哲矢	2学期	1	2	354
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	途上国の開発政策 (読替科目: 途上国開発論) 三宅 博之	1学期	2	2	358
		2年			
	南アジア研究 (読替科目: アジア地域社会論) 三宅 博之	2学期	3	2	359
		3年			
	日本外交論 小林 道彦	1学期	2	2	55
		2年			
	外交政策研究 小林 道彦	2学期	3	2	56
		3年			
	日本政治論 (読替科目: 日本政治論) 松田 憲忠	2学期	1	2	356
		1年			
	福祉国家論 (読替科目: 福祉国家論) 狭間 直樹	2学期	2	2	345
		2年			
	福祉政策論 (読替科目: 福祉政策論) 狭間 直樹	1学期	3	2	352
		3年			
	都市政策論 (読替科目: 都市政策論) 古賀 哲矢	2学期	3	2	351
		3年			
	国際機構論 戸蒔 仁司	1学期	1	2	57
		1年			
	環境政策論 (読替科目: 環境政策論) 申 東愛	2学期	3	2	353
		3年			
政策実務特講 古田 稔	1学期	2	2	58	
	2年				
人類学概論 竹川 大介	2学期	2	2	59	
	2年				
社会福祉原論I 河嶋 静代	1学期	2	2	60	
	2年				
社会福祉原論II 小賀 久	2学期	2	2	61	
	2年				
国際協力論 (読替科目: 国際協力論I) 大平 剛	1・2学期 (ペア)	3	4	361	
	3年				

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	国際協力論 (読替科目：国際協力論II) 千知岩 正継	1・2学期 (ペア)	3	4	362
		3年			
	障害者福祉論I (読替科目：障害者福祉論I) 小賀 久	1学期	3	2	363
		3年			
	障害者福祉論II (読替科目：障害者福祉論II) 小賀 久	2学期	3	2	364
		3年			
	老人福祉論I (読替科目：老人福祉論I) 石塚 優	1学期	3	2	365
		3年			
	老人福祉論II (読替科目：老人福祉論II) 石塚 優	2学期	3	2	366
		3年			
	児童福祉論I 河嶋 静代	1学期	3	2	62
		3年			
	児童福祉論II 河嶋 静代	2学期	3	2	63
		3年			
政治学 (読替科目：政治学) 松田 憲忠	1学期	1	2	346	
	1年				
日本政治史 小林 道彦	1学期	1	2	64	
	1年				
西洋政治史 (読替科目：西洋政治史) 五月女 律子	2学期	1	2	348	
	1年				
国際社会論 (ペア) 久木 尚志 他	1学期 (ペア)	3	4	65	
	3年				
■関連科目B	産業組織論 後藤 宇生	1・2学期 (ペア)	3	4	66
		3年			
	マクロ経済学 未定		2	4	
		2年			
	ミクロ経済学 未定		2	4	
	2年				
現代日本経済入門 柳井 雅人	1学期 (ペア)	2	4	67	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■関連科目B	現代日本経済入門 前田 淳	1学期 (ペア)	2	4	68
		2年			
	企業形態論I 山岡 敏秀	1学期	2	2	69
		2年			
	企業形態論II 山岡 敏秀	2学期	2	2	70
		2年			
	財務諸表論I (読替科目:財務会計論I) 西澤 健次	1学期	2	2	370
		2年			
	財務諸表論II (読替科目:財務会計論II) 西澤 健次	2学期	2	2	371
		2年			
	公共経済学 牛房 義明	2学期 (ペア)	3	4	71
		3年			
	国際貿易論 水戸 康夫	1・2学期 (ペア)	3	4	72
		3年			
	国際金融論 前田 淳	1・2学期 (ペア)	3	4	73
		3年			
	都市財政 李 友炯 他	1・2学期 (ペア)	3	4	74
		3年			
	経営財務論 (読替科目:企業ファイナンスI) 松本 守	1学期	3	2	368
		3年			
企業ファイナンス (読替科目:企業ファイナンスII) 松本 守	2学期	3	2	369	
	3年				
人事管理論 (読替科目:人事管理論) 福井 直人	2学期	3	2	367	
	3年				
中小企業論 (読替科目:中小企業論) 別府 俊行	1学期	3	2	372	
	3年				
経済地理学 柳井 雅人 他	1・2学期 (ペア)	2	4	75	
	2年				
国際経済論 未定		3	4		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論	1学期	1	2	76
	黒田 耕司	1年			
	教師論	1学期	1	2	77
	黒田 耕司	1年			
	教育原理	2学期	1	2	78
	見玉 弥生	1年			
	教育制度	1学期	3	2	79
	見玉 弥生	3年			
	教育制度	1学期	2	2	80
	見玉 弥生	2年			
	社会科教育法 A	1学期	2	2	81
	坂口 一隆	2年			
	社会科教育法 A	1学期	2	2	82
	坂口 一隆	2年			
	社会科教育法 B	2学期	2	2	83
	坂口 一隆	2年			
	社会科教育法 B	2学期	2	2	84
	坂口 一隆	2年			
	地理歴史科教育法 A	1学期	2	2	85
	飯田 直弘	2年			
地理歴史科教育法 B	2学期	2	2	86	
飯田 直弘	2年				
道德教育の研究	1学期	2	2	87	
黒田 耕司	2年				
道德教育の研究	1学期	2	2	88	
黒田 耕司	2年				
特別活動の研究	1学期	2	2	89	
楠 凡之	2年				
特別活動の研究	1学期	2	2	90	
楠 凡之	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	91
		2年			
	教育方法学 黒田 耕司	2学期	2	2	92
		2年			
	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	93
		2年			
	教育工学 大塚 一徳	2学期	2	2	94
		2年			
	生徒指導論 楠 凡之	2学期	2	2	95
		2年			
	臨床教育学 楠 凡之	1学期	2	2	96
		2年			
教職総合演習 楠 凡之 他	2学期	3	2	97	
	3年				
教育実習 1 黒田 耕司 他	2学期	3	2	98	
	3年				
教育実習 2 見玉 弥生 他	1学期	4	2	99	
	4年				
教育実習 3 見玉 弥生 他	1学期	4	2	100	
	4年				
■選択科目	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	101
		2年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	1	2	102
		1年			
	教育心理学 柴村 馨	2学期	2	2	103
		2年			
	教育心理学 柴村 馨	2学期	1	2	104
		1年			
	教育法規 見玉 弥生	2学期	3	2	105
		3年			

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■選択科目	教育法規 見玉 弥生	2学期	2	2	106
		2年			
■教科または教職に関する科目	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	107
		2年			
	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	108
		2年			
■自由科目	日本の歴史と風土 八百 啓介	2学期	2	2	109
		2年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	2	2	110
		2年			
	人間環境地理学 野井 英明	2学期	2	2	111
		2年			
	人間環境と生態系 竹川 大介	1学期	2	2	112
		2年			
	地誌学 吉津 直樹	1学期	2	2	113
		2年			
	人文地理学 吉津 直樹	2学期	1	2	114
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	西洋文学 杉本 美穂	1学期	1	2	115
		1年			
	中国の漢字と文学 未定	1学期	1	2	
		1年			
	中国の人と文学 未定	2学期	1	2	
		1年			
	西洋史 (読替科目:西洋史) 疇谷 憲洋	1学期	1	2	531
		1年			
	東洋史 (読替科目:東洋史) 内田 直文	2学期	1	2	532
		1年			
	日本史 (読替科目:日本史) 内山 一幸	2学期	1	2	530
		1年			
	哲学入門 (読替科目:倫理学) 伊原木 大祐	2学期	1	2	534
		1年			
	応用倫理学 (読替科目:現代正義論) 重松 博之	2学期	1	2	526
		1年			
	論理学入門 堺 正憲	2学期	1	2	116
		1年			
論理学の展開 堺 正憲	2学期	1	2	117	
	1年				
文化と社会 (読替科目:人間と文化) 重信 幸彦	1学期	1	2	521	
	1年				
経済学概論 田村 大樹	2学期	1	2	118	
	1年				
経済と社会 (読替科目:グローバル化する経済) 前田 淳 他	1学期	1	2	528	
	1年				
社会学の考え方 (読替科目:社会学) 稲月 正	1学期	1	2	533	
	1年				
現代社会の解読 (読替科目:現代社会の諸問題) 山本 光英 他	2学期	1	2	527	
	1年				

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■教養教育科目	暮らしの中の化学物質 (読替科目：暮らしと化学) 竹之下 芳也	2学期	1	2	524
		1年			
	現代人のこころ (読替科目：現代人のこころ) 税田 慶昭	1学期	1	2	525
		1年			
	人間と宇宙観 岡本 良治	2学期	1	2	119
		1年			
	自然と人間のエコロジー 真鍋 徹	2学期	1	2	120
	1年				
自然と社会の共生論 (読替科目：自然学のまなざし) 日高 京子	1学期	1	2	523	
	1年				
国際社会と日本 (読替科目：国際社会と日本) 中野 博文	1学期	1	2	529	
	1年				
■外国語教育科目	英語I (読替科目：英語I) 杉山 智子	1学期	1	1	535
		律政			
	英語II (読替科目：英語II) 伊藤 晃	2学期	1	1	536
		律政			
	英語III (読替科目：英語III) クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	537
		律政 1年			
	英語IV (読替科目：英語IV) クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	538
		律政 1年			
	英語V (読替科目：英語V) 杉山 智子	1学期	2	1	539
		律政夜 2年			
英語VI (読替科目：英語VI) 伊藤 晃	2学期	2	1	540	
	律政夜 2年				
英語VII (読替科目：英語VII) ダニー・ミン	1学期	2	1	541	
	律政夜 2年				
英語VIII (読替科目：英語VIII) ダニー・ミン	2学期	2	1	542	
	律政夜 2年				
ドイツ語I (読替科目：ドイツ語I) 山下 哲雄	1学期	2	1	555	
	済営律政夜 2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■外国語教育科目	ドイツ語II (読替科目:ドイツ語II) 山下 哲雄	2学期	2	1	556
		済営律政夜2年			
	ドイツ語III (読替科目:ドイツ語III) 山下 哲雄	1学期	2	1	557
		済営律政夜2年			
	ドイツ語IV (読替科目:ドイツ語IV) 山下 哲雄	2学期	2	1	558
		済営律政夜2年			
	フランス語I (読替科目:フランス語I) 山下 高之	1学期	2	1	559
		済営律政夜2年			
	フランス語II (読替科目:フランス語II) 山下 高之	2学期	2	1	560
		済営律政夜2年			
	フランス語III (読替科目:フランス語III) 水本 弘文	1学期	2	1	561
		済営律政夜2年			
	フランス語IV (読替科目:フランス語IV) 水本 弘文	2学期	2	1	562
		済営律政夜2年			
	スペイン語I (読替科目:スペイン語I) 岡住 正秀	1学期	2	1	563
		済営律政夜2年			
	スペイン語II (読替科目:スペイン語II) 岡住 正秀	2学期	2	1	564
		済営律政夜2年			
	スペイン語III (読替科目:スペイン語III) 岡住 正秀	1学期	2	1	565
		済営律政夜2年			
スペイン語IV (読替科目:スペイン語IV) 岡住 正秀	2学期	2	1	566	
	済営律政夜2年				
ロシア語I (読替科目:ロシア語I) 芳之内 雄二	1学期	2	1	551	
	済営律政夜2年				
ロシア語II (読替科目:ロシア語II) 芳之内 雄二	2学期	2	1	552	
	済営律政夜2年				
ロシア語III (読替科目:ロシア語III) 芳之内 雄二	1学期	2	1	553	
	済営律政夜2年				
ロシア語IV (読替科目:ロシア語IV) 芳之内 雄二	2学期	2	1	554	
	済営律政夜2年				

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基礎教育科目 ■共通基礎教育科目 ■外国語教育科目	中国語I (読替科目：中国語I) 有働 彰子	1学期	2	1	543
		済営律政夜 2年			
	中国語II (読替科目：中国語II) 有働 彰子	2学期	2	1	544
		済営律政夜 2年			
	中国語III (読替科目：中国語III) 王 占華	1学期	2	1	545
		済営律政夜 2年			
	中国語IV (読替科目：中国語IV) 王 占華	2学期	2	1	546
		済営律政夜 2年			
	朝鮮語I (読替科目：朝鮮語I) チャン ユンヒャン	1学期	2	1	547
		済営律政夜 2年			
	朝鮮語II (読替科目：朝鮮語II) チャン ユンヒャン	2学期	2	1	548
		済営律政夜 2年			
	朝鮮語III (読替科目：朝鮮語III) 金 光子	1学期	2	1	549
		済営律政夜 2年			
朝鮮語IV (読替科目：朝鮮語IV) 金 光子	2学期	2	1	550	
	済営律政夜 2年				
■情報処理教育科目	情報処理基礎 中尾 泰士	2学期	1	2	121
		1年			
■健康管理教育科目	生涯スポーツII (バドミントン) (読替科目：フィジカル・エクササイズII (バドミントン)) 徳永 政夫	2学期	1	1	522
		1年			
■専門基礎教育科目	外国文献研究I (専門基礎教育) 高橋 衛	1学期	2	2	122
		2年			
	外国文献研究I (専門基礎教育) 福本 忍	1学期	2	2	123
		2年			
	外国文献研究II (専門基礎教育) 國武 英生	2学期	2	2	124
		2年			
■専門教育科目 ■総合科目	憲法入門演習 (読替科目：憲法専門演習I) 落合 俊行	1学期	3	2	467
		3年			
	刑法入門演習 (読替科目：刑法専門演習I) 山本 光英	1学期	3	2	469
		3年			

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■総合科目	刑事訴訟法入門演習 (読替科目: 刑事訴訟法専門演習I) 吉村 弘	1学期	3	2	471
		3年			
	民事訴訟法入門演習 (読替科目: 民事訴訟法専門演習I) 小池 順一	1学期	3	2	476
		3年			
	法制史入門演習 (読替科目: 法制史専門演習I) 岡 邦信	1学期	3	2	466
		3年			
	企業法入門演習 (読替科目: 企業法専門演習I) 高橋 衛	1学期	3	2	478
		3年			
	国際法入門演習 (読替科目: 国際法専門演習I) 二宮 正人	1学期	3	2	472
		3年			
	民法入門演習 (読替科目: 民法専門演習I) 福本 忍	1学期	3	2	474
		3年			
	憲法応用演習 (読替科目: 憲法専門演習II) 植木 淳	2学期	3	2	468
		3年			
	刑法応用演習 (読替科目: 刑法専門演習II) 大杉 一之	2学期	3	2	470
		3年			
	民事訴訟法応用演習 (読替科目: 民事訴訟法専門演習II) 小池 順一	2学期	3	2	477
		3年			
	民法応用演習 (読替科目: 民法専門演習II) 福本 忍	2学期	3	2	475
		3年			
企業法応用演習 (読替科目: 企業法専門演習II) 高橋 衛	2学期	3	2	479	
	3年				
法哲学応用演習 (読替科目: 法哲学専門演習II) 重松 博之	2学期	3	2	465	
	3年				
国際法応用演習 (読替科目: 国際法専門演習II) 二宮 正人	2学期	3	2	473	
	3年				
法律実務特講 (読替科目: 現代法曹論II) 中野 敬一	2学期	2	2	480	
	2年				
外国文献研究I (専門教育) (読替科目: 外国文献研究I) 高橋 衛	1学期	2	2	462	
	2年				

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	外国文献研究I (専門教育) (読替科目: 外国文献研究I) 福本 忍	1学期	2	2	463
	2年				
	外国文献研究II (専門教育) (読替科目: 外国文献研究II) 國武 英生	2学期	2	2	464
	2年				
■理論法学科目	日本法制史 (読替科目: 日本法制史) 岡 邦信	2学期 (ペア)	2	4	482
	2年				
	紛争処理論 (読替科目: 紛争処理論) 林田 幸広	2学期	3	2	483
	3年				
裁判学 林田 幸広	2学期	3	2	125	
3年					
	法思想史 (読替科目: 法思想史) 重松 博之	1学期	2	2	481
	2年				
■公法科目	日本国憲法原論 (読替科目: 日本国憲法原論) 植木 淳	1学期	1	2	484
	1年				
	憲法訴訟論 (読替科目: 憲法訴訟論) 落合 俊行	2学期	2	2	485
	2年				
	行政争訟法 (読替科目: 行政争訟法) 岡本 博志	2学期	2	2	486
2年					
地方自治法 (読替科目: 地方自治法) 岡本 博志	1学期 (ペア)	3	4	487	
3年					
	公法入門 植木 淳	1学期	1	2	126
	1年				
■刑事法科目	刑法犯罪論 (読替科目: 刑法犯罪論) 大杉 一之	1学期 (ペア)	2	4	488
	2年				
	刑事訴訟法各論 (読替科目: 刑事訴訟法各論) 吉村 弘	1学期	3	2	491
	3年				
刑法犯罪各論I (読替科目: 刑法犯罪各論I) 福永 俊輔	2学期	3	2	489	
3年					
刑法犯罪各論II (読替科目: 刑法犯罪各論II) 福永 俊輔	2学期	3	2	490	
3年					

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■刑事法科目	犯罪学 (読替科目:犯罪学) 朴 元奎	1学期(ペア)	3	4	492
		3年			
■社会法科目	雇用関係法 (読替科目:雇用関係法) 國武 英生	1学期	2	2	494
		2年			
	所得保障法 (読替科目:所得保障法) 柴田 滋	2学期	2	2	493
		2年			
	独占禁止法II 高場 俊光	2学期	3	2	127
		3年			
■国際関係法科目	国際関係法序説 二宮 正人	2学期	1	2	128
		1年			
	国際法学 (読替科目:国際法I) 中川 智治	1学期	2	2	495
		2年			
	国家管轄権論 (読替科目:国際法II) 中川 智治	2学期	2	2	496
	2年				
	国際私法総論 (読替科目:国際私法) 中林 啓一	集中	2	2	497
		2年			
■民事法科目	民法総則 (読替科目:民法総則) 河津 八平	1学期(ペア)	1	4	498
		1年			
	物権法 (読替科目:物権法) 畑中 久彌	2学期	2	2	499
		2年			
	契約法 平山 也寸志	2学期	2	2	129
		2年			
	民事判決手続II (読替科目:民事訴訟法各論) 小池 順一	2学期	3	2	500
	3年				
民事救済手続 (読替科目:民事執行法) 中村 仁	2学期	3	2	501	
	3年				
	私法入門 小野 憲昭 他	1学期	1	2	130
		1年			
■商事法科目	有価証券法 (読替科目:企業取引法II) 前越 俊之	2学期	3	2	503
		3年			

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■商事法科目	企業法総論 (読替科目: 企業活動と法) 今泉 恵子	1学期	1	2	502
		1年			
	金融取引法 (読替科目: 証券市場と法) 高橋 衛	1学期	2	2	504
		2年			
■関連科目A	地域研究 伊野 憲治	1学期	1	2	131
		1年			
	地方行政改革論 (読替科目: 地方行政改革論) 森 裕亮	2学期	3	2	510
		3年			
	EU研究 (読替科目: 地域統合論) 五月女 律子	2学期	2	2	512
		2年			
	政治過程論 (読替科目: 政治過程論) 松田 憲忠	2学期	1	2	507
		1年			
	政策過程論 (読替科目: 政策過程論) 申 東愛	1学期	3	2	506
		3年			
	公共政策論 (読替科目: 公共政策論) 楢原 真二	1学期	2	2	505
		2年			
	自治体政策研究 (読替科目: 自治体政策研究) 楢原 真二	2学期	3	2	508
		3年			
	都市経済論 (読替科目: 都市経済論) 古賀 哲矢	2学期	1	2	509
		1年			
日本外交論 小林 道彦	1学期	2	2	132	
	2年				
社会福祉原論I 河嶋 静代	1学期	2	2	133	
	2年				
社会福祉原論II 深谷 裕	2学期	2	2	134	
	2年				
国際協力論 (読替科目: 国際協力論I) 大平 剛	1・2学期 (ペア)	3	4	513	
	3年				
国際協力論 (読替科目: 国際協力論II) 千知岩 正継	1・2学期 (ペア)	3	4	514	
	3年				

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	老人福祉論I (読替科目:老人福祉論I) 石塚 優	1学期	3	2	515
		3年			
	日本行政論 (読替科目:日本行政論) 森 裕亮	2学期	1	2	511
		1年			
	日本政治史 小林 道彦	1学期	1	2	135
		1年			
■関連科目B	マクロ経済学 田中 淳平	1・2学期(ペア)	2	4	136
		2年			
	マクロ経済学 安岡 匡也	1・2学期(ペア)	2	4	137
		2年			
	財政学 安岡 匡也	1・2学期(ペア)	3	4	138
		3年			
	ミクロ経済学 朱 乙文	1・2学期(ペア)	2	4	139
		2年			
	ミクロ経済学 後藤 宇生	1・2学期(ペア)	2	4	140
		2年			
	企業形態論I 山岡 敏秀	1学期	2	2	141
		2年			
	財務諸表論I (読替科目:財務会計論I) 西澤 健次	1学期	2	2	519
		2年			
	国際貿易論 立石 揚志	1・2学期(ペア)	3	4	142
		3年			
経営財務論 (読替科目:企業ファイナンスI) 内田 交謹	1学期	3	2	517	
	3年				
企業ファイナンス (読替科目:企業ファイナンスII) 内田 交謹	2学期	3	2	518	
	3年				
会計監査論I (読替科目:会計監査論) 任 章	1学期	3	2	520	
	3年				
人事管理論 (読替科目:人事管理論) 福井 直人	2学期	3	2	516	
	3年				

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■関連科目B	経済地理学 柳井 雅人 他	1・2学期 (ペア)	2	4	143
		2年			
	国際経済論 魏 芳	1・2学期 (ペア)	3	4	144
		3年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	145
		1年			
	教師論 黒田 耕司	1学期	1	2	146
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	147
		1年			
	教育原理 見玉 弥生	2学期	1	2	148
		1年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	3	2	149
		3年			
	教育制度 見玉 弥生	1学期	2	2	150
		2年			
	公民科教育法A 飯田 直弘	1学期	2	2	151
		2年			
	公民科教育法A 飯田 直弘	1学期	2	2	152
		2年			
	公民科教育法B 飯田 直弘	2学期	2	2	153
		2年			
	公民科教育法B 飯田 直弘	2学期	2	2	154
		2年			
	道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	155
		2年			
	道徳教育の研究 黒田 耕司	1学期	2	2	156
		2年			
	特別活動の研究 楠 凡之	1学期	2	2	157
		2年			

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	特別活動の研究	1学期	2	2	158
	楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	159
	黒田 耕司	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	160
	黒田 耕司	2年			
	教育工学	2学期	2	2	161
	大塚 一徳	2年			
	教育工学	2学期	2	2	162
	大塚 一徳	2年			
	生徒指導論	2学期	2	2	163
	楠 凡之	2年			
	臨床教育学	1学期	2	2	164
	楠 凡之	2年			
	教職総合演習	2学期	3	2	165
	楠 凡之 他	3年			
	教育実習 1	2学期	3	2	166
	黒田 耕司	3年			
教育実習 1	2学期	3	2	167	
黒田 耕司	3年				
教育実習 2	1学期	4	2	168	
見玉 弥生	4年				
教育実習 2	1学期	4	2	169	
見玉 弥生	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	170	
見玉 弥生	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	171	
見玉 弥生	4年				
■選択科目	発達心理学	1学期	2	2	172
	税田 慶昭	2年			

法学部 法律学科 (2004年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■選択科目	発達心理学 税田 慶昭	1学期	1	2	173
		1年			
■教科または教職に関する科目	障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	174
		2年			
	障害児の心理と指導 税田 慶昭	2学期	2	2	175
		2年			
	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	176
		2年			
	人権教育論 弓野 勝族	1学期	2	2	177
		2年			
■自由科目	日本の歴史と社会 八百 啓介	2学期	2	2	178
		2年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	2	2	179
		2年			
	地誌学 吉津 直樹	1学期	2	2	180
		2年			
	人文地理学 吉津 直樹	2学期	1	2	181
		1年			

地中海世界の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description
 地中海世界の形成と展開をみながら、自然環境と歴史、文明・文化の交流と衝突の諸相を理解し、現代の世界をその基層から問い直すことを目的とします。

教科書 /Textbooks
 適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】はキーワード)
 1回～2回 地中海世界の風土【地中海性気候】【都市】
 3回～4回 都市と帝国①：都市国家の形成と展開【エーゲ文明】【ポリス】
 5回 都市と帝国②：ヘレニズムの展開【アレクサンドロス】【ギリシャ語】
 6回～8回 都市と帝国③：ローマ帝国の形成と展開【パックス・ロマーナ】【街道】
 9回 三つの地中海①：一神教と「三つの地中海」【キリスト教】【イスラム教】
 10回～11回 三つの地中海②：ビザンツ帝国【コンスタンティノポリス/イスタンブル】
 12回 三つの地中海③：中世シチリア王国【ノルマン人】
 13回～14回 三つの地中海④：マグリブとアンダルス【コルドバ】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
 (小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

女性史【昼】

担当者名 /Instructor 富安 兆子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

日本における女性通史を概観、時に諸外国の女性の状況と対比させながら、日本の女性の現況とその問題点をさぐります。このような作業を通して、女性・男性を問わず、地球規模の変化に対応できる生き方を選択し、人類の未来にとっての望ましい社会創造に貢献し得る行動を生み出す指針となれば、と思います。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、毎回、レジュメを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

L.S.スタヴリアーノス著、猿谷 要訳『新・世界の歴史、環境・男女関係・社会・戦争から見た世界史』桐原書店。F.エンゲルス著、村井ほか訳『家族・私有財産および国家の起源』大月書店。
 高群逸枝著『女性の歴史 上・下』講談社学芸文庫。辻村みよ子・金城清子著『女性の権利の歴史』岩波書店。水田珠枝著『女性解放思想の歩み』岩波新書。V.クライン著、水田珠枝訳『女とは何か・イデオロギーの歴史』新泉社。M. ウルストンクラフト著、白井亮子訳『女性の権利の擁護』未来社。
 シモーヌ・D・ポーヴォワール著、生島 遼訳『第二の性』岩波文庫。古庄ゆき子編『資料・女性史論争』ドメス出版。石月ほか編『女性史を学ぶ人へ』世界思想社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①女性史を学ぶことの意味
- ②原始共同体における女性
- ③「イ工」無き時代の婚姻・出産・育児・母系社会
- ④文明の開幕と私有財産制
- ⑤国家の成立と「女性の世界史的敗北」
- ⑥古代ギリシャの女性とアジア的社会的な女性
- ⑦市民社会の出現-都市の発生と女性の性的商品化
- ⑧封建制と女性の従属
- ⑨近代社会の成立と女性のめざめ
- ⑩女性論の展開と黎明期の女性たち
- ⑪明治政権と女性政策
- ⑫家父長制の再編と明治民法
- ⑬青鞜・新しい女・婦選運動
- ⑭第二次世界大戦前後の女性
- ⑮女性問題の世界的動向

成績評価の方法 /Assessment Method

出席点(毎回のミニレポートで、内容把握のレベルと出席を確認)、および、レポート(期末提出)による総合評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

哲学の諸問題 【昼】

担当者名 /Instructor 堺 正憲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

西田幾多郎著『哲学概論』を参考にしながら、「愛知」としての哲学が探求する「知」について理解するとともに、「認識論」と「存在論」の諸問題を考える。講義全体のキーワードは、愛知、認識論、存在論である。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しませんが、必要に応じて参考文献を紹介し、プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 哲学とは何か【philosophia】【愛知】
 - 2回 西田幾多郎の哲学の定義(1)
 - 3回 西田幾多郎の哲学の定義(2)
 - 4回 認識論の問題【認識論】
 - 5回 真理の概念(1)
 - 6回 真理の概念(2)
 - 7回 真理の概念(3)
 - 8回 認識の起源(1)
 - 9回 認識の起源(2)
 - 10回 認識の妥当(1)
 - 11回 認識の妥当(2)
 - 12回 存在論【存在論】【形而上学】
 - 13回 存在の量
 - 14回 存在の質
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の授業で出てきた用語や事柄で理解できない点があれば、質問をしたり、自分で調べたりしてその都度問題を解決しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

遺伝と生命【昼】

担当者名 /Instructor 山根 明弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「遺伝子」と「生命」のかかわりについて、基礎的なものから最先端の話題まで、わかりやすく解説します。生命科学の技術が飛躍的に進み、遺伝子に関する話題や情報がメディア等に氾濫するなか、遺伝子DNAとはなにか？生命とは？倫理的問題点も含めて理解してもらうことを目的としています。文系の受講者を対象としていますので、専門的な知識をより深くというよりも、人間社会との関わりになるべく重点を置いて進めてゆくつもりです。また「自然史」に関する話題も毎回講義に組入れて、身の回りの生き物の世界とDNAとの深いつながりを意識してもらうつもりです。

教科書 /Textbooks

増補新訂版「サイエンスビュー生物総合資料」実教出版株式会社（このテキストは、絶対に必要というわけではありませんが、持っているとお大変便利です。値段も安く、たくさんの写真や資料が載っています。生物学に興味がある方には特におすすめです）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最近のTVニュースや新聞を見ていると「遺伝子」や「DNA」に関する話題が頻繁に取り上げられるようになってきています。この科目の前半では、「遺伝子DNA」「遺伝のメカニズム」「生命の進化」の基礎的な知識やメカニズムをわかりやすく解説し、後半では遺伝子技術と人間社会との接点やその成果について、同時に生じる社会的・倫理的問題点をも含めて紹介していきたいと思います。

(【 】内はキーワード)

第1回～第8回：遺伝子DNA、遺伝の法則、生命についての基礎知識

【DNAって何?】【DNA情報からタンパク質の合成】【生物学のセントラルドグマ】【早すぎた発見、メンデルの遺伝の法則】【遺伝子突然変異】【遺伝病】【三毛猫はメス】【BSE問題】

第9回～第15回：遺伝子技術とわたしたち

【バイオテクノロジー】【遺伝子組み換え作物】【食の安全】【DNA鑑定法】【遺伝子診断】【遺伝子治療】【オーダーメイド医療】【クローン技術と倫理】【個人の遺伝子情報の保護】【iPS細胞】【再生医療】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の修学態度(出席を含む) 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学期末試験(論述方式)の結果で成績評価を行います。どれだけ全体像が理解できているかが評価のポイントです。出題内容の一部は、講義の早い段階から教えますので、各自アンテナをたてて情報を収集してください。また、受講者の努力量をより公平に評価するために、出席も重視したいと思います。従って、毎回出席をとるようにしています。遅刻してきた人は講義を受けることができない場合もあります。総合評価は、出席点40点、筆記試験点60点の100点満点で行います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

薬とくらし【昼】

基礎教育科目
 共通基礎教育科目
 教養教育科目
 自然科目

担当者名 /Instructor 森 正明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

- ①医薬品と生命体との関わりが理解できるように平易に説明する。
- ②遺伝子検査に基づくオーダーメイドの薬物療法の現状について概説する。
- ③医薬品の虚偽・誇大な情報の流布；サプリメントの氾濫；薬害多発の背景と課題についても考察する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。配布レジュメに基づいて授業する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①知っておきたいくすりのQ&A (全日本民医連・編：新日本出版社：2005年)
- ②くすりの効き方は人によって違うの？ (鎌滝 哲也・監：丸善：平成15年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 薬の歴史
- 3回 薬はどのようにして創られるのか
- 4回 薬害と副作用の違い
- 5回 遺伝子とは何か
- 6回 医薬品の創製におけるDNA技術の応用
- 7回 薬の吸収・代謝・分布・排泄について
- 8回 薬物代謝酵素とその遺伝子について
- 9回 薬の効き方の個人差と遺伝子検査
- 10回 生体の恒常性と疾病について；免疫とは何か
- 11回 薬はどのようにして効果を発揮するのか
- 12回 健康食品・サプリメントの功罪
- 13回 麻薬・覚せい剤・大麻等の危険性について
- 14回 オーダーメイドの薬物療法とは
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テストを含む)・・・30% 期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメをよく読んでおくこと。また、授業中に指示したことを自己学習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報処理基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。初心者をも対象とした基礎的な授業です。本講義の目的は、コンピュータを道具として使いこなす訓練を行いつつ、自分自身の思考を的確に表現する能力を習得することです。
 講義全体のキーワードは、Word、インターネット、学内グループウェアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パソコンの基礎操作1【書式設定】、【印刷】、【保存】
- 2回 パソコンの基礎操作2【ヘルプ】、【ハンガアップ】
- 3回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 4回 情報倫理1【ネチケット】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 情報倫理2【セキュリティ対策】、【SSL】
- 6回 パソコンの基礎知識1【ID】、【パスワード】
- 7回 パソコンの基礎知識2【拡張子】、【書式設定】
- 8回 文書作成1【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 9回 文書作成2【表の作成】
- 10回 文書作成3【図形処理】
- 11回 文書作成実習
- 12回 文書作成・まとめ
- 13回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 14回 インターネット演習【情報検索】、【WWW】、【URL】、【ドメイン名】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% (Wordの活用 ... 25%、インターネット演習 ... 25%)、積極的な授業参加 (タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で、学内グループウェアを利用しながら、その利用方法やネチケットに対する実践的な学習を行います。グループウェアの利用方法、特に、電子メールの利用方法について確認しておくこと、受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ネットワーク通信【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、特別なソフトウェアを用いずに、HTMLによるWebサイト作成演習を行います。また、WWWを利用して、情報検索演習も行います。Webページ作成未経験者や情報検索初心者を対象とした基礎的な授業です。本講義の目的は、ネットワーク通信技術とネットワーク社会の現状を理解し、国際社会・情報社会に適応した、インターネットによる情報収集能力、情報発信能力を習得することです。講義全体のキーワードは、WWW、URL、HTML、情報検索、情報探索、情報発信です。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ネットワーク【インターネット】、【電子メール】、【WWW】
- 2回 ネットワーク【ドメイン名】、【IPアドレス】、【DNS】
- 3回 情報検索【ブラウザ】、【URL】、【キーワード検索】
- 4回 情報検索実習 1
- 5回 情報検索実習 2
- 6回 情報検索実習 3
- 7回 HTMLによるWebページ作成方法 1【HTML】、【タグ】
- 8回 HTMLによるWebページ作成方法 2【ハイパーリンク】
- 9回 HTMLによるWebページ作成方法 3【企画書】、【著作権】
- 10回 HTMLによるWebページ作成演習 1
- 11回 HTMLによるWebページ作成演習 2
- 12回 HTMLによるWebページ作成実習 3
- 13回 情報発信【著作権】、【ネチケット】
- 14回 WWWを利用した情報探索【テーマ調査】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

情報検索実習 ... 25%、Webページ作成実習 ... 25%、その他の課題 ... 25%、積極的な授業参加... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に学内グループウェアを利用して情報交換を行い、電子メールの利用マナーやネチケットに対する実践的な学習を行います。「情報処理基礎」の内容を把握しておくこと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツⅢ【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description
 生涯スポーツⅢをふまえて、運動・スポーツの楽しさを体験し、継続することの重要性、身体を動かすことの重要性を認識させ、さらなる運動習慣の獲得に向けての授業を目指す。
 種目については、年齢や体力に応じて参加できるニュースポーツも加え、興味・関心のある種目を毎時間各自が選択して行う。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ニュースポーツ(1)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 3回 ニュースポーツ(2)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 4回 ニュースポーツ(3)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 5回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 6回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 7回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 8回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 9回 ニュースポーツ(4)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 10回 ニュースポーツ(5)ソフトバレーボール、ショートテニス 他
- 11回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 12回 団体種目(バスケットボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 13回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 14回 団体種目(バレーボール) 個人種目(バドミントン、卓球 他)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み ... 70% スキル確認テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 自分の体力や体調などを考え、種目を決めて実施する。運動のできる服装と体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯スポーツⅣ【昼】

担当者名 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツⅡ-IIをふまえて、運動・スポーツの楽しさを体験し、継続することの重要性、身体を動かすことの重要性を認識させ、さらなる運動習慣の獲得に向けての授業を目指す。

種目については、年齢や体力に応じて参加できるニュースポーツも加えて行う中で、興味・関心のある種目を見つけ、今後の生涯スポーツとしての体力・技術の維持向上を図る。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ソフトバレーボールとバレーボール(選択)①
- 3回 ソフトバレーボールとバレーボール(選択)②
- 4回 室内サッカー(フットサル)とトレーニング、ランニング、ウォーキング(選択)①
- 5回 室内サッカー(フットサル)とトレーニング、ランニング、ウォーキング(選択)②
- 6回 バドミントン①
- 7回 バドミントン②
- 8回 バスケットボールと卓球(選択)①
- 9回 バスケットボールと卓球(選択)②
- 10回 ショートテニス①
- 11回 ショートテニス②
- 12回 選択種目①
- 13回 選択種目②
- 14回 選択種目③
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み … 70% スキル獲得テスト … 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

設定された種目のどちらかを選択して行う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

これから法学部で学ぶさまざまな法制度の現状とその問題点を理解しようとする際に必要かつ有益な能力を身につけることが目標となります。具体的には、身近に生じている実際の事件・紛争、法システムに含まれている法的な問題を発見する方法、問題を検討するにあたって資料・文献を検索・収集する方法 (図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む)、集めた資料を分析する方法などを学びます。

教科書 /Textbooks

弥永真生著『法律学習マニュアル』(有斐閣)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにしますが、とりあえず例えば以下のもの。
森靖雄著『大学生の学習テクニック』(大月書)
中野次雄編『判例とその読み方』〔改訂版〕(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ゼミの運営方針の説明
第2回 授業の受け方・講義ノートの取り方
第3回 各自、興味のある法律問題・事件について発表し、文献資料や判例等がどの程度存在しているのか調査する (パソコンを利用して関連・周辺問題も含めた情報を検索し、図書館等を利用して実際の情報や資料を入手する方法を学ぶ)。
第4回～第5回 各自、問題・テーマを決定して、それについての報告を行う準備をする。
具体的には、文献の要約の仕方、報告書 (レジюме) の作り方、口頭発表の仕方・討論の仕方の事前学習をする。レジюмеの報告者の順番を決める。
第6回～第15回 順番に従って、毎回、担当者が報告を行い、参加者全員で議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100% (出席・報告内容・ディスカッションへの参加度を総合評価)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者にはレジюмеの作成と参加者への事前配布が求められます。
報告者以外の受講者には、事前のレジюмеの読み込みと質問事項の準備が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「法学基礎演習I」(1学期) は、大学生・社会人として必須の能力である「弁論能力」(スピーチ) と「討論能力」(デイベート) の鍛錬に特化することとする。「スピーチ」においては、各自に割り当てられたテーマについて、即興でのスピーチをおこなってもらう(3分間スピーチ)。「デイベート」においては、競技デイベートのルールに則って、グループ相互でのデイベートを行う。上記のような鍛錬を通じて教員・学生が相互に論理的・説得的に「しゃべる」技術を向上させることを目的とする。

教科書 /Textbooks

必要な資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 スピーチ①
- 第3回 スピーチ②
- 第4回 スピーチ③
- 第5回 スピーチ④
- 第6回 デイベート①
- 第7回 デイベート②
- 第8回 デイベート③
- 第9回 デイベート④
- 第10回 デイベート⑤
- 第11回 デイベート⑥
- 第12回 スピーチ⑤
- 第13回 スピーチ⑥
- 第14回 予備日程
- 第15回 予備日程

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50% スピーチ・デイベート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

日本の歴史についての固定観念に再検討を加える。日本社会および日本人の法生活について多様な視点から見る目を養う。

教科書 /Textbooks

- 1 中世社会と現代 五味文彦著 山川出版
- 2 日本の歴史をよみなおす 網野善彦著 筑摩書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキスト、ゼミ内容について解説
- 2回 図書館見学と利用法
- 3回 以下担当者による発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 50 % ゼミへの参加度 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者以外の者も必ず予習し、疑問点など発表者に対する質問事項等を考えておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本演習は、主として1年生を対象とし、大学における学習のやり方、すなわち広義や演習の受講方法とそのために必要な学習の方法・技術について基本的な事柄を学ぶとともに、法律を勉強するとはどういうことであるのかを考え、理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業において資料を配付するほか、文献等については適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

弥永真生『法律学習マニュアル〔第2版補訂版〕』(2007年、有斐閣)
 いしかわまりこ他著、指宿信他監修
 『リーガル・リサーチ(第3版)』(2008年、日本評論社)
 村上英明・小原清信編『なるほど公法入門〔第2版〕』(2004年、法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(運営方針の説明)
- 2回 法学の各分野はどうなっているか
- 3回 図書館の利用方法
- 4回～6回 学習の方法について
- 7回～8回 立法機関と立法過程
- 9回～10回 裁判所制度
- 11回～12回 行政組織
- 13回～15回 法令解釈の基礎

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 80 % 討論への参加状況 ... 20 %
 (出席が総授業回数の3分の2に満たない場合は不合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 落合 俊行 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

法の解釈を通して、社会にはいろいろな考え方や見方があるということを学んでいきます。たとえば、刑法199条は、殺意をもって人を殺せば殺人罪に問われる旨を規定しています。死刑から懲役5年以上の法定刑です。「人を殺す」といいますが、いったいわたしたちは「いつ」人となり、「いつ」人でなくなるのでしょうか。それは生まれたときです、死んだときです、と答えても、法律学的には何も答えていません。つまり、いつ「生まれた」か、いつ「死んだ」かということが問題なのです。刑法はこれについて何も規定しておりません。しかし、実際に起こるさまざまな問題や事件に対して、法を解釈し、法を適用して、実際に具体的な判断を下して解決しなければなりません。社会生活において、法がどのように適用されているのか、具体的な裁判判例を素材にして、いっしょに考えていきましょう。インターネットよりも、図書館の本や雑誌、判例集などを調べて勉強します。

教科書 /Textbooks

中川義朗『現代の人権と法を考える』（第二版）（法律文化社、2006年、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第2回 情報社会と人権
第3回～第4回 自己決定権
第5回～第6回 環境と人権
第7回～第8回 子どもの人権
第9回～第10回 女性の人権
第11回～第12回 外国人の人権
第13回～第14回 身近な差別と偏見

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30% 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

まず、法令、判例、文献など法律情報の調べ方を習得することを目的とします。次に、大学におけるレポートとはどのように構成すればよいか、その書き方も学習します。受講生との話し合いにより、テーマを選定し、そのテーマに関するレポートを基に議論することにより、法律的思想方法を習得します。テーマは、法律一般に関する時事的なもの、その他報告者の希望により決定します。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指宿 信監修 いしかわまりこ他著『リーガル・リサーチ』日本評論社
 弥生真生著『法律学習マニュアル』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業の進め方について、報告者決定
- 2回 判例の調べ方について
- 3回 文献の調べ方について
- 4回 法令の調べ方について
- 5回 以下、順次、個別テーマについて報告
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」に関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを本演習の目的とする。
これらの著作は、法学をこれから学ぶ者が一読しておくべき古典的名著である。また、それと同時に、J・ローズやR・ノージックなどの現代正義論との関連からも、その理論的射程・現代性が再検討されるべきものでもある。本演習では、古典と現代という二重の問題意識をもちつつ、以下のテキストを読み進めていきたい。
これまでおそらく教科書知識のみで知っているつもりとなっていたであろう古典的著作を、翻訳でではあれ直接読むことにより、必ずやなんらかの点において知的に触発されるものがあると思われる。既読者にとっても、いずれの著作も読むたびに新たな発見や関心を引き起こすような性質をもった名著である。また、実定法学を学ぶ上でも、これらの著作からは、理論的基礎として大いに得るものがある。

教科書 /Textbooks

- J・ロック『市民政府論』（岩波文庫）
- ルソー『社会契約論 / ジュネーブ草稿』（光文社古典新訳文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- J・ロック『統治二論』（岩波書店）、J・ロック『全訳 統治論』（柏書房）
- 浜林正夫『ロック』（研究社出版）○ 森村進『ロック所有論の再生』（有斐閣）
- 西嶋法友『ルソーにおける人間と国家』（成文堂）
- 川合清隆『ルソーとジュネーブ共和国』（名古屋大学出版局）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ははじめに。第2回からは、あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながら上記テキストを順に読み進める。第14回～第15回はまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 60% 報告... 20% 質問等の状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法律の学び方・調べ方といった法学の基本的なトレーニングを行います。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 法を学ぶ意義や法の役割を理解する。
- 5回～15回 各担当者による報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

■演習テーマ：社会生活における人間関係と法律■ 本演習は、①社会で起こっている様々な出来事を多角的に捉える目線を養うこと、②身近に起こりうる問題を解決し「自分の頭で考える力を身に付けること」を目指す。とりわけ、判例の読解および検討を通じて、①筋道を立てて物事を考える力、②裁判官が判決を下すために付した理由付け（論理構造）を客観的に整理し理解する力を養い、法的思考のイロハを身につける。また、レジュメ作成技術、レポートのまとめ方、法律文献の調査方法や引用方法など法律を学ぶ上で必要最低限の作法を体得し、3年次以降どの分野のゼミを選択しても主体的に報告準備に取り組み、積極的に議論に参加できるプレゼンテーション能力を向上させる「基礎体力」をつけることが本演習のもう一つの狙いである。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本演習の進め方、および民法の体系と基本原理、権利の実現方法について解説。
- 2回 判決文を読む上でのポイント解説。第4回以後のスケジュール（報告担当）決定。
- 3回 判例の検索方法および報告の際のレジュメの作り方、レポート作成方法について解説。
- 4回 学生による判例報告①。報告後、全員で議論。
- 5回 学生による判例報告②。報告後、全員で議論。
- 6回 学生による判例報告③。報告後、全員で議論。
- 7回 学生による判例報告④。報告後、全員で議論。
- 8回 学生による判例報告⑤。報告後、全員で議論。
- 9回 学生による判例報告⑥。報告後、全員で議論。
- 10回 学生による判例報告⑦。報告後、全員で議論。
- 11回 学生による判例報告⑧。報告後、全員で議論。
- 12回 学生による判例報告⑨。報告後、全員で議論。
- 13回 学生による判例報告⑩。報告後、全員で議論。レポートに関する解説（1）。
- 14回 学生による判例報告⑪。報告後、全員で議論。レポートに関する解説（2）。
- 15回 学生による判例報告⑫。報告後、全員で議論。1学期の総括（担当教員からの総評）。

成績評価の方法 /Assessment Method

判例報告... 30% 平素の演習への取り組み... 25% レポート（学期末5000字）... 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは指定しない。参考文献は演習中に適宜紹介する。毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ演習時の議論において「無言厳禁」を原則とするなど、本演習は受講者に対する要求度が高いことを付言しておく。無断欠席者、遅刻常習者、学期末レポート未提出者に単位は与えない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際問題を題材にし、受講者に対しそれらを法的に分析していくプロセスを実践させることで、①法情報検索技術の習得、②プレゼンテーション能力の向上、③討論能力の向上、④レポート作成能力の向上を目指します。【法的分析等に関する基礎技術の習得】IとIIをセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。基礎ゼミの理解に必要な資料は、必要に応じ、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

横田洋三編『国際法入門』(有斐閣・2004) 松井芳郎『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)
他の参考文献については、別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 第1回 コースガイダンス | 第2回 法学の学習にあたって |
| 第3回 リサーチ①(文献等の探し方) | 第4回 リサーチ②(情報検索サイト等の活用) |
| 第5回 クリティカルシンキング | 第6回 法律の条文に親しむ |
| 第7回 条文の解釈の作法を知る | 第8回 判例の探し方 |
| 第9回 実際の判決文を読む | 第10回 判例研究のレジюмеを作る |
| 第11回 レジюме検討ゼミ | 第12回 法学の答案を書く |
| 第13回 答案検討ゼミ | 第14回 レポートを書くにあたって |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。

ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本演習のテーマは、「社会科学方法論の基礎」です。社会科学方法論に関するウェーバー、マルクス、ミルズなどの古典的な著作を通して社会的な物の見方、方法論について学ぶことを目的とする。

教科書 /Textbooks

加藤周一『学ぶことと思うこと』（岩波ブックレット、2003年）
 C. W. ミルズ著（鈴木 広訳）『社会学的想像力』（紀ノ国屋、1967年）
 マックス・ウェーバー著（富永祐治他訳）『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』（岩波文庫、1998年）
 マックス・ウェーバー著（尾高邦雄訳）『職業としての学問』（岩波文庫、1980年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～3回 知の技法について【コミュニケーション(読む・書く・話す)能力】【文献調査法】
- 4回～6回 社会学的想像力について【知識社会学】【イデオロギー】【知的職人論】
- 7回～11回 社会科学方法論について【社会科学的認識の客観性】【M.Weber】【没価値性(価値自由性)】【K. Marx】【弁証法的唯物論】【K. Popper】【反証可能性】
- 12回～14回 科学としての法律学【法解釈学】【経験法学】【法解釈の客観性】
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 口頭報告...30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記のテーマ・キーワードに即して、テキスト・サブテキストとして指定した社会科学方法論上の古典的名著を毎回課題として事前に読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

大学での勉強とはどのようなものであるかの理解を深め、今後の学習に役立てるようすることを目標とします。実際の裁判例について学習することで、法学を学ぶための基礎知識の習得を目指します。演習全体のキーワードは、法学基礎知識の習得です。

教科書 /Textbooks

開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 判例百選シリーズの簡単な説明
- 2回 学生Aの報告
- 3回 学生Bの報告
- 4回 学生Cの報告
- 5回 学生Dの報告
- 6回 学生Eの報告
- 7回 学生Fの報告
- 8回 学生Gの報告
- 9回 学生Hの報告
- 10回 学生Iの報告
- 11回 学生Jの報告
- 12回 学生Kの報告
- 13回 学生Lの報告
- 14回 学生Mの報告
- 15回 学生Nの報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 ... 100 %
ただし、一定回数、出席していることが当然の前提です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

何もありません。自分の担当のときだけ、調べたり、報告レジュメを作成したりして下さい。基本的に楽勝ゼミだと思います。
なお、「民法総則」及び「物権法」の講義を履修されることをお勧め致します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

刑法における重要テーマ、社会的に関心のもたれているテーマを題材に、社会に関心をもち、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、社会に対する関心をもち、法学的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

斉藤誠二編『演習ノート 刑法総論〔全訂第3版〕』（法学書院）2003年3月、2000円＋税
刑法判例百選I総論〔第六版〕有斐閣 ￥2200円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～第4回 テーマ1について、報告・質疑応答
第5回～第7回 テーマ2について、報告・質疑応答
第8回～第10回 テーマ3について、報告・質疑応答
第11回～第13回 テーマ4について、報告・質疑応答
第14回～第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を毎回とり、出席点と授業態度、レポートの評価での総合点（出席点30%、授業態度30%、レポートの評価40%）で総合評価する。とくに出席・授業態度が悪い場合、減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：法学を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目ですから。また、本講座を履修すると同時に刑法犯罪論を、本講座を履修した後に刑法犯罪各論、刑事訴訟法を履修すると刑事法を学習上で効果的でしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

基礎演習Iでは、法学一般に関する諸問題を取り扱いますが、演習形式で行うので、受講生各自が、テキストの各分野を担当し、レジメを作成して報告を行い、議論をし、受講生それぞれが、法律に関して何らかの問題意識を持てるようにすることが、本演習の目的です。今回は、法学を基礎的に習得することを主眼とした教科書を使用します。

教科書 /Textbooks

森泉章 (編) 「法学」 (有斐閣)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の開始時等に参考文献は示したいと考えています。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回
 テキストの内容・順序に沿って授業を行うことを予定しています。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 報告 ... 20 % 質疑応答 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を授業前に読み十分に準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この演習では、法学を学ぶうえで必須となる基礎的知識・思考・スキルなどを身につけることを目的とします。具体的には、大学での学問（法学）に対する臨み方から始まり、文献の調べ方、法学的な議論の仕方、パソコン（インターネット・データベース）を利用した判例などの検索、判例の読み方の基礎を学びます。なお、この演習は、3・4年次のゼミなどで、関心を持った法分野の研究をする際、必須となるスキルを低年次の段階で修得することを想定しています。

教科書 /Textbooks

- ①松本恒雄ほか（編）『日本法への招待第2版』（有斐閣、2006年）
- ②池田真朗（編著）『判例学習のA to Z』（有斐閣、2010年春頃刊行予定）
- ③最新版の小型六法 ※この「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 弥永真生『法律学習マニュアル〔第3版〕』（有斐閣、2009年）、いしかわまりこ ほか（指宿信ほか監修）『リーガル・リサーチ第3版』（日本評論社、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (※以下のスケジュール等はあくまで予定です。受講人数等により変更する場合があります。)
- 第1回 ガイダンス：自己紹介、グループ・報告順決定、最終授業時提出レポートの説明。
 - 第2回 教員による報告および質疑応答：法学的な話しを聴くこと、議論することを学ぶ。
 - 第3回 リーガル・リサーチその1：法学文献、判例の調べ方などを学ぶ。
 - 第4回 リーガル・リサーチその2：判例の検索方法（インターネット・データベース活用）を学ぶ（※図書館見学も予定。）。
 - 第5回 議論の仕方を学び、実践する。：グループ討論（議論の素材は教員が用意します。）。
 - 第6回～第11回（予定）グループ報告（テキスト①掲載の判例についての報告）・質疑応答。
 - 第12回～第14回（予定）※報告予備日。なお、ゲストを招いての特別授業も予定している。
 - 第15回 まとめ
- 最終授業終了時に各自レポートを提出していただきます。内容は「法（法学）」に関する文献書評です。なお、対象文献は、「法（法学）」を題材とするものであれば、学術論文、教科書、小説など、ジャンルを問いません（ただし、漫画・問題集は不可）。読書感想文でなく、あくまで「書評」を書いてください。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告の内容など... 70%
- レポート（書評）の内容... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、報告準備以外に、事前準備が多く課せられます。たとえば、次の週に報告するグループの扱う判例について、様々な点から質問ができるよう、種々の文献を読んでくることなどが要求されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この演習は、1年生を対象として、法学部での学習に最低限必要で、かつ今後の人生に必ず役立つであろう作法と能力を身につけることを目的としている。具体的には、職場の法律問題を題材にしながら、①判例・文献の読み方、②法的问题の分析・検討の仕方、③判例・文献の収集方法、④レジュメの書き方、⑤プレゼンテーションの仕方などを学習する。

教科書 /Textbooks

弥永真生『法律学習マニュアル（第3版）』有斐閣（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等については演習中に適宜示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 図書館・資料室の利用方法
- 第 3回～第 4回 なぜ法律を学ぶのか～法のしくみと運用～
- 第 5回～第 6回 判例の読み方を知ろう～事実認定と法の適用～
- 第 7回～第 9回 裁判所を知ろう～裁判所の役割と実際～
- 第 10回～第 15回 法的问题について議論しよう

成績評価の方法 /Assessment Method

発言内容... 40%、報告内容... 30%、出席状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習は学び手の主体性によって成り立ちます。積極的な参加を期待しています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

法学の各分野に共通する基礎的知識を整理しながら、読み・書き (=レポート・レジュメの作成)・話す (=報告する、議論する) という、法学の基本的な学習の方法を習得することを目的とします。また、法令・判例・文献資料などの法情報の検索方法や収集方法、引用法といった法学の基本的技能を習得することを目指します。

2年次以降の専門科目や演習で、主体的に学習に取り組むために必須の基礎を身につけてください。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

弥永真生『法律学習マニュアル』3版(有斐閣・2009.09)

○末川博(編)『法学入門』6版(有斐閣・2009.04)

○伊藤正己・加藤一郎(編)『現代法学入門』4版(有斐閣・2005.03)

※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回～3回 法律文献の読み方・まとめ方
- 4回～5回 レポートとレジュメの作成法
- 6回 法の種類と体系
- 7回 法の構造(法令の構造と条文の構造)
- 8回 法源論
- 9回～12回 リーガル・リサーチの基礎(資料の調査法と引用法)
- 13回～15回 法解釈の基礎

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポート・レジュメを含む)...50% 討論及び発言内容...50%

※無断欠席を厳禁します。また、少なくとも2/3以上の出席が必要です。

※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価します。

※なお、「沈黙」を禁じます。発言をしない者、ディスカッションに参加しない者については、大幅な減点の対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者(または、担当グループ)には、各テーマに関してレポート及びレジュメを作成し、事前に提出してまいります。担当者の報告をもとに、全体でディスカッションを行なって、理解を深めていきます。演習は、履修者自身が探求し、知識を取得し、理解を深める場です。積極的な活動を期待しています。

基礎演習Iは、基礎演習IIと連続して展開することを予定していますので、基礎演習IIも併せて履修することを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習IIでは、法学基礎演習Iにおいて、事件・紛争、法システムに含まれている法的問題を発見する方法、問題を検討のための資料文献等の検索収集方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）、文献資料の分析方法などを学んだことを前提に、次のことをねらいとします。

すなわち、判例が実際に果たしている重要な機能を理解すること（判例とは何か、どのようにして作られ、実務をどのように拘束するかについて学びこと）です。

教科書 /Textbooks

中野次雄編『判例とその読み方』（改訂版）（有斐閣）

※ なお、次の2冊の本を読んでいない受講者は、演習開始時までに各自読んでおいて下さい。

弥永真生著『法律学習マニュアル』（有斐閣 1,995円）

森靖雄著『大学生の学習テクニク』（大月書店2,100円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半は、様々な分野の実際の判例をあげてその判例の読み方を示すことを目的として書かれたテキストを、受講者間で分担して報告し、討論することを予定しています。後半は、受講者自身が選択した判例につき、判例評釈の報告を行い、報告書を作成します。

第1回 ゼミの運営方針の説明、報告分担箇所・報告者の決定

第2回～第7回 報告担当者によるテキストの解説と質疑応答・討論

第8回～第15回 受講者による判例評釈の発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告（書）の内容・ディスカッションへの参加度の総合評価によるゼミへの参加度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者には、1、報告概要（レジュメ）を作成し、2、事前には、参加者全員にコピーを配布すること、3、報告に際してはテキスト・判例の論旨を要約し、そこから論点を皆に提示することが求められます。

他方、それ以外の参加者には、最低限、テキストを事前に読了していただくことが求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 植木 淳 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

基本的人権に関する判例の中から、各自興味がある問題について調査・報告・討論をしていただく。そのことによって、憲法判例についての基礎的知識を身につけ、更に、法律学的な思考方法を習得していただきたい。しかし、それよりも、公共的な問題について、大学における演習という公共的空間（ないし擬似公共的空間）において、「調査」「報告」「討論」することを通じて、一人の市民・社会人として将来必要とされる素養を身につけていただきたいと考えている。従って、法律に関する知識を習得するということもさることながら、学生らしい自由で闊達な議論をしていただきたいと切に願っている。自分の意見を遠慮することなく主張し、相手の意見を真摯に聞いたうえで議論するという、ある意味では学生だけに許される経験を体験して欲しい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各回のテーマに関連するものについて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 報告討論
- 3回 報告討論
- 4回 報告討論
- 5回 報告討論
- 6回 報告討論
- 7回 報告討論
- 8回 報告討論
- 9回 報告討論
- 10回 報告討論
- 11回 報告討論
- 12回 報告討論
- 13回 報告討論
- 14回 報告討論
- 15回 報告討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50 % 報告討論 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

Iから引き続き日本社会を歴史的視点から考察する。

教科書 /Textbooks

- 1 続日本の歴史をよみなおす 網野善彦著 筑摩書房
- 2 中世に国家はあったか 新田一郎著 山川出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

担当者による発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出 50 % 発表 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Iに同じ

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本演習は、法学基礎演習Iを前提とする。基本的な判例を素材として、判決文を読むことを通じて法的な問題点を把握し、議論を経て問題解決を目指すという訓練をすることをねらいとする。
 (なお、授業で取り上げる判例は、公法分野に関するものである。)

教科書 /Textbooks

特に指定しない。資料を配付するほか、必要な文献等については適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (運営方針の説明)
- 2回 ~ 4回 判決文の読み方
- 5回 ~ 15回 各判例の検討
 (受講者に対しては、各事件の一部につき報告を求められることがある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 60 % 討議への参加状況 (報告を含む) ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配付資料を事前に読んでおくこと。
 報告を求められた場合には、レジユメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 落合 俊行 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

最高裁判所判事の要職にあった団藤重光先生は『法学入門』（筑摩書房）のはしがきのなかで、「法学は与えられるものではなく、自分で考えていくべきものである」と述べておられます。法学はだれがいつやっても1+1=2という世界の学問ではありません。法学で重要なのは、妥当な結論を導き出す論理過程なのであり、説得力をもった理由付けなのです。ですから、教科書や授業での説明を金科玉条として丸暗記しないで、自分の頭で主体的に考えることが大切なのです。社会生活において法がどのように適用されていくのか、具体的な事件や裁判を通して、いっしょに考えていきましょう。

教科書 /Textbooks

中川義朗『現代の人権と法を考える』（第二版）（法律文化社、2006年、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1学期のつづき)
第1回～第2回 働く者の人権
第3回～第4回 高齢社会と生存権
第5回～第6回 国家と信教の自由
第7回～第8回 選挙制度と参政権
第9回～第10回 地方分権と地方自治
第11回～第12回 司法制度と裁判を受ける権利
第13回～第14回 平和と人権

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30% 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

受講生と話し合いによりテーマを決定します。そのテーマについて、文献、判例等を調査し、自分の考えをまとめてもらいます。その内容を授業で報告してもらい、他の受講生、教員と討論します。そのことにより、文献調査の実地的訓練、法的思考力の養成を行いたいと思います。

教科書 /Textbooks

特に、指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマ、報告者の決定、
- 2回 以下、順次個別報告
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」をテーマとし、それに関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを本講義の目的とする。この点では、法学基礎演習Iと同様の問題意識のもとで、同様の主題を発展的・継続的に扱う。

法学基礎演習Iでは、ロック、ルソーの著作をとりあげたが、法学基礎演習IIでは、さらにルソーの別の著作と、ホブズの主著の前半部をとりあげる。法学基礎演習IとIIを継続して受講することにより、ホブズ、ロック、ルソーの社会契約説の考え方の基本を学んだ上で、さらに現代正義論に対するその理論的示唆についても、理解できるようにしたいと考えている。

教科書 /Textbooks

- ルソー『人間不平等起源論』（光文社古典新訳文庫）
- ホブズ『リヴァイアサン1』（岩波文庫）
- ホブズ『リヴァイアサン2』（岩波文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ルソー『社会契約論』（光文社古典新訳文庫）
- ホブズ『リヴァイアサン3』『リヴァイアサン4』（岩波文庫）
- ホブズ『市民論』（京都大学学術出版会）
- ホブズ『哲学者と法学徒との対話』（岩波文庫）
- リチャード・タック『トマス・ホブズ』（未来社）
- 藤原保信, 佐藤正志『ホブズ リヴァイアサン』（有斐閣）
- 梅田百合香『ホブズ 政治と宗教』（名古屋大学出版会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第13回は、あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながら、上記テキストを読み進める。第14回～第15回はまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 60% 報告... 20% 質問等の状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description
 1学期の法学基礎演習に引き続き、主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法律の学び方・調べ方といった法学の基本的なトレーニングを行います。また、後半には各自が選択したテーマについて報告をしてもらいます。

教科書 /Textbooks
 テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 ガイダンス
 2回～5回 判例の分析
 6回～15回 各自が選択したテーマについて報告

成績評価の方法 /Assessment Method
 報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

■演習テーマ：社会生活における人間関係と法律 ■ 2学期は、1学期に習得した内容の応用として、自分が面白いと思った事柄や疑問に思ったことが世の中でどのように考えられているのかを整理し、資料を調べて判例や学説をまとめ、自分なりの結論を打ち出してもらおうという流れを意識して「戦略的な」報告をしていただく。受講者は、インプットした知識をいかに上手く「アウトプットできるか」、すなわち、他人に自分の見解を理解してもらい、自分の主張の妥当性を説得させるためにどうすればよいが試行錯誤することになる。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 判例および学説の意義に関する解説。第2回演習時に検討する判例・資料を配布。
- 2回 担当教員による模擬判例報告。第4回以後のスケジュール(報告担当)決定。
- 3回 インターネットや検索ツールを利用した文献収集方法の解説および実践。
- 4回 学生による判例報告①。報告後、全員で議論。
- 5回 学生による判例報告②。報告後、全員で議論。
- 6回 学生による判例報告③。報告後、全員で議論。
- 7回 学生による判例報告④。報告後、全員で議論。
- 8回 学生による判例報告⑤。報告後、全員で議論。
- 9回 学生による判例報告⑥。報告後、全員で議論。
- 10回 学生による判例報告⑦。報告後、全員で議論。
- 11回 学生による判例報告⑧。報告後、全員で議論。
- 12回 学生による判例報告⑨。報告後、全員で議論。
- 13回 学生による判例報告⑩。報告後、全員で議論。レポートに関する解説(1)。
- 14回 学生による判例報告⑪。報告後、全員で議論。レポートに関する解説(2)。
- 15回 学生による判例報告⑫。報告後、全員で議論。2学期の総括(担当教員からの総評)。

成績評価の方法 /Assessment Method

判例報告... 30% 平素の演習への取り組み... 25% レポート(学期末5000字)... 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは指定しない。参考文献は演習中に適宜紹介する。毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ演習時の議論において「無言厳禁」を原則とするなど、本演習は受講者に対する要求度が高いことを付言しておく。無断欠席者、遅刻常習者、学期末レポート未提出者に単位は与えない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際問題を題材にし、受講者に対しそれらを法的に分析していくプロセスを実践させることで、①法情報検索技術の習得、②プレゼンテーション能力の向上、③討論能力の向上、④レポート作成能力の向上を目指します。【国際問題の法的分析：基礎技術の習得】IとIIをセットで受講してください。IIのみを受講希望する2年生以上は夏季休暇中に課題をこなしてもらう必要がありますから、この点を理解したうえで、受講申請の手続きをしてください。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。基礎ゼミの理解に必要な資料は、必要に応じ、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

横田洋三編『国際法入門』(有斐閣・2004) 松井芳郎『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)
他の参考文献については、別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス	第2回 デイバートとは
第3回 テーマ決定とグループ分け	第4回 グループ準備(テーマ調査)
第5回 グループ準備(主張等の整理)	第6回 グループ準備(プレゼン資料の作成)
第7回 デイバート	第8回 文献精読の対象文献の選定
第9回 文献精読(読み込み)	第10回 文献精読(調査等)
第11回 文献テーマに関するグループディスカッション	第12回 2010年10大国際ニュースの調査
第13回 グループ準備	第14回 グループ発表
第15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。ゼミへの参加は、具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
ゼミへの参加 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本演習テーマは「裁判員制度について考える」です。裁判員制度に関する基礎的知識を深め、自分自身の問題として裁判員になることの意味について考える機会を提供することが本ゼミのねらいです。

教科書 /Textbooks

宮澤節生その他『テキストブック現代司法(第5版)』(日本評論社、2009年3月刊行予定)
竹田 昌弘『知る、考える裁判員制度』(岩波ブックレットNo.727(2008年)800円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～4回 法制度改革の意義と基本理念【司法権】【裁判所】【法律家】【刑事裁判】
- 5回～7回 国民の司法参加【陪審制】【参審制】【裁判員制度】
- 8回～11回 裁判員制度の制度設計【刑事訴訟手続】【刑事実務】
- 12回 裁判所・刑事施設のフィールドワーク 【裁判傍聴】
- 13回 裁判所・刑事施設のフィールドワーク 【刑事施設参観】
- 14回 模擬評議のプラクティカム 【評議】
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 口頭報告...30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、報告者を決めて話題提供をしてもらい、各論点につき賛否両論ディベート方式で議論します。刑事裁判の実際については、福岡地方裁判所小倉支部において裁判傍聴を実施します。その他、刑事施設({昨年度は福岡刑務所、佐賀少年刑務所、長崎刑務所に行きました。})を見学する予定です。また、DVDを利用して模擬裁判員裁判(模擬評議)の実習を行います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

大学での勉学とはどのようなものであるかの理解を深め、今後の学習に役立てるようすることを目標とします。実際の裁判例について学習することで、法学を学ぶための基礎知識の習得を目指します。演習全体のキーワードは、法学基礎知識の習得です。

教科書 /Textbooks

開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 判例百選シリーズの簡単な説明
- 2回 学生Aの報告
- 3回 学生Bの報告
- 4回 学生Cの報告
- 5回 学生Dの報告
- 6回 学生Eの報告
- 7回 学生Fの報告
- 8回 学生Gの報告
- 9回 学生Hの報告
- 10回 学生Iの報告
- 11回 学生Jの報告
- 12回 学生Kの報告
- 13回 学生Lの報告
- 14回 学生Mの報告
- 15回 学生Nの報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 ... 100 %
ただし、一定回数、出席していることが当然の前提です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

何もありません。自分の担当のときだけ、調べたり、報告レジュメを作成したりして下さい。基本的に楽勝ゼミだと思います。
なお、「民法総則」及び「物権法」の講義を履修されることをお勧め致します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

刑法における重要テーマ、社会的に関心のもたれているテーマを題材に、社会に関心をもち、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、社会に対する関心をもち、法学的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

斉藤誠二編『演習ノート 刑法総論〔全訂第3版〕』（法学書院）2003年3月、2000円＋税
刑法判例百選I総論〔第6版〕（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～第4回 テーマ1について、報告・質疑応答
第5回～第7回 テーマ2について、報告・質疑応答
第8回～第10回 テーマ3について、報告・質疑応答
第11回～第13回 テーマ4について、報告・質疑応答
第14回～第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を毎回とり、出席点と授業態度、レポートの評価での総合点（出席点30%、授業態度30%、レポートの評価40%）で総合評価する。とくに出席・授業態度が悪い場合、減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：法学を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目ですから。また、本講座を履修すると同時に刑法犯罪論を、本講座を履修した後に刑法犯罪各論、刑事訴訟法を履修すると刑事法を学習する上で効果的でしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

後期の法学基礎演習は、刑事法関係を取り扱う。演習形式なので、受講生各自にテキストの各分野を担当してもらい、レジメを作成した上での報告に基づき、議論をし、刑事法に関して問題関心を持ってもらうことを、本演習の目的としています。

教科書 /Textbooks

福井厚 (著) 「刑事法学入門」 (法律文化社) 。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習の時間に提示したいと思っています。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回
 テキストの内容・順序に沿って進めていく予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 報告 ... 20 % 質疑応答 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を授業前に十分に読み準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Iの内容を受けて、より高度な法的思考、法学文献の批判的な読み方、判例の読み方（判例評釈の手法）などを修得することがこの演習の目的です。法学基礎演習Iと異なり、本演習では、報告の内容面やレポートの完成度をより厳しく評価します。また、本格的な（主として民事）判例研究報告を課すなど、その内容は、3・4年次に履修する（であろう）「専門演習」に近いものとなります。法的思考をフル回転させ、活発な議論に受講生全員が参加されることを切望します。

教科書 /Textbooks

- ①中野次雄 編『判例とその読み方（三訂版）』（有斐閣、2009年）
- ②中田裕康ほか 編『民法判例百選総則・物権[第6版]（別冊ジュリストNO195）』（有斐閣、2009年）
- ③最新版の小型六法 ※この「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※授業のなかで適宜アナウンスします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (※以下のスケジュール等はあくまで予定です。受講人数等により変更する場合があります。)
- 第1回 ガイダンス：グループ決め。最終授業時提出レポートについての説明。
 - 第2回 最高裁判所の判決の読み方（民法判例を中心に）を学ぶ。各グループの報告順の決定。
 - 第3回～第8回（予定）『判例とその読み方』（テキスト①）についてのグループ報告（輪読）。
 - 第9回～第14回（予定）各グループによる（民事）判例研究報告。なお、採り上げる判決は『民法判例百選総則・物権[第6版]』（テキスト②）掲載の最高裁判決とします。民法の体系書、調査官解説、判例評釈などを参照して、本格的な判例研究報告を行ってください。また、報告に当たっていないグループも、報告グループの採り上げる判決について、質問や意見等を発表できるように事前準備を入念にしておいてください。
 - 第15回 まとめ
 - 最終授業終了時に、レポートを提出していただきます。内容は、以下の（1）、（2）のうち、一つを選択してください。
 - （1）グループで報告した最高裁判決についての判例評釈 / （2）テキスト①についての文献書評

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告内容など... 50%
- レポート（判例評釈または書評）の内容... 50%
- ※（注意）正当な理由のない無断遅刻・無断欠席は、ゼミを放棄したものと「推定」します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、報告準備以外に事前準備が多く課せられます（法学基礎演習Iより負担は重くなります。）。報告に当たっていないグループも、報告グループが扱う判例につき、様々な点から質問・指摘などができるよう、種々の評釈・文献を読み、授業に臨むことが要求されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本演習は、法学基礎演習Iで学習した知識を前提に、判例の読み方、法的問題の分析・検討の仕方、判例・文献の収集方法などの能力の高度化を図ることを目的としている。

前半には、労働法に関する実際の裁判例を題材に報告・議論を行う。後半は、各自が自由にテーマを設定し、自ら調査・探究したことをレポートにまとめることにより、文章を書くプロセスを学習する。なお、テーマは、労働法分野であることが望ましいが、それに限らず、法に関連する一般的な社会問題等でも構わない。

教科書 /Textbooks

弥永真生『法律学習マニュアル（第3版）』有斐閣（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献・裁判例等については演習中に適宜示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回～第 3回 判例の分析方法を知ろう～論点の発見と議論の仕方～
- 第 4回～第 8回 判例を検討しよう
- 第 9回～第 10回 レポートの書き方を知ろう～テーマの設定と論文の作法～
- 第 11回～第 12回 リーガル・リサーチの方法を知ろう
- 第 13回～第 15回 レポートを完成させよう

成績評価の方法 /Assessment Method

発言内容... 40%、報告内容... 30%、出席状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習は学び手の主体性によって成り立ちます。積極的な参加を期待しています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Iで習得した知識及び技能をもとにして、資料を収集・分析し、問題点を発見し、問題の解決策（自己の見解）をまとめ、ディスカッションを通じて見解を発展させ、またそれを自分の言葉で説得的に提示するという、法学において共通して要求される基礎的能力を習得することを目的とします。

前半では、判例の読み方や扱い方を学んでいきます。後半では、受講者の関心に応じて、いくつかの基本的な法的問題について検討していく予定です。

現実社会の問題解決にはこれが正解という真理を求めることはできません。最善・最良と考えられる方策を提示することができるだけです。だからこそ、自分の考え方を支える価値観が、そしてそれを他人に説得する能力が重要となります。この演習を通じて、そうした自分自身の思考方法や価値観といった、法を考える基本的視座を築き上げてください。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○中野次雄ほか（編著）『判例とその読み方』3訂版（有斐閣・2009.03）
※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など）
- 2回～ 5回 判例と裁判例、判例の読解
- 6回～ 15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）... 50% 討論及び発言内容... 50%

※無断欠席を厳禁します。また、少なくとも2/3以上の出席が必要です。

※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価します。

※なお、「沈黙」を禁じます。発言をしない者、ディスカッションに参加しない者については、大幅な減点の対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者（または、担当グループ）には、各テーマに関してレポート及びレジュメを作成し、事前に提出してもらいます。担当者の報告をもとに、全体でディスカッションを行なって、理解を深めていきます。演習は、履修者自身が探求し、知識を取得し、理解を深める場です。積極的な活動を期待しています。

基礎演習IIは、基礎演習Iと連続して展開することを予定していますので、基礎演習Iも併せて履修することを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

商事法 (企業活動に関する法) 上のテーマを取り扱った「ドイツ語あるいは英語の」文献を輪読することを通して、日本と諸外国との法制度の違いや、紛争解決のあり方の違いを知ること。

教科書 /Textbooks

受講者が興味を抱いているテーマを扱っている文献をセレクトしたうえで、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ毎に、その都度、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミ運営方針の説明
 受講者各自が、今一番興味を抱いている企業関連の問題について発表し、いくつかのテーマに 絞り込みます。
- 第2回 テーマを決定して、それに応じたメインの文献、関連文献をセレクトします。
 輪読のための準備作業：各自の担当箇所、担当順番の決定
 担当箇所の内容紹介レジュメの作成・提出方法の説明
- 第3回～第15回 担当者による担当箇所の内容紹介の後、日本の状況との違いなどについて議論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、レジュメ準備の程度、発表内容、ディスカッション等、いわゆるゼミへの参加度...100%
 無断欠席は、ゼミを放棄したものとみなされる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語あるいは英語の文献資料を読解するために必要かつ十分な語学力を有している場合には、「文献研究」としての本講義の受講は快適かつ有意義なものになるでしょう。また、当日に実施予定の輪読箇所を見ただけでは、当該文献の趣旨を把握することは往々にして難しいものです。

そこで、ゼミ参加者全員が、文献全体のアウトライン (少なくとも鍵となる主題文) をつかんでおくことが、ゼミを有意義なものにするうえで非常に大切になります。参加者の準備が不十分な場合には、再度、同箇所について読み直しが必要になる場合もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 落合 俊行 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description
 2008年アメリカ大統領選挙で民主党のバラク・オバマが勝利しました。オバマ政権の政策とアメリカの政治システム・選挙制度などについて、活字メディアや電波メディアを使って多角的に勉強します。講読文献、視聴番組は英語です。

教科書 /Textbooks
 Barack Obama 「The Audacity of Hope」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回から3回 オバマの半生とオバマの勝利演説・就任演説
 4回から6回 アメリカの議会制度
 7回から9回 アメリカの裁判制度
 10回から14回 アメリカの選挙制度
 15回 まとめ (政治制度の日米比較)

成績評価の方法 /Assessment Method
 出席 ... 50 % 授業発言・討論 ... 20 % 定期試験... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎日英字新聞 (ジャパン・タイムズ) を読むこと。テレビのニュースやドキュメント番組を見ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国文献を通じて刑事訴訟法を理解することを目的とします。今年は英語の文献を利用します。英語を読める能力が前提ですが、少し程度の高い文献を使用しますので、英語読解力のある程度高い学生の受講を望みます。

教科書 /Textbooks

アメリカの刑事訴訟法の文献を使う予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

アメリカの刑事訴訟法分野の特定のテーマを扱います。受講生には事前に分担を決めて、読んで訳をしてもらいますが、受講生全員も事前に読んでおくことを前提にしていきます。

1回～15回

事前に分担した箇所を毎回、訳してもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

英語を読んで訳すること... 60% 出席回数... 20% 受講態度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に決められた分担箇所を授業前に予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、受講者のフランス語読解力を養うとともに、フランス民法典編纂の迫力ある経緯を体感してもらうことにある。文章を正確に読み取ること、すなわち、精読が最重要目的とされる。1つのパラグラフを読み終えた後、受講者全員が「何についての記述であったか」を議論し、大意を把握することにも努める。フランス民法典編纂の経緯を読み解きながら、日本民法典との関連性はもちろん、当時のフランスにおける社会背景およびフランス革命が法と社会に与えた影響についても考える。

教科書 /Textbooks

【教材】

Jean-Louis Halpérin, Le Code civil, Dalloz, 1996.

* 担当教員が該当箇所を複写し、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

【参考図書】

○碧海純一 = 伊藤正己 = 村上淳一編『法学史』(東京大学出版会、1976年)。

『新スタンダード仏辞典』(大修館書店、1989年)。

山口俊夫編『フランス法辞典』(東京大学出版会、2002年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(受講上の注意)
- 2回 ~ 14回 テキストの講読
- 15回 総括および講評

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、受講態度等平常点... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の進行は、訳出の担当箇所を決めずに、受講者全員で一文ずつ順番に音読の上、翻訳することの繰り返しである。担当教員は受講者による訳出後、発音および文法事項について確認し、内容に関する補足説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK , Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では、今日のアメリカ社会において最も激しい政治的、法的論争の一つとなっている死刑問題について、その賛成論および反対論の争点を理解することを目指します。以下のテキストを素材として、輪読しながら、死刑存廃論について各々の見解を批評する。

教科書 /Textbooks

Mary E. Williams (ed.), Capital Punishment, Greenhaven Press, 2000.
 (テキスト教材は必要箇所をコピーしたものを使用する予定です。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースアウトラインの説明
- 2回 インTRODクシヨN (テキスト 11~15頁) 【序論】
- 3回 第1章 (16~30頁) 死刑の道徳性 【合理性】
- 4回 第1章 (31~41頁) 【死刑の残虐性】 【国家刑罰権】 【誤判】
- 5回 第1章 (42~54頁) 【死刑の非人道性】 【生命の尊厳】
- 6回 第2章 (55~64頁) 【公正】 【不正】 【人種差別主義】
- 7回 第2章 (65~75頁) 【人種差別主義】 【死刑事件】
- 8回 第2章 (76~87頁) 【えん罪防止策】 【リベラル批判】
- 9回 第2章 (88~100頁) 【公正な執行】 【死刑廃止批判】
- 10回 第3章 (101~114頁) 【死刑の犯罪抑止力肯定論】
- 11回 第3章~4章 (115~128頁) 【死刑の犯罪抑止力否定論】 【廃止論】
- 12回 第4章 (129~137頁) 【存置論】 【慎重な執行】
- 13回 第4章 (138~142頁) 【正義】 【終身刑】
- 14回 第4章 (143~147頁) 【死刑代替刑批判】 【精神障害者と死刑】
- 15回 第4章 (148~150) 【殺人犯の刑事責任能力】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 口頭報告...30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回分担報告者を決めて指定された単元ごとに読み進めていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II (専門基礎教育) 【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ドイツ法学の成果に触れるために、ドイツ語文献の講読を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文献の決定
- 2回 文献講読
- 3回 文献講読
- 4回 文献講読
- 5回 文献講読
- 6回 文献講読
- 7回 文献講読
- 8回 文献講読
- 9回 文献講読
- 10回 文献講読
- 11回 文献講読
- 12回 文献講読
- 13回 文献講読
- 14回 文献講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ民法の条文は、洋書取扱店で、事前に購入しておくこと。加えて、小学館の『独和大辞典 第2版』の購入も義務付ける。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済法 【昼】

担当者名 /Instructor 長岡 さくら / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際社会を規律する法である「国際法」のうち、とりわけ経済分野について規律している国際機構の役割について理解すること、及び、これを伝統的な国際法分野との比較を行うことで国際法全体に対する理解を深めることをねらいとします。
この目的を達成するため、まず、国際法及び国際機構法の基礎について概観した後、WTOなど主として経済分野で役割を果たしている国際機構の役割について具体的に検討していく予定です。

教科書 /Textbooks

小原喜雄・山手治之・小室程夫 [編] 『国際経済条約・法令集〔第2版〕』(東信堂)
但し、受講上の不都合を厭わないのであれば他社発行の条約集を使用しても差支えありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については第1回講義時にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 国際法の基礎知識1【紛争の平和的解決】【非司法的解決】【司法的解決】
- 3回 国際法の基礎知識2【法源】【条約】【慣習国際法】
- 4回 国際機構法の基礎知識【国際法主体性】
- 5回 国際経済法の歴史・沿革
- 6回 WTOの設立過程・歴史【GATT】
- 7回 WTOが対象とする分野と基本原則
- 8回 WTOにおける貿易救済措置【ダンピング】
- 9回 WTOにおける紛争解決手続1--概略--【DSB】
- 10回 WTOにおける紛争解決手続2--伝統的国際法における紛争解決手続との比較--
- 11回 経済と環境の拘わり1
- 12回 経済と環境の拘わり2
- 13回 経済と人権の拘わり
- 14回 その他、経済分野を担う国際機構
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 20% 課題・レポート ... 20% 学期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「国際法学」「国家管轄権論」「国際関係法特講」を既に受講した場合、あるいは同時に受講している場合、本講義に対する理解がより深まるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相続法 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

民法第5編相続が講義の内容です。家族法(親族・相続法)の後半部分にあたります。現行制度の歴史的な位置づけを明らかにするとともに、学説や判例理論の解説を織り込みながら、現行相続法上の問題点を出来るだけ平易に解説します。「親族法」も受講することによって、家族法の全体像を理解し、現在の家族、これからの家族関係の有りべき姿を考えて頂きたいと思っています。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講説親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社 (2007年8月) 3,000円、泉久雄他編著『家族法基本判例32選』信山社 (2005年9月) 2,500円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○中川善之助 = 泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 相続制度の意義、相続の形態【法定相続】【遺言相続】【相続の根拠】
- 2回 相続人①【相続欠格】【廃除】
- 3回 相続人②【相続欠格】【廃除】【代襲相続】
- 4回 相続人③【代襲相続】【相続人不存在】【特別縁故者】
- 5回 相続分①【相続分】【特別受益者】【寄与分】
- 6回 相続分②【相続分】【特別受益者】【寄与分】
- 7回 相続の承認と放棄①【単純承認】【限定承認】【相続放棄】
- 8回 相続の承認と放棄②【単純承認】【限定承認】【相続放棄】
- 9回 相続財産①【遺産共有】【遺産分割】
- 10回 相続財産②【遺産共有】【遺産分割】
- 11回 相続財産③【遺産共有】【遺産分割】
- 12回 相続財産④【遺産共有】【遺産分割】
- 13回 遺言相続①【遺言】【遺言執行】【遺留分】
- 14回 遺言相続②【遺言】【遺言執行】【遺留分】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「親族法」だけでなく、「私法入門」、「不法行為法」、「民法総則」、その他民法財産法の講義科目を履修した場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ASEAN研究【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業は、ASEAN（東南アジア諸国連合）を中心テーマとする。ASEANは、東南アジア諸国間の相互信頼の醸成と、大国に翻弄されることなく東南アジアの将来を方向づけることにおいて、大きな役割を果たしてきた。今日では、アジア太平洋の地域秩序の形成における中核的存在である。ASEANの展開を抑えることで、東南アジアおよびアジア太平洋の国際関係を学ぶ。

教科書 /Textbooks

毎回講義資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山影進『ASEAN-シンボルからシステムへ』東京大学出版会、1991年
山影進『ASEAN/パワー-アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 東南アジアにおける国民国家の成立
- 3回 ASEAN前夜(1) 地域協力機構の構想【ASA(東南アジア連合)】
- 4回 ASEAN前夜(2) 地域紛争解決の試み【マフィリンド、サバ領有権問題、対決政策】
- 5回 ASEANの成立【ASEAN設立宣言(バンコク宣言)】
- 6回 域外国に対するASEANの団結【ASEAN-EEC協力条約、合成ゴム問題】
- 7回 ASEAN諸国のインドシナ問題への対処(1)【ベトナム戦争】
- 8回 ASEAN諸国のインドシナ問題への対処(2)【カンボジア紛争】
- 9回 ポスト冷戦期のASEAN(1) ASEANの拡大【ASEANテン】
- 10回 ポスト冷戦期のASEAN(2) 経済協力への取り組み【AFTA】
- 11回 ASEANの国際経済秩序形成への参画【APEC】
- 12回 ASEANの広域安全保障秩序形成への参画【ARF】
- 13回 「東アジア共同体」への関わり【ASEAN+3、EAS】
- 14回 日本・ASEAN関係【EPA】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小テストを3回ないし4回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国のエスニシティ政策【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

20世紀半ばまでに、地球上は国民国家で覆い尽くされた。個人の解放・自立は、個人が民族としてまとまり、その民族が自前の国家を持つことによって達成されるという理念が、人類普遍的な価値となった。だが実際には、「一つの民族に一つの国家」という例はほとんどない。この授業では、解放と自立を確立・維持しようとする個々人の営みの中で、「民族」と「国民国家」という概念がどのような相互作用を生じさせてきたのかを、アジアの事例を中心に論じる。

教科書 /Textbooks

講義資料を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 国民国家システムの成立【王国、植民地国家、国民国家、国民統合、民族】
- 3回 国民統合の取り組み(1)中国【五族共和】
- 4回 国民統合の取り組み(2)インドネシア【多様性の中の統一】
- 5回 国民統合の取り組み(3)ベトナム【貧しさを分かち合う社会主義、越僑】
- 6回 国民統合の取り組み(4)フィリピン【カトリシズム、モロ民族解放戦線】
- 7回 国民統合の取り組み(5)タイ【王権、宗教】
- 8回 国民統合の取り組み(6)マレーシアとシンガポール【民族の政治、二言語政策】
- 9回 越境者の対応・戦略(1): 国家の保護をめぐる華人移民の対応比較【アメリカ、マラヤ】
- 10回 越境者の対応・戦略(2): 「プラナカン」という人びと【混血、土着性】
- 11回 国籍について【重国籍、市民権】
- 12回 日本のナショナリズム論【植民地、戦争、ナショナリズム】
- 13回 多民族社会の営みを見る(1)【多民族社会、映像資料】
- 14回 多民族社会の営みを見る(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 30 % 課題 ... 20 % 期末試験 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

小テストを3回ないし4回実施する予定です。細かい事項の暗記ではなく、一つの出来ごとの大まかな流れとその意義を、説明できるように復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本外交論 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ペリー来航 (1853) から55年体制の成立 (1955) までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○岡義武『山県有朋』(岩波新書)、○岡義武『近衛文麿』(岩波新書)、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外交政策研究 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「日本外交論」「日本政治史」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10%、課題...10%、期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。1年生科目の「歴史と政治」を受講している方がわかりやすい。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策実務特講 【昼】

担当者名 /Instructor 古田 稔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

21世紀は市民、コミュニティ、ガバナンス (Governance) がキーワードです。社会に必要なサービスや雇用の場を自ら作り出すコミュニティビジネスや社会起業家、NPOの人々が活躍する社会について学びます。同時に、一人ひとりの市民が、社会を変革するベンチャーキャピタリストとして、具体的にどんな社会性のある事業ができるのか、コミュニティビジネスの先進国である英国、アメリカ合衆国、また発展途上国の事例や、地元福岡県の実例を紹介し学びます。
講義全体のキーワードは、市民、コミュニティビジネス、社会起業家、NPOです。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：[市民の自立]とNPO法施行から現在まで
- 2回：[市民の自立]とNPO 福岡県、北九州市、福岡市の場合
- 3回：[NPOと政府、企業]との[協働] 福岡県、北九州市の事例
- 4回：指定管理者制度
- 5回：[ミッション]からの起業
- 6回：[コミュニティ]からの起業
- 7回：[社会事業]と[コミュニティの再生]
- 8回：[社会起業家の社会的使命]と経営戦略
- 9回：[社会起業家のリーダーシップ]と組織運営の実際
- 10回：[社会起業のマネジメント(資金、計画、評価)]の実際
- 11回：[社会起業の事業プラン]の作成
- 12回：コンプライアンス(Compliance) / 内部統制
- 13回：[社会起業家(Social Entrepreneur)]ゲストティーチャー(社会起業家)による講義
- 14回：[社会起業家(Social Entrepreneur)]ゲストティーチャー(社会起業家)による講義
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...40% レポート...40% 出席...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国内外における最近の社会福祉、社会サービスの動向を新聞、雑誌などで読み込んでください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人類学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

いきなりだけど、今までに「自己」と「他者」の謎について考えてみたことはあるだろうか。自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感することができたり、相手のということが理解できたりするのはなぜだろう。「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日を生きられるのは、とても不思議だ。人類学では、理解できるはずのない他人に果敢にもフィールドワークという手法をつかって近づいていく。ちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうすれば他人を知ることは自分を知ることであるという異文化理解のもっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。
ビデオ・スライドをみながら異文化をイメージする

教科書 /Textbooks

「フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門」菅原 和孝(編集)
『うぬぼれる脳-「鏡のなかの顔」と自己意識』ジュリアン・ポール キーナン(著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 文化とはなにか
- 第2講 近代とはなにか
- 第3講 共感とはなにか
- 第4講 他者とはなにか
- 第5-6講 交換とはなにか
- 第7講 社会とはなにか
- 第8講 政治とはなにか
- 第9-10講 信じるとはなにか
- 第11-12講 自然とはなにか
- 第13-15講 わかるとはなにか

成績評価の方法 /Assessment Method

自己と他者について考察する準備が整うこと	...	30%
異文化を相対的に考えられること	...	30%
人類学的な実践に興味を持ちなにかをはじめること	...	40%
試験は6講目あたりでおこなう		

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

勉強したい人だけ受講すること。
自分で考えるために、本を読んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉原論I【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks

特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉の概念【目的概念】【実体概念】【ウェルビーイング】
- 2回 生活問題とソーシャルワーク【人間の基本的欲求】【個人と環境との不適合】【社会関係の主体的側面】
- 3回 社会福祉の制度・政策と実践・技術【ソーシャルウエルフェア】【ソーシャルワーク】
- 4回 社会政策と社会福祉【社会問題】【貧困問題】【生活問題】
- 5回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
- 6回 社会福祉の思想の独自性と重要性【ロールズの正義論】【センの潜在能力理論】
- 7回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
- 8回 社会福祉の歴史(イギリス)【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
- 9回 社会福祉の歴史(日本 - 戦前から高度経済成長まで)【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】
- 10回 社会福祉の歴史(日本 - 福祉元年以降)【福祉見直し論】【日本型福祉社会論】
- 11回 福祉改革と日本の動向【社会福祉基礎構造改革】【規制緩和】【格差社会】
- 12回 福祉政策の主体と手法【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉社会】【福祉レジーム】
- 13回 現代社会の変化と福祉政策【ワーキングプア】【社会的排除】【社会的包摂】
- 14回 福祉政策の関連領域【所得政策】【教育政策】【保健医療政策】【住宅政策】【雇用政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布したレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。前回の授業の復習のためにテスト用紙を配布、回答を求めるので、参照のために毎回ファイルを持参のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉原論II 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の主要な論点と課題①【効率性と公平性、必要と資源】
- 2回 福祉政策の主要な論点と課題②【普遍主義と選別主義】
- 3回 福祉政策の主要な論点と課題③【自立と依存、参加とエンパワーメント】
- 4回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割①
- 5回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割②
- 6回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割③
- 7回 福祉政策の手法と政策決定過程および政策評価
- 8回 福祉供給部門と福祉供給過程①【公私関係、非営利協働】
- 9回 福祉供給部門と福祉供給過程②【再分配、行財政、計画】
- 10回 福祉利用過程【スティグマ、情報の非対称性】
- 11回 福祉政策と教育政策【資格教育】
- 12回 福祉政策と住宅政策【貧困対策、障害・介護と住宅改修】
- 13回 福祉政策と労働政策【貧困対策、障害・高齢者と就労】
- 14回 福祉供給の政策過程と実施過程【供給システムの多元化】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布する講義レジュメ・資料、参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童福祉論I【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

今日の児童福祉問題と子どもを取り巻く社会環境について理解する。子どもとは何か、子どもの特性や子どもを理解する視点を踏まえ、子どものニーズに対応する社会システムについて考察する。
児童福祉の理念としての子どもの権利条約について学ぶ

教科書 /Textbooks

- 『子どもたちは今』北九州版・子どもの人権レポート編集委員会
- 社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 児童福祉とは、子どものニーズと社会システム【マズローのヒューマンニーズの階層】
- 2回 子どもの成長・発達【アタッチメント】【マザーリング】【ソーシャルスキル】
- 3回 子どもの歴史と児童福祉の理念【子ども理解の視点】
- 4回 子どもの権利条約【能動的権利】【受動的権利】【子どもの意見表明権】
- 5回 子どもの権利条約【子どもオンブズパーソン】【地方自治体子どもの権利条例】
- 6回 子どもの権利条約と児童福祉への影響【エンゼルプラン】【次世代育成事業】
- 7回～8回 児童虐待防止と児童相談所【児童虐待防止法】
- 9回～10回 児童虐待とマルトリートメント【親権】【パターナリズム】
- 11回～15回 我国の子どもの権利をめぐる状況と課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布するレジユメを閉じる専用ファイルを準備すること。
社会福祉士関連科目「児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度」と合わせて学習すると総合的理解が得られる。
单元ごとに配布する復習のプリントで自己学習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童福祉論II 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

今日、児童と家庭の支援に関する法律・制度が著しく変化している。児童福祉施策では、子どもの福祉を支える家庭や親への支援などの重要性が認識され、社会福祉士養成のための教育課程においても、それらが強調された。本講義では、現代社会における児童家庭福祉問題に対応する児童家庭福祉に関する法制度、サービスについて理解する。また、児童福祉実施機関、児童福祉施設などの種類、目的、機能などは、視聴覚機材などを用いて、その実際が理解しやすいようにしたい。

教科書 /Textbooks

○社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 児童家庭福祉を支える法制度【児童福祉法】【母子及び寡婦福祉法】
- 第2回 児童家庭福祉にかかわる組織・団体、児童福祉施設の種類と専門職【児童委員】
- 第3回 児童相談所の役割と他機関との連携【児童福祉司】【一時保護】【児童虐待】
- 第4回 児童健全育成と児童厚生施設【児童遊園】【児童館】
- 第5回 母子保健【リプロダクティブ・ヘルス・ライツ】【性的自立】【母体保護法】
- 第6回 障害児の福祉【重症心身障害児】
- 第7回 保育所と幼稚園【幼保二元化】【認定子ども園】
- 第8回 夜間保育所・認可外保育所・学童保育【多様な保育ニーズ】【待機児童】
- 第9回 乳児院と児童養護施設【要養護児童】【児童家庭支援センター】
- 第10回 グループホーム、里親ケア【養育里親】【専門里親】
- 第11回 児童自立支援施設と少年非行【自立援助ホーム】【少年法】
- 第12回 ひとり親家庭と母子生活支援施設【母子指導員】【母子自立支援員】
- 第13回 DV防止法【ドメスティック・バイオレンス】【配偶者暴力相談支援センター】
- 第14回 婦人保護施設・売春防止法【婦人相談員】【要保護女子】【性暴力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業において配布するプリントなどを整理するファイルを準備しておくこと。児童福祉論と合わせて受講すればわかりやすい。单元ごとに配布する復習のプリントで自己学習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本政治史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』（南窓社）、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』（ミネルヴァ書房）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 (ペア) 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期 (ペア) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
1980年代後半以降、いわゆる「ニュー・カマーズ」とよばれる外国人労働者の流入が顕著になってきた。さらに、近年、その定住化の進展とともに、日本人(社会)と彼ら/彼女ら(の社会)との共生関係の構築が課題となってきている。こうした課題について考える基礎知識を提供する。
授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察を加えたい。なお、民族関係論の基礎知識とともに、グローバルな現象をローカルな場(地域)において実証的に把握していく方法についても習得してもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの紹介【グローバル化】、【エスニシティ】
- 2回 グローバル化の進展【国際労働力移動】
- 3回 出入国管理について【外国人登録】、【出入国管理】
- 4～5回 エスニシティに関する理論【道具主義】、【原初主義】、【分断労働市場】、【オリエンタリズム】
- 6～7回 日本の近代化と在日韓国・朝鮮人 - 歴史的把握【韓国併合】【植民地政策】
- 8～9回 在日韓国・朝鮮人と教育・職業【教育達成】、【社会移動】
- 10～11回 在日韓国・朝鮮人と日本の地域社会【生活構造】【生活史】
- 12～13回 日系ブラジル人と日本社会【顔の見えない定住化】、【非正規雇用】
- 14～15回 国家、自治体、NGOの役割【自治体の国際化施策】、【協働と対抗的相補性】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期 (へ 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論・ミクロ経済学を使用して、企業や企業間行動、企業に対する政府の行動等を分析・説明を行う。2つの演習を行う。1つは、道具の操作性を高める演習。もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Luis Cabral. Introduction to Industrial Organization. Cambridge, MA: MIT Press. 2000.
梶井厚志『戦略的思考の技術 - ゲーム理論を实践する - 』(中公新書、2002年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前期：非協力ゲームとその応用
後期：市場構造分析など

【産業組織論IとIIを参考にしてください。】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

1学期では、第二次世界大戦後から1970年代までの日本経済の発展の歴史を学ぶ。また、その学習を通して、今日の日本経済がどのように形作られ、どのような特徴を持つに至ったのかを説明する。2学期では、現代の日本経済が抱える問題点について平易に解説していく。日本経済と日本企業が直面しているシステム転換の実相を明らかにしていく。

教科書 /Textbooks

橋本寿朗他著『現代日本経済 新版』有斐閣、2006年アルマ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 現代日本経済をみる眼と戦後改革	2回 経済復興
3回 高度成長のメカニズムについての概説	4回 産業政策の効果
5回 メインバンク・システム	6回 安定株主化
7回 建造高世界一の造船業	8回 輸出世界一の鉄鋼業
9回 「民族大移動」と大量消費社会の出現	10回 エネルギー革命
11回 石油危機と経済構造の転換についての概説	12回 赤字国債
13回 下請制	14回 生産台数世界一の自動車産業
15回 まとめ	
16回 インタロダクション	
17回 日本経済のトレンド(1)【安定成長】【バブル経済】【中国市場】	
18回 日本経済のトレンド(2)【グローバル化】【企業統治】【IT革命】	
19回 日本企業の国際競争力【東アジア市場】【電機産業】【自動車産業】	
20回 日本企業のアジア展開【アジア間ネットワーク】【対外開放】	
21回 流通革命と情報化のインパクト【IT革命】【サプライチェーン】【大規模小売店】	
22回 1~5回の復習とまとめ	
23回 トヨタイズムと地域経済【ジャストインタイム】【自動車クラスター】	
24回 不良債権問題【債権大国】【バブル経済の崩壊と再生】	
25回 規制緩和と企業制度改革【日本型企业システム】【構造改革】	
26回 日本企業の組織改革【フラット化】【ICT】	
27回 6~10の復習とまとめ	
28回 企業の新規事業展開(各論)【イノベーション】【クラスター】	
29回 日本経済のシステム転換【新日本型ハイブリッド】【分権化】	
30回 全体のまとめと復習	

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10~20%、期末試験...80~90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

1学期では、第二次世界大戦後から1970年代までの日本経済の発展の歴史を学ぶ。また、その学習を通して、今日の日本経済がどのように形作られ、どのような特徴を持つに至ったのかを説明する。2学期では、現代の日本経済が抱える問題点について平易に解説していく。日本経済と日本企業が直面しているシステム転換の実相を明らかにしていく。

教科書 /Textbooks

橋本寿朗他著『現代日本経済 新版』有斐閣、2006年アルマ。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	現代日本経済をみる眼と戦後改革	2回	経済復興
3回	高度成長のメカニズムについての概説	4回	産業政策の効果
5回	メインバンク・システム	6回	安定株主化
7回	建造高世界一の造船業	8回	輸出世界一の鉄鋼業
9回	「民族大移動」と大量消費社会の出現	10回	エネルギー革命
11回	石油危機と経済構造の転換についての概説	12回	赤字国債
13回	下請制	14回	生産台数世界一の自動車産業
15回	まとめ		
16回	イントロダクション		
17回	日本経済のトレンド(1)【安定成長】【バブル経済】【中国市場】		
18回	日本経済のトレンド(2)【グローバル化】【企業統治】【IT革命】		
19回	日本企業の国際競争力【東アジア市場】【電機産業】【自動車産業】		
20回	日本企業のアジア展開【アジア間ネットワーク】【対外開放】		
21回	流通革命と情報化のインパクト【IT革命】【サプライチェーン】【大規模小売店】		
22回	1~5回の復習とまとめ		
23回	トヨタイズムと地域経済【ジャストインタイム】【自動車クラスター】		
24回	不良債権問題【債権大国】【バブル経済の崩壊と再生】		
25回	規制緩和と企業制度改革【日本型企业システム】【構造改革】		
26回	日本企業の組織改革【フラット化】【ICT】		
27回	6~10の復習とまとめ		
28回	企業の新規事業展開(各論)【イノベーション】【クラスター】		
29回	日本経済のシステム転換【新日本型ハイブリッド】【分権化】		
30回	全体のまとめと復習		

成績評価の方法 /Assessment Method

課題...10~20%、期末試験...80~90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業形態論I【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位 / 2単位
学期 /Semester 1学期 / 1学期
授業形態 /Class Format 講義 / 講義
クラス /Class クラス 2年 / 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

平成17年に会社法が誕生した。企業の性格が法律的形態と経済的形態の二つの側面をもつとするなら、この大改正はいやでも無視できまい。すなわち、これまでの合名会社・合資会社・株式会社・有限会社という企業形態は、株式会社と持分会社に区分された。そして株式会社が公開会社と非公開会社に区分され、持分会社として新たに合同会社が新設された。これにともなって有限会社が廃止された。また環境変化に機動的に対応するという理念のもとに会社機関の柔軟な設計が主張されている。さらに伝統的な資金調達に関する規整もファイナンス型会社法と呼ぶにふさわしい柔軟性を備えている。この講義では、会社法改正に即して、これまでの伝統的な企業形態との相違点を中心に展開していく。

教科書 /Textbooks

小松章『企業形態論～第3版～』新世社。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

佐久間信夫編『よくわかる企業論』ミネルヴァ書房(2006年)・ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書・(2006年)・細川孝・桜井徹編『転換期の株式会社』ミネルヴァ書房(2009年)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業形態～私企業・公企業・公私混合企業の分類。【企業形態】
- 2回 公企業と公私混合企業～公企業の成熟・衰退および民営化。【民営化】
- 3回 私企業～私企業の分類。営利企業と非営利企業。【私企業】
- 4回 私企業(営利企業)の分類～法人企業と非法人企業。【法人】
- 5回 法人と自然人～法人・組合。組合的規律。【法人】【組合】
- 6回 会社～会社法上の会社。会社法上の会社の種類。【会社】【会社法】
- 7回 いわゆる人的会社と物的会社。人的資本会社。【人的会社】【物的会社】
- 8回 株式会社～公開株式会社と非公開株式会社。【公開】
- 9回 公開(上場)・非公開(非上場)と会社法上の公開会社。【公開会社】
- 10回 会社機関～株主総会・取締役会・監査役会。【会社機関】
- 11回 取締役会～取締役会と代表取締役。【意思決定と執行】
- 12回 経営者と株主～会社は誰のものか?【経営者支配】
- 13回 機関投資家とガバナンス 【機関投資家】
- 14回 企業再編 【M & A】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...20%と小テスト...10%。レポートの結果は、採点して公表する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、テキストを必ず用意すること。②、レジユメだけにしがみつかない。③、法学部開講の会社法や証券市場法(金融商品取引法)にも積極的に参加してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業形態論II 【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

平成17年に会社法が誕生した。企業の性格が法律的形態と経済的形態の二つの側面をもつとするなら、この大改正はいやでも無視できまい。すなわち、これまでの合名会社・合資会社・株式会社・有限会社という企業形態は、株式会社と持分会社に区分された。そして株式会社が公開会社と非公開会社に区分され、持分会社として新たに合同会社が新設された。これにともなって有限会社が廃止された。また環境変化に機動的に対応するという理念のもとに会社機関の柔軟な設計が主張されている。さらに伝統的な資金調達に関する規整もファイナンス型会社法と呼ぶにふさわしい柔軟性を備えている。

これらの性格をふまえたうえで、企業形態論IIでは、次のような諸点について展開していく。

- ①、会社機関～制度設計の柔軟化、②、新しい会社制度の検討～合同会社、③、企業再編～三角合併、④、敵対的企業買収とコーポレートガバナンス～ことに独立委員会の役割。
レジュメを中心に実施するが、参考文献にも注目してもらいたい。

教科書 /Textbooks

小松章『企業形態論～3版～』新世社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会社法の誕生 【会社法】
- 2回 会社機関 【公開会社】【非公開会社】
- 3回 コーポレートガバナンスと会社機関 【意思決定と執行】【委員会設置会社】
- 4回 持分会社 【合同会社】
- 5回 株式会社と合同会社 【所有と経営】【課税】
- 6回 企業再編1 【株式交換・株式移転】
- 7回 企業再編2 【会社分轄制度】
- 8回 企業再編3 【対価の多様化と柔軟化】
- 9回 企業再編4 【三角合併】
- 10回 敵対的企業買収とコーポレートガバナンス 【米国における企業合同運動】
- 11回 敵対的企業買収合戦の均衡点 【米国における基準の形成】
- 12回 敵対的企業買収合戦 【日本の事例】
- 13回 独立委員会 【日本の独立委員会】【米国の独立委員会】
- 14回 社会的資本としての公開株式会社 【社会的資本】【会社は誰の者か】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...20%と小テスト...10%。レポートの結果は、採点して公表する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、講義に対する関心、②、レジュメだけにしがみつかない。③、法学部開講の会社法や証券市場法(金融商品取引法)にも積極的に参加してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共経済学【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この講義の目的は、公的部門(政府、地方自治体、公的企業)の経済活動について理解し、また1、2年次に学習したミクロ経済学、マクロ経済学を利用して、公共部門の経済活動について分析することです。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏『基礎コース 公共経済学』新成社(1998)。
井堀利宏『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社(2005)。
マンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』(第2版)東洋経済新報社(2005)。
スティグリッツ『公共経済学』(上・下)(第2版)(2003)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2～4回 経済学の復習【トレードオフ】、【インセンティブ】、【余剰分析】
- 5～6回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 7～9回 市場と厚生、市場の失敗【均衡】、【不均衡】
- 10～11回 公共財の理論【排除可能性】、【競合性】
- 12～13回 費用便益分析【現在価値】、【割引率】
- 14～15回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 16～17回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 18～19回 政府の失敗、投票行動の経済分析【公共選択論】、【投票のパラドックス】、【選挙】
- 20～21回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 22～23回 政党の経済分析【政党間競争】、【連立政権】
- 24～25回 財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
- 26～27回 社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
- 28～29回 所得格差、不平等の経済分析【ジニ係数】、【再分配】
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% 課題...20% 期末試験...80%
遅刻、講義中の私語、携帯電話の使用などは減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。
ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論 【昼】

担当者名 /Instructor 水戸 康夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

現在の日本で、国際貿易と関係なしに暮らすことはできない。コメ、パン、おみそ汁、牛乳、卵、ベーコン、豆腐等を食べている人は多いと思う。コメを生産するのにトラクター等を使うが、当然輸入原油が関係している。パンの原料の多くは輸入小麦であり、味噌や豆腐の原料の多くは輸入大豆である。牛乳、卵、ベーコンのためには、牛や豚や鶏の飼育が必要であり、そのために輸入トウモロコシ等からなる配合飼料が使われている。つまり、朝食を食べる時でも、貿易と関係している。

このような状況にありながら、保護貿易的な考えを持つ政治家や官僚などが存在する。なぜ、保護貿易が間違いであるのか、また、なぜ誤った考え方である保護貿易的な考え方を持つ人がなくなるのかを示し、自由貿易を推進すべき理由を示す。その際、小学校レベルの算数は使うが、それ以上のものは使用しないよう努力する。後半では、貿易と代替的な関係にある直接投資について講義する。講義全体のキーワードは、自由貿易と保護貿易である。

教科書 /Textbooks

水戸康夫『海外進出リスク分析』創成社、2009年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

竹森俊平『国際経済学〈プロGRESS経済学シリーズ〉』東洋経済新報社、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション	16回 直接投資に関するイントロダクション
2回 自由貿易への批判	17回 行動経済学を紹介
3回 自由貿易の必要性	18回 ゲーム理論紹介
4回 自由貿易の歴史	19回 ゲーム理論の解き方
5回 重商主義の問題点	20回 直接投資理論の紹介
6回 絶対優位	21回 チキンゲーム
7回 比較優位	22回 3状況提示
8回 比較優位成立の確認	23回 認識と選択
9回 貿易利益：計算を用いて	24回 ストライキリスクと地震リスク
10回 貿易利益：図を用いて	25回 ライバル参入リスク
11回 ヘクシャー＝オリーン理論	26回 「対日感情」と「親近感」
12回 リプチンスキー定理	27回 模倣リスク
13回 要素価格均等化定理	28回 低確率リスク：SARS反日感情
14回 ストルパー＝サムエルソン定理	29回 反日感情(中国での反日デモ)
15回 まとめ	30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期 (ベ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する平易な解説書やテキストを理解できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

奥田宏司ほか編(2009)『現代国際金融-構図と解明-』法律文化社(価格未定。4月に刊行予定)。
なお、このテキストは国際金融論IIのテキストとしても使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1・2回 国際収支
- 3・4回 外国為替と国際通貨
- 5・6回 為替相場と円高・円安
- 7・8回 戦後の国際通貨制度
- 9・10回 発展途上国の開発金融
- 11・12回 ドル体制の変遷
- 13・14回 現代の国際金融・資本市場と金融機関
- 15回 前期のまとめ
- 16・17回 欧州通貨統合と「ユーロ体制」
- 18・19回 資本取引の自由化とエマージング市場国の通貨危機
- 20・21回 東アジアの為替制度とドル、円、人民元
- 22・23回 アメリカ発の金融危機
- 24・25回 欧州への金融危機の波及
- 26・27回 危機の世界への波及と基軸通貨ドルのゆくえ
- 28・29回 DVD学習(国際通貨危機に関する事例についてのNHKスペシャルなど)
- 30回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況... 0 % 期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市財政【昼】

担当者名 /Instructor 李 友炯 / 北方キャンパス 非常勤講師, 大野 正久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

講義では、近年盛んに議論されている地方分権について、国と地方の財政関係に注目し、経済学的な観点から説明する。地方財政の現状と理論を学習し、地方財政に関する知識のみならず、理論的な考え方ができるようになることを目的とする。

教科書 /Textbooks

佐藤 主光『地方財政論入門』新世社(2009年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地方分権改革【地方分権】【三位一体の改革】 2回 地方財政の抱える課題【地域間格差】
- 3回 地方の果たす役割【国と地方の役割分担】
- 4回 地方財政と経済学【パレート効率性】【応益原則】
- 5回 財政の役割【公共財】【財政の3機能】 6回 機能配分論【資源配分】【所得再分配】
- 7回 地方分権化について【課税自主権】 8回 分権化定理【分権化定理】
- 9回 「規律づけ」としての競争【足による投票】 10回 地域間外部性【NIMBY】
- 11回 自治体規模の決定【混雑現象】 12回 地域経済の活性化【地域間競争】
- 13回 分権化と政府のアカウントビリティ【水平的競争】【垂直的競争】
- 14回 公共部門のガバナンス【外部性の内部化】【道州制】
- 15回 まとめ
- 16回 わが国の地方税【所得課税】【消費課税】【資産課税】
- 17回 望ましい地方税の条件【課税自主権】
- 18回 租税外部性の理論【租税競争】【租税輸出】【垂直的租税外部性】
- 19回 地方税にふさわしい税源は？【地方税】
- 20回 政府間財政移転のタイプと機能【政府間財政移転】
- 21回 財政移転の経済効果【所得効果】【フライペーパー効果】
- 22回 地域間財政力格差の是正【財政調整機能】【財政余剰】
- 23回 政府間補助金の政治経済学【レント・シーキング】【ソフトな予算制約】
- 24回 政府間財政移転制度【交付税】 25回 国庫補助負担金制度【国庫補助金】
- 26回 地方交付税制度の実際【交付税】 27回 地方債制度【地方債】
- 28回 効率化の視点【効率性】 29回 地方分権改革に向けて【地方分権】
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に予習することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

1学期は、立地論を軸として経済地理学の基礎理論を解説し、その応用例について、平易に紹介する。2学期は日本の産業配置と地域政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。講義全体のキーワードは、立地論、産業配置、地域政策である。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(Ⅰ)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(Ⅱ)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(Ⅲ)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(Ⅳ)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 7～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(Ⅴ)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 前半のまとめと復習
- 16回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 17回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 18回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 19回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 20回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 21回 16～20回の復習とまとめ
- 22回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 23回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 24回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 25回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 26回 22～25回の復習とまとめ
- 27回 産業立地と今後の地域構造・・・ランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 28回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 29回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代の地域構造】
- 30回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10～20% 期末試験 ... 80～90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：この科目を履修しながら地域経済、域政策を学習することができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科学教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科学教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導力の向上を図る。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領」 社会科学編 文部科学省

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育の目的と社会科学の役割
- 2回 地理的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 3回 世界と日本の様々な地域
- 4回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 5回 歴史のとらえ方と古代・中世・近世・近現代の日本と世界
- 6回 公民的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 7回 私たちと現代社会・政治・経済と国際社会の諸問題(グループ討議)
- 8回 学習指導要領の変遷と社会科学の歩み
- 9回 指導計画の作成と内容の取り扱い
- 10回 資料活用と作業的・体験的な学習
- 11回 指導案の作成と留意点
- 12回 政治及び宗教に関する事項の取り扱い
- 13回 戦前・戦後の社会科学教育 [戦前・戦後教育改革]
- 14回 学習指導要領の総則・学習基本法施行規則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 学習指導案 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメと資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科学教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科学教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導力の向上を図る。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領」 社会科学編 文部科学省

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育の目的と社会科学の役割
- 2回 地理的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 3回 世界と日本の様々な地域
- 4回 歴史的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 5回 歴史のとらえ方と古代・中世・近世・近現代の日本と世界
- 6回 公民的分野の目標と内容とその取り扱い [学習指導要領]
- 7回 私たちと現代社会・政治・経済と国際社会の諸問題(グループ討議)
- 8回 学習指導要領の変遷と社会科学の歩み
- 9回 指導計画の作成と内容の取り扱い
- 10回 資料活用と作業的・体験的な学習
- 11回 指導案の作成と留意点
- 12回 政治及び宗教に関する事項の取り扱い
- 13回 戦前・戦後の社会科学教育 [戦前・戦後教育改革]
- 14回 学習指導要領の総則・学習基本法施行規則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 学習指導案 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジュメと資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法B 【昼】

担当者名 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導力の向上をはかる。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領」 社会科編 文部科学省

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これからの学校教育に求められるもの [教師の使命感]
- 2回 教師に求められる資質能力 (グループ討議) [自己分析] [目指す教師像]
- 3回 学校の教育課程
- 4回 学習指導の評価
- 5回 生徒の実態把握と教材研究 (グループ討議) [生徒の特性・生徒との信頼関係]
- 6回 指導案の作成と問題点 その1
- 7回 指導案の作成と問題点 その2
- 8回 地理的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 9回 歴史的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 10回 公民的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 11回 高等学校学習指導要領「地歴科」の内容と取り扱い
- 12回 高等学校学習指導要領「公民科」の内容と取り扱い
- 13回 教育基本法・学校教育法改正案の要旨
- 14回 学習基本法施行規則・地方教育行政法改正案要旨
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 授業中の質疑 ... 30%
応答での絶対
評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジユメや資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法B 【昼】

担当者名 坂口 一隆 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会科教師を志向する学生に求められる基礎的・基本的な知識や技能の習得をねらいとする。指導過程を通して教職に対する認識の深化と、教師としての使命感を養い、もって指導力の向上をはかる。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領」 社会科編 文部科学省

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校・高等学校で使用した各分野の教科書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 これからの学校教育に求められるもの [教師の使命感]
- 2回 教師に求められる資質能力 (グループ討議) [自己分析] [目指す教師像]
- 3回 学校の教育課程
- 4回 学習指導の評価
- 5回 生徒の実態把握と教材研究 (グループ討議) [生徒の特性・生徒との信頼関係]
- 6回 指導案の作成と問題点 その1
- 7回 指導案の作成と問題点 その2
- 8回 地理的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 9回 歴史的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 10回 公民的分野の学習と内容の取り扱い [学習指導要領]
- 11回 高等学校学習指導要領「地歴科」の内容と取り扱い
- 12回 高等学校学習指導要領「公民科」の内容と取り扱い
- 13回 教育基本法・学校教育法改正案の要旨
- 14回 学習基本法施行規則・地方教育行政法改正案要旨
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 ... 30% レポート ... 40% 授業中の質疑 ... 30%
応答での絶対評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布するレジユメや資料を読んでくること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地理歴史科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

本講義では、地理歴史科教育における知識および技能の習得をねらいとする。まず、地理歴史科教育の特徴および課題、さらには授業での工夫や注意事項に関する講義を行なう。それらの内容を踏まえ、学生たちによる模擬授業を行なう。

教科書 /Textbooks

『高等学校 学習指導要領解説：地理歴史』、『中学校 学習指導要領解説：社会』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『地理歴史科教育法』学術図書出版社、2000年。
社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書、2003年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理歴史科とは何か。【社会科】、【戦後教育改革】
- 2回 地歴科の課題と授業のアポリア。【学習指導要領】
- 3回 歴史教育の意義、模擬授業。【ナショナル・ヒストリー】、【歴史教科書問題】
- 4回 時代区分 / 地域区分の可能性と限界、模擬授業。【国家】、【民族】、【文化】
- 5回 なぜ世界史は必修なのか、模擬授業。【比較史】
- 6回 日本史を学ぶことの意味、模擬授業。
- 7回 近代とは何か、模擬授業。【発展史】、【植民地近代】
- 8回 比較史という方法。【比較史】
- 9回 授業づくりについて【授業づくり】
- 10回 現代史という歴史、模擬授業。【戦後史】
- 11回 地理を通して何を学ぶのか、模擬授業。
- 12回 地球の中の日本、模擬授業。
- 13回 結びつく世界、模擬授業。【交通・通信】、【グローバル化】
- 14回 人文地理と自然地理、模擬授業。【人文地理】、【自然地理】
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 模擬授業... 40% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校時代に使用していた地歴科(「世界史」、「日本史」、「地理」)の教科書で、適宜、教育内容を確認することが望ましい。模擬授業については、自分の担当授業だけでなく、他の学生の授業に対する参加・評価のあり方も重要視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地理歴史科教育法B 【昼】

担当者名 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

本講義は、地理歴史科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。前半では、新学習指導要領を取り上げ、現在の地理歴史科教育の位置づけについて理解し、さらには教育方法論や授業理論について学習する。後半では、日本史、世界史、地誌、系統的地理などの事例を取り上げ、地理歴史科の教材開発につなげる。全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、上記の知識を習得した上で、受講者は模擬授業を行う。最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説：地理歴史編』、授業の際に配布するレジュメ・資料等

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『地理歴史科教育法』学術図書出版社、2000年
『中学校学習指導要領解説：社会編』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領における地理歴史科の位置づけ
- 第3回 デューイの教育方法論、模擬授業
- 第4回 社会科初志の会の授業理論、模擬授業
- 第5回 ブルーナーの教育方法論、模擬授業
- 第6回 社会科学的手法について、模擬授業
- 第7回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第9回 通史に焦点を当てた歴史、模擬授業
- 第10回 空間的関係に焦点を当てた歴史、模擬授業
- 第11回 領域に焦点を当てた歴史、模擬授業
- 第12回 地誌的方法による地理、模擬授業
- 第13回 系統的方法による地理、模擬授業
- 第14回 模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 30% 模擬授業... 30% 模擬授業の際に提出する学習指導案... 20%
授業への積極的参加・貢献度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

模擬授業はパワーポイントを使用して行うため、各自基本的なパソコン操作の技能を修得しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【昼】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喻・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喩・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒指導論【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5, 6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床教育学【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 1学期
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・実習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か	【教育実習】 【実習校】
2回 教育実習の1日	【教育実習の実態】
3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学)	【教科指導】 【学級経営】
4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校)	【教科指導】 【学級経営】
5回 子どもの問題状況と生徒指導	【生徒指導】 【子どもの理解】
6回 授業観察の方法	【観察記録】 【観察方法】
7回 学級経営について	【学習指導要領】 【チームサポート】
8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ	【体験学習】 【働きかけ】
9回 子どもの人権と教育 材研究】 【学習指導案】	【人権】 【自尊感情】 10回 教材研究と授業構想 【刻々の教
11回 模擬授業①(中学・高校別)	【授業構成】 【導入】
12回 模擬授業②(中学・高校別)	【指導技術】 【発問】
13回 模擬授業③(中学・高校別)	【指導技術】 【説明】
14回 模擬授業④(中学・高校別)	【指導技術】 【指示・助言】
15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備	【教師の資質】 【事前準備】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1回 ; オリエンテーション	【勤務】【連絡】
第 2回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】【中学生への支援】
第 3回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】【高校生への支援】
第 4回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習3 【昼】

担当者名 /Instructor
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実習 クラス 4年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 柴村 馨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。
それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育法規【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育法規に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育法規における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生徒指導と教育法規(1) 【校則】
 - 2回 生徒指導と教育法規(2) 【懲戒】
 - 3回 組織としての学校と教員(1) 【教職員の人事】
 - 4回 組織としての学校と教員(2) 【校務分掌】
 - 5回 教員の指導力をめぐって(1) 【指導力不足教員】
 - 6回 教員の指導力をめぐって(2) 【研修制度】
 - 7回 教育課程 【補助教材・著作権】
 - 8回 教育情報の取り扱い(1) 【個人情報】
 - 9回 教育情報の取り扱い(2) 【情報公開】
 - 10回 学校の保健・安全(1) 【学校の危機対策】
 - 11回 学校の保健・安全(2) 【学校事故】
 - 12回 地方教育行政と学校 【教育委員会と学校との関係】
 - 13回 保護者・地域と学校 【教育トラブル・クレーム】
 - 14回 保護者・地域の教育参加・連携 【学校評議員・学校運営協議会】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義だけでなく、グループ討論、模擬授業、実技等、参加型の授業を予定している。それぞれの回において積極的に臨めるよう、十分な準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が100人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の歴史と風土【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

日本人の生活の中心である衣食住の歴史を衣と食を中心に先史時代にさかのぼるとともに、日本文化の確立期である江戸時代を中心に見ていきます。また地域の食や暮らしの文化を研究している第一人者を外部講師としてお招きし、貴重なお話をお伺いします。

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○永原慶二『苧麻・絹・木綿の歴史』(吉川弘文館)○柳田國男『木綿以前の事』(岩波文庫)
○芳賀登編『全集日本の食文化』(雄山閣)石毛直道監修『講座食の文化2 日本の食事文化』(味の素食の文化センター)堀切辰一『布の記憶』(新科学出版社)田中優子『カムイ伝講義』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)
1回 ガイダンス
2回 江戸時代における衣食住の成立
3回 縄文時代と照葉樹林文化の食文化
4回 室町時代～江戸時代の食文化
5回 外部講師①布の歴史と【小倉織】(予定)
6回 史料に見る【小倉織】
7回 戦国時代の輸入【木綿】
8回 江戸時代の輸入【木綿】
9回 江戸時代のファッション 小袖と化粧
10回 外部講師②【襦袢】が語る庶民の暮らし(予定)
11回 【シュガーロード】の菓子文化①
12回 【シュガーロード】の菓子文化②
13回 【シュガーロード】の菓子文化③
14回 【シュガーロード】の菓子文化④
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を地域的観点から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目は、地理学の言語である地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用して、地表の状態を読み取る実習をおこなうことにより、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著「地理的情報の分析手法」古今書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
 - 2回 地図の役割。【地図の能力】
 - 3回 地図の歴史。
 - 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
 - 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
 - 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
 - 7回 山の地形を地形図から描くI(講義・実習)。【等高線】
 - 8回 山の地形を地形図から描くII(実習)。
 - 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
 - 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI(講義・実習)。
 - 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII(実習)。
 - 12回 【リモートセンシング】、空中写真の利用。
 - 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
 - 14回 リモートセンシング、空中写真の利用。
 - 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に提示する資料などを読んでおくことより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

私たちは、豊かで穏やかな自然の中にいる時には、自然を安息と感じ、荒れ狂う自然の中では、自然を猛威と感じる。しかし、穏やかな自然も、荒れ狂う自然も共に自然の規則正しい営みであり、私たちは、そのような自然の営みの中で生活している。しかしながら、このような認識は、当たり前のように、実感として理解するまでには至らないことが多い。この科目では、私たちの生活の場を地球規模で考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。授業時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島圭二著「自然災害を読む」岩波書店
- 安田喜憲著「気候が文明を変える」岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自然の猛威が私たちの住む場所を作っている。【自然の猛威】
- 2回 自然の猛威とはなにか。
- 3回 自然の猛威には、どのようなものがあるかI 発生地域による分類。
- 4回 自然の猛威には、どのようなものがあるかII 発生頻度による分類。
- 5回 自然の猛威が不適切な人間活動と結びついたとき【災害】となる。
- 6回 気象に由来する自然の猛威I。【早ばつ】【砂漠化】
- 7回 気象に由来する自然の猛威II。【豪雨】
- 8回 生物に由来する自然の猛威。【生物災害】【疫病】
- 9回 地殻変動に由来する自然の猛威。【地震】【火山噴火】
- 10回 火山噴火がもたらす気候変動と人間活動への影響。【気候変動】
- 11回 環境と文明I 環境の変動と文明の盛衰。
- 12回 環境と文明II 縄文時代の始まりと終焉に気候変動が関わっている。
- 13回 環境と文明III 弥生時代の始まりの時期は、大規模な気候変動期でもあった。
- 14回 自然の猛威とのつきあいかた【ハザードマップ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% 小レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に提示する資料、および授業内容に関連する新聞記事などを読んでおくことより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境と生態系【昼】

担当者名 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

人間の文化の多様性はどこから生まれてくるのだろうか。この授業では人類学と生態学の知識を援用しながら、多様な環境における人類の適応と社会システムについて考察を進める。

たとえばテーマの一つとして取り上げるのは人間の「食」である。人は食べ物を手に入れるためにどんな行動をおこなってきたのか、視覚や味覚に関する認知能力の進化、そして多様な食文化の基本にあるもの。味覚を攪乱させる現代社会の添加物や化学物質。食に興味がある人おいしいものが好きな人はどうぞ。

教科書 /Textbooks

「生態人類学を学ぶ人のために」世界思想社
「講座 生態人類学」京都大学出版会
「イブの7人の娘たち」ソニーマガジズ
「人はなにを食べて生きてきたか」スタジオジブリDVDライブラリー

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1講 テーマと分担決め

第2講～第13講

「食」「性」「死」「遊び」なんて感じで、おおよそ3回くらいで受講者の興味に応じて テーマを変えていく。それぞれのテーマについて以下の順で、研究の手法をまなびながら討論する。

- ・ データ収集の方法
- ・ 分析の手法
- ・ データをもとにした討論

第14講 総論

第15講 成績評価

成績評価の方法 /Assessment Method

発表とディスカッションをもとにした自己採点 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に決めたテーマに関して資料をあたりまとめてくる。
自分なりにイメージトレーニングし議論にすぐに参加できるように準備する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を表すキーワード

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【昼】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異を研究する学問であるが、本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与しているか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するのかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中藤康俊『人文地理学入門』古今書院、1985年。
富田和暁『地域と産業』大明堂、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋文学【夜】

基礎教育科目
 共通基礎教育科目
 教養教育科目
 人文科目

担当者名 /Instructor 杉本 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、シェイクスピアの劇作品を紹介する。シェイクスピアは語りつくされた、と思う人は、シェイクスピアを知らない人である。現在もなお、新説が次々に提唱され、シェイクスピア観は常に新しく変貌し続けている。
 近年はまた、新しい解釈にもとづく映画化がつつぎ、日本の若者世代にも広く認知されている。講義では、テキストと映像を通して作品に触れ、英国の文化、社会、宗教、制度、加えて、大陸文化との交流に関する認識を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

河合 祥一郎 編著『シェイクスピアは誘う』 小学館
 * 最初の授業はテキストを持参のうえ、聴講することを義務とする。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序
- 第2回 初期歴史劇 『リチャード三世』
- 第3回 初期喜劇 『じゃじゃ馬馴らし』
- 第4回 宮内大臣一座創立期 『ロミオとジュリエット』
- 第5回 宮内大臣一座創立期 『夏の夜の夢』
- 第6回 宮内大臣一座創立期 『ヴェニスの商人』
- 第7回 円熟喜劇 『十二夜』
- 第8回 四大悲劇 『ハムレット』
- 第9回 『ハムレット』
- 第10回 四大悲劇 『オセロオー』
- 第11回 四大悲劇 『リア王』
- 第12回 『リア王』
- 第13回 四大悲劇 『マクベス』
- 第14回 口マンズ劇 『テンベスト』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の出席状況、小テストと提出物、定期試験の成績で総合的に評価する。
 20 % 20 % 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* テキストの指定された箇所を毎回熟読してくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理学入門【夜】

基礎教育科目
共通基礎教育科目
教養教育科目
人文科目

担当者名 /Instructor 堺 正憲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では演繹的論証について考察しますが、先ず、命題論理学の基本的な事柄を学び、その後、述語論理学に話を広げます。講義全体のキーワードは、演繹的論証です。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

クワイン『論理学の方法』、ヒルベルト/アッケルマン『記号論理学の基礎』などの定評ある論理学教科書が図書館にそれぞれ数部ずつ用意してあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名辞
- 2回 命題
- 3回 論証
- 4回 演繹的論証の妥当性(1)
- 5回 演繹的論証の妥当性(2)
- 6回 真理値表(1)
- 7回 真理値表(2)
- 8回 論理式
- 9回 恒真式(トートロジー)
- 10回 真理分析と推論(1)
- 11回 真理分析と推論(2)
- 12回 論理回路
- 13回 命題関数
- 14回 量化
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には継続して出席し、復習をよくしておくことが大切です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

論理学の展開 【夜】

担当者名 /Instructor 堺 正憲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では帰納的論証について考察しますが、先ず、演繹的論証の特徴と帰納的論証の特徴の違いを理解して、その後、帰納的一般化の最も単純な種類、類推、因果関係に基づく推論、仮説、などについて考察します。講義全体のキーワードは、帰納的論証です。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

W.C.サモン著/山下正男訳『論理学 三訂版』(培風館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論証
- 2回 演繹的論証の特徴と帰納的論証の特徴
- 3回 帰納における正しさ
- 4回 枚挙による帰納
- 5回 不十分な統計
- 6回 かたよった統計
- 7回 統計的三段論法
- 8回 権威に基づく論証
- 9回 類推
- 10回 因果関係に基づく論証
- 11回 ミルの方法(1)
- 12回 ミルの方法(2)
- 13回 因果関係に関する虚偽と対照実験
- 14回 仮説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20% 課題...20% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には継続して出席し、復習をよくしておくことが大切です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学概論【夜】

基礎教育科目
共通基礎教育科目
教養教育科目
社会科目

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

もともと、経済を形成しているのは普通の人々の日常生活である。しかし今日、我々が経済について耳にする情報は、日々の生活感覚からは程遠いものとして聞こえてくる。そこで、両者を結び付ける役割を期待されているのが経済学の体系のはずなのであるが、実際にはかえって一般の人々の理解を遠ざけているというのが実状であろう。

本講義は、経済学専攻以外の学生を対象としたものであり、「経済学入門」ではない。理論体系の解説ではなく、社会における経済的領域と非経済的領域の境界線を散見することによって、日常感覚と経済現象との間のある種の断絶を埋める試みである。「市場社会」という用語をキーワードに、経済学的な社会観のようなものを示し、最終的には今日喧しい「マーケット」の問題について言及することになる。身近で当たり前と思われるような経済現象の中に、時々刻々と変動している国際経済の広がりを見出すことが目標である。

教科書 /Textbooks

テーマに応じて適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 経済学概論概説 (講義の概要)
- 2回～3回 市場社会とは【経済】【政治】【文化】
- 4回～6回 市場社会の基礎理論【分業】【富】【知識】
- 7回～8回 市場社会の形成【産業革命】【交換】
- 9回～10回 市場社会の転換【大恐慌】【フォーディズム】
- 11回～13回 市場社会の現在【IT革命】
- 14回 21世紀の市場社会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業が始まるまでに、「経済」についての関心を育てておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と宇宙観 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 良治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「星」、「宇宙」など、慣れた言葉への思い込みや誤解を解きほぐし、ものごとを考える判断基準系の批判的検証を通じて、自己と外界の相互関係について複眼的思考力の養成に資する一助とすること。(前半)宇宙観がどのように誕生、変化してきたか、また宇宙における人類の位置付けがどのように変化してきたかを概観する。(後半)日本や東アジアの宇宙観、宗教における宇宙観、言語・文学と宇宙観、音楽と宇宙観など宇宙と人間との多面的な関わり合いを考察する。

教科書 /Textbooks

講義プリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

村上陽一郎「宇宙像の変遷」(講談社, 学術文庫, 1996年)
 C.セーガン「コスモス(上, 下)」(朝日新聞社, 朝日文庫, 1984年)
 佐藤文隆「宇宙論への招待」(岩波新書, 1988年)
 荒川 紘「東西の宇宙観(上)東洋の宇宙観」(紀伊国屋書店, 2005年)
 荒川 紘「東西の宇宙観(下)西洋の宇宙観」(紀伊国屋書店, 2005年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回宇宙観の進化【宇と宙、コスモス、ユニバース、進化する宇宙】
- 第2回古代の宇宙観【神話的、哲学的宇宙観】
- 第3回地球中心モデル【プトレマイオス、円軌道、等速運動】
- 第4回中世の宇宙観【地球中心、有限、不変、存在の連鎖】
- 第5回近代の宇宙観1【太陽中心宇宙、楕円軌道】
- 第6回近代の宇宙観2【無限宇宙、万有引力、地上と天界の統一】
- 第7回現代の宇宙観1【天国と地獄としての太陽系、星の誕生と進化】
- 第8回現代の宇宙観2【ハッブルの法則、ビッグバン宇宙】
- 第9回現代の宇宙観3【インフレーション宇宙、宇宙の進化】
- 第10回日本の伝統的宇宙観【恐れと恵みの自然、花鳥風月、安藤昌益、三浦梅園、合理性】
- 第11回宗教的宇宙観【キリスト教、ヒンドウ教、仏教、儒教】
- 第12回言語・文学と宇宙観【宇と宙、世界】
- 第13回音楽と宇宙観【ピタゴラスと和音、自由七科、ケプラー、バッハ、ベートベン】
- 第14回時間と空間【時間意識の4つの形態、状態変化と時間、運動と空間】
- 第15回宇宙と人間【宇宙における生命、自然の階層構造、宇宙原理と人間原理】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回講義の要約または感想(20%)
 出席回数は3分の2以上を原則とする。
 前半レポート(40%)、後半レポート(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然と人間のエコロジー【夜】

担当者名 真鍋 徹 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

自然の仕組みを理解するための道具としての『生態学』の基礎知識を解説する。これを踏まえ、現在の主要な環境問題である「生物多様性」をめぐる諸問題や、ヒトとの関わり合いを通じて形成・維持されてきた「二次的自然」の意義等を紹介する。これらの講義をとおして、自然の特質や自然とヒトとの関係を自ら分析し判断できる素地を形成することを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用せず。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本生態学会(編)「生態学入門」東京化学同人、を推薦する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード)
- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 自然界の捉え方 【分類学】【生態学】【5界説】【環境】【適応】
 - 第3～6回 生態学の基礎1 【生活史】【個体群】【群集】【生態遷移】【生物間相互作用】【環境形成作用】【ニッチ】【攪乱】
 - 第7～10回 生態学の基礎2 【生態系】【生態ピラミッド】【物質循環】【食物網】【景観構成要素】【生態系機能】【生態系サービス】
 - 第11～13回 生物多様性を考える
【二次的自然】【外来種】【里地里山】【絶滅危惧種】【自然再生】
 - 第14回 生態学的にみた北九州の自然
【大陸系生物】【二次林】【二次草原】【溜池】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%
 (ノート・参考書持参可の試験を実施する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報処理基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、Windows PCを利用して授業を行います。初心者をも対象とした基礎的な授業です。本講義の目的は、コンピュータを道具として使いこなす訓練を行いつつ、自分自身の思考を的確に表現する能力を習得することです。
 講義全体のキーワードは、Word、インターネット、学内グループウェアです。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パソコンの基礎操作1【書式設定】、【印刷】、【保存】
- 2回 パソコンの基礎操作2【ヘルプ】、【ハンガアップ】
- 3回 文字入力【タッチタイピング】、【ホームポジション】
- 4回 情報倫理1【ネチケット】、【著作権】、【個人情報保護】
- 5回 情報倫理2【セキュリティ対策】、【SSL】
- 6回 パソコンの基礎知識1【ID】、【パスワード】
- 7回 パソコンの基礎知識2【拡張子】、【書式設定】
- 8回 文書作成1【ページ設定】、【印刷プレビュー】
- 9回 文書作成2【表の作成】
- 10回 文書作成3【図形処理】
- 11回 文書作成実習
- 12回 文書作成・まとめ
- 13回 インターネット利用【電子メール】、【ネチケット】
- 14回 インターネット演習【情報検索】、【WWW】、【URL】、【ドメイン名】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% (Wordの活用 ... 25%、インターネット演習 ... 25%)、積極的な授業参加 (タイピングや電子メール送受信、ネチケット理解を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の中で、学内グループウェアを利用しながら、その利用方法やネチケットに対する実践的な学習を行います。グループウェアの利用方法、特に、電子メールの利用方法について確認しておくこと、受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I (専門基礎教育) 【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

アメリカ法の入門的な文献を用いてアメリカの法制度の概要を理解する。

教科書 /Textbooks

Stanley V. Kinyon, Introduction to Law Study and Law Examinations (West)
 (アメリカのロー・スクールの新入生向けの文献です)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I (専門基礎教育) 【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

フランス民法 (なかでも、フランス債務法) に関する基礎的知識を、原著を講読することを通じて獲得することがこの授業の主たるねらいである。具体的には、フランス民法 (債務法) の体系書 (比較的読みやすいもの) を輪読する。わが国の民法との法制度比較を通じて、わが国の民法上の法制度の理解をいっそう深めることがこの授業における大きな目標である。

教科書 /Textbooks

※使用しない。輪読する文献についてはコピーを配布する。ただし、仏和辞書については、各自毎回持参すること (色々種類はあるが、特に指定しない。第二外国語の授業で使っていたもので充分である。)。

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山口俊夫『フランス債権法』(東京大学出版会、1986年)
- 山口俊夫 (編) 『フランス法辞典』(東京大学出版会、2002年)
- 山口俊夫『概説フランス法下』(東京大学出版会、2004年)
- レモン・ギリアン、ジャン・ヴァンサン編著 (Terme juridique 研究会 中村紘一ほか監訳) 『フランス法律用語辞典 第2版』(三省堂、2002年)
- 滝沢正『フランス法 第3版』(三省堂、2008年)
- 北村一郎 (編) 『フランス民法典の200年』(有斐閣、2006年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス : 授業の進め方の決定 (受講生からも要望を出してよい。)。
- ※受講生の民法 (財産法分野) についての関心、フランス語の習熟度についてアンケートをとる予定である。その結果を踏まえ、輪読する文献・箇所を当方で選定する。
- 第2回 フランス民法 (債務法) の基礎知識について講義。
- ※輪読する文献のコピーをこの回で配布する予定である。
- 第3回 ~ 第10回 (予定) 文献輪読。「訳せたところまで読む。」という方式で行う。
- 第11回 (予定) フランス民法判例の基礎知識について講義。
- ※以降のスケジュールは、受講生の習熟度によって変更される場合がある。
- 第12回 ~ 第14回 (予定) フランス民法判例の講読。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、文献邦訳能力の向上度など... 80%
- 定期試験 (フランス債務法分野のテキストの邦訳試験) ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

何よりも、フランス法 (民法) に関心を持ち、フランス語にも関心を持ち、邦訳作業を進めることが肝要である。フランス語の基本文法については各自学修を進めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II (専門基礎教育) 【夜】

担当者名 國武 英生 / 法律学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

イギリス労働法の最新基本文献を素材にして、比較法研究の作法等について基本から学ぶことを目的とする。この講義を通じて、日本法をより良く知り、また相対化するための視座を得ることを目指したい。
 文献の講読は、部分的な全文訳と章・節単位の概要に関する報告とを交互に行う。折にふれて、文献に登場した基本テーマについて、参加者に調査・報告を依頼して、議論する機会をもちたい。

教科書 /Textbooks

開講時に示す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者と相談して決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 40%、発言内容... 30%、出席... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

裁判学 【夜】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

多種多様なトラブルが持ち込まれる裁判(所)は、それらを事案として受け入れ、法的判断を下していく、まさに「法の現場」である、といえるでしょう。そしてその「現場」において - - いわゆる法的三段論法をはじめとする - - 法解釈学的「知」が発揮されるのであり、また、そうした「専門知」の行使を通じて(こそ)、紛争は「解決」へと導かれる、というストーリーは、法学的には疑いようのない/疑ってはいけない(?)「自明の理」なのかもしれません。しかし、そうした法的判断や「専門知」は、さまざまな形態を纏っている個々別々の紛争を、法特有の論理へと「加工」してゆく側面を避けがたく持っているのではないのでしょうか。そして時として、紛争の「総体」を切り縮めたり、紛争の「文脈」を削ぎ落とししたりする場面を生じさせるのではないのでしょうか。

本講義は、こうした問題関心にに基づき、まずは、紛争の多主体性・複雑性・連続性を視覚化することで、【紛争把握・解決の困難性】を提示したいと思います。その上で、本来的に把握・解決困難な紛争に対し、民事の裁判手続がもつ射程・限界・可能性について、法解釈学とは異なる視角から考えていこうと思います。その際中心に置かれるのは、【紛争当事者】の視点です。具体的には、実際に紛争を抱える素人当事者が、自身の力で、「法の現場」である裁判の中で、【紛争と向きあい折り合っていく可能性】を検討してみたいと思います。さらに、その場合に求められる「専門知」とはどのようなものかについても、法専門職論として、あわせて考えたいと思います。注記：本テーマは、受講者の人数や反応により変更する場合があります。お含み置きください。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。テーマごとにプリントを配布します(参考文献はその都度指示します)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (0) イントロダクション(紛争解決の困難性)
- (1) 当事者による自律的な紛争処理の可能性(権利観念の再構築)
- (2) 「専門知」の現代的位相(いま求められつつある法専門職のあり方とは?)
- (3) 当事者と専門家の「協働」(司法が市民に「開かれる」とは一体何を意味するのか?)

成績評価の方法 /Assessment Method

聴いた証しを提出してもらうペーパー(約30%)と全編論述式の期末試験(約70%)により、総合かつ厳格に評価します。詳しくは初回講義時に説明しますので、聴きのがさないようにして下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

いうまでもなく裁判は「紛争処理機関」のひとつです。よって、本講義は「紛争とは何か」をテーマのひとつに置きます。この点につき、「紛争処理論」と内容が重複する事にはご注意ください。また本講義は、各種資格試験対策をはじめとする即効性の暗記情報や耳より情報はもとより、そのためのノウハウを求める方にはまるで不向きです。登録にあたっては、この点特にご注意下さい。なお、講義理解と情報暗記はひとまず別モノとお考え下さい。その上でなお、聴く(聞くではありません)準備のある方を歓迎します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公法入門【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」を中心として判例を研究する。受講者が少人数になることが予想されるため、受講者の興味・関心を斟酌して、素材を決定する。受講者の人数によっては、受講者自身が判例報告をする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス - 公法判例の読み方
- 第2回 判例①
- 第3回 判例②
- 第4回 判例③
- 第5回 判例④
- 第6回 判例⑤
- 第7回 判例⑥
- 第8回 判例⑦
- 第9回 判例⑧
- 第10回 判例⑨
- 第11回 判例⑩
- 第12回 判例⑪
- 第13回 判例⑫
- 第14回 総括 - 講義を踏まえたうえで憲法状況に関して概説する
- 第15回 総括 - 講義を踏まえたうえで憲法状況について概説する

成績評価の方法 /Assessment Method

報告(あるいはレポート) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

独占禁止法II【夜】

担当者名 高場 俊光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

今日の我国経済は、高度寡占化、政府規制、違法なカルテル等により市場機能が十分発揮できない状況にあり、競争理念がますます重要視されてきている。戦後経済の歴史の中で、独占禁止法を中核とする経済法がどのような役割を果たしてきたかを振り返ることにより、今後の展望を得る。講義全体のキーワードとしては、競争導入による経済発展である。

教科書 /Textbooks

高場俊光『年表による経済法の学習』八幡孔版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 波光 巖他『テキスト 独占禁止法』(再訂二版)青林書院
- 公正取引委員会事務局『独占禁止法五十年史』公正取引協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ビデオ『マッカーサーとGHQ』
 - 2回 ビデオ『焼け跡と闇市』
 - 3回 1940年代の年表と補足 【財閥解体】【集中排除】【経済民主化】
 - 4回 “ 【復金インフレ】【傾斜生産方式】
 - 5回 “ 【ロイヤル演説】【ドッジライン】
 - 6回 1950年代の年表と補足 【講和条約】【所有と経営の分離】
 - 7回 “ 【勤告操短】【不況カルテル】【55年体制】
 - 8回 1960年代の年表と補足 【高度成長】【所得倍増】【開放経済体制】
 - 9回 1970年代の年表と補足 【列島改造】【オイルショック】【狂乱物価】【総合商社問 題】
 - 10回 1980年代の年表と補足 【プラザ合意】【前川リポート】【バブル】
 - 11回 1990年代の年表と補足 【ビッグバン】【金融危機】【持株会社】
 - 12回 2000年代の年表と補足 【中央省庁の再編】【IT戦略】【金融・産業の再生】
 - 13回 “
 - 14回 各年代の経済法の動向
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80%。平常の学習状況...20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独占禁止法は、経済の動きに対し一定の枠組みを与えるものであるから、どのような経済状態に対しどのように適用されるかを実践的に把握するとよく理解できる。この講義は、戦後経済の歴史の中で独占禁止法およびその他の経済法がどのように適用されてきたかを概観するものである。また、「独占禁止法I」の講義は理論面を詳しく取り上げるものであり、多くの事例を図解したテキストを使用するので、この科目も併せて履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係法序説【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

この講義は、国家、国際機構や個人によって織りなされる国際関係が、どのような法によって規律されているのかを体系的に理解してもらうことを目的とします。国際関係を規律する主要な法体系としての国際法に加え、個別事例や特定テーマをもとに、当該事案の一般的な理解のために必要とされる、国際機構法、関連国内法令にも言及し、学生に包括的な取り組みの重要性を訴えます。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際法入門』（有斐閣・2004）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○国連憲章（以下のサイト<http://www.unic.or.jp/know/kensyo.htm>にあります。各自、それを印刷し、毎回、授業のときに持って来てください。）
講義の理解に必要な参考資料は、適宜、配布します。参考文献は、初回講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「安全保障」

第2回 国連 激動の60年

第3回 新たなる脅威と安全保障

第4回 国連安全保障理事会の改革

第5回 中間試験①

第6回 解説と講評＆個別指導

第II部「人権・人道 難民」

第7回 世界の難民問題の現状

第8回 難民の定義と難民問題の恒久的解決

第9回 難民問題についての日本の対応

第10回 中間試験②

第11回 解説と講評＆個別指導

第III部「二極化された世界 環境・貿易・開発」

第12回 グローバリゼーションの光と影

第13回 地球温暖化 ポスト京都へ向けた動き

第14回 政府開発援助（ODA）のあり方

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験①②および学期末試験で評価します。

中間試験①...16.7% 中間試験②...16.7% 学期末試験...66.7%

なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

契約法 【夜】

担当者名 /Instructor 平山 也寸志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

債権発生原因は、契約、事務管理、不当利得、不法行為であるが、実際に債権発生原因として多いのは契約であるといわれる。民法は売買契約、賃貸借契約をはじめとする13種類の典型契約を規定している。これらに共通な原則を契約総則として第3編債権第2章契約第1節総則に規定をおいている。この契約総則と各契約類型の検討を本講義の対象とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大村敦志『基本民法II債権各論』(有斐閣)ほか。授業内で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 契約の社会的機能 契約自由の原則
- 3回 契約と信義誠実の原則 契約締結上の過失 事情変更の原則
- 4回 契約の種類(典型契約・非典型契約、双務契約・片務契約、有償契約・無償契約、要物契約・諾成契約)
- 5回 契約の成立
- 6回 契約の効力(1) 双務契約の特殊の効力(同時履行の抗弁権)
- 7回 契約の効力(2) 危険負担
- 8回 契約の解除 法定解除権の発生(履行遅滞の場合、履行不能、不完全履行の場合)
- 9回 解除の効果
- 10回 物の譲渡型契約(贈与、売買など)
- 11回 物の用益(賃貸借、使用貸借など)
- 12回 金銭消費貸借
- 13回 労務供給型契約(請負、委任)
- 14回 その他(消費者契約法など)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況30パーセント(授業内で小テストを行なうこともある) 期末試験70パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持ってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

私法入門【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

民法は、私人（市民）間のさまざまな法律関係（財産関係・家族関係）に適用される基本的ルールを定めるものです。わが国の民法典には、民法全体に共通するルールを扱う総則（第1編）を頂点に、物権（第2編）、債権（第3編）、親族（第4編）、相続（第5編）と、全部で5つの編が置かれています。本講義では、これらのうち、民法の通則である総則と物権総論を中心にお話しします。できる限り具体的な場面を挙げながら、法制度や概念について平易な解説を加えます。本講義を通じて、現代社会における民法の役割や位置づけを考えてみてください。

教科書 /Textbooks

- ①尾崎哲夫『ものすごわかりやすい民法の授業』自由国民社（2009年9月）1,900円
- ②石川明ほか（編集代表）『標準六法'10』信山社（2009年10月）1,280円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○山野目章夫『民法 総則・物権 第4版 有斐閣アルマ』有斐閣（2007年2月）1,800円※その他の参考文献については、講義の際に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード) ※レジュメを配布しますが、テキスト①・②は毎回持参してください。
- 第1回 民法入門【民法の指導原理】【権利義務】【権利濫用】(以下小野担当)
 - 第2回 権利の担い手としての資格①【人】【権能力】【行為能力】【未成年者】
 - 第3回 権利の担い手としての資格②【成年後見】【法人】
 - 第4回 権利の対象となる財産【物】【不動産】【動産】【債権】
 - 第5回 取引活動の自由と限界①【法律行為】【契約の成立と効力】【意思の不存在】
 - 第6回 取引活動の自由と限界②【詐欺】【強迫】【無効取消し】【代理】
 - 第7回 取引によらない権利の取得・消滅&第1回中間試験【取得時効】【消滅時効】
 - 第8回 物権法入門(物権とは何か?)【物権法定主義】【一物一権主義】(以下福本担当)
 - 第9回 物権変動論①【意思主義】【対抗要件】【不動産物権変動】
 - 第10回 物権変動論②【民法177条】【背信的悪意者】【動産物権変動】
 - 第11回 物権変動論③【即時取得】【公信力】
 - 第12回 所有権・占有権・用益物権【物権的請求権】【占有訴権】【地上権】【入会権】
 - 第13回 担保物権①【担保物権の通用性】【抵当権】【質権】【留置権】
 - 第14回 担保物権②&第2回中間試験【先取特権】【物上代位】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

第1回中間試験(45分)...10% 第2回中間試験(45分)...10% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習を心がけ、次回授業までにテキスト該当頁を通読してきてください。また、「民法総則」、「物権法」の講義を履修すると、本講義の内容を深く理解することができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本外交論【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ペリー来航 (1853) から55年体制の成立 (1955) までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○岡義武『山県有朋』(岩波新書)、○岡義武『近衛文麿』(岩波新書)、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉原論I【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks

特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉の概念【目的概念】【実体概念】【ウェルビーイング】
- 2回 生活問題とソーシャルワーク【人間の基本的欲求】【個人と環境との不適合】【社会関係の主体的側面】
- 3回 社会福祉の制度・政策と実践・技術【ソーシャルウエルフェア】【ソーシャルワーク】
- 4回 社会政策と社会福祉【社会問題】【貧困問題】【生活問題】
- 5回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
- 6回 社会福祉の思想の独自性と重要性【ロールズの正義論】【センの潜在能力理論】
- 7回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
- 8回 社会福祉の歴史(イギリス)【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
- 9回 社会福祉の歴史(日本 - 戦前から高度経済成長まで)【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】
- 10回 社会福祉の歴史(日本 - 福祉元年以降)【福祉見直し論】【日本型福祉社会論】
- 11回 福祉改革と日本の動向【社会福祉基礎構造改革】【規制緩和】【格差社会】
- 12回 福祉政策の主体と手法【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉社会】【福祉レジーム】
- 13回 現代社会の変化と福祉政策【ワーキングプア】【社会的排除】【社会的包摂】
- 14回 福祉政策の関連領域【所得政策】【教育政策】【保健医療政策】【住宅政策】【雇用政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布したレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。前回の授業の復習のためにテスト用紙を配布、回答を求めると、参照のために毎回ファイルを持参のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉原論II 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会編（2009）『4 現代社会と福祉-社会福祉原論』中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 福祉政策の概要①【目的概念、実体概念、L字型構造】
- 2 回 福祉政策の概要②【倫理要綱、専門職】
- 3 回 福祉政策における必要と資源【ニード、社会資源マップ】
- 4～5 回 福祉政策の主体と手法【福祉レジーム、NPM】
- 6～7 回 福祉政策の関連領域【所得政策、保健医療、住宅政策、教育、雇用】
- 8～9 回 社会福祉制度の体系【社会政策、社会福祉法、社会福祉基礎構造改革】
- 10 回 福祉サービスの供給【福祉多元主義、指定管理者制度】
- 11～12 回 福祉政策の国際比較
- 13 回 福祉サービスと援助活動【バイステック、ストレングス、エンパワメント】
- 14 回 福祉政策の課題と展望【ノーマライゼーション、インクルージョン】
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の小テスト ... 50% 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指定する参考文献の講読。
前回の授業の内容について授業開始時に小テストを行うので、復習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本政治史【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』（南窓社）、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』（ミネルヴァ書房）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学 【夜】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、景気循環や経済成長といった諸現象の解明をその主要な目的としている。この講義ではマクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1)【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2)【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3)【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4)【株式市場の機能】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5)【資産価格バブル】
- 7回 GDPとマクロ経済循環(1)【GDPの定義】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(2)【三面等価】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(3)【GDPの名目値と実質値】
- 10回 GDP決定理論(1)【財の総需要と総供給】
- 11回 GDP決定理論(2)【均衡GDPの決定】
- 12回 GDP決定理論(3)【乗数効果】
- 13回 GDP決定理論(4)【財政政策】
- 14回 GDP決定理論(5)【開放経済下の乗数効果】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済学入門A・Bの講義内容を十分に理解しておく、本講義の内容をより深く理解できるようになる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学 【夜】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1・2学期(ベ 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。

この講義の前半(1学期)では、日本経済の現状を紹介しつつ、マクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供する。後半(2学期)では、初歩的なマクロ経済理論を講義することで、マクロ経済現象の背後にあるメカニズムに対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

講義の前半では以下を教科書として指定する。

「経済のしくみと制度」 井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 多賀出版

講義の後半では教科書は指定しないが、主要な参考書として以下を挙げておく。

「現代経済学入門 マクロ経済学(第3版)」 吉川洋 岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(講義の前半)

- 1回 ガイダンス
- 2・3回 経済の大きさを測ってみよう (教科書の第1章)
- 4・5回 豊かさの指標を考えてみよう (教科書の第2章)
- 6・7回 金融のしくみをしろう (教科書の第3章)
- 8・9回 貨幣の奥深さに触れてみよう (教科書の第4章)
- 10・11回 税金の大切さを知ろう (教科書の第5章)
- 12・13回 政府の役割について考えてみよう (教科書の第6章)
- 14・15回 失業の意味を考えてみよう (教科書の第7章)

(講義の後半)

- 16回 ガイダンス
- 17～21回 金融市場の仕組み
- 22～24回 GDPとマクロ経済循環
- 25～29回 GDP決定理論
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 80 % 小テスト ... 20 % ... %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学 【夜】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。そして、1人でも多くの人々が日本の財政問題に対して関心を持つことをねらいとする。

教科書 /Textbooks

小塩 隆士「コア・テキスト 財政学」新世社 2005年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政(各年度版)」東洋経済新報社
「図説 日本の税制(各年度版)」財経詳報社
井堀 利宏「新経済学ライブラリー 財政学(第3版)」新世社 2006年
小塩 隆士「社会保障の経済学(第3版)」日本評論社 2005年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

1回 イントロダクション	16回 これまでのおさらい
2回 財政とは何か? (財政学の変遷)	17回 租税② (【課税】の経済理論)
3回 日本の財政制度① (【予算制度】)	18回 租税③ (課税の経済理論)
4回 日本の財政制度② (【財政投融资】)	19回 公債② (【公債】の経済理論)
5回 租税① (日本の【租税】制度)	20回 公共財① (【公共財】の最適供給)
6回 公債① (日本の【公債】事情)	21回 公共財② (【投票】)
7回 演習① (これまでの復習)	22回 【マクロ財政政策】①
8回 地方財政① (【地方財政】制度)	23回 マクロ財政政策②
9回 地方財政② (地方財政事情)	24回 演習③ (これまでの復習)
10回 日本の財政事情① (日本【財政史】)	25回 【所得再分配】
11回 日本の財政事情② (今の【財政事情】)	26回 【経済政策】理論
12回 財政事情の国際比較	27回 社会保障制度① (【社会保障】事情)
13回 財政収支① (【財政収支】とは?)	28回 社会保障制度② (社会保障の理論)
14回 財政収支② (【世代間の不公平】)	29回 最近の研究の動向について
15回 まとめ	30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% 中間試験... 25% レポート... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

財政に関するニュースはほぼ毎日、ニュースで取り上げられるので、財政に関心を持つようにニュースなどをしっかり見て欲しい。そして、「公共経済学」も併せて履修するのが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学 【夜】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 4単位
学期 /Semester 1・2学期 (ベ ア)
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を高める。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
・ J. E. スティグリッツ (戴下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1~2回 イントロダクション：経済学、ミクロ経済学の考え方、数学的手法
- 3~4回 相互依存と交易について (1) 【生産可能性フロンティア】
- 5~7回 相互依存と交易について (2) 【絶対優位】、【比較優位】
- 8~11回 市場における需要と供給 (1)：【市場】と【競争】、【需要、供給】
- 12~15回 市場均衡について：【価格】決定、【均衡】、需要・供給の弾力性
- 16回 【市場メカニズム】 (復習)、経済学と数学など
- 17~18回 需要、供給、および政府の施策
- 19~20回 市場と厚生：消費者、生産者、市場の【効率性】
- 21~22回 需給分析の応用：【余剰分析】
- 23~25回 市場と企業行動：利潤、【限界収入】、【限界費用】、【限界分析】
- 26~27回 様々な【市場構造】：【完全競争市場】、【不完全競争市場】
- 28~29回 ミクロ経済学の展開：【市場メカニズムの限界】「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学 【夜】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を高める。

教科書 /Textbooks

・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済(○)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社(○)
・ J. E. スティグリッツ(藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1~2回 イントロダクション：経済学、ミクロ経済学の考え方、数学的手法
3~4回 相互依存と交易について(1)【生産可能性フロンティア】
5~7回 相互依存と交易について(2)【絶対優位】、【比較優位】
8~11回 市場における需要と供給(1)：【市場】と【競争】、【需要、供給】
12~15回 市場均衡について：【価格】決定、【均衡】、需要・供給の弾力性
16回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
17~18回 需要、供給、および政府の施策
19~20回 市場と厚生：消費者、生産者、市場の【効率性】
21~22回 需給分析の応用：【余剰分析】
23~25回 市場と企業行動：利潤、【限界収入】、【限界費用】、【限界分析】
26~27回 様々な【市場構造】：【完全競争市場】、【不完全競争市場】
28~29回 ミクロ経済学の展開：【市場メカニズムの限界】「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業形態論I【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 1学期
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

平成17年に会社法が誕生した。企業の性格が法律的形態と経済的形態の二つの側面をもつとするなら、この大改正はいやでも無視できまい。すなわち、これまでの合名会社・合資会社・株式会社・有限会社という企業形態は、株式会社と持分会社に区分された。そして株式会社が公開会社と非公開会社に区分され、持分会社として新たに合同会社が新設された。これにともなって有限会社が廃止された。また環境変化に機動的に対応するという理念のもとに会社機関の柔軟な設計が主張されている。さらに伝統的な資金調達に関する規整もファイナンス型会社法と呼ぶにふさわしい柔軟性を備えている。この講義では、会社法改正に即して、これまでの伝統的な企業形態との相違点を中心に展開していく。

教科書 /Textbooks

小松章『企業形態論～第3版～』新世社。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

佐久間信夫編『よくわかる企業論』ミネルヴァ書房(2006年)・ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書・(2006年)・細川孝・桜井徹編『転換期の株式会社』ミネルヴァ書房(2009年)など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業形態～私企業・公企業・公私混合企業の分類。【企業形態】
- 2回 公企業と公私混合企業～公企業の成熟・衰退および民営化。【民営化】
- 3回 私企業～私企業の分類。営利企業と非営利企業。【私企業】
- 4回 私企業(営利企業)の分類～法人企業と非法人企業。【法人】
- 5回 法人と自然人～法人・組合。組合的規律。【法人】【組合】
- 6回 会社～会社法上の会社。会社法上の会社の種類。【会社】【会社法】
- 7回 いわゆる人的会社と物的会社。人的資本会社。【人的会社】【物的会社】
- 8回 株式会社～公開株式会社と非公開株式会社。【公開】
- 9回 公開(上場)・非公開(非上場)と会社法上の公開会社。【公開会社】
- 10回 会社機関～株主総会・取締役会・監査役会。【会社機関】
- 11回 取締役会～取締役会と代表取締役。【意思決定と執行】
- 12回 経営者と株主～会社は誰のものか?【経営者支配】
- 13回 機関投資家とガバナンス 【機関投資家】
- 14回 企業再編 【M & A】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...20%と小テスト...10%。レポートの結果は、採点して公表する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、テキストを必ず用意すること。②、レジユメだけにしがみつかない。③、法学部開講の会社法や証券市場法(金融商品取引法)にも積極的に参加してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易論【夜】

担当者名 /Instructor 立石 揚志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

貿易を通じて、日本経済が国際的に直面している課題を考える。
日本経済の変化に応じて貿易についての最新動向を伝える。
あまり、「貿易理論」に重きをおかず、貿易を巡る現状を解説する。

教科書 /Textbooks

小峰隆夫『貿易の知識』(2版)日経文庫(2004年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石揚志『海外直接投資とアジアの貿易循環』ふくろう出版(2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| 1 回貿易とはなにか | 2 回現代の経済と貿易 |
| 3 回貿易の理論 | 4 回貿易と国際収支 |
| 5 回貿易と為替レートの変動 | 6 回国際収支と日本経済 |
| 7 回貿易を巡る国際的枠組み | 8 回WTOの役割と機能 |
| 9 回地域統合とFTA | 10 回日本経済と貿易の歩み |
| 11 回経済成長をリードした貿易 | 12 回経済摩擦の変遷と日本の対応 |
| 13 回アジアとの生産分業 | 14 回貿易を巡る新しい動き |
| 15 回グローバル化と反グローバル化 | |
| 16 回・ 17 回直接投資の増大と貿易 | |
| 18 回・ 19 回アジアを中心とするFTA, EPAの動き | |
| 20 回・ 21 回東アジア共同体構想の推移 | |
| 22 回・ 23 回東アジア共同体の現状 | |
| 24 回・ 25 回東アジア共同体の課題 | |
| 26 回・ 27 回国際経済学と国際貿易論 | |
| 28 回・ 29 回国際貿易に関するトピックス | |
| 30 回まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...25%、課題...25%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞を中心とする貿易に関する情報に常に関心をもつこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 杉浦 勝章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

1学期は、立地論を軸として経済地理学の基礎理論を解説し、その応用例について、平易に紹介する。2学期は日本の産業配置と地域政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。講義全体のキーワードは、立地論、産業配置、地域政策である。

教科書 /Textbooks

未定。講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地。【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動(Ⅰ)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動(Ⅱ)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習とまとめ 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動(Ⅲ)・・・最小コストモデル 【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動(Ⅳ)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 7～10回の復習とまとめ 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動(Ⅴ)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動 【空間克服】【接触の利益】【波及効果】
- 15回 前半のまとめと復習
- 16回 イントロダクション 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 17回 オフィスの立地論 【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
- 18回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 19回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイット】
- 20回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
- 21回 16～20回の復習とまとめ
- 22回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
- 23回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 24回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 25回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 26回 22～25回の復習とまとめ
- 27回 産業立地と今後の地域構造・・・ランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 28回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
- 29回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【現代の地域構造】
- 30回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10～20% 期末試験 ... 80～90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：この科目を履修しながら地域経済、域政策を学習することができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、前期は国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、直接投資を中心に説明を進める。後期は国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に解説する。

教科書 /Textbooks

前期：浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
後期：橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
P.R.クルグマン他『国際経済：理論と政策I, II』（新世社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 比較優位の理論I【絶対優位】【貿易パターン】
- 3回 比較優位の理論II【リカードモデル】【比較優位】【貿易の利益】
- 4回 ミクロ経済学の復習【生産可能性曲線】【無差別曲線】
- 5回 一般均衡分析【貿易三角形】【オプファー曲線】
- 6回 要素賦存の理論I【ヘクシャー＝オリーン・モデル】【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 要素賦存の理論II【リプチンスキーの定理】【ストールパー＝サムエルソンの定理】
- 8回 規模の経済と不完全競争
- 9回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 10回 小国の貿易政策【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 小国の貿易政策【数量割当政策】
- 12回 大国の貿易政策【最適関税の理論】
- 13回 経済統合【自由貿易地域】
- 14回 国際要素移動【海外直接投資】
- 15回 国際要素移動【労働の国際移動】
- 16回 前期の復習、後期の講義説明、国際マクロ経済学の紹介
- 17回 国際収支表【経常収支】【資本収支】
- 18回 異時点取引としての国際金融取引【時間選好率】【利子率】
- 19回 外国為替の基礎【為替相場制度】【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 20回 為替レートの決定要因I【購買力平価】
- 21回 為替レートの決定要因II【金利平価】
- 22回 為替レートの決定理論【フロー・アプローチ】【アセット・アプローチ】
- 23回 為替介入【不胎化政策】
- 24回 開放経済の45度線分析【国民所得決定】
- 25回 開放経済下のマクロ経済政策I【IS曲線】、【LM曲線】、【BP曲線】
- 26回 開放経済下のマクロ経済政策II【マンデル＝フレミングモデル】【固定相場制】
- 27回 開放経済下のマクロ経済政策III【マンデル＝フレミングモデル】【変動相場制】
- 28回 国際金融システムI【通貨危機の構造】
- 29回 国際金融システムII【国際通貨制度の考え方】
- 30回 国際金融システムIII【通貨統合の論理】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・(授業中の)小テスト 50 % 期末試験 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

国際経済論 【夜】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ、マクロ経済学の基礎知識を習得した上に履修してください。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教師論 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職の意義や教師の役割や職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職について理解を深め、多角的に考察する過程を援助し、動機づけを図る。また、教職以外の他の職業と比較する機会を提供することにより、教職への進路選択について指導助言する。

教科書 /Textbooks

山崎英則編著、『新・教育原理』、ミネルヴァ書房。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

1回～第2回 教育とは何か	【教育】【学校教育】【生活と文化】
3回 教育の目的	【教育目的論】【教職の意義】【教師の役割】
4回 教育の内容	【教育課程】【学習指導要領】
5回 教育の方法	【指導の本質】【指導方法】
6回 生徒指導のあり方	【子どもの理解】【生徒指導】【スクールカウンセラー】
7回 職業指導・進路指導	【教育現場の理解】【職業選択の基礎理論】【進路選択】
8回 教育行政	【中等教育の歴史】【学校経営】
9回 教師の職務内容	【研修】【服務】【身分保障】【教師の生き方】
10回 生徒の生きる力とは	【生きる力】【生徒指導】
11回 思春期の発達と性教育	【性教育の歴史と未来】
12回 教育とジェンダー	【ジェンダー】【男女共同参画社会】
13回 励ます評価のあり方	【教育評価】【体罰と懲戒】【指導要録と通信簿】
14回 これからの中等教育	【学校設備】【中等教育の役割】
15回 教師の「資質」とは何か/まとめ	【教師の禁句】【学習指導案】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストを自宅で学習しておくこと、よく理解できます。講義内容は、テキストの内容をさらに詳しく解説しますので、追加の配布資料を基にして復習するとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育における問題について、実践事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発達と教育
- 2回 教育の方法
- 3回 教育の関係
- 4回 諸外国の教育思想
- 5回 日本の教育思想
- 6回 諸外国の教育史
- 7回 日本の教育史
- 8回 学校とは何か
- 9回 現代の学校が抱える課題
- 10回 家庭教育の基礎と現代的課題
- 11回 メディアと教育
- 12回 職業と教育
- 13回 国際化と教育
- 14回 生涯学習社会における教育
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 20% 課題 20% 最終課題(試験) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本事項(1) 【日本の教育法制】
 - 2回 教育制度の基本事項(2) 【教育権】 【学習権】
 - 3回 子育てをめぐる諸問題 【子育て不安】 【教育と福祉】
 - 4回 学校制度の基本事項(1) 【義務教育の無償制】 【就学】
 - 5回 学校制度の基本事項(2) 【教育の機会均等】 【学校教育における中立性】
 - 6回 学校制度の基本事項(3) 【学校体系】 【学校と地域社会】
 - 7回 教育課程の意義と編成(1) 【教科書・教材】 【学習指導要領】
 - 8回 教育課程の意義と編成(2) 【学校の教育課程編成】
 - 9回 教員制度の基本事項(1) 【教員免許】 【公務員としての教師】
 - 10回 教員制度の基本事項(2) 【教員の指導力】 【研修】
 - 11回 生涯学習制度 【成人教育】 【学校教育と社会教育の連携】
 - 12回 教育行財政の仕組み(1) 【中央教育行政】 【教育財政】
 - 13回 教育行財政の仕組み(2) 【地方教育行政】 【教育委員会】
 - 14回 教育制度改革の動向 【学校選択制】 【学校評価】
 - 15回 まとめ
- (※【 】内はキーワード)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、公民科教育における知識および技能の習得をねらいとする。まず、公民科教育とはどのようなものかという点についての理解を深めるため、「公民科」の成立過程や位置づけ、現在の教育内容に関する講義を行なう。それらの内容を踏まえ、学生たちによる「公民科」の模擬授業を行なう。

教科書 /Textbooks

『高等学校 学習指導要領解説：公民』、『中学校 学習指導要領解説：社会』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年。
社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書、2003年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 公民科とは何か～成立過程と位置づけ～
- 2回 公民科のねらいと内容
- 3回 現代社会の課題、模擬授業
- 4回 経済社会と経済活動、模擬授業
- 5回 民主主義と政治のしくみ、模擬授業
- 6回 国際社会と日本、模擬授業
- 7回 青年期の課題と自己形成、模擬授業
- 8回 現代の特質と倫理的課題、模擬授業
- 9回 宗教と倫理、模擬授業
- 10回 経済格差、模擬授業
- 11回 環境問題、模擬授業
- 12回 日本国憲法の性格と現状、模擬授業
- 13回 現代社会における戦争と平和、模擬授業
- 14回 人種・民族問題、模擬授業
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 模擬授業... 40% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校時代に使用していた公民科(「現代社会」、「倫理」、「政治経済」)の教科書で、適宜、教育内容を確認することが望ましい。模擬授業については、自分の担当授業だけでなく、他の学生の授業に対する参加・評価のあり方も重要視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、公民科教育における知識および技能の習得をねらいとする。まず、公民科教育とはどのようなものかという点についての理解を深めるため、「公民科」の成立過程や位置づけ、現在の教育内容に関する講義を行なう。それらの内容を踏まえ、学生たちによる「公民科」の模擬授業を行なう。

教科書 /Textbooks

『高等学校 学習指導要領解説：公民』、『中学校 学習指導要領解説：社会』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年。
社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書、2003年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 公民科とは何か～成立過程と位置づけ～
- 2回 公民科のねらいと内容
- 3回 現代社会の課題、模擬授業
- 4回 経済社会と経済活動、模擬授業
- 5回 民主主義と政治のしくみ、模擬授業
- 6回 国際社会と日本、模擬授業
- 7回 青年期の課題と自己形成、模擬授業
- 8回 現代の特質と倫理的課題、模擬授業
- 9回 宗教と倫理、模擬授業
- 10回 経済格差、模擬授業
- 11回 環境問題、模擬授業
- 12回 日本国憲法の性格と現状、模擬授業
- 13回 現代社会における戦争と平和、模擬授業
- 14回 人種・民族問題、模擬授業
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% 模擬授業... 40% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校時代に使用していた公民科(「現代社会」、「倫理」、「政治経済」)の教科書で、適宜、教育内容を確認することが望ましい。模擬授業については、自分の担当授業だけでなく、他の学生の授業に対する参加・評価のあり方も重要視する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法B【夜】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。前半では、新学習指導要領を取り上げ、現在の公民科教育の位置づけについて理解し、さらには教育方法論や授業理論について学習する。後半では、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、上記の知識を習得した上で、受講者は模擬授業を行う。最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説：公民編』授業の際に配布するレジユメ・資料等

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年
『中学校学習指導要領解説：社会編』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第3回 デューイの教育方法論、模擬授業
- 第4回 社会科初志の会の授業理論、模擬授業
- 第5回 ブルーナーの教育方法論、模擬授業
- 第6回 社会科学的的手法について、模擬授業
- 第7回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第9回 社会参加の授業理論、模擬授業
- 第10回 グローバル化について、模擬授業
- 第11回 環境問題について、模擬授業
- 第12回 情報化社会について、模擬授業
- 第13回 政治・経済・法関連の重要トピックについて、模擬授業
- 第14回 規範意識について、模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 30% 模擬授業... 30% 模擬授業の際に提出する学習指導案... 20%
授業への積極的参加・貢献度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

模擬授業はパワーポイントを使用して行うため、各自基本的なパソコン操作の技能を修得しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法B【夜】

担当者名 /Instructor 飯田 直弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。前半では、新学習指導要領を取り上げ、現在の公民科教育の位置づけについて理解し、さらには教育方法論や授業理論について学習する。後半では、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。全体を通して、教授の基礎となるコミュニケーション能力の育成に重点をおき、上記の知識を習得した上で、受講者は模擬授業を行う。最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『高等学校学習指導要領解説：公民編』授業の際に配布するレジユメ・資料等

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会認識教育学会編『公民科教育法』学術図書出版社、2000年
『中学校学習指導要領解説：社会編』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第3回 デューイの教育方法論、模擬授業
- 第4回 社会科初志の会の授業理論、模擬授業
- 第5回 ブルーナーの教育方法論、模擬授業
- 第6回 社会科学的手法について、模擬授業
- 第7回 意思決定の授業理論、模擬授業
- 第8回 提案する社会科の授業理論、模擬授業
- 第9回 社会参加の授業理論、模擬授業
- 第10回 グローバル化について、模擬授業
- 第11回 環境問題について、模擬授業
- 第12回 情報化社会について、模擬授業
- 第13回 政治・経済・法関連の重要トピックについて、模擬授業
- 第14回 規範意識について、模擬授業
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 30% 模擬授業... 30% 模擬授業の際に提出する学習指導案... 20%
授業への積極的参加・貢献度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

模擬授業はパワーポイントを使用して行うため、各自基本的なパソコン操作の技能を修得しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
 - 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
 - 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
 - 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
 - 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
 - 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
 - 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
 - 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
 - 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
 - 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
 - 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
 - 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
 - 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
 - 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育の研究【夜】

担当者名 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、一般社会における心の教育や人間教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）の視点から、道徳教育について学修するためのものである。学校教育における道徳教育については、「学習指導要領」に明確に規定されているので、それを基にして具体的な道徳教育の指導法について学修する。

教科書 /Textbooks

『中学校学習指導要領』及び『高等学校学習指導要領』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 「道徳教育」とは何か 【徳】 【教育】
- 2回 「学校教育における道徳教育」の構造 【学習指導要領】 【学校教育の全領域】
- 3回 「各教科」と道徳教育 【陶冶】 【訓育】
- 4回 「特別活動」と道徳教育 【集団】 【学級活動】 【生徒会活動】 【学校行事】
- 5回 「総合的な学習の時間」と道徳教育 【横断的・総合的な学習】 【主体性】 【活動】
- 6回 「道徳の時間」における道徳教育 【道徳の時間の指導内容】 【全体計画】
- 7回 「道徳の時間」の指導過程 【学習指導案】 【指導方法】
- 8回 「モラルジレンマの授業」と道徳教育 【ジレンマ教材】 【対立・葛藤】
- 9回 「役割演技」と道徳教育 【動作化】 【ロール・プレイ】
- 10回 「教師のモラル」と道徳教育 【人間性】 【社会のモラル】
- 11回 「体験・ボランティア活動」と道徳教育 【自然体験】 【社会体験】
- 12回 「綴方」と道徳教育 【教育的リアリズム】 【教育的ヒューマニズム】
- 13回 「エンカウンター」と道徳教育 【出会い】 【構成的グループエンカウンター】
- 14～15回 道徳教育の課題と未来 / まとめ 【道徳性の評価】 【地域社会の連携】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。
 ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の研究【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下の課題を柱として取り組んでいきたい。

- ①学習指導要領特別活動編の目的、領域(学級活動、生徒会活動、学校行事)の理解を深めること。
 - ②日常的な人間関係や学校内外の活動の中で必然的に生じてくる様々な対立や紛争を解決し、平和的な市民社会の創造に参加していくための社会的スキルを実践的に学習すること。
 - ③ 子どもの問題行動を克服し、自治の力を育む教科外活動のあり方について、「学級集団づくり」や生徒会活動などの何本かの実践報告を踏まえつつ検討していくこと。
- 本研究のキーワードは対立解決のスキル、自治の力、子ども集団づくりである。

教科書 /Textbooks

楠 凡之著「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)、主要には第7章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション - 「特別活動」の意義
- 2回 学習指導要領「特別活動」の目的・領域について
- 3回 現実の学校体験から、学級づくり、学校づくりの課題を考える。
- 4回 子ども達の対人関係スキルを育てるHR活動の体験学習その1
- 対立解決 (conflict resolution) の多様なパターンについて
- 5回 対立解決プログラムの実際 その2 - WinWin型で解決するために
- 6回 対立解決プログラムの実際 その3 - グループ発表の準備
- 7回 対立解決のロールプレイ発表
- 8回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 高木実践
- 9回 いじめ・暴力を克服する学級づくりの取り組み - 隅本実践
- 10回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - リーダー指導
- 11回 子ども達の自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 班づくり
- 12回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 学年集団づくり
- 13回 子どもたちの自治の力を育てる子ども集団づくりの取り組み - 生徒会活動
- 14回 特別なニーズを持つ子どもと歩む子ども集団づくりの課題
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受け身的な参加では実践的指導力は身に付かない。積極的な態度での参加を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】 【比喩・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】 【管理】 【生活と文化】 【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】 【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】 【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】 【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】 【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】 【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】 【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】 【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】 【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】 【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】 【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】 【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】 【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】 【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、家庭や地域社会や職場等の一般社会における教育ではなく、「学校教育」（中学校・高等学校における教育；参考のために小学校における教育の事例も扱う）における一般的・基礎的な教育の方法及び技術を学修するためのものである。従って、講義内容としては極めて特殊な問題を扱っているため、授業のねらいと下記の授業内容をよく理解して受講すること。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山下政俊・湯浅恭編著、『教育の方法』、ミネルヴァ書房、他等を適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
1回 「教育方法」とは何か	【教育方法の形態】【比喩・モデル】
2回 21世紀の教育方法	【指導】【管理】【生活と文化】【対話】
3回 「授業(学び)」の構想	【授業の三角形】【事前の教材解釈】
4回 授業における展開と「タクト」	【競争原理】【教授学的タクト】
5回 学びを反省・評価する	【評価の方法】【自己評価能力】
6回 学びのシステムのこれまでとこれから	【出席と参加】【学習規律】
7回 「学び」の具体的システムづくり	【相互主体論】【受容】
8回 これからの学びを支える新しいネットワーク	【メディアリテラシー】【情報活用能力】
9回 情報機器と教材の活用	【マルチメディア】【授業形態】
10回 新しい教師への道を拓く	【教師の資質能力】【ファシリテーター】
11回 「性教育」の指導の視点	【ジェンダー】【性別秩序】
12回 学習遅滞の指導	【学習遅滞】【学習障害】
13回 デイスコミュニケーションとコミュニケーション	【発話】【聞き取り】
14回 教育方法における「近代」と「現代」	【連続と非連続】【現代化】
15回 「教える」ことの技術と思想 / まとめ	【指導】【自己活動】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) 50% 学期末の試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を基にして講義の復習をし、さらに関連文献を学習していくとよいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育工学【夜】

担当者名 /Instructor 大塚 一徳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、教育工学の研究範囲に含まれる中でも、近年特に重要であり注目されている下記に示す事項に関して講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教育工学への招待, 赤堀侃司著, 2002, ジャストシステム

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

1. 本授業の内容・進行・評価方法に関する説明, 【教育工学の定義】 【研究分野の概観】
2. 教授-学習に関する基礎理論その1 【行動主義】
3. 教授-学習に関する基礎理論その2 【認知主義】
4. 教授-学習に関する基礎理論その3 【社会的構成主義】
5. 教授-学習に関する基礎理論その4 【状況論的学習】
6. 授業のシステム化の方法と授業設計の手順 【授業設計】
7. 授業過程の分析と改善 【授業過程】
8. 授業実施の技術 【授業技術】
9. 授業の評価 【授業評価】
10. 教育メディアとその活用1 【コンピュータ】 【マルチメディア】
11. 教育メディアとその活用2 【インターネット】 【Web】
12. 学習データのとらえ方とその処理 【学習データ】
13. 授業実践能力の改善と向上 【実践能力】
14. 現代の教育課題
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(20%), レポート(30%), 試験(50%)により総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを授業の事前事後に自己学習するなど、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生徒指導論【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 今日の思春期の子どもたちの「生きづらさ」や内的葛藤を見童虐待や家族内葛藤を中心にしながら検討し、子どもたちの内面に寄り添う生徒指導の課題について、検討していくこと。
- ② 高機能自閉症、アスペルガー症候群の問題を中心にしながら、「特別なニーズを持つ子どもに対する理解と援助」の問題を検討していくこと。
- ③ 思春期の人格発達(「価値的自立」)の過程を支える進路学習、進路指導の意義と課題について、今日の社会情勢も含めつつ検討していくこと。

本授業のキーワードは「特別なニーズ」、児童虐待、進路指導である。

教科書 /Textbooks

テキストとして、「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)の第II部と第III部8章を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 生徒・進路指導論の意義と課題
- 2回 学校現場での生徒指導の実際 その1
- 3回 学校現場での生徒指導の実際 その2
- 4回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その1(アスペルガー症候群)
- 5回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その2(高機能自閉症)
- 6回 特別支援教育と生徒指導、教育相談その3(ADHD)
- 7回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導その1
- 8回 暴力的な傾向を持つ男子生徒に対する理解と指導 その2
- 9回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路学習
- 10回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取り組み
- 11回 中学校における職場体験学習と進路指導
- 12回 高等学校の問題状況と進路指導の課題
- 13回 被虐待児に対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 14回 虐待サイバーに対する理解と援助 - 感想レポートの紹介とコメント
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポートなど)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの第II部(5,6章)をしっかりと読み込んで授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床教育学【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○						

授業の概要 /Course Description

学校教育相談の領域は、1.「学業的発達」、2.「キャリア的発達」、3.「個人・社会的発達」の三つに区分され、また、学校教育相談の機能は、① 一次的支援(開発的教育相談)、②二次的支援(予防的教育相談)、③「三次的支援」(問題解決的教育相談)から構成される。本授業では、学校教育相談の領域や機能について、教育相談の基本的な理論と技法の学習もふまえて提起していきたい。さらに、様々な問題を表出している児童、生徒に対する理解を深めていくと同時に、児童・生徒に対する指導、援助、また、課題を抱える保護者への理解と援助を進めていく際の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を紹介しつつ、検討していきたい。本授業のキーワードはいじめ問題への理解と指導、教育相談の理念とスキルである。

教科書 /Textbooks

「いじめと児童虐待の臨床教育学」(ミネルヴァ書房)をテキストとして使用する。本授業では主に第一部(1～4章)を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 教育相談の領域
- 3回 教育相談の機能 その1 - 一次的支援
- 4回 教育相談の機能 その2 - 二次的支援、三次的三次的支援
- 5回 教育相談の基本的な理念について
- 6回 教育相談の基本的なスキルについて - 共感的応答
- 7回 教育相談の基本的なスキルについて - 開かれ質問
- 8回 教育相談の基本的なスキルについて - ロールプレイ実習
- 9回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談① - 前思春期
- 10回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談② - 思春期
- 11回 今日のいじめ問題に対する理解と教育相談③ - 青年期
- 12回 保護者に対する教育相談 その1
- 13回 保護者に対する教育相談 その2
- 14回 薬物問題に対する理解と援助(北九州ダルクの講演)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート等)30%、レポート15%、期末試験55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは早めに読み、基本的な知見をもった上で授業に望むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職総合演習 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は大きくは次の三点である。
 1. グローバルエデュケーションに関する参加型学習の方法について、体験的に学習すること。
 2. テーマを自分たち自身で設定し、プレゼンテーションを行なうことを通じて、共同学習のあり方、プレゼンテーションのあり方を学習すること。
 本授業のキーワードはグローバルエデュケーション、参加型学習の方法などである。

教科書 /Textbooks

テキストはなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献 環境教育指導者育成マニュアル 角田尚子・ERIC国際理解教育センター著他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 参加型教育実践の実際
- 2回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その1
- 3回 Think Globally. Act Locally の教育実践を考える その2
- 4回 グローバルエデュケーションのワークショップ その1 - マジカルバナナ
- 5回 グローバルエデュケーションのワークショップ その2 - 地球家族のワークショップ
- 6回 グローバルエデュケーションのワークショップ その3 - 難民問題のワークショップ
- 7回 ニート・フリーター問題に関するグループワーク
- 8回 貧困問題に関するグループワーク
- 9回 グループ決めとグループのテーマの決定
- 10回 グループごとのリサーチ
- 11回 グループごとのプレゼンテーションの準備
- 12回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その1
- 13回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その2
- 14回 グループごとのプレゼンテーション発表とコメント その3
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(感想レポート、プレゼンテーション) 60% 期末レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループのプレゼンテーションではかなりの授業時間外の準備が必要なことを覚悟しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- | | | |
|---------------------------|--------------------|---------------|
| 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か | 【教育実習】 【実習校】 | |
| 2回 教育実習の1日 | 【教育実習の実態】 | |
| 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 5回 子どもの問題状況と生徒指導 | 【生徒指導】 【子どもの理解】 | |
| 6回 授業観察の方法 | 【観察記録】 【観察方法】 | |
| 7回 学級経営について | 【学習指導要領】 【チームサポート】 | |
| 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ | 【体験学習】 【働きかけ】 | |
| 9回 子どもの人権と教育 | 【人権】 【自尊感情】 | 10回 教材研究と授業構想 |
- 【刻々
の教材研究】 【学習指導案】
- | | |
|---------------------------|----------------|
| 11回 模擬授業①(中学・高校別) | 【授業構成】 【導入】 |
| 12回 模擬授業②(中学・高校別) | 【指導技術】 【発問】 |
| 13回 模擬授業③(中学・高校別) | 【指導技術】 【説明】 |
| 14回 模擬授業④(中学・高校別) | 【指導技術】 【指示・助言】 |
| 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 | 【教師の資質】 【事前準備】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 黒田 耕司 / KURODA KOJI / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」（実習校実習）に向けて、実習生として必要な心構えや学習指導及び生徒指導上の知識や技術等を習得する。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を購入し、使用すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード

- | | | |
|---------------------------|--------------------|---------------|
| 1回 教育実習オリエンテーション・教育実習とは何か | 【教育実習】 【実習校】 | |
| 2回 教育実習の1日 | 【教育実習の実態】 | |
| 3回 教育実習生の体験から学ぶ(中学) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 4回 教育実習生の体験から学ぶ(高校) | 【教科指導】 【学級経営】 | |
| 5回 子どもの問題状況と生徒指導 | 【生徒指導】 【子どもの理解】 | |
| 6回 授業観察の方法 | 【観察記録】 【観察方法】 | |
| 7回 学級経営について | 【学習指導要領】 【チームサポート】 | |
| 8回 生徒指導・教育相談のロールプレイ | 【体験学習】 【働きかけ】 | |
| 9回 子どもの人権と教育 | 【人権】 【自尊感情】 | 10回 教材研究と授業構想 |
- 【刻々
の教材研究】 【学習指導案】
- | | |
|---------------------------|----------------|
| 11回 模擬授業①(中学・高校別) | 【授業構成】 【導入】 |
| 12回 模擬授業②(中学・高校別) | 【指導技術】 【発問】 |
| 13回 模擬授業③(中学・高校別) | 【指導技術】 【説明】 |
| 14回 模擬授業④(中学・高校別) | 【指導技術】 【指示・助言】 |
| 15回 教師の資質とは何か・教育実習に向けての準備 | 【教師の資質】 【事前準備】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(25%)、提出物の評価(75%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード	
第 1 回 ; オリエンテーション	【勤務】 【連絡】
第 2 回 ; 中学校における教育実習	【中学生の特質】 【中学生への支援】
第 3 回 ; 高等学校における教育実習	【高校生の特質】 【高校生への支援】
第 4 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 15 回 ; 教育実習反省会	【教師の資質】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

第 1 回 ; 実習校実習①	【教育実習指導】
第 2 回 ; 実習校実習②	【教育実習指導】
第 3 回 ; 実習校実習③	【教育実習指導】
第 4 回 ; 実習校実習④	【教育実習指導】
第 5 回 ; 実習校実習⑤	【教育実習指導】
第 6 回 ; 実習校実習⑥	【教育実習指導】
第 7 回 ; 実習校実習⑦	【教育実習指導】
第 8 回 ; 実習校実習⑧	【教育実習指導】
第 9 回 ; 実習校実習⑨	【教育実習指導】
第 10 回 ; 実習校実習⑩	【教育実習指導】
第 11 回 ; 実習校実習⑪	【教育実習指導】
第 12 回 ; 実習校実習⑫	【教育実習指導】
第 13 回 ; 実習校実習⑬	【教育実習指導】
第 14 回 ; 実習校実習⑭	【教育実習指導】
第 15 回 ; 実習校実習⑮	【教育実習指導】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導 【夜】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導 【夜】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えながら考えていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児・者心理学について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第6回 視覚障害について
- 第7回 聴覚障害について
- 第8回 姿勢・運動の障害について
- 第9回 知的障害について
- 第10回 自閉性障害について
- 第11回 注意欠陥多動性障害について
- 第12回 学習障害について
- 第13回 青年期以降に診断される障害について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【夜】

担当者名 /Instructor 弓野 勝族 / YUMINO MASATSUGU / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常生活や職場及び家庭・教育現場での人権問題の具体的な事象に学びながら、人権教育の知識を豊かにするとともに、人権感覚を研ぎ、人権問題解決への技能・スキル・態度を培う。

教科書 /Textbooks

「手作り資料」を活用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

人権の絵本(大月書房)、みんなの人権(明石書店)、世界が1000人の村だったら(マガジンハウス)、人権・同和問題一問一答(解放出版社)、差別と日本人(角川書店)、もののけ姫(徳間書店)、他。

人権教育論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回・「世界が100人の村だったら」
○世界共通の偏見や差別の根っ子と差別のしくみ。○非識字者・同性愛者の人権。
○人権教育のスキル・技能。
- 第2回・いじめ差別①(現状認識)
○いじめ差別の事例(新聞記事・中高生・大学生の体験)
○各種調査(教育白書・国際調査等)
- 第3回・いじめ差別②(構図と課題、解決への基礎基本の知識)
○いじめ差別の構図(しくみ)と加害者・傍観者の心理。
○文科省のいじめ定義。○道徳教育と人権教育の相違点。
- 第4回・いじめ差別③(解決への教育創造)
○文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」。
○金子みすず「教科書の詩」「東大入試問題」。
○自尊感情と学力形成の相関関係。
○学校文化と子どもの居場所づくり。
- 第5回・子どもの人権と児童虐待防止法
○児童虐待の現状認識。(新聞記事・教育白書等)。
○教師の責務と教育・啓発の教育創造。
- 第6回・もののけ姫①(メッセージからの課題)
○物語の時代背景と登場人物から課題の整理。
○ハンセン病問題と国の隔離政策。○国家賠償と社会復帰。
- 第7回・もののけ姫②(メッセージからの課題)
○女性差別の歴史。○学校現場における「改正男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」を考える。
- 第8回・同和問題との出会い直し①(身分制度の歴史・中世)
○身分差別をつくったのは、誰?
○中世の社会や文化のしくみと、国民的課題の意義。
- 第9回・同和問題との出会い直し②(身分制度の歴史・近世)
○身分制度(身分統制令)をつくったのは、誰?
○「賤民」身分にされたのは、どんな人々?
○一向一揆、鉄砲・キリスト教の伝来、島原の乱と身分制度の確立の歴史と国の責務の意義。
- 第10回・同和問題との出会い直し③(解体新書、俳人と身分制度)
○解体新書の腑分けをしたのは、どんな人?
○一茶・蕪村・芭蕉の人権感覚。
- 第11回・同和問題との出会い直し(文学者と部落差別)
○小説「破戒」(島崎藤村)と「橋のない川」(住井すゑ)。
- 第12回・同和問題との出会い直し④(結婚差別)
○結婚差別の事例からの課題と解決への展望。
○しきたり・ならわし・慣習との出会い直し。
- 第13回・同和問題との出会い直し⑤(人権文化の創造)
○教科書無償・全国統一応募用紙・奨学金制度。
- 第14回・同和問題との出会い直し(国の施策)
○1965年の同和对策審議会・答申の意義。
○1996年の地域改善対策協議会・意見具申の意義。
- 第15回・同和問題との出会い直し(人権文化のまちづくり)
○北九州市の人権文化のまちづくりの現状。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートによる評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の歴史と社会【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。そこでこの授業では、「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

教科書 /Textbooks

レジュメ・プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○高木侑『三下り半と縁切寺』(講談社現代新書) 山本英二『慶安の触書は出されたか』(山川出版社日本史リブレット) 他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 【近世】という時代
- 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
- 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
- 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
- 6回 『【女大学】』と『和俗童子君』①
- 7回 『【女大学】』と『和俗童子君』②
- 8回 【好色物】と女性の社会進出
- 9回 【縁切寺】の歴史
- 10回 【慶安御触書】を読み直す①榎本宗次説
- 11回 【慶安御触書】を読み直す②丸山雍成説
- 12回 【慶安御触書】を読み直す③木崎良美説
- 13回 【慶安御触書】を読み直す④神崎直美説
- 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤山本英二説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学 【夜】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面に生起する自然、人文の諸現象を地域的観点から究明する科学である。そのため、地理学を研究する場合、必ず必要になるのが地図である。この科目は、地理学の言語である地図に関して学ぶとともに、地図や空中写真を利用して、地表の状態を読み取る実習をおこなうことにより、地理学的知見を高めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○菅野峰明・安仁屋政武・高阪宏行著「地理的情報の分析手法」古今書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 地理学では何を学ぶか。【自然地理学】【人文地理学】
 - 2回 地図の役割。【地図の能力】
 - 3回 地図の歴史。
 - 4回 地図には、どのような種類があるか。【一般図】【主題図】
 - 5回 地図は、どのように作られるか。【地図投影】【図法】
 - 6回 地図記号から景観を読む。【図式】
 - 7回 山の地形を地形図から描くI(講義・実習)。【等高線】
 - 8回 山の地形を地形図から描くII(実習)。
 - 9回 地図を利用して地表の状態を調べる。【地形計測】
 - 10回 地形図を利用して山の体積を測定するI(講義・実習)。
 - 11回 地形図を利用して山の体積を測定するII(実習)。
 - 12回 【リモートセンシング】、空中写真の利用。
 - 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)。
 - 14回 リモートセンシング、空中写真の利用。
 - 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献や授業中に提示する資料などを読んでおくことより理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

テーマは「日本地誌」。特定の地域は様々なレベルの空間スケールから考察し説明することができる。地誌学は特定地域の諸側面を多面的に分析し、総合して地域の性格を明らかにするものである。本講義では主として日本全体の地域構造を明らかにした後、特定地域を事例として取り上げ、その説明を通して地域の姿を解明する方法を教授する。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。
講義中に資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢ヶ崎典隆、加賀美雅弘、古田悦造編著『地誌学概論』(地理学基礎シリーズ3)朝倉書店、2007年。
平岡昭利編『九州 地図で読む百年』古今書院、1997年。
平岡昭利編『中国・四国 地図で読む百年』古今書院、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を表すキーワード

- 1回 はじめに～地誌とは【多面性】【分析】【総合】
- 2回 日本の地誌①～古代における地域構造の形成【律令体制】
- 3回 日本の地誌②～中世から近代における地域構造の形成【朝廷と幕府】
- 4回 日本の地誌③～現代日本の地域構造①【欧化主義】【近代工業の導入】
- 5回 日本の地誌④～現代日本の地域構造②【経済の高度成長】【過疎・過密】
- 6回 九州地方の地誌①～九州の地域構造：地域の多様性と変容【北部と南部】【東部と西部】
- 7回 九州地方の地誌②～九州における拠点の移動を中心に【長崎・熊本・福岡】
- 8回 九州地方の地誌③～北部九州：福岡県、佐賀県、長崎県の地誌
- 9回 九州地方の地誌④～中部九州：熊本県、大分県の地誌
- 10回 九州地方の地誌⑤～南部九州：宮崎県、鹿児島県、沖縄県の地誌
- 11回 福岡地域の地誌①【大宰府】【九州探題】
- 12回 福岡地域の地誌②【アジア】【玄関口】
- 13回 関門地域の地誌①～門司・下関地区の歴史【西廻航路】【五市合併】
- 14回 関門地域の地誌②【炭鉱地帯】【八幡製鉄所】【リサイクル】
- 15回 おわりに～すべての地域が生き生きと【多様性】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人文地理学【夜】

担当者名 吉津 直樹 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
		○	○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

人文地理学は地表に展開する人文現象を対象として地域的差異を研究する学問であるが、本講義では自然環境が人間および人間社会、ないしは地域にいかに関与しているか、社会環境の変化によって地域がいかに関与するのかを具体的な事例を豊富に取り上げて説明する。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。随時、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中藤康俊『人文地理学入門』古今書院、1985年。
富田和暁『地域と産業』大明堂、1996年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに～地理学あるいは人文地理学とは
- 2回 地理学説史～近代地理学について
- 3回 自然的条件と人間①～地形、気候が人間に及ぼす影響
- 4回 自然的条件と人間②～沖積層と地盤沈下
- 5回 自然的条件と人間③～沖積層と工業立地
- 6回 歴史的条件と地域①～日本の地域構造の変遷。地域間交流、東と西
- 7回 歴史的条件と地域②～幕藩体制における地域編成と近代以降の地域編成
- 8回 交通条件の変化と地域の変貌①～交通ターミナル都市の変貌(下関の事例)
- 9回 交通条件の変化と地域の変貌②～農業経営方式の変化
- 10回 交通条件の変化と地域の変貌③～観光地の変化
- 11回 産業構造の変化と地域の変貌①～エネルギー需給の変化と地域の変貌
- 12回 産業構造の変化と地域の変貌②～製鉄業の立地変化
- 13回 地域の盛衰～中心地域と周辺地域
- 14回 中心市街地の変貌と振興
- 15回 おわりに～21世紀の国土～これからの日本

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 50% レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地図帳を持参することが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これから法学部で学ぶさまざまな法制度の現状とその問題点を理解しようとする際に必要かつ有益な能力を身につけることが目標となります。具体的には、身近に生じている実際の事件・紛争、法システムに含まれている法的な問題を発見する方法、問題を検討するにあたって資料・文献を検索・収集する方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）、集めた資料を分析する方法などを学びます。

教科書 /Textbooks

弥永真生著『法律学習マニュアル』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにしますが、とりあえず例えば以下のもの。

森靖雄著『大学生の学習テクニック』（大月書）

中野次雄編『判例とその読み方』（改訂版）（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ゼミの運営方針の説明

第2回 授業の受け方・講義ノートの取り方

第3回 各自、興味のある法律問題・事件について発表し、文献資料や判例等がどの程度存在しているのか調査する（パソコンを利用して関連・周辺問題も含めた情報を検索し、図書館等を利用して実際の情報や資料を入手する方法を学ぶ）。

第4回～第5回 各自、問題・テーマを決定して、それについての報告を行う準備をする。

具体的には、文献の要約の仕方、報告書（レジюме）の作り方、口頭発表の仕方・討論の仕方、報告者の順番を決める。報告者の事前学習をする。レジюмеの

第6回～第15回 順番に従って、毎回、担当者が報告を行い、参加者全員で議論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%（出席・報告内容・ディスカッションへの参加度を総合評価）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者にはレジюмеの作成と参加者への事前配布が求められます。

報告者以外の受講者には、事前のレジюмеの読み込みと質問事項の準備が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「法学基礎演習I」（1学期）は、大学生・社会人として必須の能力である「弁論能力」（スピーチ）と「討論能力」（ディベート）の鍛錬に特化することとする。「スピーチ」においては、各自に割り当てられたテーマについて、即興でのスピーチをおこなってもらう（3分間スピーチ）。「ディベート」においては、競技ディベートのルールに則って、グループ相互でのディベートを行う。上記のような鍛錬を通じて教員・学生が相互に論理的・説得的に「しゃべる」技術を向上させることを目的とする。

教科書 /Textbooks

必要な資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 スピーチ①
- 第3回 スピーチ②
- 第4回 スピーチ③
- 第5回 スピーチ④
- 第6回 ディベート①
- 第7回 ディベート②
- 第8回 ディベート③
- 第9回 ディベート④
- 第10回 ディベート⑤
- 第11回 ディベート⑥
- 第12回 スピーチ⑤
- 第13回 スピーチ⑥
- 第14回 予備日程
- 第15回 予備日程

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50% スピーチ・ディベート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本の歴史についての固定観念に再検討を加える。日本社会および日本人の法生活について多様な視点から見る目を養う。

教科書 /Textbooks

- 1 中世社会と現代 五味文彦著 山川出版
- 2 日本の歴史をよみなおす 網野善彦著 筑摩書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テキスト、ゼミ内容について解説
- 2回 図書館見学と利用法
- 3回 以下担当者による発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 50 % ゼミへの参加度 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

発表者以外の者も必ず予習し、疑問点など発表者に対する質問事項等を考えておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、主として1年生を対象とし、大学における学習のやり方、すなわち広義や演習の受講方法とそのために必要な学習の方法・技術について基本的な事柄を学ぶとともに、法律を勉強するとはどういうことであるのかを考え、理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業において資料を配付するほか、文献等については適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

弥永真生『法律学習マニュアル(第2版補訂版)』(2007年、有斐閣)
いしかわまりこ他著、指宿信他監修
『リーガル・リサーチ(第3版)』(2008年、日本評論社)
村上英明・小原清信編『なるほど公法入門(第2版)』(2004年、法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(運営方針の説明)
- 2回 法学の各分野はどうなっているか
- 3回 図書館の利用方法
- 4回～6回 学習の方法について
- 7回～8回 立法機関と立法過程
- 9回～10回 裁判所制度
- 11回～12回 行政組織
- 13回～15回 法令解釈の基礎

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 80 % 討論への参加状況 ... 20 %
(出席が総授業回数の3分の2に満たない場合は不合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 落合 俊行 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法の解釈を通して、社会にはいろいろな考え方や見方があるということを学んでいきます。たとえば、刑法199条は、殺意をもって人を殺せば殺人罪に問われる旨を規定しています。死刑から懲役5年以上の法定刑です。「人を殺す」といいますが、いったいわたしたちは「いつ」人となり、「いつ」人でなくなるのでしょうか。それは生まれたときです、死んだときです、と答えても、法律学的には何も答えていません。つまり、いつ「生まれた」か、いつ「死んだ」かということが問題なのです。刑法はこれについて何も規定しておりません。しかし、実際に起こるさまざまな問題や事件に対して、法を解釈し、法を適用して、実際に具体的な判断を下して解決しなければなりません。社会生活において、法がどのように適用されているのか、具体的な裁判判例を素材にして、いっしょに考えていきましょう。インターネットよりも、図書館の本や雑誌、判例集などを調べて勉強します。

教科書 /Textbooks

中川義朗『現代の人権と法を考える』（第二版）（法律文化社、2006年、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第2回 情報社会と人権
第3回～第4回 自己決定権
第5回～第6回 環境と人権
第7回～第8回 子どもの人権
第9回～第10回 女性の人権
第11回～第12回 外国人の人権
第13回～第14回 身近な差別と偏見

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30 % 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

まず、法令、判例、文献など法律情報の調べ方を習得することを目的とします。次に、大学におけるレポートとはどのように構成すればよいか、その書き方も学習します。受講生との話し合いにより、テーマを選定し、そのテーマに関するレポートを基に議論することにより、法律的思想方法を習得します。テーマは、法律一般に関する時事的なもの、その他報告者の希望により決定します。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指宿 信監修 いしかわまりこ他著『リーガル・リサーチ』日本評論社
弥生真生著『法律学習マニュアル』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業の進め方について、報告者決定
- 2回 判例の調べ方について
- 3回 文献の調べ方について
- 4回 法令の調べ方について
- 5回 以下、順次、個別テーマについて報告
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」に関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを本演習の目的とする。
これらの著作は、法学をこれから学ぶ者が一読しておくべき古典的名著である。また、それと同時に、J・ローズやR・ノージックなどの現代正義論との関連からも、その理論的射程・現代性が再検討されるべきものでもある。本演習では、古典と現代という二重の問題意識をもちつつ、以下のテキストを読み進めていきたい。
これまでおそらく教科書知識のみで知っているつもりとなっていたであろう古典的著作を、翻訳でではあれ直接読むことにより、必ずやなんらかの点において知的に触発されるものがあると思われる。既読者にとっても、いずれの著作も読むたびに新たな発見や関心を引き起こすような性質をもった名著である。また、実定法学を学ぶ上でも、これらの著作からは、理論的基礎として大いに得るものがある。

教科書 /Textbooks

- J・ロック『市民政府論』（岩波文庫）
- ルソー『社会契約論 / ジュネーブ草稿』（光文社古典新訳文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- J・ロック『統治二論』（岩波書店）、J・ロック『全訳 統治論』（柏書房）
- 浜林正夫『ロック』（研究社出版）○ 森村進『ロック所有論の再生』（有斐閣）
- 西嶋法友『ルソーにおける人間と国家』（成文堂）
- 川合清隆『ルソーとジュネーブ共和国』（名古屋大学出版局）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ははじめに。第2回からは、あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながら上記テキストを順に読み進める。第14回～第15回はまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 60% 報告... 20% 質問等の状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法律の学び方・調べ方といった法学の基本的なトレーニングを行います。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 法を学ぶ意義や法の役割を理解する。
- 5回～15回 各担当者による報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

■演習テーマ：社会生活における人間関係と法律■ 本演習は、①社会で起こっている様々な出来事を多角的に捉える目線を養うこと、②身近に起こりうる問題を解決し「自分の頭で考える力を身に付けること」を目指す。とりわけ、判例の読解および検討を通じて、①筋道を立てて物事を考える力、②裁判官が判決を下すために付した理由付け（論理構造）を客観的に整理し理解する力を養い、法的思考のイロハを身につける。また、レジュメ作成技術、レポートのまとめ方、法律文献の調査方法や引用方法など法律を学ぶ上で必要最低限の作法を体得し、3年次以降どの分野のゼミを選択しても主体的に報告準備に取り組み、積極的に議論に参加できるプレゼンテーション能力を向上させる「基礎体力」をつけることが本演習のもう一つの狙いである。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本演習の進め方、および民法の体系と基本原理、権利の実現方法について解説。
- 2回 判決文を読む上でのポイント解説。第4回以後のスケジュール（報告担当）決定。
- 3回 判例の検索方法および報告の際のレジュメの作り方、レポート作成方法について解説。
- 4回 学生による判例報告①。報告後、全員で議論。
- 5回 学生による判例報告②。報告後、全員で議論。
- 6回 学生による判例報告③。報告後、全員で議論。
- 7回 学生による判例報告④。報告後、全員で議論。
- 8回 学生による判例報告⑤。報告後、全員で議論。
- 9回 学生による判例報告⑥。報告後、全員で議論。
- 10回 学生による判例報告⑦。報告後、全員で議論。
- 11回 学生による判例報告⑧。報告後、全員で議論。
- 12回 学生による判例報告⑨。報告後、全員で議論。
- 13回 学生による判例報告⑩。報告後、全員で議論。レポートに関する解説（1）。
- 14回 学生による判例報告⑪。報告後、全員で議論。レポートに関する解説（2）。
- 15回 学生による判例報告⑫。報告後、全員で議論。1学期の総括（担当教員からの総評）。

成績評価の方法 /Assessment Method

判例報告... 30% 平素の演習への取り組み... 25% レポート（学期末5000字）... 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは指定しない。参考文献は演習中に適宜紹介する。毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ演習時の議論において「無言厳禁」を原則とするなど、本演習は受講者に対する要求度が高いことを付言しておく。無断欠席者、遅刻常習者、学期末レポート未提出者に単位は与えない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際問題を題材にし、受講者に対しそれらを法的に分析していくプロセスを実践させることで、①法情報検索技術の習得、②プレゼンテーション能力の向上、③討論能力の向上、④レポート作成能力の向上を目指します。【法的分析等に関する基礎技術の習得】IとIIをセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。基礎ゼミの理解に必要な資料は、必要に応じ、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

横田洋三編『国際法入門』(有斐閣・2004) 松井芳郎『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)
他の参考文献については、別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 第1回 コースガイダンス | 第2回 法学の学習にあたって |
| 第3回 リサーチ①(文献等の探し方) | 第4回 リサーチ②(情報検索サイト等の活用) |
| 第5回 クリティカルシンキング | 第6回 法律の条文に親しむ |
| 第7回 条文の解釈の作法を知る | 第8回 判例の探し方 |
| 第9回 実際の判決文を読む | 第10回 判例研究のレジюмеを作る |
| 第11回 レジюме検討ゼミ | 第12回 法学の答案を書く |
| 第13回 答案検討ゼミ | 第14回 レポートを書くにあたって |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。

ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習のテーマは、「社会科学方法論の基礎」です。社会科学方法論に関するウェーバー、マルクス、ミルズなどの古典的な著作を通して社会的な物の見方、方法論について学ぶことを目的とする。

教科書 /Textbooks

加藤周一『学ぶことと思うこと』（岩波ブックレット、2003年）
C. W. ミルズ著（鈴木 広訳）『社会学的想像力』（紀ノ国屋、1967年）
マックス・ウェーバー著（富永祐治他訳）『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』（岩波文庫、1998年）
マックス・ウェーバー著（尾高邦雄訳）『職業としての学問』（岩波文庫、1980年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～3回 知の技法について【コミュニケーション(読む・書く・話す)能力】【文献調査法】
4回～6回 社会学的想像力について【知識社会学】【イデオロギー】【知的職人論】
7回～11回 社会科学方法論について【社会科学的認識の客観性】【M.Weber】【没価値性(価値自由性)】【K. Marx】【弁証法的唯物論】【K. Popper】【反証可能性】
12回～14回 科学としての法律学 【法解釈学】【経験法学】【法解釈の客観性】
15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 口頭報告...30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記のテーマ・キーワードに即して、テキスト・サブテキストとして指定した社会科学方法論上の古典的名著を毎回課題として事前に読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での勉学とはどのようなものであるかの理解を深め、今後の学習に役立てるようすることを目標とします。実際の裁判例について学習することで、法学を学ぶための基礎知識の習得を目指します。演習全体のキーワードは、法学基礎知識の習得です。

教科書 /Textbooks

開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 判例百選シリーズの簡単な説明
- 2回 学生Aの報告
- 3回 学生Bの報告
- 4回 学生Cの報告
- 5回 学生Dの報告
- 6回 学生Eの報告
- 7回 学生Fの報告
- 8回 学生Gの報告
- 9回 学生Hの報告
- 10回 学生Iの報告
- 11回 学生Jの報告
- 12回 学生Kの報告
- 13回 学生Lの報告
- 14回 学生Mの報告
- 15回 学生Nの報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 ... 100 %
ただし、一定回数、出席していることが当然の前提です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

何もありません。自分の担当のときだけ、調べたり、報告レジュメを作成したりして下さい。基本的に楽勝ゼミだと思います。
なお、「民法総則」及び「物権法」の講義を履修されることをお勧め致します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法における重要テーマ、社会的に関心のもたれているテーマを題材に、社会に関心をもち、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、社会に対する関心をもち、法学的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

斉藤誠二編『演習ノート 刑法総論〔全訂第3版〕』（法学書院）2003年3月、2000円＋税
刑法判例百選I総論〔第六版〕有斐閣 ￥2200円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～第4回 テーマ1について、報告・質疑応答
第5回～第7回 テーマ2について、報告・質疑応答
第8回～第10回 テーマ3について、報告・質疑応答
第11回～第13回 テーマ4について、報告・質疑応答
第14回～第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を毎回とり、出席点と授業態度、レポートの評価での総合点（出席点30%、授業態度30%、レポートの評価40%）で総合評価する。とくに出席・授業態度が悪い場合、減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：法学を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目ですから。また、本講座を履修すると同時に刑法犯罪論を、本講座を履修した後に刑法犯罪各論、刑事訴訟法を履修すると刑事法を学習上で効果的でしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎演習Iでは、法学一般に関する諸問題を取り扱いますが、演習形式で行うので、受講生各自が、テキストの各分野を担当し、レジメを作成して報告を行い、議論をし、受講生それぞれが、法律に関して何らかの問題意識を持てるようにすることが、本演習の目的です。今回は、法学を基礎的に習得することを主眼とした教科書を使用します。

教科書 /Textbooks

森泉章(編)「法学」(有斐閣)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の開始時等に参考文献は示したいと考えています。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回
テキストの内容・順序に沿って授業を行うことを予定しています。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 報告 ... 20 % 質疑応答 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を授業前に読み十分に準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習では、法学を学ぶうえで必須となる基礎的知識・思考・スキルなどを身につけることを目的とします。具体的には、大学での学問（法学）に対する臨み方から始まり、文献の調べ方、法学的な議論の仕方、パソコン（インターネット・データベース）を利用した判例などの検索、判例の読み方の基礎を学びます。なお、この演習は、3・4年次のゼミなどで、関心を持った法分野の研究をする際、必須となるスキルを低年次の段階で修得することを想定しています。

教科書 /Textbooks

- ①松本恒雄ほか（編）『日本法への招待第2版』（有斐閣、2006年）
- ②池田真朗（編著）『判例学習のA to Z』（有斐閣、2010年春頃刊行予定）
- ③最新版の小型六法 ※この「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 弥永真生『法律学習マニュアル〔第3版〕』（有斐閣、2009年）、いしかわまりこ ほか（指宿信ほか監修）『リーガル・リサーチ第3版』（日本評論社、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (※以下のスケジュール等はあくまで予定です。受講人数等により変更する場合があります。)
- 第1回 ガイダンス：自己紹介、グループ・報告順決定、最終授業時提出レポートの説明。
 - 第2回 教員による報告および質疑応答：法学的な話しを聴くこと、議論することを学ぶ。
 - 第3回 リーガル・リサーチその1：法学文献、判例の調べ方などを学ぶ。
 - 第4回 リーガル・リサーチその2：判例の検索方法（インターネット・データベース活用）を学ぶ（※図書館見学も予定。）。
 - 第5回 議論の仕方を学び、実践する。：グループ討論（議論の素材は教員が用意します。）。
 - 第6回～第11回（予定）グループ報告（テキスト①掲載の判例についての報告）・質疑応答。
 - 第12回～第14回（予定）※報告予備日。なお、ゲストを招いての特別授業も予定している。
 - 第15回 まとめ
 - 最終授業終了時に各自レポートを提出していただきます。内容は「法（法学）」に関する文献書評です。なお、対象文献は、「法（法学）」を題材とするものであれば、学術論文、教科書、小説など、ジャンルを問いません（ただし、漫画・問題集は不可）。読書感想文でなく、あくまで「書評」を書いてください。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告の内容など... 70%
- レポート（書評）の内容... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、報告準備以外に、事前準備が多く課せられます。たとえば、次の週に報告するグループの扱う判例について、様々な点から質問ができるよう、種々の文献を読んでくることなどが要求されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習は、1年生を対象として、法学部での学習に最低限必要で、かつ今後の人生に必ず役立つであろう作法と能力を身につけることを目的としている。具体的には、職場の法律問題を題材にしながら、①判例・文献の読み方、②法的问题の分析・検討の仕方、③判例・文献の収集方法、④レジュメの書き方、⑤プレゼンテーションの仕方などを学習する。

教科書 /Textbooks

弥永真生『法律学習マニュアル（第3版）』有斐閣（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等については演習中に適宜示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 図書館・資料室の利用方法
- 第 3回～第 4回 なぜ法律を学ぶのか～法のしくみと運用～
- 第 5回～第 6回 判例の読み方を知ろう～事実認定と法の適用～
- 第 7回～第 9回 裁判所を知ろう～裁判所の役割と実際～
- 第 10回～第 15回 法的问题について議論しよう

成績評価の方法 /Assessment Method

発言内容... 40%、報告内容... 30%、出席状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習は学び手の主体性によって成り立ちます。積極的な参加を期待しています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法学の各分野に共通する基礎的知識を整理しながら、読み・書き (=レポート・レジュメの作成)・話す (=報告する、議論する) という、法学の基本的な学習の方法を習得することを目的とします。また、法令・判例・文献資料などの法情報の検索方法や収集方法、引用法といった法学の基本的技能を習得することを目指します。

2年次以降の専門科目や演習で、主体的に学習に取り組むために必須の基礎を身につけてください。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

弥永真生『法律学習マニュアル』3版(有斐閣・2009.09)

○末川博(編)『法学入門』6版(有斐閣・2009.04)

○伊藤正己・加藤一郎(編)『現代法学入門』4版(有斐閣・2005.03)

※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回～3回 法律文献の読み方・まとめ方
- 4回～5回 レポートとレジュメの作成法
- 6回 法の種類と体系
- 7回 法の構造(法令の構造と条文の構造)
- 8回 法源論
- 9回～12回 リーガル・リサーチの基礎(資料の調査法と引用法)
- 13回～15回 法解釈の基礎

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポート・レジュメを含む)...50% 討論及び発言内容...50%

※無断欠席を厳禁します。また、少なくとも2/3以上の出席が必要です。

※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価します。

※なお、「沈黙」を禁じます。発言をしない者、ディスカッションに参加しない者については、大幅な減点の対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者(または、担当グループ)には、各テーマに関してレポート及びレジュメを作成し、事前に提出してもらいます。担当者の報告をもとに、全体でディスカッションを行なって、理解を深めていきます。演習は、履修者自身が探求し、知識を取得し、理解を深める場です。積極的な活動を期待しています。

基礎演習Iは、基礎演習IIと連続して展開することを予定していますので、基礎演習IIも併せて履修することを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習IIでは、法学基礎演習Iにおいて、事件・紛争、法システムに含まれている法的問題を発見する方法、問題を検討のための資料文献等の検索収集方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）、文献資料の分析方法などを学んだことを前提に、次のことをねらいとします。

すなわち、判例が実際に果たしている重要な機能を理解すること（判例とは何か、どのようにして作られ、実務をどのように拘束するかについて学びこと）です。

教科書 /Textbooks

中野次雄編『判例とその読み方』（改訂版）（有斐閣）

※ なお、次の2冊の本を読んでいない受講者は、演習開始時までに各自読んでおいて下さい。

弥永真生著『法律学習マニュアル』（有斐閣 1,995円）

森靖雄著『大学生の学習テクニク』（大月書店2,100円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半は、様々な分野の実際の判例をあげてその判例の読み方を示すことを目的として書かれたテキストを、受講者間で分担して報告し、討論することを予定しています。後半は、受講者自身が選択した判例につき、判例評釈の報告を行い、報告書を作成します。

第1回 ゼミの運営方針の説明、報告分担箇所・報告者の決定

第2回～第7回 報告担当者によるテキストの解説と質疑応答・討論

第8回～第15回 受講者による判例評釈の発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告（書）の内容・ディスカッションへの参加度の総合評価によるゼミへの参加度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者には、1、報告概要（レジュメ）を作成し、2、事前には、参加者全員にコピーを配布すること、3、報告に際してはテキスト・判例の論旨を要約し、そこから論点を皆に提示することが求められます。

他方、それ以外の参加者には、最低限、テキストを事前に読了していただくことが求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 植木 淳 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本的人権に関する判例の中から、各自興味がある問題について調査・報告・討論をしていただく。そのことによって、憲法判例についての基礎的知識を身につけ、更に、法律学的な思考方法を習得していただきたい。しかし、それよりも、公共的な問題について、大学における演習という公共的空間（ないし擬似公共的空間）において、「調査」「報告」「討論」することを通じて、一人の市民・社会人として将来必要とされる素養を身につけていただきたいと考えている。従って、法律に関する知識を習得するということもさることながら、学生らしい自由で闊達な議論をしていただきたいと切に願っている。自分の意見を遠慮することなく主張し、相手の意見を真摯に聞いたうえで議論するという、ある意味では学生だけに許される経験を体験して欲しい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各回のテーマに関連するものについて、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 報告討論
- 3回 報告討論
- 4回 報告討論
- 5回 報告討論
- 6回 報告討論
- 7回 報告討論
- 8回 報告討論
- 9回 報告討論
- 10回 報告討論
- 11回 報告討論
- 12回 報告討論
- 13回 報告討論
- 14回 報告討論
- 15回 報告討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50 % 報告討論 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

Iから引き続き日本社会を歴史的視点から考察する。

教科書 /Textbooks

- 1 続日本の歴史をよみなおす 網野善彦著 筑摩書房
- 2 中世に国家はあったか 新田一朗著 山川出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

担当者による発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出 50 % 発表 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Iに同じ

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、法学基礎演習Iを前提とする。基本的な判例を素材として、判決文を読むことを通じて法的な問題点を把握し、議論を経て問題解決を目指すという訓練をすることをねらいとする。
(なお、授業で取り上げる判例は、公法分野に関するものである。)

教科書 /Textbooks

特に指定しない。資料を配付するほか、必要な文献等については適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (運営方針の説明)
- 2回 ~ 4回 判決文の読み方
- 5回 ~ 15回 各判例の検討
(受講者に対しては、各事件の一部につき報告を求められることがある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 60 % 討議への参加状況 (報告を含む) ... 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配付資料を事前に読んでおくこと。
報告を求められた場合には、レジユメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 落合 俊行 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最高裁判所判事の要職にあった団藤重光先生は『法学入門』（筑摩書房）のはしがきのなかで、「法学は与えられるものではなく、自分で考えていくべきものである」と述べておられます。法学はだれがいつやっても1+1=2という世界の学問ではありません。法学で重要なのは、妥当な結論を導き出す論理過程なのであり、説得力をもった理由付けなのです。ですから、教科書や授業での説明を金科玉条として丸暗記しないで、自分の頭で主体的に考えることが大切なのです。社会生活において法がどのように適用されていくのか、具体的な事件や裁判を通して、いっしょに考えていきましょう。

教科書 /Textbooks

中川義朗『現代の人権と法を考える』（第二版）（法律文化社、2006年、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1学期のつづき)
第1回～第2回 働く者の人権
第3回～第4回 高齢社会と生存権
第5回～第6回 国家と信教の自由
第7回～第8回 選挙制度と参政権
第9回～第10回 地方分権と地方自治
第11回～第12回 司法制度と裁判を受ける権利
第13回～第14回 平和と人権

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30 % 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生と話し合いによりテーマを決定します。そのテーマについて、文献、判例等を調査し、自分の考えをまとめてもらいます。その内容を授業で報告してもらい、他の受講生、教員と討論します。そのことにより、文献調査の実地的訓練、法的思考力の養成を行いたいと思います。

教科書 /Textbooks

特に、指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマ、報告者の決定、
- 2回 以下、順次個別報告
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」をテーマとし、それに関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを本講義の目的とする。この点では、法学基礎演習Iと同様の問題意識のもとで、同様の主題を発展的・継続的に扱う。

法学基礎演習Iでは、ロック、ルソーの著作をとりあげたが、法学基礎演習IIでは、さらにルソーの別の著作と、ホブズの主著の前半部をとりあげる。法学基礎演習IとIIを継続して受講することにより、ホブズ、ロック、ルソーの社会契約説の考え方の基本を学んだ上で、さらに現代正義論に対するその理論的示唆についても、理解できるようにしたいと考えている。

教科書 /Textbooks

- ルソー『人間不平等起源論』（光文社古典新訳文庫）
- ホブズ『リヴァイアサン1』（岩波文庫）
- ホブズ『リヴァイアサン2』（岩波文庫）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ルソー『社会契約論』（光文社古典新訳文庫）
- ホブズ『リヴァイアサン3』『リヴァイアサン4』（岩波文庫）
- ホブズ『市民論』（京都大学学術出版会）
- ホブズ『哲学者と法学徒との対話』（岩波文庫）
- リチャード・タック『トマス・ホブズ』（未来社）
- 藤原保信, 佐藤正志『ホブズ リヴァイアサン』（有斐閣）
- 梅田百合香『ホブズ 政治と宗教』（名古屋大学出版会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第13回は、あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながら、上記テキストを読み進める。第14回～第15回はまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 60% 報告... 20% 質問等の状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の法学基礎演習に引き続き、主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法律の学び方・調べ方といった法学の基本的なトレーニングを行います。また、後半には各自が選択したテーマについて報告をしてもらいます。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 判例の分析
- 6回～15回 各自が選択したテーマについて報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

■演習テーマ：社会生活における人間関係と法律 ■ 2学期は、1学期に習得した内容の応用として、自分が面白いと思った事柄や疑問に思ったことが世の中でどのように考えられているのかを整理し、資料を調べて判例や学説をまとめ、自分なりの結論を打ち出してもらおうという流れを意識して「戦略的な」報告をしていただく。受講者は、インプットした知識をいかに上手く「アウトプットできるか」、すなわち、他人に自分の見解を理解してもらい、自分の主張の妥当性を説得させるためにどうすればよいが試行錯誤することになる。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 判例および学説の意義に関する解説。第2回演習時に検討する判例・資料を配布。
- 2回 担当教員による模擬判例報告。第4回以後のスケジュール(報告担当)決定。
- 3回 インターネットや検索ツールを利用した文献収集方法の解説および実践。
- 4回 学生による判例報告①。報告後、全員で議論。
- 5回 学生による判例報告②。報告後、全員で議論。
- 6回 学生による判例報告③。報告後、全員で議論。
- 7回 学生による判例報告④。報告後、全員で議論。
- 8回 学生による判例報告⑤。報告後、全員で議論。
- 9回 学生による判例報告⑥。報告後、全員で議論。
- 10回 学生による判例報告⑦。報告後、全員で議論。
- 11回 学生による判例報告⑧。報告後、全員で議論。
- 12回 学生による判例報告⑨。報告後、全員で議論。
- 13回 学生による判例報告⑩。報告後、全員で議論。レポートに関する解説(1)。
- 14回 学生による判例報告⑪。報告後、全員で議論。レポートに関する解説(2)。
- 15回 学生による判例報告⑫。報告後、全員で議論。2学期の総括(担当教員からの総評)。

成績評価の方法 /Assessment Method

判例報告... 30% 平素の演習への取り組み... 25% レポート(学期末5000字)... 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは指定しない。参考文献は演習中に適宜紹介する。毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ演習時の議論において「無言厳禁」を原則とするなど、本演習は受講者に対する要求度が高いことを付言しておく。無断欠席者、遅刻常習者、学期末レポート未提出者に単位は与えない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際問題を題材にし、受講者に対しそれらを法的に分析していくプロセスを実践させることで、①法情報検索技術の習得、②プレゼンテーション能力の向上、③討論能力の向上、④レポート作成能力の向上を目指します。【国際問題の法的分析：基礎技術の習得】IとIIをセットで受講してください。IIのみを受講希望する2年生以上は夏季休暇中に課題をこなしてもらう必要がありますから、この点を理解したうえで、受講申請の手続きをしてください。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。基礎ゼミの理解に必要な資料は、必要に応じ、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

横田洋三編『国際法入門』(有斐閣・2004) 松井芳郎『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)
他の参考文献については、別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス	第2回 デイバートとは
第3回 テーマ決定とグループ分け	第4回 グループ準備(テーマ調査)
第5回 グループ準備(主張等の整理)	第6回 グループ準備(プレゼン資料の作成)
第7回 デイバート	第8回 文献精読の対象文献の選定
第9回 文献精読(読み込み)	第10回 文献精読(調査等)
第11回 文献テーマに関するグループディスカッション	第12回 2010年10大国際ニュースの調査
第13回 グループ準備	第14回 グループ発表
第15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。ゼミへの参加は、具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
ゼミへの参加 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習テーマは「裁判員制度について考える」です。裁判員制度に関する基礎的知識を深め、自分自身の問題として裁判員になることの意味について考える機会を提供することが本ゼミのねらいです。

教科書 /Textbooks

宮澤節生その他『テキストブック現代司法(第5版)』(日本評論社、2009年3月刊行予定)
竹田 昌弘『知る、考える裁判員制度』(岩波ブックレットNo.727(2008年)800円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～4回 法制度改革の意義と基本理念【司法権】【裁判所】【法律家】【刑事裁判】
- 5回～7回 国民の司法参加【陪審制】【参審制】【裁判員制度】
- 8回～11回 裁判員制度の制度設計【刑事訴訟手続】【刑事実務】
- 12回 裁判所・刑事施設のフィールドワーク 【裁判傍聴】
- 13回 裁判所・刑事施設のフィールドワーク 【刑事施設参観】
- 14回 模擬評議のプラクティカム 【評議】
- 15回 予備日

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 口頭報告...30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、報告者を決めて話題提供をしてもらい、各論点につき賛否両論ディベート方式で議論します。刑事裁判の実際については、福岡地方裁判所小倉支部において裁判傍聴を実施します。その他、刑事施設({昨年度は福岡刑務所、佐賀少年刑務所、長崎刑務所に行きました。})を見学する予定です。また、DVDを利用して模擬裁判員裁判(模擬評議)の実習を行います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での勉学とはどのようなものであるかの理解を深め、今後の学習に役立てるようすることを目標とします。実際の裁判例について学習することで、法学を学ぶための基礎知識の習得を目指します。演習全体のキーワードは、法学基礎知識の習得です。

教科書 /Textbooks

開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 判例百選シリーズの簡単な説明
- 2回 学生Aの報告
- 3回 学生Bの報告
- 4回 学生Cの報告
- 5回 学生Dの報告
- 6回 学生Eの報告
- 7回 学生Fの報告
- 8回 学生Gの報告
- 9回 学生Hの報告
- 10回 学生Iの報告
- 11回 学生Jの報告
- 12回 学生Kの報告
- 13回 学生Lの報告
- 14回 学生Mの報告
- 15回 学生Nの報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 ... 100 %
ただし、一定回数、出席していることが当然の前提です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

何もありません。自分の担当のときだけ、調べたり、報告レジュメを作成したりして下さい。基本的に楽勝ゼミだと思います。
なお、「民法総則」及び「物権法」の講義を履修されることをお勧め致します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法における重要テーマ、社会的に関心のもたれているテーマを題材に、社会に関心をもち、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、社会に対する関心をもち、法学的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

斉藤誠二編『演習ノート 刑法総論〔全訂第3版〕』（法学書院）2003年3月、2000円＋税
刑法判例百選I総論〔第6版〕（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～第4回 テーマ1について、報告・質疑応答
第5回～第7回 テーマ2について、報告・質疑応答
第8回～第10回 テーマ3について、報告・質疑応答
第11回～第13回 テーマ4について、報告・質疑応答
第14回～第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席を毎回とり、出席点と授業態度、レポートの評価での総合点（出席点30%、授業態度30%、レポートの評価40%）で総合評価する。とくに出席・授業態度が悪い場合、減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：法学を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目ですから。また、本講座を履修すると同時に刑法犯罪論を、本講座を履修した後に刑法犯罪各論、刑事訴訟法を履修すると刑事法を学習する上で効果的でしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

後期の法学基礎演習は、刑事法関係を取り扱う。演習形式なので、受講生各自にテキストの各分野を担当してもらい、レジメを作成した上での報告に基づき、議論をし、刑事法に関して問題関心を持ってもらうことを、本演習の目的としています。

教科書 /Textbooks

福井厚（著）「刑事法学入門」（法律文化社）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習の時間に提示したいと思っています。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回
テキストの内容・順序に沿って進めていく予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 報告 ... 20 % 質疑応答 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を授業前に十分に読み準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Iの内容を受けて、より高度な法的思考、法学文献の批判的な読み方、判例の読み方（判例評釈の手法）などを修得することがこの演習の目的です。法学基礎演習Iと異なり、本演習では、報告の内容面やレポートの完成度をより厳しく評価します。また、本格的な（主として民事）判例研究報告を課すなど、その内容は、3・4年次に履修する（であろう）「専門演習」に近いものとなります。法的思考をフル回転させ、活発な議論に受講生全員が参加されることを切望します。

教科書 /Textbooks

- ①中野次雄 編『判例とその読み方（三訂版）』（有斐閣、2009年）
- ②中田裕康ほか 編『民法判例百選総則・物権[第6版]（別冊ジュリストNO195）』（有斐閣、2009年）
- ③最新版の小型六法 ※この「3点セット」を必ず購入・持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※授業のなかで適宜アナウンスします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(※以下のスケジュール等はあくまで予定です。受講人数等により変更する場合があります。)

- 第1回 ガイダンス：グループ決め。最終授業時提出レポートについての説明。
- 第2回 最高裁判所の判決の読み方（民法判例を中心に）を学ぶ。各グループの報告順の決定。
- 第3回～第8回（予定）『判例とその読み方』（テキスト①）についてのグループ報告（輪読）。
- 第9回～第14回（予定）各グループによる（民事）判例研究報告。なお、採り上げる判決は『民法判例百選総則・物権[第6版]』（テキスト②）掲載の最高裁判決とします。民法の体系書、調査官解説、判例評釈などを参照して、本格的な判例研究報告を行ってください。また、報告に当たっていないグループも、報告グループの採り上げる判決について、質問や意見等を発表できるように事前準備を入念にしておいてください。
- 第15回 まとめ
 - 最終授業終了時に、レポートを提出していただきます。内容は、以下の（1）、（2）のうち、一つを選択してください。
 - （1）グループで報告した最高裁判決についての判例評釈 / （2）テキスト①についての文献書評

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告内容など... 50%
- レポート（判例評釈または書評）の内容... 50%
- ※（注意）正当な理由のない無断遅刻・無断欠席は、ゼミを放棄したものと「推定」します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本演習では、報告準備以外に事前準備が多く課せられます（法学基礎演習Iより負担は重くなります。）。報告に当たっていないグループも、報告グループが扱う判例につき、様々な点から質問・指摘などができるよう、種々の評釈・文献を読み、授業に臨むことが要求されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、法学基礎演習Iで学習した知識を前提に、判例の読み方、法的問題の分析・検討の仕方、判例・文献の収集方法などの能力の高度化を図ることを目的としている。

前半には、労働法に関する実際の裁判例を題材に報告・議論を行う。後半は、各自が自由にテーマを設定し、自ら調査・探究したことをレポートにまとめることにより、文章を書くプロセスを学習する。なお、テーマは、労働法分野であることが望ましいが、それに限らず、法に関連する一般的な社会問題等でも構わない。

教科書 /Textbooks

弥永真生『法律学習マニュアル（第3版）』有斐閣（2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献・裁判例等については演習中に適宜示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回～第 3回 判例の分析方法を知ろう～論点の発見と議論の仕方～
- 第 4回～第 8回 判例を検討しよう
- 第 9回～第 10回 レポートの書き方を知ろう～テーマの設定と論文の作法～
- 第 11回～第 12回 リーガル・リサーチの方法を知ろう
- 第 13回～第 15回 レポートを完成させよう

成績評価の方法 /Assessment Method

発言内容... 40%、報告内容... 30%、出席状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習は学び手の主体性によって成り立ちます。積極的な参加を期待しています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Iで習得した知識及び技能をもとにして、資料を収集・分析し、問題点を発見し、問題の解決策（自己の見解）をまとめ、ディスカッションを通じて見解を発展させ、またそれを自分の言葉で説得的に提示するという、法学において共通して要求される基礎的能力を習得することを目的とします。

前半では、判例の読み方や扱い方を学んでいきます。後半では、受講者の関心に応じて、いくつかの基本的な法的問題について検討していく予定です。

現実社会の問題解決にはこれが正解という真理を求めることはできません。最善・最良と考えられる方策を提示することができるだけです。だからこそ、自分の考え方を支える価値観が、そしてそれを他人に説得する能力が重要となります。この演習を通じて、そうした自分自身の思考方法や価値観といった、法を考える基本的視座を築き上げてください。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○中野次雄ほか（編著）『判例とその読み方』3訂版（有斐閣・2009.03）
※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など）
- 2回～ 5回 判例と裁判例、判例の読解
- 6回～ 15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）... 50% 討論及び発言内容... 50%

※無断欠席を厳禁します。また、少なくとも2/3以上の出席が必要です。

※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価します。

※なお、「沈黙」を禁じます。発言をしない者、ディスカッションに参加しない者については、大幅な減点の対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告担当者（または、担当グループ）には、各テーマに関してレポート及びレジュメを作成し、事前に提出してもらいます。担当者の報告とともに、全体でディスカッションを行なって、理解を深めていきます。演習は、履修者自身が探求し、知識を取得し、理解を深める場です。積極的な活動を期待しています。

基礎演習IIは、基礎演習Iと連続して展開することを予定していますので、基礎演習Iも併せて履修することを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

商事法（企業活動に関する法）上のテーマを取り扱った「ドイツ語あるいは英語の」文献を輪読することを通して、日本と諸外国との法制度の違いや、紛争解決のあり方の違いを知ること。

教科書 /Textbooks

受講者が興味を抱いているテーマを扱っている文献をセレクトしたうえで、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ毎に、その都度、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミ運営方針の説明
受講者各自が、今一番興味を抱いている企業関連の問題について発表し、いくつかのテーマに 絞り込みます。
- 第2回 テーマを決定して、それに応じたメインの文献、関連文献をセレクトします。
輪読のための準備作業：各自の担当箇所、担当順番の決定
担当箇所の内容紹介レジュメの作成・提出方法の説明
- 第3回～第15回 担当者による担当箇所の内容紹介の後、日本の状況との違いなどについて議論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、レジュメ準備の程度、発表内容、ディスカッション等、いわゆるゼミへの参加度...100%
無断欠席は、ゼミを放棄したものとみなされる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語あるいは英語の文献資料を読解するために必要かつ十分な語学力を有している場合には、「文献研究」としての本講義の受講は快適かつ有意義なものになるでしょう。また、当日に実施予定の輪読箇所を見ただけでは、当該文献の趣旨を把握することは往々にして難しいものです。

そこで、ゼミ参加者全員が、文献全体のアウトライン（少なくとも鍵となる主題文）をつかんでおくことが、ゼミを有意義なものにするうえで非常に大切になります。参加者の準備が不十分な場合には、再度、同箇所について読み直しが必要になる場合もあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国文献を通じて刑事訴訟法を理解することを目的とします。今年は英語の文献を利用します。英語を読める能力が前提ですが、少し程度の高い文献を使用しますので、英語読解力のある程度高い学生の受講を望みます。

教科書 /Textbooks

アメリカの刑事訴訟法の文献を使う予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

アメリカの刑事訴訟法分野の特定のテーマを扱います。受講生には事前に分担を決めて、読んで訳をしてもらいますが、受講生全員も事前に読んでおくことを前提にしていきます。

1回～15回

事前に分担した箇所を毎回、訳してもらいます。

成績評価の方法 /Assessment Method

英語を読んで訳すること... 60% 出席回数... 20% 受講態度 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に決められた分担箇所を授業前に予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I【昼】

担当者名 /Instructor 落合 俊行 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2008年アメリカ大統領選挙で民主党のバラク・オバマが勝利しました。オバマ政権の政策とアメリカの政治システム・選挙制度などについて、活字メディアや電波メディアを使って多角的に勉強します。講読文献、視聴番組は英語です。

教科書 /Textbooks

Barack Obama 「The Audacity of Hope」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回から3回 オバマの半生とオバマの勝利演説・就任演説
- 4回から6回 アメリカの議会制度
- 7回から9回 アメリカの裁判制度
- 10回から14回 アメリカの選挙制度
- 15回 まとめ(政治制度の日米比較)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 授業発言・討論 ... 20 % 定期試験... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日英字新聞(ジャパン・タイムズ)を読むこと。テレビのニュースやドキュメント番組を見ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II 【昼】

担当者名 中山 布紗 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、受講者のフランス語読解力を養うとともに、フランス民法典編纂の迫力ある経緯を体感してもらうことにある。文章を正確に読み取ること、すなわち、精読が最重要目的とされる。1つのパラグラフを読み終えた後、受講者全員が「何についての記述であったか」を議論し、大意を把握することにも努める。フランス民法典編纂の経緯を読み解きながら、日本民法典との関連性はもちろん、当時のフランスにおける社会背景およびフランス革命が法と社会に与えた影響についても考える。

教科書 /Textbooks

【教材】

Jean-Louis Halpérin, Le Code civil, Dalloz, 1996.

* 担当教員が該当箇所を複写し、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

【参考図書】

○碧海純一 = 伊藤正己 = 村上淳一編『法学史』(東京大学出版会、1976年)。

『新スタンダード仏辞典』(大修館書店、1989年)。

山口俊夫編『フランス法辞典』(東京大学出版会、2002年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(受講上の注意)
- 2回～14回 テキストの講読
- 15回 総括および講評

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、受講態度等平常点... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の進行は、訳出の担当箇所を決めずに、受講者全員で一文ずつ順番に音読の上、翻訳することの繰り返しである。担当教員は受講者による訳出後、発音および文法事項について確認し、内容に関する補足説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、今日のアメリカ社会において最も激しい政治的、法的論争の一つとなっている死刑問題について、その賛成論および反対論の争点を理解することを目指します。以下のテキストを素材として、輪読しながら、死刑存廃論について各々の見解を批評する。

教科書 /Textbooks

Mary E. Williams (ed.), Capital Punishment, Greenhaven Press, 2000.
(テキスト教材は必要箇所をコピーしたものを使用する予定です。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースアウトラインの説明
- 2回 イントロダクション(テキスト 11~15頁)【序論】
- 3回 第1章(16~30頁) 死刑の道德性【合理性】
- 4回 第1章(31~41頁)【死刑の残虐性】【国家刑罰権】【誤判】
- 5回 第1章(42~54頁)【死刑の非人道性】【生命の尊厳】
- 6回 第2章(55~64頁)【公正】【不正】【人種差別主義】
- 7回 第2章(65~75頁)【人種差別主義】【死刑事件】
- 8回 第2章(76~87頁)【えん罪防止策】【リベラル批判】
- 9回 第2章(88~100頁)【公正な執行】【死刑廃止批判】
- 10回 第3章(101~114頁)【死刑の犯罪抑止力肯定論】
- 11回 第3章~4章(115~128頁)【死刑の犯罪抑止力否定論】【廃止論】
- 12回 第4章(129~137頁)【存置論】【慎重な執行】
- 13回 第4章(138~142頁)【正義】【終身刑】
- 14回 第4章(143~147頁)【死刑代替刑批判】【精神障害者と死刑】
- 15回 第4章(148~150)【殺人犯の刑事責任能力】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 口頭報告...30% レポート ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回分担報告者を決めて指定された单元ごとに読み進めていきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ドイツ法学の成果に触れるために、ドイツ語文献の講読を行う。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文献の決定
- 2回 文献講読
- 3回 文献講読
- 4回 文献講読
- 5回 文献講読
- 6回 文献講読
- 7回 文献講読
- 8回 文献講読
- 9回 文献講読
- 10回 文献講読
- 11回 文献講読
- 12回 文献講読
- 13回 文献講読
- 14回 文献講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ民法の条文は、洋書取扱店で、事前に購入しておくこと。加えて、小学館の『独和大辞典 第2版』の購入も義務付ける。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでのゼミでは、現代正義論を主題として、ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥワオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥワオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマッセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥワオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』などを読み進めてきた。本年は、その延長上で、後期ハーバーマスの主著とも言うべき法哲学的著作『事実性と妥当性』を取り上げることで、正義の問題への討議理論的アプローチの再検討を行う。同書を素材としながら、本演習では、現代正義論にとっても重要なテーマとなっている「承認」の問題も検討する予定である。

教科書 /Textbooks

○ハーバーマス『事実性と妥当性（上）』（未来社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ハーバーマス『事実性と妥当性（下）』（未来社）
- 毛利透『民主制の規範理論 - 憲法パトリオティズムは可能か』（勁草書房）
- 中岡成文『ハーバーマス』（講談社）、小牧治・村上隆夫『ハーバーマス』（清水書院）
- 川本隆史『ロールズ』（講談社）、牧野広義『現代倫理と民主主義』（地歴社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第2回では、コピー等を使いながら、現代正義論の展開の構図を概観する。第2回～第13回は上記テキストを分担して報告し、議論しながら読み進める。第13回～第15回はまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 60% 報告... 20% 質問等の状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学専門演習II【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の演習では、現代正義論の構図を概観した上で、現代正義論のその後の展開について学ぶ予定である。2学期の昼間主の演習では、「現代正義論」という主題に特に限定せず、広い意味で「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的主題にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて、自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者がその都度参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回は、はじめに。第2回～第13回では、ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。第14回～第15回はまとめ。
2学期の演習では特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上で、ゼミに臨んで欲しい。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 60% 報告... 20% 質問等の状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法制史専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中世日本人の罪と刑罰観念について考察する。引き続き中世刑法についての史料講読

教科書 /Textbooks

- 1 中世の罪と罰 網野.石井.笠松.勝俣著 東京大学出版会
- 2 中世政治社会思想上 岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目はテキスト等の解説。2回目からは担当者による発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 50 % 参加の度合い 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法制史専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

専門演習Iを受け、引き続き中世の刑法関係の史料を輪読する

教科書 /Textbooks

中世政治社会思想上 岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの輪読

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出 50 % 報告 30 % 参加の程度 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習I【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習Iにおいては、最新の人権判例について、参加者が条文・学説・判例を整理して、報告・討論することを通じて、「人権論」に関する理解を深めることを目的とする。

しかし、それよりも、公共的な問題について、大学における演習という公共的空間（ないし擬似公共的空間）において、「調査」「報告」「討論」することを通じて、一人の市民・社会人として将来必要とされる素養を身につけていただきたいと考えている。従って、専門的知識を習得するという事もあることながら、学生らしい自由で闊達な議論をしていただきたいと切に願っている。自分の意見を遠慮することなく主張し、相手の意見を真摯に聞いたうえで議論するという、ある意味では学生だけに許される経験を体験して欲しい。

教科書 /Textbooks

○高橋和之他編『憲法判例百選I・II（第5版）』別冊ジュリ186・187（有斐閣・2007年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 判例研究
- 3回 判例研究
- 4回 判例研究
- 5回 判例研究
- 6回 判例研究
- 7回 判例研究
- 8回 判例研究
- 9回 判例研究
- 10回 判例研究
- 11回 判例研究
- 12回 判例研究
- 13回 判例研究
- 14回 判例研究
- 15回 判例研究

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50 % 判例研究 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習I【昼】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習では、わが国の人権状況について、主要な憲法判例を素材として考えていきます。図書館で裁判判決を報じた当時の記事を調べたり、インターネットでさまざまな情報を検索したりして、学びます。憲法に保障されている人権がどのような問題状況にあるのか、それに対して裁判所はどのような判決を下しているのか、それについてみなさんはどのように考えるのか、どう感じるのか、法廷にもちこまれた裁判を通して学びます。主権者・国民として差別・偏見の問題に主体的に関わっていく姿勢を培っていくことが、この演習の目標です。

教科書 /Textbooks

中川義朗『現代の人権と法を考える』（第二版）（法律文化社、2006年、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第2回 情報社会と人権
第3回から第4回 自己決定権
第5回から第6回 環境と人権
第7回から第8回 子どもの人権
第9回から第10回 女性の人権
第11回から第12回 外国人の人権
第13回から第14回 身近な差別と偏見

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30 % 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は課題判例について「判例時報」や「判例タイムス」などを調べて、裁判所の判決文を全文読むことが必要です。毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習II 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習IIにおいては、最新の人権判例・人権理論について、あるいは、現代における社会問題について、参加者が報告・討論することを通じて、現代日本社会について憲法学的な視点から理解・分析する能力を養うことを目的とする。そのために、各自で設定したテーマについて報告して頂きたい。

しかし、それよりも、公共的な問題について、大学における演習という公共的空間（ないし擬似公共的空間）において、「調査」「報告」「討論」することを通じて、一人の市民・社会人として将来必要とされる素養を身につけていただきたいと考えている。従って、専門的知識を習得するということもさることながら、学生らしい自由で闊達な議論をしていただきたいと切に願っている。自分の意見を遠慮することなく主張し、相手の意見を真摯に聞いたうえで議論するという、ある意味では学生だけに許される経験を体験して欲しい。

教科書 /Textbooks

○芦部信喜・高橋和之編『憲法判例百選I・II（第4版）』別冊ジュリスト154・155（有斐閣・2000）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究報告
- 3回 研究報告
- 4回 研究報告
- 5回 研究報告
- 6回 研究報告
- 7回 研究報告
- 8回 研究報告
- 9回 研究報告
- 10回 研究報告
- 11回 研究報告
- 12回 研究報告
- 13回 研究報告
- 14回 研究報告
- 15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50 % 研究報告 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習II 【昼】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習では、人権に関する憲法判例を分析・研究します。学習内容は、1学期のつづきです。授業のねらい・テーマについては1学期のシラバスを参照してください。テキストも1学期と同じです。

教科書 /Textbooks

中川義朗『現代の人権と法を考える』（第二版）（法律文化社、2006年、2500円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1学期のつづき)

- 第1回～第2回 働く者の人権
- 第3回～第4回 高齢者社会と生存権
- 第5回～第6回 国家と信教の自由
- 第7回～第8回 選挙制度と参政権
- 第9回～第10回 地方分権と住民自治
- 第11回～第12回 司法制度と裁判を受ける権利
- 第13回～第14回 平和と人権

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30 % 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は課題判例について「判例時報」や「判例タイムス」などを調べて、裁判所の判決文を全文読むことが必要です。毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習I【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政法の判例を素材として、判例の読み方や扱い方を学び、行政法についての理解を深めることをねらいとする。行政法の分野全体から比較的新しい判例を選び、順次検討する予定である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。判例その他の資料は複写して配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同 『行政判例百選II(第五版)』(同)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(運営方針の説明)
- 2回 取り上げる判例の説明
- 3回～15回 判例を読む
(判例を順次読み進めながら、討議を行う。判例の一部について、参加者に報告を求めることがある。)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 60% 討議への参加状況(報告を含む。) ... 40%
(出席が総授業回数の3分の2に満たない者は不合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配付資料を事前に読んでおくこと。
報告を求められた事柄についてはレジユメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政法に関する判例を精読し、具体的事例を通じて行政法に関する理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。取り上げる判例その他の資料は複写して配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同 『行政判例百選II(第五版)』(同)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(運営方針の説明)
- 2回 取り上げる判例の説明
- 3回～15回 判例の報告と検討
(各参加者が各自報告する判例について順次討議することにより進める。)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 60% 討議への参加状況(報告を含む。) ... 40%
(出席が総授業回数の3分の2に満たない者は不合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各参加者は、それぞれ取り上げる判例について調べた上でレジユメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習I【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第6版]』(有斐閣)2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

立石二六著『刑法総論・第三版』(成文堂)平成16年3月、4000円+税
船山・清水・中村編『ケイスメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態、テーマの決定
第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回出席をとり、出席点と授業態度、レポートの評価による総合評価(出席点30%、授業態度30%、レポート評価40%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論・刑法各論における基本的な問題（テーマ）を取り上げて、判例及び学説を整理しながら、具体的・合理的かつ体系的整合性をもった解決策を考察していきます。この演習では、体系的に展開される講義と連携して、刑法理論における基礎的事項及び概念の体系的な理解を一層深めることを、目的のひとつとしています。また、資料を収集・分析し、問題の解決策（自己の見解）をまとめ、ディスカッションを通じて見解を発展させ、またそれを自分の言葉で説得的に提示するという、法律学の基礎的な能力を習得することを、もうひとつの目的としています。講座全体のキーワードは、法的思考力及び論理的説得力の習得です。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西田典之 / 山口厚〔編〕『刑法の争点（新・法律学の争点シリ-ズ）』（有斐閣・2007.10）
- 阿部純二ほか〔編〕『刑法基本講座 1～6巻』（法学書院・1992.10～1994.10）
- ※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など）
- 2回 担当テーマに関する問題の所在及び参考文献の検討
- 3回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート・レジュメを含む）...50% 討論及び発言内容...50%
※無断欠席を厳禁します。また、少なくとも2/3以上の出席が必要です。
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当テーマについて研究レポートを作成してもらいます。報告担当者は、レポートに基づいて個別報告を行い、受講者全員でディスカッションを行います。受講者の積極的な発言を期待しています。
少なくとも「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I・II」を履修していること（または履修中であること）が望ましいです（上掲「ねらい」を参照）。また、専門演習Iは、専門演習IIと連続して展開することを予定していますので、専門演習IIも併せて履修することを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習II 【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第6版]』(有斐閣)2200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石二六著『刑法総論・第三版』(成文堂)平成16年3月、4000円+税
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態、テーマの決定
第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回出席をとり、出席点と授業態度、レポートの評価による総合評価(出席点30%、授業態度30%、レポート評価40%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習II 【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論・刑法各論の領域から、受講者各人の関心に応じたテーマを選定し、判例及び学説を整理しながら、具体的・合理的かつ体系的整合性をもった解決策を考察していきます。この演習では、問題点に対して一層緻密な検討を加えて理解を深めることを目的とします。講座全体のキーワードは、法的思考力及び論理的説得力の習得です。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西田典之 / 山口厚〔編〕『刑法の争点(新・法律学の争点シリーズ)』(有斐閣・2007.10)
- 阿部純二ほか〔編〕『刑法基本講座 1～6巻』(法学書院・1992.10～1994.10)
- ※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回 担当テーマに関する問題の所在及び参考文献の検討
- 3回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポート・レジュメを含む) ... 50% 討論及び発言内容... 50%
 ※無断欠席を厳禁します。また、少なくとも2/3以上の出席が必要です。
 ※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当テーマについて研究レポート及びレジュメを作成してもらいます。報告担当者は、レポートに基づいて個別報告を行い、受講者全員でディスカッションを行います。受講者の積極的な発言を期待しています。なお、開講時までに報告テーマをいくつか考えておいてください。少なくとも「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I・II」を履修していること(または履修中であること)が望ましいです(上掲「ねらい」を参照)。また、専門演習IIは、専門演習Iと連続して展開することを予定していますので、専門演習Iも併せて履修することを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習I【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法の判例を取り扱う。具体的事件に関する判例を検討することを通じて、生きた刑事訴訟法を把握することを目的とする。演習は、報告者の報告を中心にして行う。報告者はレジメを事前に提出しておくことが原則である。

教科書 /Textbooks

- ①松尾ほか編「刑事訴訟法判例百選（第8版）」（有斐閣）。
- ②庭山・岡部編「刑事訴訟法」第3版（青林書院）。
- ③松尾浩也「刑事訴訟法・上巻（新版）」（弘文堂）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

刑事訴訟法の講義のシラバスに挙げている参考文献。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

報告の順序など、最初の演習の時間に決めていきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 報告 ... 30 % 質疑応答 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告する判例を十分に事前に検討し議論が活発になるように準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法の判例を取り扱う。具体的事件に関する判例を検討することを通じて、生きた刑事訴訟法を把握することを目的とする。演習は、報告者の報告を中心にして行う。報告者はレジメを事前に提出しておくことが原則である。

教科書 /Textbooks

- ①松尾ほか編「刑事訴訟法判例百選（第7版）」（有斐閣）。
- ②庭山・岡部編「刑事訴訟法」第3版（青林書院）。
- ③松尾浩也「刑事訴訟法・上巻（新版）」（弘文堂）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

刑事訴訟法（総論・各論）の講義のシラバスに挙げている参考文献。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回
報告の順序など、最初の講義の時間に決めていく予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 報告 ... 30 % 質疑応答 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告する判例を事前に十分に検討し議論が活発になるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今年度のテーマは、「刑事学（犯罪学・刑事司法政策）における理論と調査研究方法を学ぶ」です。これから本格的に刑事学（犯罪学および刑事司法政策）の研究を志す学生に対して、刑事学の各種理論および調査研究方法の基礎的知識の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

Siegel, L. J. 2009. Criminology. 10th ed. Belmont, CA: Wadsworth/Thomson
E. パビー著（渡辺他訳）2003. 『社会調査法I&2』 培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 矢島正見・丸秀康・山本功編『よくわかる犯罪社会学入門』学陽書房（2004年）
- 浜井浩一編『犯罪統計入門』日本評論社（2006年）
- 瀬川晃著『犯罪学』成文堂{1998年}
- 藤本哲也著『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）
- ヴォールド&バーナード{平野龍一・岩井弘融監訳}『犯罪学』東京大学出版会（1990年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Siegel Ch.1
- 3回～7回 社会調査法の基礎
- 8回～10回 Siegel Ch2
- 11回～12回 社会調査の準備
- 13回 Siegel Ch3
- 14回 社会調査のデザイン
- 15回 Siegel Ch4

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ開始前までに上記参考文献掲載の入門書の類は読み込んでおくこと。「専門演習I」と「専門演習II」は、一体的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。専門科目の「犯罪学」「刑事司法政策I&II」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事学専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本専門演習IIのテーマは、「現代社会における犯罪と刑罰を考える」です。専門演習Iで学んだ理論および調査研究方法を踏まえて、刑事学（犯罪学および刑事司法政策）の研究分野の中から、各ゼミ生が興味・関心をもっているテーマを自由に選択してもらい、それについて必要な文献調査、研究報告、論文作成をすることが目的です。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 矢島正見・丸秀康・山本功編『よくわかる犯罪社会学入門』学陽書房（2004年）
- 守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策』成文堂（2008年）
- 浜井浩一編『犯罪統計入門』日本評論社（2006年）
- 瀬川晃著『犯罪学』成文堂{1998年}
- 藤本哲也著『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）
- ヴォールド&バーナード{平野龍一・岩井弘融監訳}『犯罪学』東京大学出版会（1990年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テーマ選択
- 3回～7回 文献調査
- 8回～10回 調査設計
- 11回～12回 先行研究の検討
- 13回 フィールド調査（刑事施設参観）
- 14回 中間報告
- 15回 レポート（プロスペクテス）提出

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「専門演習I」と「専門演習II」は、一体的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。専門科目の「犯罪学」「刑事司法政策I&II」とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在大きく変貌する職場や会社の実態においてどのような法的な紛争が発生しているか、どう解決すべきかを考える。裁判例を多面的に検討し、①判決文の理解能力、②法的解釈能力、③議論の厳しさと楽しさなどを自分のものにし、自立した判断能力を養うことを目指す。本演習は、労働法演習のファースト・ステップに位置しており、労働法の基礎を学びつつ、社会や企業で通用するプレゼンテーション能力、問題解決能力の基礎を養うこととしたい。労働法が実際に身につくかどうかは、学生の努力によるところが大きい。演習では活発、自由な議論がポイントになる。何が問題か、判例はどうか、自分はどうか考えるか。演習への積極的な参加を期待する。

教科書 /Textbooks

村中孝ほか編『労働判例百選 [第8版]』有斐閣(2009年)
六法(小さなものでよいが、なるべく新しいもの。)
取り上げる裁判例は演習開講時に示す。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

労働法の基本判例、最新判例を取り上げ、報告、検討、議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発言内容...40%、報告内容...30%、出席状況...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※2学期に開講する「労働法専門演習II」と併せて受講すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働法専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習は、1学期に開講される「労働法専門演習I」の方針を引き継ぎつつ、問題解決能力、プレゼンテーション能力等のさらなる高度化を目指す。
労働法は、日本型雇用システムの変化を反映して大きく変貌しつつある。雇用社会の変化を洞察しつつ、発生する問題を「法的に」どう解決していくか、ここに労働法の醍醐味があるといえよう。演習への積極的な参加を期待する。

教科書 /Textbooks

村中孝史ほか編『労働判例百選 [第8版]』有斐閣 (2009年)
六法 (小さなものでよいが、なるべく新しいもの。)
取り上げる裁判例は演習開講時に示す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

労働法の基本判例、最新判例を取り上げ、報告、検討、議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発言内容... 40%、報告内容... 30%、出席状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※1学期に開講する「労働法専門演習I」と併せて受講すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法専門演習I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、いわゆる「国際問題」に関連する「事例」や「判例（国内判例も含む）」等の研究を通じ、国際社会を規律する主要な法体系としての「国際法」が、規範の面で、またそれを担保するシステムの面で、どのような現状に置かれているのか、また、国際政治や国際経済などとのようにかかわってきているのか、その理解をより一層深めていくことを目的とします。【事例 / 判例研究を通じた国際法の基本的運用力の涵養】また社会人基礎力として必要とされる諸能力の涵養を目指します。【社会人基礎力の涵養】国際法専門演習IIとセットで受講してください。4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

教科書 /Textbooks

松井芳郎『ベーシック条約集』（東信堂・最新版）○必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 第1回 コースガイダンス，係決め | 第2回 リサーチの仕方 |
| 第3回 特定課題テーマの提示と調査 | 第4回 フリー・ディスカッション |
| 第5回 学生が選定するグループ課題① | 第6回 グループ準備（テーマ調査） |
| 第7回 グループ準備（主張等の整理） | 第8回 グループ準備（プレゼン資料の作成） |
| 第9回 発表等 | 第10回 学生が選定するグループ課題② |
| 第11回 グループ準備（テーマ調査） | 第12回 グループ準備（主張等の整理） |
| 第13回 グループ準備（プレゼン資料の作成） | 第14回 発表等 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実際の指導は選抜時より始めます。予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、学生が社会に出る / 出ようとするときに、国際法ゼミで勉強してきたことを少しでも活かすことができるようにするためのプログラムを用意します。つまりなぜこの仕事・進路を選ぼうとしているのですかとの問いに対し、大学の国際法ゼミで勉強してきたなかで○○の点に興味を持ったからだと明確に答えられるようにするためのプログラムです。ここまでやりましたと胸を張って言えるものを、頑張っ一緒に作って行きましょう。【キャリアと国際法】国際法専門演習IIとセットで受講してください。4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

教科書 /Textbooks

必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス、役職決め
- 第2回 国際法ゼミとの関連でのキャリア研究：グループ分け
Group A: 自治体と国際法, Group B: 企業と国際法, Group C: 国際機関と国際法 など
受講者の進路希望・数によって実際のグループ分けは異なります。
- 第3回 グループによる予備調査①
- 第4回 グループによる予備調査②
- 第5回 精読文献等の選定・提出 (各グループ)
- 第6回 文献精読①「自治体と国際法G」(全員)
- 第7回 同②「企業と国際法G」(全員)
- 第8回 同③「国際機関と国際法G」(全員)
- 第9回 グループ作業(プレゼン準備)
- 第10回 グループ作業(プレゼン準備)
- 第11回 グループ作業(プレゼン準備)
- 第12回 Group Aの発表
- 第13回 Group Bの発表
- 第14回 Group Cの発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：「契約法に関する重要判例の検討～じっくり考える民法解釈～」本演習では、民法財産法、なかでも契約法分野の重要判例の検討を通じて、契約法理論の理解をいっそう深めることを目的とする。また、受講生同士の議論や教員との議論などを通じて、自身の見解（法的判断）を、他者に分かりやすく、説得力あるかたちで正確に伝える力を養うことも本演習の目的である。議論への積極的参加が本演習における絶対的義務である。

教科書 /Textbooks

- ①中田裕康ほか編『民法判例百選II債権[第6版]（別冊ジュリストNO196）』（有斐閣、2009年）
- ②中野次雄編『判例とその読み方（三訂版）』（有斐閣、2009年）
- ③最新版の六法（判例つきの六法が望ましい）
- ④民法（契約法または債権各論）の体系書・基本書（受講生が普段使用しているもの）
- ⑤民事訴訟法の基本書（受講生が普段使用しているもの）※「5点セット」を必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (※以下のスケジュール等は、受講人数により左右されるので、あくまで予定。)
- 初回授業時に、代表的判例を紹介する。その中から報告判決を選択してもらう。報告形式は、受講人数が6名以下の場合には一人で報告。7名以上の場合は、受講生を3グループに分けて報告をしてもらう。いずれにせよ、報告者（報告グループ）は当然、報告に当たっていない受講生も、積極的に議論に参加することが要求される。報告者（報告グループ）は、採り上げる判決について、（1）事実関係（2）訴訟経過（3）最高裁判所の判決理由（4）争点の所在・従来の学説や判例理論と報告判決との関係（5）調査官解説や判例評釈で示されている見解（6）報告判決についての報告者（報告グループ）の検討結果（判決理由中のどの部分が「判例」か。採り上げた判例の射程なども含め。）を明示しなければならない。報告者（報告グループ）以外の受講生は、（1）～（6）につき、質問・指摘などを報告者（報告グループ）に対して浴びせなければならない。その他、ゼミの詳細な運営方針については、初回時に説明・協議する。
 - 最終授業終了時に、報告した判決についての判例評釈をレポートとして提出してもらう。
 - 第1回ガイダンス、第2回報告順の決定、第3回～第14回報告・議論、第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告の内容など...80%
- レポート（判例評釈）の内容...20% ※レポート未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト②をゼミ開講後、できる限り早い段階で通読しておくこと。報告準備などを入念に行うのは当然のことである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習I【昼】

担当者名 中山 布紗 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、判例の検討を通じて、取引において多発するトラブルの実態を知り、それに対し法律（民法その他特別法）がどのような解決策を提供できるかについて考える。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入①本演習の概要及び報告にあたっての留意点の解説。次週検討する判例の配布。
- 2回 導入②演習担当教員による判例報告。次回以降の報告担当者及び検討判例の決定
- 3回～15回 学生による判例研究報告および議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート（最低本文1万字）...60% 判例研究（報告）...30% 平常点...10%
* レポート課題未提出者、無断欠席者には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、1人1件、各自の興味関心から選定した判例を研究し、事前に作成したレジュメに沿って報告をしてもらう。報告時間は1人あたり40分以内である。報告は次週に持ち越さない。報告後の時間は、受講者全員でその日の検討判決要旨（裁判所の判断）の妥当性について議論するとともに、報告者のレジュメやプレゼンテーションに対する評価（良かった点・悪かった点）につき意見を出し合う。なお、本演習は3年前より、9月頃に九州大学・愛媛大学・宮崎大学の民法ゼミと共同主催する合同合宿に履修学生を送り込んでいる。合宿において学生は、司法試験レベルの事例問題（論述問題）の答えをゼミごとに検討し、議論する（*ゼミ履修者は全員参加）。
本演習は、毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ、議論において「無言厳禁」を原則とするなど、受講者に対する要求度が高いことを付言しておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習I【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国及び中央アジア研究。中国及び中央アジアとは何なのかについて、様々な観点から考察を行う。中国語等のドリルを毎回行う。

教科書 /Textbooks

文献は、各自が探すことになります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 簡単な説明
- 2回 学生Aの報告
- 3回 学生Bの報告
- 4回 学生Cの報告
- 5回 学生Dの報告
- 6回 学生Eの報告
- 7回 学生Fの報告
- 8回 学生Gの報告
- 9回 学生Hの報告
- 10回 学生Iの報告
- 11回 学生Jの報告
- 12回 学生Kの報告
- 13回 学生Lの報告
- 14回 学生Mの報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 ... 10 % 単語・短文ドリル ... 90 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査が大変です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：「契約法文献研究～そしてゼミ論文へ～」。本演習の大きな目的・目標は、二つである。一つは、報告（輪読）を通じてゼミ生みんなが「民法学（本演習では契約法学）の本格的な研究書を一冊読み抜くこと」である。もう一つは、1学期演習で培った契約法に関する重要判例・学説についての知見等を駆使して、受講生諸君の演習における研究成果を「ゼミ論文」というかたちで結実させることである。また、他者（教員を含む）との議論を重ねることで、自身の見解（法的判断）を他者に対して分かりやすく、説得的に伝える力を一層向上させることも本演習の目的といえる。

教科書 /Textbooks

- ①野澤正充 編著『瑕疵担保責任と債務不履行責任』（日本評論社、2009年）
 - ②最新版の六法（判例つき六法が望ましい）
 - ③民法（契約法）の体系書・基本書（受講生が普段使用しているもの）
- ※上記「3点セット」を必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (※以下のスケジュール等は、受講人数により左右されるので、あくまで予定。)
- 初回授業時に、各受講生からゼミ論文の構想を発表してもらおう。なお、報告形式（研究書輪読）は1学期同様、受講人数が6名以下の場合原則一人。7名以上の場合は、受講生を3グループに分けて報告をしてもらう。いずれにせよ、報告者（報告グループ）は、報告担当箇所の要約・関連文献・判例の検討、そして、私見をそれぞれ明示して報告しなければならない。報告者（報告グループ）以外の受講生は、質問・意見などを遠慮なく報告者（報告グループ）に対して浴びせなければならない。積極的な議論がゼミの生命線である。その他、ゼミの詳細な運営方針については、初回時に説明・協議する。「じっくり腰を据えて」契約法の基礎理論を研究しましょう！
 - 最終授業終了時に、「ゼミ論文（10,000字以上）」を提出してもらおう。
 - 第1回 ガイダンス、第2回 テキスト①輪読箇所・報告順等の決定、第3回～第14回（予定）各受講生（ないしグループ）による報告・議論（この間、ゼミ論文の添削・指導も行うので、オフィス・アワーなどを積極的に活用すること。）、第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告内容など...70%
- 「ゼミ論文」の内容...30% ※「ゼミ論文」未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト①をゼミ開講後、できる限り早い段階で通読しておくこと。報告準備を入念に行うことなどは当然である。また、ゼミ論文については、添付ファイルで原稿（途中経過）を授業日の前々日までに教員に毎週送付すること。受け身の姿勢ではゼミにいる意味は全くない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、判例の検討を通じて、取引において多発するトラブルの実態を知り、それに対し法律（民法その他特別法）がどのような解決策を提供できるかについて考える。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 応用①：1学期レポートの総評（担当教官より受講者へ）。報告とレポートの関係についての解説。次週検討する判例配布。
- 2回 応用②：演習担当教員による判例報告。次回以降の報告担当者及び検討判例の決定。
- 3回～15回 学生による判例研究報告および議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート（最低本文1万字）...60% 判例研究（報告）...30% 平常点...10%
* レポート課題未提出者、無断欠席者には単位を認定しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、1人1件、各自の興味関心から選定した判例を研究し、事前に作成したレジюмеに沿って報告をしてもらう。報告時間は1人あたり40分以内である。報告は次週に持ち越さない。報告後の時間は、受講者全員でその日の検討判決要旨（裁判所の判断）の妥当性について議論するとともに、報告者のレジюмеやプレゼンテーションに対する評価（良かった点・悪かった点）につき意見を出し合う。
本演習は、毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ、議論において「無言厳禁」を原則とするなど、受講者に対する要求度が高いことを付言しておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習II 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

演習 1 に引き続いて、中国及び中央アジア研究。ドリルも継続して毎回実施する。

教科書 /Textbooks

開講時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 簡単な説明
- 2 回 学生 A の報告
- 3 回 学生 B の報告
- 4 回 学生 C の報告
- 5 回 学生 D の報告
- 6 回 学生 E の報告
- 7 回 学生 F の報告
- 8 回 学生 G の報告
- 9 回 学生 H の報告
- 10 回 学生 I の報告
- 11 回 学生 J の報告
- 12 回 学生 K の報告
- 13 回 学生 L の報告
- 14 回 学生 M の報告
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 ... 10 % 単語・短文ドリル ... 90 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

調査が大変です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習I【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する基本的な論点について学習し、知識を習得することを目的とします。毎回、判例について、報告者から報告を受け、全員で討議します。

教科書 /Textbooks

最初の講義のときに紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義のときに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進行方法についての説明、報告者の決定
- 2回 以下、順次、個別報告
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する重要な論点について学習し、知識を習得することを目的とする。毎回、判例について、報告者から報告を受け、全員で討議する。

教科書 /Textbooks

最初の講義のときに紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 報告者の決定
- 2回 以下、順次、個別報告
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習I【昼】

担当者名 今泉 恵子 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業「金融ファイナンス」に関する法的問題を取り扱った文献や判例の分析・検討を目的とします。参加者がみずから選択し、報告を行った文献あるいは判例について期末にレポートを作成することが最終目標となります。*原則として、企業法専門演習IIとセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献は各自のテーマ毎に適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 セミ運営方針の説明、判例研究・事例研究の意義を理解する
- 第2回 各自が選択を希望する判例・事例等について、選択にあたっての問題意識を確認したり、明確化したりする。
- 第3回 選択しようとしている判例に関連する裁判例や判例解説がどの程度あるのかを調べて、通して、研究対象にしやすい判例かどうかを見極める。
担当判例の決定、報告要旨(レジュメ)作成の方法についての説明、報告順番の決定。
- 第4回～第15回 各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート作成を含むゼミへの参加度...100%
(無断欠席はゼミ放棄とみなします)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- (1)判例研究の場合：担当者が、事案の概要、判決要旨、争点に関する学説・判例の状況などを一通り報告した後、判旨の展開のあり方、当該判例の位置づけ(射程距離)などについて、議論のタネを提示します。それを受けて参加者全員で議論します。
- (2)文献紹介の場合：担当者が、当該文献の概要について一通り報告した後、論旨展開のあり方や評価・批評など、議論のタネを提示します。それを受けて参加者全員で議論します。
- (3)報告担当者は、報告発表の要旨=レジュメを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、2号館4階2-414研究室前の廊下にあるテーブルの上に提出しておいてください。その他の参加者には、上記のコピーを受け取っておき、事前に目を通して、問題点・争点等を把握した上で、さらに別の論点の提示などの準備をしてゼミに参加することを望みます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業「金融」に関わる法律問題を対象とする判例・論文等の分析・検討。本演習は、受講者がゼミ形式の授業をすでに経験し、法律文献の読み方についての基礎知識があることを前提に実施されるものです。参加者が選択し、報告を行った文献・判例について期末にレポートを作成することが最終目標となります。*原則として、「企業法専門演習I」とセットで受講してください。

教科書 /Textbooks

テキストは、特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自が選択した判例・文献に応じて、その都度、参考文献を指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミ運営方針の説明、各自が選択を希望する判例・事例等を紹介する
(初回時までに、自分が調べてみたい判例・事例を各自2~3件分用意しておき、なぜ興味をもっているのかについて、発表する)
- 第2回 報告の仕方、レジюме作成方法などについて学ぶ。報告テーマと順番を確定する。
- 第3回~第15回 各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告内容・議論内容・レポートを総合する、ゼミへの参加度...100%
(無断欠席はゼミ放棄とみなされる場合があります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 判例研究の場合：担当者が、事案の概要、判決要旨、争点に関する学説・判例の状況などを一通り報告した後、判旨の展開のあり方、当該判例の位置づけ(射程距離)などについて、議論のタネを提示します。それを受けて参加者全員で議論します。
- 文献紹介の場合：担当者が、当該文献の概要について一通り報告した後、論旨展開のあり方や評価・批評など、議論のタネを提示します。それを受けて参加者全員で議論します。
- 報告担当者は、報告発表の要旨=レジюмеを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、2号館4階2-414研究室前の廊下にあるテーブルの上に提出しておいてください。その他の参加者には、上記のコピーを受け取っておき、事前に目を通して、問題点・争点等を把握した上で、さらに別の論点の提示などの準備をしてゼミに参加することを望みます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習II【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業取引に関する法的問題について、定期的に報告を行い、学期末にレポートを作成すること（企業法に関する「演習」を既に履修済みであることが前提になります）。

なお、必要に応じて、関連文献の輪読なども実施する。

* 上記担当者による「個別研究指導Ⅱ」とセットで受講すること

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、受講者の選択テーマに応じて、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この研究指導は、受講者各自に対して個別に行われる部分と、受講者全員に対して共通課題の設定や（全体 / 合同）報告会（例えば他の「企業法」関連の「演習」科目受講者との合同など）への参加という形で集団的に実施される部分とから成る。

第1回目の指導日に今後の研究指導のスケジュールや内容について受講者と協議します。

第2回～第15回・・・報告と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告内容・レポート作成を含むゼミへの参加度...100%
（無断欠席はゼミ放棄とみなします）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究指導時に参照する文献については事前に目を通して、問題点・争点等を把握した上で、さらに別の論点の提示などの準備をしてゼミに参加することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 植木 淳 / 法律学科

履修年次 4年次 /Year 単位 2単位 /Credits 学期 1学期 /Semester 授業形態 演習 /Class Format クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法学に関する基礎的な知識・理解を前提として、更に、高度な、憲法理論・人権理論の修得をしていただくことを目的とする。このような目的から、履修者には「個別研究指導Ⅱ」と併せて受講した上でゼミ論文（20000字程度）を執筆することを単位取得の条件とする（1学期は、中間論文をとりまとめることまでを目的とする）。

教科書 /Textbooks

各自のゼミ論文作成のために最適な参考文献などを紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究指導
- 3回 研究指導
- 4回 研究指導
- 5回 研究指導
- 6回 研究指導
- 7回 研究指導
- 8回 研究指導
- 9回 研究指導
- 10回 研究指導
- 11回 研究指導
- 12回 研究指導
- 13回 研究指導
- 14回 研究指導
- 15回 研究指導

成績評価の方法 /Assessment Method

中間論文 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 対面式 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本法制史に関する論文指導

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

指導を希望する者は、テーマ、構想、研究の進捗状況につき報告してもらう

成績評価の方法 /Assessment Method

論文のための中間報告(レポート) 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政法の判例を素材として判例研究を行い、行政法全体についての理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政法判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同『行政法判例百選II(第五版)』(同)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
2回 判例の選択
3回～15回 レポートの作成
(複数の判例についてレポートを作成し提出すること。)
- テーマの設定および参考文献については各参加者と協議する。
進捗状況について報告を求めるとともに適宜指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出されたレポートの評価 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 落合 俊行 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法規範と憲法現実とのきわめて深刻な乖離を直視して、人権保障という目的のために、どのように民主的統治機構が手段として構築されているのか、かけがえのない個人を「個人として尊重」という基本的視点から、法廷に持ち込まれたさまざまな人権に関する憲法判例を学び、最近の人権理論を展望します。履修者数にもよりますが、毎月2回の判例研究報告があります。そして、学期末には、統治機構に関する問題、人権に関する問題について、研究レポートを執筆します。

教科書 /Textbooks

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

手島・安藤『憲法新教科書』（法律文化社）
高見勝利『芦部憲法学を読む』（有斐閣）
高橋・大石『憲法の争点』（有斐閣）
芦部信喜『憲法』（岩波書店）
佐藤幸治『憲法』（青林書院）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初の授業のときに、関心のある判例を列挙して、報告判例を決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30 % 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は課題判例について「判例時報」や「判例タイムス」などを調べて裁判所の判決文を全文読むことが必要です。毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法専門演習I・IIで学んだことを前提に、民事訴訟法に関する論文を執筆する。
講義，演習に続く民事訴訟法学習の集大成である。
希望者と、個別に面談し、研究指導を行う。個別研究指導IIと併せて、最終的には、分量20000字程度の卒業論文を執筆してもらう。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 すべて、個別指導
- 2回
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

論文 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまでのゼミでは、現代正義論を主題として、ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥワオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥワオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマッセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥワオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』などを読み進めてきた。本年は、その延長上で、後期ハーバーマスの主著とも言うべき法哲学的著作『事実性と妥当性』を取り上げることで、正義の問題への討議理論的アプローチの再検討を行う。同書を素材としながら、本演習では、現代正義論にとっても重要なテーマとなっている「承認」の問題も検討する予定である。

教科書 /Textbooks

○ハーバーマス『事実性と妥当性（上）』（未来社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ハーバーマス『事実性と妥当性（下）』（未来社）
- 毛利透『民主制の規範理論 - 憲法パトリオティズムは可能か』（勁草書房）
- 中岡成文『ハーバーマス』（講談社）、小牧治・村上隆夫『ハーバーマス』（清水書院）
- 川本隆史『ロールズ』（講談社）、牧野広義『現代倫理と民主主義』（地歴社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第3回では、コピー等を使いながら、現代正義論の展開の構図を概観する。第4回～第13回は上記テキストを分担して報告し、議論しながら読み進める。第14回～第15回はまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 30% 報告... 40% 質問等の状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する新しい判例等の検討を行います。高橋担当の企業法入門演習・応用演習を受講済みの学生を対象として、会社法に関する更なる理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

個別研究指導は受講者に対し、判例の検討を通じて取引において多発するトラブルの実態を知り、それに対し法律（民法その他特別法）がどのような解決策を提供できるかについて考えていただく。このほか個別研究指導では、民法分野のトピックスについてより高度な研究を希望する者に対して論文（レポート）執筆の指導を行う。さらに、民法の基本論点に関する論述問題を解き、検討会を通じて議論する機会を設ける。

教科書 /Textbooks

適宜必要と思われる資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入①本演習の概要及び消費者トラブルの種類と対策に関する解説 / 次週検討判例配布
- 2回 導入②演習担当者による判例研究（例示） / 次回以降の報告担当者及び検討判例の決定
- 3回～15回 学生による判例研究報告および議論

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート（2万字）... 60% 判例研究（報告）... 30% 平常点... 10%
レポート課題未提出者、無断欠席者には単位を認定しない。

* 本個別研究指導における通常の演習活動は、3年次配当の「民法専門演習I」と合同で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、1人1件、各自の興味関心から選定した判例を研究し、事前に作成したレジュメに沿って報告をしてもらう。報告時間は1人あたり40分以内である（報告は次週に持ち越さない）。残りの時間は、受講者全員でその日の検討判決要旨（裁判所の判断）の妥当性について議論するとともに、報告者のレジュメやプレゼンテーションに対する評価（良かった点・悪かった点）につき意見を出し合う。本演習は、毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ、議論において「無言厳禁」を原則とするなど、要求度が高い。
* 上記の演習活動のほか、個別研究指導履修者は、民法の基本論点に関する論述問題検討会に参加すること（開催日程は受講者と相談して決める）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本研究指導は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。個別研究指導IIとセットで受講してください。受講希望者多数の場合は、国際法入門演習、国際法応用演習を履修している学生を優先します。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者のニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

第I段階①問題意識の確認→ゼミ論文のテーマ設定
②論文作成の可能性の探究→関連文献リストの作成

第II段階①問題の所在の明確化→事実関係等の整理
②先行研究の整理→文献報告
③関連文献の整理→情報カードの作成・蓄積

第III段階 ゼミ論文のアウトラインの作成・報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。

アサインメントの実施状況...100%

なお全体会へ無断欠席をした者や、やる気の感じられない学生に対しては、本研究指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

すでに刑事法系科目（刑法、刑事訴訟法、犯罪学、刑事政策）のすべてを履修済みかあるいは現在当該科目を履修中である学生を対象として、各学生の関心ある刑事法上の研究テーマを講義レベルより一層掘り下げて、個別的・具体的に調査研究することを目的としています。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、必要に応じて、その都度指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 受講学生と相談のうえ、具体的な授業内容などについて決定する。
- 3回～14回 以下同じ。
- 15回 レポート（プロスペクタス）提出

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本科履修前に、「刑事学専門演習I&II」を受講していれば、調査研究の方法に関する基礎的知識を習得することができます。刑事法系専門科目のすべてを受講した場合は、研究テーマの理解がより深いものになります。なお、「個別研究指導I」は、「個別研究指導II」と一体的・連携的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 4年次 /Year 単位 2単位 /Credits 学期 1学期 /Semester 授業形態 演習 /Class Format クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀ドイツ法学の精華に触れるために、19世紀のドイツ語文献の講読を行う。

教科書 /Textbooks

未定。ただし、ドイツ亀甲文字の文献を使う。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文献の決定
- 2回 文献講読
- 3回 文献講読
- 4回 文献講読
- 5回 文献講読
- 6回 文献講読
- 7回 文献講読
- 8回 文献講読
- 9回 文献講読
- 10回 文献講読
- 11回 文献講読
- 12回 文献講読
- 13回 文献講読
- 14回 文献講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の希望を考慮して、テーマを決定し、刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

立石二六編『刑法総論30講』（成文堂）2007年4月1日、2800円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

立石二六著『刑法総論・補正版』（成文堂）平成16年3月、4000円＋税
 ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第5版]』（有斐閣）平成25年4月、2105円＋税
 船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』（不磨書房）平成15年3月、2000円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定
 第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
 第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
 第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
 第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
 第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
 第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
 第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの評価による（レポート評価100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の研究したい課題または問題意識を、文献を調べたりして、深めていくことを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の研究したい課題または問題意識を、文献を調べたりして、深めていくことを目的とする。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50% 文献吟味 ... 40% 質疑応答 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

十分に文献を検討しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法財産法、なかでも、契約法分野を主たる対象とした研究論文を執筆すること（ただし、個別研究指導Ⅰでは、「個別研究指導Ⅱ」で作成する本格的「研究論文」執筆のための「中間論文」を作成することが主たる目的となる。）がこの授業の目的である。受講生の研究（論文執筆）の進捗状況を考慮しつつ、適宜、参照すべき文献、裁判例等を指示する。3年次の「民法演習」以上に「忍耐力とやる気」が要求される。したがって、生半かな気持ちでの履修は一切認めない。

教科書 /Textbooks

※特に使用しない。論文作成に必要な文献等については、各自購入するか、図書館から借りるなどすること。また、教員の方でも文献、判例評釈等のコピーを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※各受講生が参照すべき文献などは、教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(※以下のスケジュールは、受講人数等の諸事情により変更する可能性がある。したがって、一応の「めやす」にすぎない。)

第1回 ガイダンス：論文テーマの確認。※「未定」の場合、次回までに必ず考えてくること。

第2回～第14回（指導日時は受講生と相談して決定。）：論文指導（質問受付・参考文献指示・原稿添削など。なお、オフィス・アワーを積極的に活用すること。）。

第15回 まとめ

※6月下旬～7月上旬：中間論文プレ報告（報告後、修正すべき点などを指示する。）

※7月下旬：中間論文報告会および中間論文提出（予定）。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 研究姿勢（研究全般における積極性）... 20%
- 中間論文の進捗状況（教員の指導をきちんと反映させようと意識して執筆を進めているか）... 40%
- 中間論文プレ報告および中間論文報告会の内容... 10%
- 中間論文（6,000字程度）の内容の完成度... 30%

※（注意）中間論文未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中間論文執筆指導の際、教員が指示した文献を必ず調べて、論文の内容に活かすこと。そのうえで執筆を進め、途中経過を逐次メール等で事前に教員に報告すること。こういった準備をコツコツこなしていくことが論文完成につながる。これを怠る者には指導は行わない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「労働法専門演習I・II」を履修した者を対象として、労働法の諸問題のなかから、未解決あるいは創造的な課題を自ら設定し、調査・検討を行ったうえで論文にまとめることにより、総合的な法的思考力を身につける。個別研究指導を通して、研究目標達成のためのプロセス、考え方を学習する。前半は、テーマの決定、資料収集、論文構成について指導し、後半は、記述の内容について指導する。労働法を専攻とする大学院進学、あるいは、労働法を主要科目とする資格試験等を目指す学生には、できる限り配慮したい。

教科書 /Textbooks

指導を通じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指導を通じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者と相談して決定する。
学期末に中間報告を提出することが求められる。

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容... 50%、発言内容... 30%、出席... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※引き続き「労働法専門演習I・II」に参加することが履修条件となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導I【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論・刑法各論及び刑法専門演習I・IIにおいて習得した知識及び理解を基礎にして、受講者各人が関心をもっている刑法に関する研究テーマを、専門的、具体的かつ緻密に研究し、論文にまとめることを目的とします。単なる知識の取得に留まることがないように、自己の考察を説得的な文章で表現することに重点をおきます。

受講者各人の目的に応じて、個別テーマごとに数通の小論文を作成していくか、単一のテーマについての論文（ゼミ論文）を作成していきます。

講座全体のキーワードは、刑事法的思考力及び論理的説得力を習得することです。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる資料を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス、テーマ配分など

2回～15回 報告及びディスカッション

※個別研究指導は、原則として、週1回程度、担当者と受講者の都合の良い日時に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポートを含む)...50% 討論及び発言内容...50%

※演習への参加状況(出席状況、報告内容、討論及び発言内容)、レポート及び提出された論文(ゼミ論文)などにより、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者各人が選定した研究テーマについて、レポートを作成してもらいます。提出されたレポートを基にしたディスカッションを通じて、丁寧に検討を進めていきます。ディスカッションと再検討の成果を、次回の個別研究(レポート)にフィードバックすることが求められます。

個別研究指導Iは、個別研究指導IIと連続して展開することを予定していますので、個別研究指導IIを併せて履修することを強く推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業取引に関する法的問題について、定期的に報告を行い、学期末にレポートを作成すること（企業法に関する「演習」を既に履修済みであることが前提になります）。

なお、必要に応じて、関連文献の輪読なども実施する。

* 上記担当者による「個別研究指導Ⅰ」とセットで受講すること

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、受講者の選択テーマに応じて、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この研究指導は、受講者各自に対して個別に行われる部分と、受講者全員に対して共通課題の設定や（全体 / 合同）報告会（例えば他の「企業法」関連の「演習」科目受講者との合同など）への参加という形で集団的に実施される部分とから成る。

第1回目の指導日に今後の研究指導のスケジュールや内容について受講者と協議します。

第2回～第15回・・・報告と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・報告内容・レポート作成を含むゼミへの参加度...100%
（無断欠席はゼミ放棄とみなします）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究指導時に参照する文献については事前に目を通して、問題点・争点等を把握した上で、さらに別の論点の提示などの準備をしてゼミに参加することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法学に関する基礎的な知識・理解を前提として、更に、高度な憲法理論・人権理論の修得をしていただくことを目的とする。このような目的から、履修者には「個別研究指導I」と併せて受講した上でゼミ論文（20000字程度）を執筆することを単位取得の条件とする。

教科書 /Textbooks

各自のゼミ論文作成のために最適な参考文献などを紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究指導
- 3回 研究指導
- 4回 研究指導
- 5回 研究指導
- 6回 研究指導
- 7回 研究指導
- 8回 研究指導
- 9回 研究指導
- 10回 研究指導
- 11回 研究指導
- 12回 研究指導
- 13回 研究指導
- 14回 研究指導
- 15回 研究指導

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミ論文 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 対面式 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
論文指導

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
論文内容につき定期的に報告してもらう

成績評価の方法 /Assessment Method
論文 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

個別研究指導Iに引き続き、行政法の判例を素材として判例研究を行い、行政法全体についての理解を深めることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政法判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同 『行政法判例百選I(第五版)』(同)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 判例の選択
- 3回～15回 判例についてのレポート作成
複数の判例についての報告を求める。
テーマの設定及び参考文献とうについては、参加者と協議する。
進捗状況については報告を求めるとともに、適宜指示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出されたレポートの評価 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法規範と憲法現実とのきわめて深刻な乖離を直視して、人権保障という目的のために、どのように民主的統治機構が手段として構築されているのか、かけがえのない個人を「個人として尊重」という基本的視点から、法廷に持ち込まれたさまざまな人権に関する憲法判例を学び、最近の人権理論を展望します。履修者数にもよりますが、毎月2回の判例研究報告があります。そして、学期末には、統治機構に関する問題、人権に関する問題について、研究レポートを執筆します。

教科書 /Textbooks

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

手島・安藤『憲法新教科書』（法律文化社）
高見勝利『芦部憲法学を読む』（有斐閣）
高橋・大石『憲法の争点』（有斐閣）
芦部信喜『憲法』（岩波書店）
佐藤幸治『憲法』（青林書院）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初の授業のときに、関心のある判例を列挙して、報告判例を決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30 % 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は課題判例について「判例時報」や「判例タイムス」などを調べて、裁判所の判決文を全文読むことが必要です。毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法専門演習I・IIで学んだことを前提に、民事訴訟法に関する論文を執筆する。
民事訴訟法についての講義，演習に続く民事訴訟法学習の集大成である。
希望者と、個別に面談し、研究指導を行う。個別研究指導Iと併せて、最終的には、分量20000字程度の卒業論文を執筆してもらう。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 すべて、個別指導
- 2回
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の個別研究指導Iでは、現代正義論の構図を概観した上で、現代正義論のその後の展開について学ぶ予定である。2学期の個別研究指導IIでは、「現代正義論」という主題に特に限定せず、広い意味で「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的主题にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて、自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者がその都度参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同上

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回は、はじめに。第2回～第13回は、ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。第14回～第15回は、まとめ。
2学期は特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上でゼミに臨んで欲しい。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 30% 報告... 40% 質問等の状況... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する新しい判例等の検討を行います。高橋担当の企業法入門演習・応用演習を受講済みの学生を対象として、会社法に関する更なる理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

個別研究指導は受講者に対し、判例の検討を通じて取引において多発するトラブルの実態を知り、それに対し法律（民法その他特別法）がどのような解決策を提供できるかについて考えていただく。このほか個別研究指導では、民法分野のトピックスについてより高度な研究を希望する者に対して論文（レポート）執筆の指導を行う。さらに、民法の基本論点に関する論述問題を解き、検討会を通じて議論する機会を設ける。

教科書 /Textbooks

適宜必要と思われる資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 応用①：1学期レポートの総評（担当教官より受講者へ）。報告とレポートの関係について の解説。次週検討する判例配布。
- 2回 応用②：演習担当教員による判例報告。次回以降の報告担当者及び検討判例の決定。
- 3回～15回 学生による判例研究報告および議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート（2万字）...60% 判例研究（報告）...30% 平常点...10%
レポート課題未提出者、無断欠席者には単位を認定しない。

* 本個別研究指導における通常の演習活動は、3年次担当の「民法専門演習II」と合同で行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、1人1件、各自の興味関心から選定した判例を研究し、事前に作成したレジュメに沿って報告をしてもらう。報告時間は1人あたり40分以内である（報告は次週に持ち越さない）。残りの時間は、受講者全員でその日の検討判例要旨（裁判所の判断）の妥当性について議論するとともに、報告者のレジュメやプレゼンテーションに対する評価（良かった点・悪かった点）につき意見を出し合う。本演習は、毎回の準備作業が相当な量になることをはじめ、議論において「無言厳禁」を原則とするなど、要求度が高い。
* 上記の演習活動のほか、個別研究指導履修者は、民法の基本論点に関する論述問題検討会に参加すること（開催日程は受講者と相談して決める）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本研究指導は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。個別研究指導Ⅰとセットで受講してください。受講希望者多数の場合は、国際法入門演習、国際法応用演習を履修している学生を優先します。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者のニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

- 第Ⅳ段階①ゼミ論文アウトラインの確定
- ②ゼミ論文の中間報告

- 第Ⅴ段階①ゼミ論文初稿の提出→添削指導→修正
- ②ゼミ論文第2稿の提出→添削指導→再修正

第Ⅵ段階 ゼミ論文完成稿の提出→ゼミ論文集に

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況とゼミ論文をもとに評価します。

アサインメントの実施状況...50% ゼミ論文...50%

なお全体へ無断欠席をした者や、やる気の感じられない学生に対しては、本研究指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「個別研究指導I」の項目参照。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、必要に応じて、その都度指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～14回 受講学生と相談のうえ、具体的な授業内容などについて決定する。
15回 最終レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題...30% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「個別研究指導I」の項目参照。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀ドイツ法学の精華に触れるために、19世紀のドイツ語文献の講読を行う。

教科書 /Textbooks

未定。ただし、ドイツ亀甲文字の文献を使う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文献の決定
- 2回 文献講読
- 3回 文献講読
- 4回 文献講読
- 5回 文献講読
- 6回 文献講読
- 7回 文献講読
- 8回 文献講読
- 9回 文献講読
- 10回 文献講読
- 11回 文献講読
- 12回 文献講読
- 13回 文献講読
- 14回 文献講読
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の希望を考慮して、テーマを決定し、刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

立石二六編『刑法総論30講』（成文堂）2007年4月1日、2800円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

立石二六著『刑法総論第三版』（成文堂）平成20年、4000円＋税
 ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第5版]』（有斐閣）平成25年4月、2105円＋税
 船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』（不磨書房）平成15年3月、2000円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定
 第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
 第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
 第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
 第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
 第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
 第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
 第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの評価による（レポート評価100％）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生の研究したい課題または問題意識を、文献などを調べながら、深めていくことを、目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初の時間に受講生と話し合っ決めていく予定である。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50% 文献吟味 ... 40% 質疑応答 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

十分に文献を検討しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

個別研究指導Iで作成した「中間論文」を本格的な「研究論文」にすることがこの授業の最大のテーマ・目的である。民法財産法、なかでも、契約法分野を主たる対象とした研究論文の執筆を、各受講生の研究の進捗状況等に応じて個別指導する。言うまでもないことだが、論文執筆には、各受講生に「受け身」でなく、「能動的」な研究姿勢が強く求められる。この点、留意されたい。具体的な指導内容は、受講生の論文執筆の進捗状況を考慮しつつ、適宜、参照すべき文献、裁判例などを指示し、論文の添削を行うというものである。なお、生半可な気持ちでの履修は一切認めない。

教科書 /Textbooks

※使用しない。論文作成に必要な文献等については、各自購入するなり、図書館から借りるなどすること。また、教員の方でも必要な文献等のコピーを指示・用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※指定しない。各受講生が参照すべき文献などは、教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(※以下のスケジュールは、受講人数等の諸事情により変更する場合がある。したがって、一応の「めやす」にすぎない。なお、受講生が1～2名の場合、3年ゼミに参加してもらう予定である。)

第1回 ガイダンス：論文テーマの再確認。※個別研究指導Iで扱ったテーマの大幅変更を予定している者は、この初回授業時に必ず申し出ること。

第2回～第14回 (指導日時は受講生と相談して決定。)：論文指導(参考文献の指示・原稿添削など。オフィス・アワーも積極的に活用すること。)

第15回 まとめ

※12月中旬(予定)：論文プレ報告(報告後、修正すべき点などを指示する。)

※翌年1月下旬：論文報告会および論文提出。※論文の体裁等はガイダンスの際に説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 論文完成までの研究姿勢(指導内容を反映させようで執筆を進めているか。)…40%
 - 論文プレ報告および論文報告の内容…30%
 - 「研究論文(20,000字以上〔字数に上限はない。〕)」の内容の完成度…30%
- (※注意)論文未提出者には単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

論文指導の際、教員が指示した文献等を必ず検討し、論文の内容に活かすこと。そのうえで執筆を進め、途中経過を逐次メール等で教員に報告すること。このような準備を着実にこなしていくことが論文完成につながる。これを怠る者には指導は行わない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導II 【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「個別研究指導I」に引き続き、履修者は、自らが設定した課題の探究・解明に全力を傾け、学期末にその成果として論文を提出することが求められる。「個別研究指導I」の記述も参照のこと。

教科書 /Textbooks

指導を通じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指導を通じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者と相談して決定する。
学期末に論文を提出することが求められる。

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容... 50%、発言内容... 30%、出席... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※引き続き「労働法専門演習I・II」に参加することが履修条件となる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

個別研究指導Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論・刑法各論及び刑法専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて習得した知識及び理解を基礎にして、受講者各人が関心をもっている刑法に関する研究テーマを、専門的、具体的かつ緻密に研究し、論文にまとめることを目的とします。単なる知識の取得に留まることがないように、自己の考察を説得的な文章で表現することに重点をおきます。

受講者各人の目的に応じて、個別テーマごとに数通の小論文を作成していくか、単一のテーマについての論文（ゼミ論文）を作成していきます。（原則として、）論文（ゼミ論文）を作成・提出することを最終目標とします。

講座全体のキーワードは、刑事法的思考力及び論理的説得力を習得することです。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜必要と思われる資料を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス、テーマ配分など

2回～15回 報告及びディスカッション

※個別研究指導は、原則として、週1回程度、担当者と受講者の都合の良い日時に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポートを含む）...30% 討論及び発言内容...30% 論文（ゼミ論文）...40%

※演習への参加状況（出席状況、報告内容、討論及び発言内容）、レポート及び提出された論文（ゼミ論文）などにより、総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者各人が選定した研究テーマについて、レポートを作成してもらいます。提出されたレポートを基にしたディスカッションを通じて、丁寧に検討を進めていきます。ディスカッションと再検討の成果を、次回の個別研究（レポート）にフィードバックすることが求められます。

個別研究指導Ⅱは、個別研究指導Ⅰと連続して展開することを予定していますので、個別研究指導Ⅰを併せて履修することを強く推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 達哉 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、慣習、しきたり中心の社会から契約中心の法化社会へ移行しつつある現代社会において必要とされる基本的な法的知識を理解することを目標とします。また、法学についての基本的な考え方を習得することも講義のねらいとします。講義では、日常的な事例を挙げて説明します。日常生活が如何に法に密接に結びついているかを理解してもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

村田彰 編 『リーガルスタディー 法律学入門』 酒井書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

六法および法律用語辞典など (出版社の指定はありません)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法学を学ぶにあたって「闘争」を意識する。
- 2回 社会規範について、法と道徳との違い。
- 3回 法源、六法、法令の調べ方と読み方。
- 4回 判例の調べ方と読み方。
- 5回 裁判制度と法曹
- 6回 民事訴訟と刑事訴訟
- 7回 裁判員制度
- 8回 経済生活と法1 (民法と契約の種類)
- 9回 経済生活と法2 (契約と債務不履行)
- 10回 経済生活と法3 (民法の意思表示)
- 11回 経済生活と法4 (クーリングオフ)
- 12回 家族と法
- 13回 国家と法
- 14回 福祉と法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度(20%) + 知識の確認課題(40%) + レポート課題(40%)を総合的に評価します。
※受講態度は減点方式で評価します。私語・途中入退室・携帯電話など講義妨害行為を広く減点対象としております。講義の1回目で詳細を解説し9回目に再度確認します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は教科書に則して進めます。耳慣れない用語は予め辞書などで調べておいてください。
受講後に気になる用語があれば必ず辞書などで再確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代法曹論I【昼】

担当者名 /Instructor 迫田 学 / sakoda manabu / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

裁判官、検察官、弁護士を総称して「法曹」といいます。裁判員制度が始まり、市民と法曹とが協働する時代となりました。本講義では、少年事件、刑事事件、労働事件、ハンセン病訴訟、薬害C型肝炎訴訟など具体的事件を通じて、法曹のものの考え方や法律実務の様子について学んでいただくことを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献は講義において適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

スケジュールは、進捗に応じて変更する場合があります。

- 1回 オリエンテーション 法曹とは
- 2回 刑事裁判の基礎 1
- 3回 刑事裁判の基礎 2
- 4回 裁判員制度
- 5回 少年事件 1
- 6回 少年事件 2
- 7回 憲法の基礎 1
- 8回 憲法の基礎 2
- 9回 ハンセン病違憲国家賠償訴訟 1
- 10回 ハンセン病違憲国家賠償訴訟 2
- 11回 薬害C型肝炎訴訟 1
- 12回 薬害C型肝炎訴訟 2
- 13回 B型肝炎訴訟
- 14回 労働法
- 15回 司法改革と法曹の果たすべき役割

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の成績を中心に総合評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代法曹論II 【昼】

担当者名 /Instructor 川上 修 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

身近に起こりうる様々な法律問題の検討を通じて、法曹三者（裁判官，検察官，弁護士）の役割と現代的意義を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

指定しない。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード)

- 1回 法曹三者に関する基礎知識【法曹】
- 2回～3回 裁判官の業務と現代的意義【裁判官】【司法権】【三審制】
- 4回 裁判官講師による講義
- 5回～6回 検察官の業務と現代的意義【検察官】【起訴独占主義】
- 7回 検察官講師による講義
- 8回～9回 弁護士の業務と現代的意義【弁護士】【代理人】【弁護人】【弁護士自治】
- 10回 弁護士講師による講義
- 11回 刑事裁判手続きにおける法曹三者の役割（起訴前）【捜査】【被疑者】【逮捕】【勾留】
- 12回 刑事裁判手続きにおける法曹三者の役割（起訴後）【保釈】【無罪推定】
- 13回 民事裁判手続きにおける法曹の役割【訴訟代理人】【処分権主義】【弁論主義】【和解】
- 14回 民事裁判手続きにおける法曹の役割【調停】【支払督促】【少額訴訟】
- 15回 周辺他種業講師による講義【司法書士】【行政書士】【公認会計士】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 40% 課題... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて指示する。

履修上の注意

講義中，講師の方から質問して発言を求めることがある。知識の確認ではなく，人に自分の意見を説明する能力を向上させることを目的とする。発言内容は成績評価の基礎にはしないので，自由に発言していただきたい。
授業内容及びスケジュールは，外部講師の都合によって変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法律実務論I【昼】

担当者名 /Instructor 仰木 伸介 / OHGI SHINSUKE / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

司法書士制度の中でも、司法書士法、不動産登記法に重点を置いた講義により、司法書士の実務に対する理解を深めていくことを目的とする。特に、我が国における不動産取引と登記制度の関係並びに司法書士の職責を中心に解説する。司法書士試験についてもアドバイスも行う。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しないので、各自六法を持参のこと（司法書士法が掲載されていない場合は、各自で準備しておくこと）。講義用のレジユメを定期的に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 司法書士の職務全般と市民との関わり
- 2回 司法書士制度の歴史
- 3回 司法書士法及び関係法令
- 4回 司法書士法改正の方向性
- 5回 日本における不動産取引の現状I
- 6回 日本における不動産取引の現状II
- 7回 不動産登記法I(総論)
- 8回 不動産登記法II(各論)
- 9回 不動産登記法III(各論)
- 10回 不動産登記法IV(実務)
- 11回 認定司法書士制度の現状
- 12回 消費者問題への取り組み
- 13回 多重債務問題と司法書士倫理
- 14回 司法書士試験の現状と今後の予測
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(1回)...40% 期末テスト...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義中に配布したレジユメは、その後の講義の際に持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法思想史【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探求する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることとする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたいうえてそれを相対化することもまた、可能となってくるであろう。

教科書 /Textbooks

○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳, 濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房）
- 田中成明, 竹下賢, 深田三徳, 亀本洋, 平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店）、○三島淑臣『法思想史』（青林書院）
- F・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法思想史とは
- 第2回～第6回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想の展開
【トマス・アクィナス】【ホッブズ】【ロック】【ケルゼン】【ハート】
- 第7回～第13回 現代正義論への法思想の展開
【アリストテレス】【実践哲学の復権】【ロールズ】【ノジック】【ドゥオーキン】
【共同体主義】【マルチカルチュラリズム】
- 第14回～第15回 法思想史のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「現代正義論」を1年次に受講していれば、より理解しやすい。講義前には、テキストの該当箇所を読み、講義後には各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史【昼】

担当者名 岡 邦信 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古代から中世の法と制度、特に中世の国制、武家政権の支配機構、裁判制度について、適宜資料等を配布し、解説する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石井良助「日本法制史概説」創文社
- 牧・藤原編「日本法制史」青林書院
- 義江彰夫 日本通史I「歴史の曙から伝統社会の成熟へ」山川出版
- 水林彪 日本通史II「封建制の再編と日本の社会の確立」山川出版
- 網野善彦 「日本社会の歴史」上・中・下 岩波書店
- 水林・大津・新田・大藤編 新体系日本史2 「法社会史」山川出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法制史とは何か
- 2回 時代区分論
- 3回～4回 律令継受以前の国制【天津罪】【国津罪】【盟神探湯】
- 5回～6回 律令と律令国家の実態【官位相当性】【蔭位制】【八虐】【五刑】
- 7回～9回 律令制の解体と荘園公領制【負名田堵】【初期荘園】【雑役免系荘園】【寄進地型荘園】
- 10回～12回 武士団【国衙軍制】
- 13回～16回 中世国家と封建制)【レーエン制】【フューダリズム】
- 17回～18回 中世主従関係【家礼型】【家人型】
- 19回～20回 鎌倉期の法源【幕府法】【在地領主法】
- 21回～23回 鎌倉幕府訴訟制度【所務沙汰】【雑務沙汰】【検断沙汰】【引付】
- 24回 建武政権と南北朝
- 25回～30回 室町幕府と室町期の法源【一揆契状】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは使用しませんので、参考文献を利用し、予習復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法社会学【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

法社会学は、実定法解釈学とは異なる視角から、法現象を観察・分析し、言語化する学問です。法解釈学が法システム「内部」の営為だとするならば、法社会学は、法システムをその「外部」から意味づけていく、すなわち、法や規範が、社会の中で、いかなる意味を纏っているのかにつき、多様なアプローチを用いつつ考察していくのが大きな特徴です。受講生には、こうした法社会学的思考の多元性やその意義を理解してもらい、それを以って法解釈学的な知見を豊饒化してもらうとともに、日々の生活の中での問題発見・問題構築の力を養っていくことを望んでいます。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。テーマごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (講義の進め方等についての説明)
- 2回 法社会学的観察とは何か (1) 【法システムの「内部」と「外部」という視点
- 3回 法社会学的観察とは何か (2) 【法社会学的アプローチの多元性】
- 4回 法社会学的観察とは何か (3) 【法社会学の学問的出自と歴史的系譜】
- 5回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽 (1) 【フリーライダー問題の「かたち」】
- 6回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽 (2) 【「正解」の出ない社会問題への対処】
- 7回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽 (3) 【ゲーム理論】を援用した対処とその問題
- 8回 いまどきの権力と法システム (1) 【古典的権力観】のせまき
- 9回 いまどきの権力と法システム (2) 【規律型】から【環境管理型】へ
- 10回 いまどきの権力と法システム (3) 【「正常 / 異常」の分出】と法システムの関係性
- 11回 フェミニズムと法 (1) 【ラジカル・フェミニズム】のインパクト
- 12回 フェミニズムと法 (2) あなた自身の【イマジナリーな領域】へ
- 13回 近代法主体像の臨界 (1) 【嫌煙権訴訟】と社会実態の乖離
- 14回 近代法主体像の臨界 (2) 【たばこ訴訟】にみる近代法主体像の臨界
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論述式の定期試験 (70%) と毎講義ごとのレスポンスペーパー (30%) により評価します (詳しくは初回講義時に説明します)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

抽象的かつ論理的思考を厭わないでください。いっけん「あたりまえなこと」を前に、それが「なぜ / いかにして」あたりまえになっているかを、折に触れて考えるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会が抱える諸問題や実定法学が投げかける具体的な諸問題を考える上で、思考枠組みとしての法理論は不可欠である。人間の共同生活を考える上で不可欠なものとしての法を捉え直すための、基本的な視座を探究することが、本講義の目的とするところである。

教科書 /Textbooks

○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳、濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房）
- 平野仁彦、亀本洋、服部高宏著『法哲学』（有斐閣）
- 長谷川晃、角田猛之編『ブリッジブック法哲学』（信山社）
- 田中成明『法理学講義』（有斐閣）
- 田中成明編『現代理論法学入門』（法律文化社）
- 大橋智之輔、三島淑臣、田中成明編『法哲学綱要』（青林書院）
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店）、中山竜一『ヒューマニティーズ 法学』（岩波書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法哲学とは
- 第2回～第7回 法と道徳【ハート＝フラー論争】【パターナリズムと自己決定】
【ハート＝デヴリン論争】【カント】【安楽死・尊厳死】
- 第8回～第10回 法と強制【サンクシオン】【ケルゼン】【合意形成と法】
- 第11回～第13回 法・国家・社会【形式法の実質化】【エールリッヒ＝ケルゼン論争】【法化】
- 第14回～第15回 法哲学のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法思想史」を2年次に受講していれば、より理解しやすい。講義前には、テキストの該当箇所を読み、講義後には各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較法文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 篠森 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1898年に施行されたいわゆる明治民法は、西欧法、特にドイツ・フランス両国の民法の強い影響の下で編纂された、いわば比較法の産物である。民法の講義の際に、解釈論の前提として独・仏民法が紹介される所以である。その独・仏民法は、ローマ法の伝統を基礎にして、それぞれの社会状況の中で成立したものである。講義では、わが国の遺言法上の諸問題を、過去および現在のヨーロッパ大陸遺言法と比較しながら検討する。その中で、民法が単なる技術の集積ではなく、歴史の所産、文化現象でもあることを確認する機会としたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。講義にて資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田慶吉『日本民法典の史的素描』(創文社、1954年)(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【比較法文化論】【比較法】【西洋法制史】【ローマ法】【民法】
- 2回 民法上の遺言制度① 相続法概説【相続法】【法定相続】【遺言】【遺留分】
- 3回 民法上の遺言制度② 遺言法の現在【方式】【遺言能力】【遺贈】【遺言執行者】【撤回】
- 4回 民法上の遺言制度③ 立法過程【旧民法】【法典調査会】【法継受】
- 5回 ローマ法① 基礎知識【ローマ法大全】【学説彙纂】
- 6回 ローマ法② 古典期の遺言法【相続人指定】【遺贈】【信託遺贈】
- 7回 ローマ法③ ユスティニアヌス帝の法典編纂【ユスティニアヌス帝】
- 8回 ローマ法の継受① 注釈学派と註解学派【注釈学派】【註解学派】【教会法】
- 9回 ローマ法の継受② 人文主義法学【人文主義】【クジャス】
- 10回 ドイツ法① 普通法の伝統と各ラントの法【普通法】【ラント法】【法典編纂】
- 11回 ドイツ法② ドイツ民法典の立法【ドイツ民法典(BGB)】
- 12回 ドイツ法③ 現在の遺言法(日本法との比較)【共同遺言】【相続契約】
- 13回 フランス法① フランス民法典の立法【フランス民法典(コード・シヴィル)】
- 14回 フランス法② 現在の遺言法(日本法・ドイツ法との比較)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験... 60% 平素の学習状況(小テストを含む)... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法必携。講義の詳細はガイダンスで説明するので、受講者は第1回目の講義に必ず出席されたい。事前に講義のイメージを把握しておきたい者は上記参考文献を参照。民法(特に相続法)の基礎知識を再確認しておく、受講の際の一助になる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

紛争処理論 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義「紛争処理論」は、法社会学の一分野です。従って、皆さんが普段学んでいる実定法解釈学とは別の視点から、法現象・社会現象を観察・分析・理論化していく、というスタンスは、法社会学と共通です。その上で、本講義では、とりわけ社会で生じる紛争や社会問題を基点にして、それらがもつ構造・対立点・社会的意味、および処理・解決のフレームを「社会的に観察」していきます。ですから、本講義は、紛争を法的 / 非法的に処理・解決していくための方法（ノウハウ）や技術、ましてやその正しさを—そんなものがあれば、ですが—教授する / 暗記してもらおうものではありません。むしろそれとは正反対の方向、すなわち、紛争や社会問題の「とらえ難さ」や処理・解決の「困難性」を見据えた上で、それらをできる限り多角的に考察していくこととなります。

私たちの生きる現代社会は、しばしば、価値の多元化・複雑化などと形容されます。このことは同時に、私たちの社会が、さまざまな価値観どうしの矛盾・対立・衝突を内包していることも表しているでしょう。この意味で紛争とは、その可能性までを含めるならば、まさに日常的な出来事である、といっても過言ではありません。そして、日常的な出来事であるにもかかわらず / であるからこそ、ややもすれば、私たちはそうした紛争や社会現象を、例えば常識で、例えば善 / 悪二元論で、場合によっては（法をはじめとする）専門知によって、ただちに解決しようとする「欲望」にかられてしまいがちです。しかしながら、そこに問題はないのでしょうか。本講義では、こうした問題を不問にして、いきなり安直・自明な解決策にぶら下がりたいたいという気持ちをグッとこらえ、逆に、この問題を直視し悩みながら、その周りをうろうろと（否むしろオロオロと！）歩き続けるといった、きわめて「地道な」作業を行います。

以上のとおり、本講義はきわめて抽象度が高く、同時にマニアック（！）です。即効的実用性や法解釈学への直接的寄与を期待する向きにはまるでお奨めできません。この点十分に注意してください。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。テーマごとにプリントを配布します（参考文献はその都度指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (0) イントロ (紛争や問題は構築 / 隠蔽されるものであり、常に観察 = 解釈に開かれている)
- (1) 自明性への問い (秩序・法の妥当性への問い、法システムのパラドクスの観察)
- (2) 社会現象への問い (リスク社会論、情報社会論、消費社会論の「現代的」文脈)
- (3) 規範現象への問い (正義論、公共性論、合意論、責任論の社会的観察)

成績評価の方法 /Assessment Method

全編論述式の期末試験（約70%）、および、あなた自身の「思考軌跡」としてのレスポンスペーパー（約30%）により、総合かつ厳格に評価します（詳しくは初回の講義で説明しますので欠席なさらぬよう）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義は、法学や社会が自明視する諸概念や、現代社会で問題となっているテーマを俎上にのせていきますが、それらに正解をあてはめるものではありません。自明なものや紋切りの社会現象を前にして重要になってくるのは、そこに【「いかなる別様の問いを立てるか」という「問い」】です。ですので、講義と併走しつつ、そういった「問い」を立て、考えつづけていく準備のある方を歓迎します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにさせていただきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

各回ごとにレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大隈義和他『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）
- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義 - 【国家権力の授権と制限】
- 第2回 憲法の展開 - 【近代から現代、そして未来へ】
- 第3回 人権総論① - 【人権の保障と制限】
- 第4回 人権総論② - 【裁判所による人権保障】
- 第5回 統治機構総論① - 【国民主権の意義】
- 第6回 統治機構総論② - 【日本の政治制度】
- 第7回 統治機構総論③ - 【司法制度と違憲審査制】
- 第8回 平和主義論① - 【憲法9条の制定・意義】
- 第9回 平和主義論② - 【平和主義の現実と未来】
- 第10回 平和主義論③ - 【憲法9条と裁判所】
- 第11回 地方自治 - 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第12回 象徴天皇制 - 【天皇制の継続と断絶】
- 第13回 憲法保障 - 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 総括
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法人権論 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における人権理論について概説するとともに、そのことを通じて現代日本社会における問題についても検証する。人間には国家・社会によっても侵してはならない「自分だけの領域」があるはずである。そして、このような「自分だけの領域」の範囲について考えることが「人権論」だと考えている。講義全体のキーワードは【現代日本社会と人権】である。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大隈義和、大江正昭編『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）
- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 高橋和之他編『憲法判例百選・II（第5版）』別冊ジュリ186・187（有斐閣・2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | | |
|------|----------------|---|----------------------|
| 第1回 | 人権総論 | - | 【人権保障の意義・人権制約】 |
| 第2回 | 人権享有主体 | - | 【日本における外国人の人権】 |
| 第3回 | 特別権力関係論・私人間効力 | - | 【企業・団体による人権侵害】 |
| 第4回 | 幸福追求権 | - | 【プライバシー・名誉・自己決定】 |
| 第5回 | 平等原則 | - | 【尊属関係・嫡出性・選挙権】 |
| 第6回 | 精神的自由①（信教の自由） | - | 【政教分離】 |
| 第7回 | 精神的自由②（表現の自由） | - | 【事前抑制禁止と名誉・プライバシー保護】 |
| 第8回 | 精神的自由③（知る権利） | - | 【知る権利の現代的意義】 |
| 第9回 | 精神的自由④（学問の自由他） | - | 【大学の自治】 |
| 第10回 | 経済的自由 | - | 【営業の自由と経済規制】 |
| 第11回 | 社会権①（生存権） | - | 【生存権と社会保障】 |
| 第12回 | 社会権②（学習権・労働権） | - | 【「国家」「教師」「親」と「子供たち」】 |
| 第13回 | 人身の自由 | - | 【適正手続保障と日本の刑事手続】 |
| 第14回 | 参政権・受益権 | - | 【裁判を受ける権利】 |
| 第15回 | 総括 | | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法機構論 【昼】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

戦後最年少で初の戦後生まれの安倍首相は、新たな時代を切り開く日本にふさわしい憲法をと、新憲法制定を正面から掲げて登場しました。「戦後体制からの脱却」のための社会改革がすすめられ、改憲論議が現実味を帯びています。「官僚主導」から「政治主導」を標榜した民主党が総選挙で圧勝し、選挙によるはじめての政権交代が実現しました。戦後60年間以上におよぶ政治を支えてきた日本国憲法は、内憂外患の政治状況のなかにあつて新たな局面を迎えています。戦後の荒廃と貧弱にあえいでいた日本は経済大国へと変貌し、また東西冷戦下にあつた世界は社会主義体制の自壊によって激変しました。こうした激動の時代を迎えて、わが国の政治のありかたも以前にまして国内外からきびしく問われてきています。わが国の自由と民主主義は「敗戦」を契機として「外から」与えられたものであつて、いわゆる市民革命を通して自ら獲得したものではありません。このような民主主義のひ弱さは、戦後政治の歩みのなかにさまざまな影を落としています。

憲法規範は国会中心主義（41条）と法の支配（81条）を指向していますが、憲法現実はずいぶん行政中心の行政国家現象です。この講義では、規範（憲法）と現実（政治）とのきわめて深刻な乖離を直視して、国会、内閣、裁判所、地方自治など統治システムについて理解を深め、人権保障のための統治システムを理解し、主権者として積極的に政治にかかわっていく目を養うことを目標とします。

教科書 /Textbooks

手島・安藤『新基本憲法学』（法律文化社、2600円）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高見勝利『芦部憲法学を読む』（有斐閣）
野中・中村・高橋・高見『憲法II』（有斐閣）
芦部信喜『憲法』（岩波書店）
佐藤幸治『憲法』（青林書院）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに（憲法の学習案内）
- 第2回 明治憲法の特徴とその運用
- 第3回 ポツダム宣言受諾と日本国憲法の制定
- 第4回 象徴天皇制
- 第5回 国民主権と代表制
- 第6回 国会と立法権
- 第7回 内閣と行政権
- 第8回 議院内閣制
- 第9回 裁判所と「法の支配」（違憲審査制度）
- 第10回 選挙制度と参政権
- 第11回 地方自治の本旨と住民自治
- 第12回 第9条と平和主義
- 第13回 憲法改正論議
- 第14回 主権者の視点から見た日本社会
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ...30 % 定期試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法訴訟論【昼】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国の最高法規を守り人権を保障するために、裁判所には違憲審査権が付与されています(81条)。「法の支配」原理にたつこの違憲審査制度は、日本国憲法の最大の特徴です。裁判所は「憲法の番人」といわれる所以です。わが国の違憲審査制度は具体的・付随的な違憲制度であり、具体的な民事・刑事・行政訴訟が提起されて、そのなかで憲法問題が争点となった裁判を憲法訴訟といいます。事件性の要件をみたした訴訟は民事訴訟法、刑事訴訟法、行政事件訴訟法などの法律が用意されていますが、「憲法訴訟法」という体系的な法律があるわけではありません。憲法訴訟を体系的に勉強するためには、実定法の理解のみならず憲法体系を支える憲法理論(人権と統治)の理解が不可欠となります。人権に関する憲法判例を検討・分析するさいに、憲法訴訟の理論が必要となります。この講義では、人権裁判において適用される合憲性の審査基準に関する理論、憲法判断の要件・手続・方法に関する理論など、具体的な訴訟を素材にして憲法判断についてのルールについて詳細に学びます。

教科書 /Textbooks

手島・安藤『新基本憲法学』(法律文化社、2600円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高見勝利『芦部憲法学を読む』(有斐閣)
野中・中村・高橋・高見『憲法II』(有斐閣)
高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』(第5版)(有斐閣)
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回から第2回 司法権の意義
第3回から第4回 裁判所の構成と機能(裁判員制度の批判的検討)
第5回から第6回 司法権の独立(司法官僚と司法の危機)
第7回から第8回 司法権の限界
第9回から第10回 違憲審査制度と憲法訴訟をめぐる諸問題
第11回から第12回 違憲審査基準と方法
第13回から第14回 最高裁法令違憲判決の検討

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...20% 課題レポート ...20% 定期試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 村上 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「行政法」とは、行政に関する法律のことで、約1600の現行法律のうち約3分の1に及びます。このように行政法の数が多い理由は、行政の仕事は、「ごみ集めから宇宙ロケットの打ち上げまで」といわれるように、極めて広範であり、しかも行政の仕事は私たちの権利義務に大きな影響を与えるため、行政の勝手に行われてはならず、国民の代表機関である国会が制定した法律に基づいて行われなければならないからです。授業では、私たちと行政とはどのような法律関係にあるのかを的確に理解できることを目標に、行政(特に地方自治体)の組織、住民の権利、行政の活動と私たちの権利の保障等について、具体的事例をできるだけ多く引用しながら説明していきます。

教科書 /Textbooks

手島孝他編『基本行政法学(第3版)』(法律文化社、2005年、2900円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○塩野宏他編『行政判例百選II(第5版)』(有斐閣、2006年、各2200円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回~2回 行政法とはどのような法か【法律による行政】、【法律の留保】
 - 3回~4回 行政機関、国の行政組織【行政主体】、【行政機関】
 - 5回~6回 地方自治体の行政組織【二元代表制】、【地方議会】
 - 7回~8回 住民の権利(1)【直接請求】、【住民監査請求と住民訴訟】
 - 9回~10回 住民の権利(2)【情報公開制度】、【個人情報保護制度】
 - 11回~12回 行政主体の人的要素【公務員制度】
 - 13回~14回 行政主体の物的手段【公物】、【公の施設】
 - 15回~16回 行政の活動形式【行政立法】
 - 17回~18回 行政行為(1)【行政行為】の意義と種類
 - 19回~20回 行政行為(2)【行政行為】の効力
 - 21回~22回 その他の活動形式【行政契約】、【行政計画】、【行政指導】、【行政調査】
 - 23回~24回 行政手続【行政手続法(条例)】
 - 25回~26回 行政の実効性確保(1)【行政上の強制執行】、【即時強制】
 - 27回~28回 行政の実効性確保(2)【行政罰】、その他の手段
 - 29回~30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々な法律を参照することが多くありますので、必ず六法を持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政争訟法 【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政活動に対する不服や不満を解決する手続としての行政上の不服申立ておよび違法な行政活動の是正と救済を求める手続としての行政訴訟について理解することをねらいとする。

教科書 /Textbooks

手島孝・中川義朗編『基本行政法学〔第3版〕』（2005年、法律文化社）
※行政法総論で使用した教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小早川光郎ほか編『行政判例百選II〔第5版〕』（2006年、有斐閣）
- 塩野宏『行政法II〔第四版〕』（2005年、有斐閣）
- 宇賀克也『行政法概説II』（2006年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 行政上の不服申立て制度の概要
- 2回 不服申立ての提起
- 3回 不服申立ての審理
- 4回 不服申立ての裁決
- 5回 行政訴訟総説
- 6回 行政事件の種類
- 7回 抗告訴訟(1) 抗告訴訟の種類
- 8回 抗告訴訟(2) 取消訴訟の訴訟要件
- 9回 抗告訴訟(3) 取消訴訟の審理
- 10回 抗告訴訟(4) その他の抗告訴訟
- 11回 抗告訴訟(5) 判決と仮の救済
- 12回 当事者訴訟
- 13回 民衆訴訟
- 14回 機関訴訟
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80% 課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法総論を履修済みであることが望ましい。
当然ながら予習・復習が必要である。
(復習のための課題提出を求める。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国家補償法【昼】

担当者名 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政府の活動に起因する損害を補填するシステムについて理解することをねらいとする。

教科書 /Textbooks

手島孝・中川義朗編『基本行政法学〔第3版〕』（2005年、法律文化社）
※行政法総論で使用した教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小早川光郎ほか編『行政判例百選II〔第5版〕』（2006年、有斐閣）
- 塩野宏『行政法II〔第四版〕』（2005年、有斐閣）
- 宇賀克也『行政法概説II』（2006年、有斐閣）
- 西莖章『国家補償法概説』（2008年、勁草書房）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国家補償の意義
- 2回 国家賠償の意義
- 3回 公権力の行使に係る国家賠償（1）
- 4回 公権力の行使に係る国家賠償（2）
- 5回 公の営造物の設置管理に係る国家賠償（1）
- 6回 公の営造物の設置管理に係る国家賠償（2）
- 7回 賠償責任者
- 8回 民法の適用
- 9回 損失補償の意義
- 10回 補償の要否（1）
- 11回 補償の要否（2）
- 12回 補償の内容（1）
- 13回 補償の内容（2）
- 14回 補償の谷間と結果責任
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80% 課題20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法総論を履修済みであることが望ましい。
当然ながら予習・復習が必要である。
(復習のための課題提出を求める。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報公開・個人情報保護法 【昼】

担当者名 森脇 敦史 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報公開は、民主主義国家において国民が主体的に政治に参画するために不可欠である。
また、情報化社会の進展に伴い、個人情報の有用性が高まると同時に、目的外利用や個人情報の不適切な取扱いによる権利利益の侵害リスクも高まっている。
本講義では、情報公開法・個人情報保護法（および自治体の条例）の概要と判例等の検討を行う。

教科書 /Textbooks

宇賀克也『新・情報公開法の逐条解説 第4版』（有斐閣、2008年）
宇賀克也『個人情報保護法の逐条解説 第3版』（有斐閣、2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス.....情報公開、個人情報保護の歴史、憲法上の位置づけ
- 2回 情報公開法（1）.....概論、【行政文書】
- 3回 情報公開法（2）.....不開示情報（【個人に関する情報】）
- 4回 情報公開法（3）.....不開示情報（【事務事業遂行情報】・【意思形成過程情報】）
- 5回 情報公開法（4）.....不開示情報（【法人等情報】、【安全・外交・公安情報】）
- 6回 情報公開法（5）.....部分開示、裁量的開示、存否応答拒否、開示手続
- 7回 情報公開法（6）.....救済手続、情報公開・個人情報保護審査会
- 8回 個人情報保護法（1）.....歴史、プライバシーと個人情報の関係
- 9回 個人情報保護法（2）.....個人情報、個人データ、保有個人データ、【個人情報取扱事業者】
- 10回 個人情報保護法（3）.....【個人情報】に対する義務
- 11回 個人情報保護法（4）.....【個人データ】、【保有個人データ】に対する義務
- 12回 行政機関個人情報保護法（1）.....個人情報の取扱い、個人情報ファイル
- 13回 行政機関個人情報保護法（2）.....開示・利用停止・訂正請求、救済手続
- 14回 個人情報・プライバシーの現代的問題.....住基ネット、納税者番号、監視カメラ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 課題... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分（事前に指示する）を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

山中敬一著『刑法概説(総論)』(成文堂)2008年10月、2500円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選(総論 [第5版])』(有斐閣)平成15年4月、2105円+税
立石二六編『刑法総論30講』(成文堂)平成19年3月(出版予定)、2800円+税
齊藤誠二編『演習ノート刑法総論(全訂第3版)』(法学書院)平成15年3月
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード
第1回～第2回 刑法典の沿革、犯罪論の基本。【刑法の意義】、【犯罪】
第3回～第4回 学派的争い【主観主義刑法理論】、【客観主義刑法理論】
第5回～第6回 罪刑法定主義とその派生原則【類推解釈】、【遡及処罰の禁止】、【慣習法の排斥】、【絶対的不定期刑・不定期刑の禁止】、【構成要件の明確性】、【実体的デュープロセス】
第7回 犯罪の分類【結果犯】【単純行為犯】【実質犯】【形式犯】【侵害犯】【危険犯】 【即成犯】【状態犯】【継続犯】
第8回 犯罪論の体系【行為】【構成要件】【違法】【責任】
第9回～第10回 行為論【作為】、【不作為】、【作為犯】、【不作為犯】、【因果関係】
第11回～第12回 構成要件論【構成要件】、【認識根拠説】、【实在根拠説】
第13回～第14回 違法論【違法性の本質】、【結果無価値】、【行為無価値】、【可罰的違法性】 【許可された危険】
第15回～第17回 違法性阻却事由【正当行為】、【正当防衛】、【緊急避難】、【自救行為】
第18回～第20回 責任論【責任能力】、【故意】、【過失】、【原因において自由な行為】
第21回～第22回 未遂論【実行の着手】、【不能犯】、【中止犯】
第23回～第26回 共犯論【共犯学説】、【共犯の処罰根拠】、【共同正犯】、【教唆犯】、【従犯】、【共犯独立性説】、【共犯従属性説】、【間接正犯】、【共犯と身分】
第27回～第28回 共犯の諸問題【必要的共犯】、【不作為と共犯】、【結果的加重犯と共犯】、【共犯と錯誤】、【共犯と中止犯】、【予備の共犯】
第29回～第30回 罪数論【本来の一罪】、【科刑上一罪】、【包括一罪】、【併合罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・欠席を不定期でとり、出席点と学期末試験との総合点(学期末試験100%)で評価する。授業態度が悪い場合、減点の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：法学、刑法各論、刑事訴訟法を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目です。また、刑法各論、刑事訴訟法は同じ刑事法に属する科目ですから、強く関連しているからです。法学は本講座を履修する前に、刑法各論、刑事訴訟法は本講座を履修した後かまたは同時に履修するとよいでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論I【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目で扱う「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法分野です。各論Iでは、個人的法益に対する罪のうち人身に対する罪（財産罪を除く。）と国家的法益に対する罪を取り上げます。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念及び各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、法的思考力を習得することを目的としています。

教科書 /Textbooks

(参考) 山中敬一『刑法概説II各論』(成文堂・2008.10) ※テキストの選択は任意。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『刑法各論(新論点講義シリーズ2)』(弘文堂・2007.05)
- 立石二六(編著)『刑法各論30講』(成文堂・2006.04)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード) ※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがあります。
- 1回 刑法各論の基礎
 - 2回～ 4回 生命に対する罪【殺人】【自殺関与】
 - 5回～ 7回 身体に対する罪【暴行】【傷害】【傷害致死】【墮胎】【遺棄】
 - 8回～ 9回 自由に対する罪【脅迫】【逮捕監禁】【略取誘拐】【強姦】【強制わいせつ】
私生活の平穩に対する罪【住居侵入】【秘密侵害】
 - 10回～ 11回 名誉・信用に対する罪【名誉毀損】【侮辱】【信用毀損】【業務妨害】
 - 12回 国家の存立に対する罪【内乱罪】【外患誘致罪】【私戦予備陰謀罪】
 - 13回～ 14回 国家の作用に対する罪①【公務執行妨害罪】【逃走罪】【犯人蔵匿・証拠隠滅罪】
【偽証罪】【虚偽告訴罪】【職権濫用罪】
 - 15回 国家の作用に対する罪②【賄賂罪の基礎】【収賄罪の諸類型】【贈賄罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%
小テストの成績を成績評価において考慮する場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメを配布する予定です。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習(基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。)・復習(講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。)を十分に行ってください。「刑法総論」を理解していることを前提に講義を展開しますので、この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」を受講しておくことを強く推奨します。また、この科目を承継する「刑法犯罪各論II」、及び関連する他の刑事法科目を受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目で扱う「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法分野です。各論IIでは、「刑法犯罪各論I」に続けて、個人的法益に対する罪のうち財産罪、及び社会的法益に対する罪を取り上げます。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念及び各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、法的思考力を習得することを目的としています。

教科書 /Textbooks

(参考) 山中敬一『刑法概説II各論』(成文堂・2008.10) ※テキストの選択は任意。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『刑法各論(新論点講義シリーズ2)』(弘文堂・2007.05)
- 立石二六(編著)『刑法各論30講』(成文堂・2006.04)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【】内はキーワード) ※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがあります。
- 1回～ 3回 財産罪①【財産罪の基礎】【窃盗】
 - 4回～ 6回 財産罪②【毀棄隠匿】【強盗】【事後強盗】【強盗致死傷】
 - 7回～ 8回 財産罪③【詐欺罪】【詐欺罪の諸類型】【恐喝罪】
 - 9回～ 10回 財産罪④【横領罪】【背任罪】【盗品関与罪】
 - 11回～ 12回 公共危険罪【騒乱罪】【多衆不解散罪】【放火罪の基礎】【焼損】【公共危険】
【放火罪】【失火罪】【出水罪】【水利妨害罪】【往来妨害罪】
 - 13回～ 14回 公共の信用に対する罪【文書偽造罪の基礎】【文書】【偽造】【文書偽造罪】
【通貨偽造罪】【有価証券偽造罪】
 - 15回 風俗に対する罪【わいせつ罪】【重婚罪】【賭博罪】【死体損壊・遺棄罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%
小テストの成績を成績評価において考慮する場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメを配布する予定です。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習(基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。)・復習(講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。)を十分に行ってください。この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I」を受講しておくことを強く推奨します。また、関連する他の刑事法科目を受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法総論【昼】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法は刑罰権の存否を判断する手続に関する法律である。その手続の流れは、捜査に始まり起訴するか否かが判断され、起訴がなされれば公判が開始され、裁判がなされ、その裁判に不服があれば上訴がなされることとなる。本講義では、その手続の全体像を把握することを目的とする。

教科書 /Textbooks

(主・テキスト)庭山・岡部編「刑事訴訟法」(第3版)(青林書院)。
(副・テキスト)松尾浩也「刑事訴訟法・上巻(新版)」(弘文堂)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

田宮裕編「刑事訴訟法」(北樹出版)、田口守一「刑事訴訟法」(弘文堂)、松尾ほか編「刑事訴訟法判例百選(第8版)」(有斐閣)、鴨「刑事訴訟法の基本理念」(九大出版会)、三井誠「刑事手続法I・II・III・IV」(有斐閣)、福井厚「刑事訴訟法講義」(法律文化社)、白取祐司「刑事訴訟法」(日本評論社)、光藤「口述刑事訴訟法・上中下」(成文堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 刑事手続の概要【通常手続】、【非常救済手続】
- 2回 刑事手続の基本原則【無罪の推定】
- 3回 刑事手続の理念・構造・政策【当事者主義】、【適正手続の保障】
- 4回～5回 捜査の構造【弾劾的捜査観】、【糾問的捜査観】
- 6回 公訴・訴訟条件【公訴権濫用】
- 7回 公判前整理手続【争点整理】、【証拠開示】
- 8回 公判の諸原則【口頭主義】、【直接主義】
- 9回 審判の対象【訴因】、【公訴事実】
- 10回 証拠法【自白】、【伝聞証拠】
- 11回 挙証責任
- 12回 裁判の効力【一事不再理】
- 13回 免訴判決の性質
- 14回 上訴
- 15回 再審

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策I 【昼】

担当者名 吉村 弘
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに現代日本の刑事制裁の特色および問題点、並びに刑事司法制度の構造と機能について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書 /Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策』（成文堂、2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ①警察庁編『平成21年度 警察白書』（ぎょうせい、2009年）
- ②法務省法務総合研究所編『平成21年度 犯罪白書』（時事通信出版局、2009年）
- ③内閣府『平成21年版 犯罪被害者白書』（佐伯印刷(株)、2009年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 刑事政策の概念 【教科書 第1講 1-15頁】
- 2回 刑事政策の歴史 【教科書 第2講 16-42頁】
- 3回 刑事政策の動向 【教科書 第3講 43-55頁】
- 4回 犯罪予防 【教科書 第4講 56-72頁】
- 5回 刑事制裁 【教科書 第5講 73-84頁】
- 6回 刑事司法・少年司法機関の役割(1) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 7回 刑事司法・少年司法機関の役割(2) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 8回 刑事司法・少年司法機関の役割(3) 【教科書 第6講 85-110頁】
- 9回 犯罪被害者の支援と法的地位【教科書 第7講 111-126頁】
- 10回 死刑 【教科書 第8講 127-141頁】
- 11回 自由刑 【教科書 第9講 142-157頁】
- 12回 財産刑 【教科書 第10講 158-169頁】
- 13回 保安処分 【教科書 第11講 170-188頁】
- 14回 予備日
- 15回 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑事司法政策II」とあわせて受講すればわかりやすい。毎回、テキストの指定された個所を事前に読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事司法政策II 【昼】

担当者名 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、従来「刑事政策」として講ぜられていたテーマのうち、とくに犯罪者処遇および更生保護の分野における問題点ならびに現代日本社会において関心の高いいくつかの重要犯罪を選んでその現状と刑事政策的対応の在り方について批判的に分析・検討することを目指します。

教科書 /Textbooks

守山正・安部哲夫編『ビギナーズ刑事政策』（成文堂、2009年）
○法務省法務総合研究所編『平成21年度 犯罪白書』（時事通信出版局、2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 犯罪者の処遇 【教科書 第12講189-203頁】
- 2回 施設内処遇(1) 【教科書 第13講204-233頁】
- 3回 施設内処遇(2) 【教科書 第13講204-233頁】
- 4回 社会内処遇 【教科書 第14講224-243頁】
- 5回 わが国の犯罪情勢【教科書 第15講 244-261頁】
- 6回 個別犯罪と対策(1) 交通犯罪 【教科書 262-279頁】
- 7回 個別犯罪と対策(2) 薬物犯罪 【教科書 280-293頁】
- 8回 個別犯罪と対策(3) 来日外国人犯罪 【教科書 294-305頁】
- 9回 個別犯罪と対策(4) 組織犯罪 【教科書 306-318頁】
- 10回 個別犯罪と対策(5) 高齢者犯罪 【教科書 319-331頁】
- 11回 個別犯罪と対策(6) 企業犯罪 【教科書 332-343頁】
- 12回 個別犯罪と対策(7) 性犯罪 【教科書 344-358頁】
- 13回 個別犯罪と対策(8) 家庭内・近親者間犯罪 【教科書 359-383頁】
- 14回 予備日
- 15回 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「刑事司法政策」とあわせて受講すればわかりやすい。毎回、テキストの指定された個所を事前に読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会法は、労働法、社会保障法、衛生法などの法分野を包摂し、日本国憲法25条の生存権の具体化と関連の深い法分野である。現代社会における広範な人々の生活の向上のために、社会法が果たしている役割と、そのために開発されてきた社会法独自の法的方法を理解することを目的とする。それぞれの法分野の役割と方法の特徴を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

ワープロで作成したテキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

河野正輝他編「社会保障論」法律文化社、浜村彰他著「ベーシック労働法」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会法とは
- 2回 市民法から社会法へ 近代法の変容と社会立法の発生 [工場法、救貧法、労働者保険]
- 3回 近代法原理と20世紀的憲法 [契約自由、市場原理、公共の福祉]
- 4回 社会法の意義と役割 [朝日訴訟、労働権、社会保障制度審議会勧告]
- 5回 社会法の体系と法的特徴 [公的規制、公的給付、特別私法]
- 6回 福祉国家の公法と私法の社会性 [積極国家、民法1条、社会サービスの法律関係]
- 7回 現代社会と貧困 [ワーキングプア、見えない貧困、非正規労働者、ホームレス]
- 8回 労働法の体系と目的 [労働条件の最低基準、団結権]
- 9回 所得保障法の体系と目的 [生活費の保障、特別費用の保障]
- 10回 社会サービス法の体系と目的 [医療・介護・福祉サービス]
- 11回 衛生法の体系と目的 [医事法、予防衛生、環境衛生]
- 12回 社会権の保護と救済 [権利擁護、審査請求、労働審判]
- 13回 経済社会的背景の転換と社会法の変容 [規制緩和、給付削減]
- 14回 諸外国の社会法改革の動向 [アクティベーション、プライベートイゼーション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に参考文献の関係箇所を一読しておく、講義内容が解りやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会サービス法【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

個人の尊厳ある生活や自己実現を支える対人サービスは、今日では社会的システムに基づき社会的に提供されるようになってきている。医療、介護から生活援助や権利擁護に至るまでの多様な社会サービスの仕組み、内容、法的性格について理解し、地域社会において社会的関係を基礎として維持される人々の生活について理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

河野正輝他編「社会保障論」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義の際に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会サービス法の意義 [ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン]
- 2,3回 社会サービスの目的と体系 [個人の尊厳、本人意思の尊重、自立支援]
- 4回 医療サービス1 医療に対する規制 [医事法]
- 5,6回 医療サービス2 医療保障の歴史と医療保険の給付 [保険診療]
- 7回 医療サービス3 海外の医療システム [NHS、費用償還払方式]
- 8回 高齢者介護サービス1 介護保険の目的と仕組み [要介護認定、ケアプラン]
- 9回 高齢者介護サービス2 居宅サービスの体系と内容 [通所系、訪問系、地域密着型]
- 10回 高齢者介護サービス3 施設サービスの体系と内容 [介護保険施設]
- 11回 社会福祉サービス1 高齢者福祉サービス [地域包括支援センター]
- 12回 社会福祉サービス2 障害者福祉サービス [障害者自立支援法]
- 13回 社会福祉サービス3 児童、母子および寡婦に対する福祉サービス
- 14回 社会サービスに対する権利の擁護 [成年後見制度、身上監護]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会法総論とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

所得保障法 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

福祉国家として発展はしてきたものの、貧困はかならずしも過去の問題とはいえない深い根を持つ問題である。貧困解消のために積み重ねられてきた過去の立法の歴史を踏まえて、現代の所得保障制度の体系、対象、方法を理解することを目的とするとともに、他国の制度改革を参考に、わが国の所得保障の課題について理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

河野正輝他「社会保障論」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義の際に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代社会と貧困および所得格差 [ワーキングプア、ホームレス、見えない貧困]
- 2,3回 所得保障制度の歴史 [救貧法、「貧困の発見」、ビスマルク社会保険]
- 4,5回 所得保障法の体系・方法 [公的扶助、社会手当、社会保険]
- 6,7回 高齢者に対する所得保障 [老齢基礎年金、老齢厚生年金]
- 8回 障害者に対する所得保障 [障害基礎年金、障害厚生年金]
- 9回 遺族に対する所得保障 [遺族基礎年金、遺族厚生年金]
- 10,11回 医療費、介護費等の費用の保障 [医療保険、介護保険、児童手当]
- 12回 最低生活の保障 [生活保護制度]
- 13回 海外の年金改革の動向 [概念上の確定拠出型年金、保証年金]
- 14回 海外の最低保障制度の改革 [アクティブエイション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に、現代の貧困について、各自で情報を収集しておく、関心を持って講義に望められる。社会法総論とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

雇用関係法は、労働者と使用者の個別の関係を規律する法領域である。働くうえで直面する法律問題の多くはこの法分野に関わるものであり、雇用関係法は労働法の体系において中心的な位置を占めている。
この講義では主に、雇用関係の成立、展開、終了という雇用関係の変遷に関する問題と、雇用関係の内容に関わる法規制について学習する。また、実定法の解説にとどまらず、実際に社会規範、裁判規範としてどのように労働法が社会的に意味をもつのかを理解できることも目指す。

教科書 /Textbooks

村中孝史ほか編『労働判例百選 [第8版]』有斐閣 (2009年)
六法 (小さなものでよいが、なるべく新しいもの。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第1回の講義の際に具体的に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回～第 2回 ガイダンス～労働法の全体像～
【市民法原理の修正】【労働関係の規律構造】
- 第 3回～第 4回 雇用関係法の基本構造
【労働法上の当事者】【労働条件決定システム】
- 第 5回～第 6回 雇用関係の成立
【採用】【試用】【労働契約上の権利義務】
- 第 7回～第 8回 雇用関係の展開(1)
【配転】【出向】【就業規則の不利益変更】
- 第 9回～第10回 雇用関係の展開(2)
【賃金請求権】【労働時間、休憩、休日】【時間外労働】
- 第11回～第12回 雇用関係の終了
【退職】【解雇】【懲戒権の根拠】
- 第13回～第14回 女性労働保護と労災・安全衛生
【セクハラ】【業務災害】【安全配慮義務論】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%、コメントカード... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

労働法は実定法の中でもいわば応用的な分野です。雇用関係法を学ぶうえでは民法の知識を必要としますので、民法総則等の科目を履修した後に受講することをお勧めします。また、労働法の理解を深めるためには、「労使関係法」をあわせて受講すると良いでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

労使関係法は、労働者、使用者、労働組合の三者の集団的な関係を規律する法領域である。この講義では、労働組合と使用者との集団的労働関係に関する基本的知識について学習する。

労働者の意識、労務管理のあり方などが急激に変貌するなかで、労働組合が今後も存立しうるかどうかは必ずしもはっきりしてない。とはいえ実際には、失業、低賃金、危険な仕事、組合つぶしなどの古典的な労働問題は現存している。この現実には労働者1人で立ちむかうことは難しいであろう。従業員代表制や労使協議制を含め、集団的労働関係は依然として重要な役割を担っている。

教科書 /Textbooks

村中孝史ほか編『労働判例百選 [第8版]』有斐閣(2009年)
六法(小さなものでよいが、なるべく新しいもの。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

第1回の講義の際に具体的に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～第2回 ガイダンス～労使関係法の全体像～
【労使関係法の歴史的展開】【労働組合法の目的】
- 第3回～第4回 労働組合
【構造と機能】【資格審査】【組織と財政】
- 第5回～第6回 不当労働行為の救済
【不当労働行為意思】【労使委員会】【不利益取り扱い】
- 第7回～第8回 団体交渉
【誠実団交義務】【支配介入】
- 第9回～第10回 労働協約
【労働協約の規範的効力】【労働協約の不利益変更】
- 第11回～第12回 争議行為
【企業内組合活動】【争議行為の正当性】
- 第13回～第14回 紛争解決手続・労働者代表制の立法論
【労使委員会による紛争解決手続】【労使協議制】【労働者代表】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80%、コメントカード...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

労使関係法の理解を深めるためには、「雇用関係法」をあわせて受講すると良いでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

独占禁止法【昼】

担当者名 高場 俊光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の我国経済は、高度寡占化、政府規制、違法なカルテル等により市場機能が十分発揮できない状況にあり、競争理念がますます重要視されてきている。そのような中で、独占禁止法がどのような切り口で競争を回復・維持しようとしているのかを、法理論面から考える。講義全体のキーワードとしては、競争を嫌うな、である。

教科書 /Textbooks

「独占禁止法」（講義開始後、各受講生にグループウェア上の教材をプリントアウトしてもらう。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 波光 巖他『テキスト 独占禁止法』青林書院（再訂二版）
- 川濱 昇他『ベーシック経済法 独占禁止法入門』有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 ビデオ『それは独占禁止法違反です①』、競争の意義・目的 【消費者の利益】
 - 2回 ビデオ『それは独占禁止法違反です②』、独占禁止法の目的・構成・沿革
 - 3回 不当な取引制限 【カルテル】【談合】【一定の取引分野】【競争の実質的制限】
 - 4回 " 【公共の利益】【行政指導】【共同事業】
 - 5回 " 【事業者団体によるカルテル】【課徴金】
 - 6回 私的独占 【他の会社の排除・支配】
 - 7回 不正な取引方法 概説 【一般指定】【特殊指定】
 - 8回 取引拒絶、差別的取扱い 【ボイコット】【差別対価】【不当廉売】
 - 9回 事業活動の不当拘束 【専売店契約】【テリトリー制度】【再販売価格維持行為】
 - 10回 不当な顧客誘引・取引強制、取引上の地位の不当利用、取引妨害
【不当景品類】【不当表示】【優越的地位の濫用】
 - 11回 国際取引と独占禁止法 【国際カルテル】【輸入総代理店】【並行輸入】
 - 12回 企業結合 【市場集中】【水平合併】【垂直合併】【株式保有】【役員兼任】
 - 13回 " 【一般集中】【持株会社】【企業集団】【独占的地位】
 - 14回 独占禁止法の運用手続 【公正取引委員会】【審査・犯則調査権】【審判・審決】
 - 15回 【損害賠償】【差止請求】【刑事告発】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%。平常の学習状況... 20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

独占禁止法は、経済の動きに対し一定の枠組みを与えるものであるから、どのような経済状態に対しどのように適用されるかを実践的に把握するとよく理解できる。したがって、多くの事例を図解したテキストを使用する。また、「独占禁止法II」の講義は、独占禁止法が現実の経済の中でどのように適用されてきたかを歴史的に概観するものであり、この科目も併せて履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

知的財産法【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / Tomohisa KIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

これからの取引社会において、営業上の信用を含む知的資産がもたらす価値は更に増大するものと考えられる。「知的財産法」では、当該知的資産の全体像を、思想または感情の創作物に関わるもの・製品等の開発販売過程で創作されるもの・営業上の信用が化体されているものに大別して、権利客体の把握や侵害訴訟における各種権利の基本的機能を概説する。同時に、音楽ソフトのネットワークを利用した配信行為に代表される、情報通信技術の進展に伴う新たな課題についても検討を加え、現代の取引社会で知的財産権が関与する事象を総合的に判断する能力形成をはかる。

教科書 /Textbooks

特許庁編産業財産権標準テキスト「特許編」「意匠編」「商標編」「流通編」以上4冊は無償配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

田村善之著「著作権法概説」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 知的財産法の全体像と基本理念～営業上の信用を含む無形の知的財産保護法制の概要説明
2. 情報通信技術の進展と知的財産権制度～ネットワーク等の技術進展がもたらす諸問題を考える
3. 著作権法～著作物と著作者の権利(著作権、著作者人格権)、著作隣接権、出版権、侵害訴訟
4. 著作権法～プログラム等の保護、放送ないしは映画の権利関係、マルチメディア作品の権利関係
5. 特許法・実用新案法～工業所有権四法(特実意商)の基本的枠組み、製品開発と産業財産権四法
特許侵害訴訟の基本、パリ条約及びその他の条約
6. 特許法・実用新案法～特許要件、発明実施概念、特許権、特許発明の同一性判断と侵害訴訟
7. 特許法・実用新案法～、法定通常実施権、パテントマップの作成、ライセンス契約
8. 意匠法～意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断、ライセンス契約
9. 商標法～商標登録要件、侵害訴訟の基本、商標権、商標の類否判断と侵害訴訟、
10. 商標法～法定通常実施権、出願実務とライセンス契約
11. 不正競争防止法～不正競争行為概説、著名周知商品表示の模倣、営業秘密の不正取得等
12. 不正競争防止法～商品形態の模倣、技術的制限手段の解除等(スクランブル解除等)
13. デザイン保護法制～著作権法・意匠法・不正競争防止法の各法域における適用形態と境界領域
14. ソフトウェア保護法制～著作権法・特許法の各法域における適用形態
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の比重は約5割、残りはレポート等の提出物(予定)や授業中の発表等の日常的学習の成果を参考にして総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor 生野 正剛 / Ikuno Masakata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

環境法は、良好な環境の保全を図ることを目的とする法律の総称である。環境問題の深刻化、拡大、多様化によって、環境悪化の事前防止を目差す環境法の重要性は増大しているし、環境法がカバーする範囲も広がっている。本講義では、環境法の歴史、広範囲にわたる現行環境法体系の全体像、それらに共通する理念・原則、環境法の中での主要な法律の内容を概観する。そのことを通じて、環境問題に関する法的整備の現状と残された課題および環境法の今後進むべき方向性を理解してもらうことを目的とする。

教科書 /Textbooks

坂口洋一著 『環境法ガイド』、上智大学出版刊（2007年2月）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大塚直『環境法』、有斐閣。講義時に配布するレジュメ。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】内はキーワード
- 第1回～第2回 環境法とは何か、環境法の体系、環境法の基本原則
 - 【環境負荷の増大・公害】、【環境基本法】、【持続可能な発展】、【汚染者負担の原則】、【未然防止の原則】、【予防原則】、【拡大生産者責任】
- 第3回～第4回 環境保護の手法 【規制的手法】、【非規制的手法】、【経済的手法】
- 第5回～第6回 環境法の歴史
 - 【公害法から環境法へ】、【公害対策基本法】、【環境基本法】、【循環型社会の形成】
- 第7回 環境基本法と環境基本計画
 - 【将来世代への環境の恵沢の承継】、【持続的発展が可能な社会】、【国際的協調の下での地球環境保全】
- 第8回 環境アセスメント法
 - 【スクリーニング】、【スコーピング】、【準備書】、【評価書】、「戦略的環境アセスメント」
- 第9回～第10回 環境汚染の防止
 - 【環境基準】、【排出基準】、【水質汚濁防止法】、【大気汚染防止法】、【土壌汚染防止法】
- 第11回～第12回 廃棄物の処理法制
 - 【廃棄物処理法】、【廃棄物の定義】、【一般廃棄物】、【産業廃棄物】
- 第13回～第15回 循環型社会形成のための法体系
 - 【循環型社会基本法】、【拡大生産者責任】【容器包装リサイクル法】、【家電リサイクル法】、【自動車リサイクル法】、【建設リサイクル法】、【食品リサイクル法】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容内が多いので、テキストおよび前もって配布するレジュメを読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会の思想を中心に社会法の現代的展開をわかりやすく講義する。
労働法や社会保障法で構成される社会法は、現代人の生活の豊かさや質、ひいてはその自由な生き方に直接的に関係する法であり、戦後の人々の生活の向上と自由を支えてきた中心的な法であるといえる。しかし、近年の経済社会情勢の変化に伴って、社会法の果たすべき役割についての理解も多様化している。この講義では、社会法の果たすべき役割についての考え方の現代的展開、および現実的な改革を必要とする課題とその論点を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

ワーポロテキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

EISS Yeabook, 2001 edited by D.Pieters, Kluwer LAW International
ルソー「社会契約論」、ロック「市民政府論」、長谷川宏訳「ヘーゲル法哲学講義」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1,2回 社会法の意義と歴史 [市民法の補充]
- 3,4回 高度成長期の社会法の役割と特徴 [日本型と労働慣行、皆保険・皆年金]
- 5回 1970年代後半における社会法に関する思想および政策の転換 [オイルショック、規制緩和]
- 6回 現代における社会法改革 [ネオリベリズム、修正自由主義、一般的意志の自由]
- 7,8回 社会保障法の現代的展開 [現代配分的正義論、再配分否認論、セイフティーネット]
- 9,10回 労働法の現代的展開 [市場原理主義、構造改革、労働者派遣自由化、労働者の自由拡大]
- 11回 社会サービス提供関係の法的規律の変容 [インフォームドコンセント、身上監護権]
- 12,13回 法の原理と社会法の本質 [ロックの人間本性、ルソーとヘーゲルの一般意思]
- 14回 現代社会法の展望 [個人の尊厳、個人の独立性と社会性]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

労働法ないしは社会保障法に関する科目のうち少なくとも1科目履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。「国際法II」を併せて受講すると学習効果があがります。

教科書 /Textbooks

教科書 横田洋三編『国際法入門（第2版）』（有斐閣・2005）○
参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』（東信堂・最新版）○
ただし条約集は、受講上の不都合を甘受すれば、他の出版社のものでもかまいません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。参考文献は、初回講義時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス
第I部「国際社会における法律作り」
第2回 条約の締結 第3回 条約の留保
第4回 条約の無効 第5回 中間試験①
第6回 解説と講評&個別指導
第II部「特別法と一般法、国内社会における国際法」
第7回 慣習国際法 第8回 条約と第三国
第9回 条約の国内的効力 第10回 中間試験②
第11回 解説と講評&個別指導
第III部「国際社会における秩序の維持」
第12回 国際責任 第13回 武力行使の禁止と自衛権
第14回 紛争の平和的解決義務と国際司法裁判所(ICJ) 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験①②および学期末試験で評価します。
中間試験①...16.7% 中間試験②...16.7% 学期末試験...66.7%
なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法II【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 2学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。「国際法I」を併せて受講すると学習効果があがります。

教科書 /Textbooks

教科書 横田洋三編『国際法入門(第2版)』(有斐閣・2005)○
 参考書 山手治之・松井芳郎・香西茂『ベーシック条約集』(東信堂・最新版)○
 ただし条約集は、受講上の不都合を甘受すれば、他の出版社のものでもかまいません。
 講義の理解に必要な参考資料を、適宜配布、します。参考文献は、初回講義時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第I部「国際法上の国家」
- 第2回 国家と承認制度 第3回 国家の基本的権利
- 第4回 国家の基本的義務 第5回 中間試験①
- 第6回 解説と講評&個別指導
- 第II部「陸・海・空と国際法」
- 第7回 陸と国際法 第8回 海と国際法
- 第9回 空と国際法 第10回 中間試験②
- 第11回 解説と講評&個別指導
- 第III部「国際法主体としての個人」
- 第12回 人権の国際的保障 第13回 国際犯罪
- 第14回 国際刑事裁判所(ICC) 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験①②および学期末試験で評価します。
 中間試験①...16.7% 中間試験②...16.7% 学期末試験...66.7%
 なおボーダーラインにあるときは、アサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習を前提とした講義を展開します。詳細は学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際取引法 【昼】

担当者名 /Instructor 大隈 一武 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際取引法は、単独法として存在するものではない。企業実務において展開されてきた実務先行で、学問としてはまだ確立していない分野である。企業実務における経験から、それを国際契約法、海外投資・企業経営関係法、通商法の3つに分類して授業を行う。

教科書 /Textbooks

なし。プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大隈一武『国際契約法入門』(中央経済社・1996)
外務省経済局監修『世界貿易機関を設立するマラケシュ協定WTO』(日本国際問題研究所・1997)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際契約：英米法契約理論-例えば、【約因】、【コモンロー】、【衡平法】理論・判例検討
- 2回 契約条件と国際貿易条件【インコタームズ】、契約約款などを検討
- 3回 国際取引と制限：【OECD賄賂禁止条約】、【輸出管理ワッセナー取り決め】、歴史的展開
- 4回 国際契約書の起草：海外工事請負契約UNCITRALガイド参照、契約書のドラフティング
- 5回 国際取引諸条約(国際海上物品運送・国際物品売買条約【CISG】など)や荷為替信用状規則【L/C】など
- 6回 海外進出：投資・企業経営-単独進出と企業買収・合併など実務的な展開と内容を検討
- 7回 企業経営：株式会社・【パートナーシップ】の異同を理解し、海外合併事業の方法論、実務
- 8回～9回 投資協定、投資保証、多国間投資保証機関【MIGA】、【OECD多国籍企業ガイドライン】
- 10回 通商法：自由貿易地域と関税同盟の異同、実態、国際的動向、わが国の対応などを検討
- 11回 ブロック経済と世界貿易機関【WTO】：上記10との関連で、WTOの調整・問題点を検討
- 12回～14回 GATTからWTOへ：WTOの組織、諸協定：【紛争解決のメカニズム】
- 15回 【OECD】、【IBRD】、【IMF】などの国際機関の機能と役割：WTO以外の重要な国際機関の機能と役割を理解し、わが国の対応のあり方についても検討

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験100%
なお、出席が授業回数の3分の2に満たない場合は期末試験の受験資格を認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代国際関係法【昼】

担当者名 /Instructor 中川 智治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会において問題とされている環境問題について国際法の観点から講義する。

講義全体のキーワードとしては、地球環境問題、生物多様性、国際機構

教科書 /Textbooks

特に指定しない。担当者作成の講義レジュメを使用。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Patricia Birnie and Alan Boyle, International Law and Environment (3rd ed., OUP, 2009)
パトリシア・バーニー/アラン・ボイル『国際環境法』(慶應義塾大学出版会、2007年)
西井正弘[編]『地球環境条約：生成・展開と国内実施』(有斐閣、2005年)○
地球環境法研究会[編]『地球環境条約集(第4版)』(中央法規出版、2003年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 環境問題の国際化の歴史I【オットセイ保護】【トレイル熔鉱所事件】
- 2回 環境問題の国際化の歴史II【海洋汚染】【国連人間環境会議】【国連環境開発会議】
- 3回 国際環境法の構造I【国際責任】【国際制度による規制と監督】
- 4回 国際環境法の構造II【天然資源に対する恒久主権】【リオ宣言】
- 5回 国際環境法の構造III【人権アプローチ】【犯罪化と管轄問題】
- 6回 海洋環境の保護【国連海洋法条約】【寄港国管轄権】【地域漁業管理機関】
- 7回 有害廃棄物の国際的規制【陸上起因】【海洋投棄】【バーゼル条約】
- 8回 原子力と環境【原子力の国際的管理】【原子力損害責任】【プルトニウム輸送】
- 9回 自然保護【UNEP】【世界自然憲章】
- 10回 動植物の保護【ワシントン条約】【ラムサール条約】
- 11回 生物多様性の保護【生物多様性条約】【締約国会議方式】
- 12回 海洋生物資源の保護【公海漁業】【魚種別規制】【地域漁業管理機関】
- 13回 環境保護と貿易問題【WTO】【GATT 20条】【エコラベル】
- 14回 国際環境ガバナンス【国際環境政策の展開】【国際機構の展開】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学修状況(小テストなど)...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門教育科目の「国際法I・II」のいずれかを既に学修しているほうが望ましい。
講義中に配布するレジュメと共に、参考文献を事前ないし事後に参照し自己学修を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法総則【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法は、最も生活に密着した法律であり、「民法総則」という授業は、法学部における基本中の基本科目です。法学部生であれば、極力すべての人が、この民法総則を理解することが望まれます。この講義では、他の科目では講じられない法令用語についても、なんらかの形で時間を割いて説明します。

教科書 /Textbooks

山田卓生他『民法1 総則 Sシリーズ 第3版補訂』(有斐閣)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 民法とは、民法には何が書いてあるか、市民法の基本原理
- 2回(週) 【意思能力】、【未成年者】
- 3回(週) 【成年被後見人】他、【無効】と【取消】
- 4回(週) 【法人】
- 5回(週) 【物】、【法律行為】
- 6回(週) 法律行為の有効要件、【公序良俗】
- 7回(週) 【心裡留保】、【虚偽表示】
- 8回(週) 【錯誤】、【詐欺・強迫】
- 9回(週) 不動産登記のとの関係
- 10回(週) 【代理】、【無権代理】
- 11回(週) 【無権代理】、【表見代理】
- 12回(週) 【条件】、【期限】、【期間】
- 13回(週) 【時効】
- 14回(週) 【取得時効】、【消滅時効】
- 15回(週) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法は必ず持参して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

物権法 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法典は、財産の所有や契約、家族関係など身近な人間関係の中で形成される権利や義務について定めています。本講義は、民法典第二編において用意されている物権 (= 人が物に対して有している権利) に関する規定の原理・原則、要件・効果などの基礎知識と法の解釈を学びます。

教科書 /Textbooks

淡路剛久 = 鎌田薫 = 原田純孝 = 生熊長幸 『民法II物権〔第3版〕』 (有非閣Sシリーズ、2005年、1995円)
中田裕康ほか編 『民法判例百選I・総則・物権〔第6版〕』 (有斐閣、2009年、2200円)。
* 六法 (出版社は問わない) は必携です。講義には上記教科書と六法の「3点セット」を必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 ガイダンス / 物権法序論【物権の意義と性質】【物権の種類】【物権の効力】
 - 2回 【所有権】と【占有権】
 - 3回 【物権的請求権】
 - 4回 物権変動 (1) 不動産物権変動総論 (【物権変動の法的構造】)
 - 5回 物権変動 (2) 不動産物権変動各論① (不動産登記制度と【物権変動の対抗要件】)
 - 6回 物権変動 (3) 不動産物権変動各論② (背信的悪意者と民法177条)
 - 7回 物権変動 (4) 【動産物権変動と対抗要件】
 - 8回 物権変動 (5) 【動産の即時取得】
 - 9回 物権変動 (6) 法律行為の取消と登記 (民法総則で学んだ事項の発展・応用編)
 - 10回 物権変動 (7) 取得時効と不動産登記 (民法総則で学んだ事項の発展・応用編)
 - 11回 共同所有【持分の法的性質】【共有物の分割】【共有物の利用と明渡請求】
 - 12回 担保物権 (1) 【留置権】 / 【先取特権】 / 【質権】
 - 13回 担保物権 (2) 【抵当権】
 - 14回 担保物権 (3) 非典型担保【仮登記担保】【譲渡担保】【所有権留保】
 - 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100%
期末試験 (90分・論述問題) を実施し、その得点を成績評価に反映させます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「民法総則」を受講済みであることが望ましいです。講義は毎回レジユメを配布します。事例の解説に重点を置いています。六法の条文を「見る」のではなく「読む」習慣を身につけてください。試験は、判例なし六法のみ持込を許可しています (付箋・ラインマーカーはOK。書き込みは不可。)。私語をはじめ、他の受講者の迷惑になるような行為は厳禁です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族法【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思いがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講読親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社（2007年8月）3,000円、水野紀子他編著『家族法判例百選（第7版）』有斐閣（2008年10月）2,400円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣、○中川善之助＝泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻】【婚約】【内縁】
- 3回 婚姻制度②【婚姻】【婚約】【内縁】
- 4回 婚姻制度③【婚姻】【婚約】【内縁】
- 5回 離婚制度①【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 6回 離婚制度②【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 7回 離婚制度③【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 8回 親子制度①【実子】【養子】【親権】【後見】
- 9回 親子制度②【実子】【養子】【親権】【後見】
- 10回 親子制度③【実子】【養子】【親権】【後見】
- 11回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 12回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 13回 法定相続制度②【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 14回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義には、六法を必ず持参してください。「私法入門」「民法総則」、「物権法」を既に履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

債権総論 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法典は、財産の所有や契約、家族関係など身近な人間関係の中で形成される権利や義務について定めています。本講義は、民法典第三編において用意されている債権に関する規定のうち、債権に関する共通規則(民399~520条)を学びます。具体的には、発生した債権がどのような内容のもので(債権の目的)、どのような効力があり(債務不履行時に債権者が取りうる手段・債務者が無資力になった場合に債権者が取りうる責任財産保全手段)、どのように消滅していくのか(弁済・相殺・更改などの債権の消滅事由)、また、当事者が複数である場合や発生した債権を譲渡する場合はどうなるのかについて、具体的な事例をもとに基礎知識を習得するとともに、各条文の意義や法の解釈を学びます。

教科書 /Textbooks

野村豊弘=池田真朗=栗田哲男=永田真三郎『民法III債権総論(第三版)』(有斐閣Sシリーズ、2005年、1785円)。中田裕康ほか編『民法判例百選II債権(第6版)』(有斐閣、2009年、2200円)。*六法(出版社は問わない)は必携です。講義には上記教科書と六法の「3点セット」を必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回~2回 債権の発生【債権の発生要件】【債権の種類】
- 2回~5回 債権の効力(1)当事者間の効力【履行の強制】【債務不履行(及び損賠賠償の範囲と額の算定)】
- 6回~9回 債権の効力(2)債務者の責任財産の保全【債権者代位権】【詐害行為取消権】
- 10回~14回 債権の消滅【弁済】【相殺】
- 15回~18回 多数当事者の債権関係(1)【連帯債権】【連帯債務】【不真正連帯債務】
- 19回~22回 多数当事者の債権関係(2)【保証】【連帯保証】
- 23回~25回 債権債務の移転(1)【債権譲渡】【指名債権の譲渡】
- 26回~27回 債権債務の移転(2)【証券的債権の譲渡】【債務引受】【契約上の地位の移転】
- 28回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験・・・100% 期末試験(90分・論述問題)を実施し、その得点を成績評価に反映させます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「民法総論」はもちろん、その他の民事系科目も複数履修済み(あるいは履修中)であることが望ましいです。講義は毎回レジユメを配布します。事例の解説に重点を置いています。六法の条文を「見る」のではなく「読む」習慣を身につけてください。試験は、判例なし六法のみ持込を許可しています(付箋・ラインマーカーはOK。書き込みは不可。)。私語をはじめ、他の受講者の迷惑になるような行為は厳禁です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法総論【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法の内、判決手続に関する基本的かつ体系的な知識について解説します。民事訴訟法各論を履修する前に、民事訴訟法総論を履修することが望ましいです。

この科目を履修することにより、民事訴訟法の基本原則、重要単語を理解することができるようになります。

教科書 /Textbooks

テキストは、使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 民事訴訟とは 【各種訴訟】 【判決手続】
- 第2回 訴訟手続の概要について 【手続の流れ】
- 第3回 当事者 【当事者能力】 【訴訟能力】
- 第4回 裁判所 【裁判権】 【管轄】
- 第5回 訴えの提起 【訴えの種類】 (小テスト)
- 第6回 訴えの利益 【訴えの利益】 【当事者適格】
- 第7回 争点整理手続1 【弁論準備手続】
- 第8回 争点整理手続2 【弁論準備手続】
- 第9回 口頭弁論1 【処分権主義】 【弁論主義】
- 第10回 口頭弁論2 【口頭弁論】 (小テスト)
- 第11回 証拠1 【証拠】
- 第12回 証拠2 【証明責任】
- 第13回 訴訟の終了1 【判決】 【既判力】
- 第14回 訴訟の終了2 【既判力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト ... 40 % 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

参考文献等を利用して、授業の予習、復習をかかさないようにすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法各論【昼】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法について、判決手続に関するより重要な問題について学習します。民事訴訟法総論（民事判決手続I）に比べると、内容は高度ですので、民事訴訟法総論を履修していると本講義の理解が深いものとなります。

教科書 /Textbooks

テキストを使用します。後日、指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の際に紹介します。適宜、プリントを配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1回 当事者について | 【当事者能力】、【訴訟能力】 |
| 2回 代理人について | 【法定代理人】、【任意代理人】 |
| 3回 裁判所について | 【管轄】、【移送】 |
| 4回 訴えの提起 | 【訴え提起】、【二重起訴】 |
| 5回 口頭弁論I | 【訴訟要件】、【処分権主義】、【一部請求】 |
| 6回 口頭弁論II | 【弁論主義】、【主要事実】、【当事者の欠席】 |
| 7回 訴訟行為 | 【訴訟上の合意】、【訴訟行為の性質、効果】 |
| 8回 証拠I | 【自白】、【文書提出命令】 |
| 9回 証拠II | 【証明】、 |
| 10回 判決I | 【相殺の抗弁】、【口頭弁論終結後の承継人】 |
| 11回 判決II | 【和解調書】、【訴訟の終了】 |
| 12回 上訴 | 【上訴の利益】 |
| 13回 多数当事者訴訟 | 【共同訴訟】、【訴訟参加】 |
| 14回 請求の複数 | 【訴えの客観的併合】、【訴えの変更】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 30% 課題レポート... 10% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 「民事訴訟法総論」が基礎的な科目なので、先ず「総論」を履修するようにして下さい。
- ・ 1学期に比べ、内容的に高度なので、テキストによる予習、配布プリント・板書ノート等による予習・復習を欠かさないことが重要です。
- ・ 授業の進行状況により、授業スケジュールが前後することがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倒産処理法 【昼】

担当者名 /Instructor 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

債務者が経済的に破綻状態になったときには、利害関係人の利害を公平に調整する必要が生じます。この利害関係人との利益を調整することを目的とする法体系を、倒産法といいます。近年の経済状況の激変を受け、倒産法制度の改革が現在進んでいます。本講義では、倒産処理の中心となる破産法の解説を主として行い、必要に応じて、民事再生法、会社更生法についても講義を行います。

教科書 /Textbooks

宗田親彦編 『やさしい倒産法 [第七版]』 (法学書院)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、最初の講義時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倒産とは、 【破産】、【民事再生】、【会社更生】
- 2回 破産手続の概要
- 3回 手続の開始、 【裁判所】、【破産管財人】
- 4回 債権の行使方法I 【債権の届出】
- 5回 債権の行使方法II 【債権の確定】
- 6回 担保権の行使 【担保権】
- 7回 相殺権の行使 【相殺権】
- 8回 否認権の行使 【否認権】
- 9回 取戻権の行使 【取戻権】
- 10回 双務契約の処理 【売買契約】
- 11回 賃貸借契約、雇用契約等の処理 【賃貸借契約】、【雇用契約】
- 12回 配当、免責、手続の終了 【免責】
- 13回 民事再生法について
- 14回 会社更生法について
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト含む) ... 40 % 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、株式会社の設立、会社における意思決定の仕組みや経営の監督に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 株式会社の設立(1)【発起人】【発起設立】【募集設立】
- 5回 株式会社の設立(2)【設立中の会社】【見せ金】
- 6回 株式会社の機関(1)【株主と株主総会(1)】
- 7回 株式会社の機関(2)【株主と株主総会(2)】
- 8回 株式会社の機関(3)【取締役】【代表取締役】【取締役会】
- 9回 株式会社の機関(4)【監査役】【会計監査人】
- 10回 株式会社の機関(5)【善管注意義務と忠実義務】【利益相反取引】【役員報酬】
- 11回 株式会社の機関(6)【委員会設置会社】
- 12回 株式会社の機関(7)【役員等の会社に対する責任】
- 13回 株式会社の機関(8)【株主代表訴訟】
- 14回 株式会社の機関(9)【役員等の第三者に対する責任】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法II【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法IIでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1)【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2)【株式の譲渡】【自己株式】
- 4回 株式会社の資金調達(3)【募集株式の発行】
- 5回 株式会社の資金調達(4)【主要目的ルール】【新株発行の無効】
- 6回 株式会社の資金調達(5)【新株予約権の発行】
- 7回 株式会社の資金調達(6)【新株予約権発行の瑕疵】
- 8回 株式会社の資金調達(7)【社債】
- 9回 株式会社の計算(1)【貸借対照表】【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2)【剰余金の配当】
- 11回 株式会社の計算(3)【資本金の減少】【債務の株式化】
- 12回 株式会社の組織再編(1)【合併】【事業譲渡】
- 13回 株式会社の組織再編(2)【会社分割】【株式交換】【株式移転】
- 14回 株式会社の組織再編(3)【MBO】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、まず会社法Iから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』中の「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題をいくつか取り上げ、これらにつき解説をすることです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成22年度版であることが必要です。毎回、必ず持参してください。なお、期末試験実施時には、「判例つき」の六法の持ち込みは認められませんので、十分注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【】はキーワード)

- 1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 2回 民法に対する商法の特色は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 3回～4回 商人とは？商行為とは？【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 5回 企業形態と武装手段 【会社の種類】【政治献金】【会社制度の濫用】
- 6回～8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール【商号・商標】
- 9回～11回 会社と従業員との関係—【商業使用人】【雇用】
- 12回～13回 会社と消費者との関係—【普通取引約款の利用】【消費者保護法】
- 14回 営業・事業に関する重要事項の「公示」はどのように行われるべきか？【商業登記】
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象となる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶発的なリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引に「限定」されます。

そして、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の基本的枠組みを理解することにあります。火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する法律問題や犯罪を取り上げながら、保険法の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成21年度版であることが必要です。毎回、必ず持参してください。なお、期末試験実施時には、「判例つき」の六法の持ち込みは認められませんので、十分注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略，以下の順で進めますが，受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【】はキーワード)

- 1回 保険制度の目的と役割【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】【保険約款】
- 2回～3回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 4回 保険契約の種類と特徴【射倂契約性】【有償・双務契約性】
- 5回～10回 損害保険契約：一般的問題【被保険利益】【告知義務】【保険代位】
- 11回 各種の損害保険契約：個別的問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 12回～14回 生命保険契約と傷害保険【保険金受取人の指定】【免責条項】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

* 受講者の理解度を随時把握し、授業内容・方法を改善するために、場合によっては、小テストを実施することもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」を合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。また、私的生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法II【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

電子債権取引の時代になっても、いまだに手形は企業決済や金融の手段として広く使われている。手形取引は実務的であると同時に、手形法学において精緻な理論体系が構築され、独自の面白さがある。本講義では、主に約束手形を対象として、また具体的な判例を取り上げることで、手形に係る有価証券法理を明らかにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大塚龍児他「商法III-手形・小切手〔第3版〕」(有斐閣Sシリーズ・2006年)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

川村正幸「手形・小切手法〔第3版〕」(新世社・2005年)、関俊彦「金融手形小切手法〔新版〕」(商事法務研究会・2003年)。落合誠一他編「手形小切手判例百選〔第6版〕」(別冊ジュリスト173号)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～第2回 手形・小切手の経済的機能と法的構造【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形行為の意義と成立要件【手形理論】
- 第4回 手形行為と原因関係【商業手形、融通手形】
- 第5回 手形行為と法律行為【意思表示の瑕疵】
- 第6回 他人による手形行為と偽造・変造【無権代理、偽造手形、変造手形】
- 第7回 手形要件と白地手形
- 第8回 裏書の意義
- 第9回～第11回 裏書の連続と善意者保護【善意取得】【人的抗弁】
- 第12回 支払・支払拒絶・遡求・手形保証
- 第13回 為替手形・小切手
- 第14回 手形上の権利の消滅・利得償還請求権・除権決定・手形訴訟
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。場合によって、小テスト、レポート等を課す場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最新版の六法(但し小型のものでよい)を必携のこと。また、講義を受ける前にテキストを予習した上で、講義に出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場と法 【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、投資性を持った金融商品を包括的・横断的に規制することになった金融商品取引法を中心に講義を行う。投資者に自己責任原則を求めるには、適正な情報開示、不公正な取引の禁止および投資勧誘に関する規制が実施されなければならない。金融商品取引法の基本的な考え方を具体的な問題を素材として明らかにするとともに、金融商品や証券取引に関するDVDを挿み、少しでも分かり易くまた興味を持って受講できるようにしたいと考えている。

教科書 /Textbooks

川村正幸編「テキストブック金融商品取引法」(中央経済社・2009年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川村正幸編「金融商品取引法〔第2版〕」(中央経済社・2009年)、近藤光男=吉原和志=黒沼悦郎「金融商品取引法入門」(商事法務研究会・2009年)、河本一郎他著「金融商品取引法読本」(有斐閣・2009年)、黒沼悦郎「金融商品取引法入門〔第3版〕」(日経文庫・2009年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～第4回 総論【金融商品の定義】【有価証券・デリバティブ】【金融商品取引法の目的】
- 第5回～第8回 情報開示【有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書】【5%ルール、TOB】
- 第9回～第11回 不公正な取引の禁止【相場操縦】【風説の流布】【内部者取引】
- 第12回～第13回 金融商品取引業者【説明義務】【適合性原則】
- 第14回 証券行政【金融庁】【証券取引等監視委員会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。場合によって、小テスト、レポート等を課す場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最新の六法を必携のこと。テキスト等で予習をした上で、講義に出席すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / Tomohisa KIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主として著作権法と不正競争防止法の領域を扱う。ここでは、単なる法解釈だけでなくコンテンツ産業の契約実務、新コンテンツ産業を立ち上げる際の戦略的立法等まで含めた内容を扱う。音楽産業と法律、映画産業と法律、出版産業と法律、放送事業と法律・・・等々、各産業毎に前述した法領域の諸問題を検討する

教科書 /Textbooks

有斐閣別冊ジュリリスト「著作権判例百選」、特許庁標準テキスト「意匠編」「商標編」「総合編」。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鹿毛丈司著「音楽著作権と原盤権ケーススタディ」音楽之友社
有斐閣別冊ジュリリスト「商標・意匠・不正競争判例百選」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 著作権法概論～知的財産権と著作権制度の概要
2. 著作権の保護客体～著作物の定義と種類、プログラムの著作物、データベースの著作物二次的著作物および編集著作物、キャラクター、タイプフェイス等
3. 著作者～著作者、法人著作
4. 著作者人格権～公表権、氏名表示権、同一性保持権
5. 著作者～著作者、法人著作、共同著作、映画の著作物
6. 著作権(著作財産権)Ⅰ
7. 著作権(著作財産権)Ⅱ
8. 著作隣接権～概論
9. 出版権～概論
10. 著作権侵害
11. 音楽産業と契約実務
12. 映画産業と契約実務
13. 放送事業と契約実務
14. 商標権侵害・不正競争行為
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の比重は約5割、残りはレポート等の提出物(予定)や授業中の発表等の日常的学習の成果を参考にして総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策構想論 【昼】

担当者名 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

様々な政策を立案する際に前提とすべき価値や思想について検討しながら、近・未来の政治社会のありうべき姿について考察する。そのためにも、まず、政治と政策にかかわる基礎知識について論述し、次に、政策構想の具体例の分析を行う。

教科書 /Textbooks

中道『政治のデザイン-政策構想論序説』（南窓社）。レジュメを配布し、理解の深化を目指す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、毎回、講義中に示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 政治と政治状況について【権力】【正当性】【組織化】【諸価値の配分】
- 第 2 回 政治と政策について【方針】【政策の諸定義】【政策科学】
- 第 3 回 政治と政策研究について【政策分析】【政策過程】【政策構想の必要性】
- 第 4 回 新しい政策研究と政策の諸局面【政策マインド】【政策価値】
- 第 5 回-6 回 政策価値の変化【夜警国家の政策価値】【福祉国家の政策価値】
- 第 7 回-8 回 政策型思考について【目的・手段的認識】【循環的発想】【システムの発想】
- 第 9 回-10 回 市民の政策構想について【参加革命】【参加民主主義】
- 第 11 回-13 回 政治のデザインについて【古典モデル】【社会デザイン】
- 第 14 回 市民による政策構想について【トレードオフ】【諸価値の共生】【熟議民主主義】
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出：有（任意）出席点加味：有 平常授業中の小テスト：有（添削および問題解説）
期末試験：有。評価は総合して行う。
出席... 10% 小テスト... 10% 試験... 80% レポート：十分評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのため、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ごとに挙げていく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 日本における貧困問題・・・北九州市と福岡市のネットカフェ難民調査から
- 5回 日本における子どもの貧困(1)・・・日本の現状を考える
- 6回 日本における子どもの貧困(2)・・・比較の視座から考える
- 7回 社会実験(1)・・・社会実験とは何か
- 8回 社会実験(2)・・・事例の分析・検討
- 9回 循環型社会(1)・・・導入
- 10回 循環型社会(2)・・・容器包装リサイクル法
- 11回 循環型社会(3)・・・家電リサイクル法
- 12回 介護保険(1)・・・導入
- 13回 介護保険(2)・・・現状分析
- 14回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 15回 介護保険(4)・・・問題点とその検討

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業貢献度など ... 50 % レポート ... 50 %。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いていただき成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策過程論 【昼】

担当者名 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会・政策の決定(合理的決定・ゴミ箱決定、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams, 政策の窓 (Policy Window)、政策実施・調整 (Policy Learning &Changes)・政策変数、終了・評価の政策過程と、アクターの参加 (内閣・官僚・国会、政府間関係、専門家組織、世論とメディア、NPO)とその構造 (補助金・Rent-Seekingのような利益誘導型政治等) について理論・事例を広く検討し、理解してもらう。

(キーワード ; 公私、公共政策、政策の決定、実施、政策調整、終了、アクターの参加、メディアの役割、ガバナンス)

教科書 /Textbooks

- ① 早川純一 貴 外 (2004)、政策過程論、学陽書房
- ② 足立幸男 (2006)、公共政策決定の理論 ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中郵章、竹下讓 (1987)、日本の政策過程 : 自民党・野党・官僚、梓出版社
- 中野実 (1992)、現代日本の政策過程、東京大学出版会
- 草野厚 (1997) 政策過程分析入門、東京大学出版会
- 中村昭雄 (1997)、日本政治の政策過程、芦書房、その他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 授業や本の紹介など
- 第 2回 政策の対象、政策の必要性、費用と利益、政策の種類など。
- 第 3回 政策過程、参加者、政策資源、
- 第 4回 政策過程の理論 1 (川辺川ダム決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 第 5回 政策過程の理論 2 (政策の窓、イシューネットワーク論、無意思決定論など、中野実 (1992)、草野厚 (1997) を参考。
- 第 6回 政策過程の理論 3 (新聞、インターネットとかで検索した事例分析)
- 第 7回 ~ 第10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、アクター、官僚と国会、政府間関係、利益誘導政治)、実施過程に関する論文などの参考、
- 第 11回 後援会、地域政治構造、
- 第 12回 地域政治と政策過程、中野実 (1992) などを参考。
- 第 13回 政策評価と市民参加、
- 第 14回、第 15回、関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・試験・発表・出席状況などから総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。日本行政論をとっておくとより理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉国家論 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心にわが国の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向(どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか?)、②日本の社会保険の特徴(諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか?)。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 - 2回 ガイダンスと概論 授業の進め方、成績評価について説明するので必ず出席してください。あわせて制的扶助の行政組織・財政概要などを説明します。	度枠組みや社会保険・公
第3回 - 4回 公的扶助 生活保護制度の概要(原理・原則、扶助の種類)、実施体制について学びます。ホームレス自立支援施策について解説します。	た最近注目されているホ
第5回 - 8回 年金保険 制度分類、保険料と保険給付について解説し、空洞化・世代間格差・世代内格差・点を考えます。	資金運用管理などの問題
第9回 - 11回 医療保険 制度分類、保険料と保険給付について解説し、高齢者医療、混合診療、医療サービス	スの質などの問題を考え
第12回 - 第15回 福祉国家の展開と類型論 福祉国家はどのように成立したのか、そしてこれから福祉国家はどこへ行くのか。類型論から日本の福祉国家化の特徴を考えます。	

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100% 出席・・・次のような加算を行う
(試験は100点満点、60点以上で合格。概ね40~59点の人に対して出席1回につき2点程度の加算を行い、その結果60点を越えた人は合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「デモクラシー」は一般に「良いもの」として描かれています。しかし、デモクラシーを採用している国の政治を見てみると、「あまり良いものとは思えないなあ」「現実の政治はデモクラシーと何か違うなあ」と感じる人は少なくないでしょう。本講義は、理念としてのデモクラシーと現実のデモクラシーとの違いに注目して、政治学の基礎的な概念等を解説します。具体的には①デモクラシーを支える政治制度、②デモクラシーにおける市民・議員等、③地方・国・国際等のレベルとデモクラシーとの関係、④デモクラシーの確立に向けた制度設計について、社会科学的視点から考察します。講義全体のキーワードは、デモクラシーの理念と現実及び政治制度の機能と設計です。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1 回イントロダクション 【科学としての政治学】 【政治学の社会的役割】
 - 2 回デモクラシーと制度 【多数決原理】
 - 3 回デモクラシーと安定性 【政権交代】 【政党制】
 - 4 回デモクラシーと安定性 【二大政党制】 【中位投票者定理】 【多党制】
 - 5 回デモクラシーと代表 【直接民主制】 【間接民主制】 【議会主義】 【行政国家】
 - 6 回デモクラシーと代表 【代表と代表性】 【社会選択と投票方法】
 - 7 回デモクラシーと代表 【参加デモクラシー】 【市民参加】
 - 8 回デモクラシーと政治制度設計 【制度設計指針】 【代表性と統治の効率性】 【拒否点】
 - 9 回デモクラシーと政治制度設計 【議院内閣制】 【大統領制】 【選挙制度の類型化】
 - 10 回デモクラシーと政治制度設計 【小選挙区制】 【比例代表制】 【中選挙区制】 【混合型】
 - 11 回デモクラシーと政治制度設計 【単一国家】 【連邦制国家】 【一院制】 【二院制】
 - 12 回デモクラシーと政治制度設計 【重層的なデモクラシー】 【グローカリゼーション】
 - 13 回デモクラシーの展望 【デモクラシーの安定】 【デモクラシーと個人】
 - 14 回デモクラシーの展望 【政治的社会化】 【市民教育】 【利他的利己主義】
 - 15 回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- ◆受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「政治過程」は、政治制度の下で繰り広げられる様々なアクターによるインターアクションのプロセスを表す概念です。本講義は政治過程についてジャーナリスティック・感覚的にではなく、理論的・実証的に即ち社会科学的に考察します。まず、有権者がニーズを訴える過程（「入力過程」）に目を向けます。つぎに、入力された有権者のニーズを受けて政策を決定・実施・評価する過程（「出力過程」）に焦点を当てますが、本講義では特に政策決定過程を取りあげます。最後に、政策を決定するシステム（「公共システム」）の特徴を、市場システムと比較しながら、描出します。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- [入力過程]
- 2回 投票行動 3回 投票行動
- 4回 投票参加 5回 投票参加
- 6回 投票参加 7回 世論とメディア
- [出力過程]
- 8回 政策決定過程におけるアクター 9回 政策決定過程におけるアクター
- 10回 政策決定・政策過程のモデル 11回 政策決定・政策過程のモデル
- 12回 政策決定・政策過程のモデル
- [公共システム]
- 13回 公共システムと市場システム 14回 公益と政策
- 15回 総括

※受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- ◆政策決定を含めた政策過程全般について深く勉強を進めたい場合は「政策過程論」、行政府や官僚等については「日本行政論」、政策立案・分析・議論における公益等の諸価値の問題については「政策構想論」、政党システムや欧州諸国の政党については「政党政治論」、政党・利益集団・行政省庁に代表される組織全般については「行政組織論」、政治過程のルールである政治制度については「政治学」、日本の政治過程については「日本政治論」の受講をお勧めいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋政治史 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、近代のヨーロッパにおいて主権国家体系が誕生し、その後紆余曲折を経て現在のEU (European Union) を生み出すことになった歴史を概観するとともに、EUにおける政策分野ごとの統合の進展を検討する。また欧州統合に対して、加盟国がどのような影響を与えてきたのか、主要国の立場の変遷についても検討する。さらに、EUの東方拡大とトルコの加盟問題についても考察する予定である。講義全体のキーワードは、EU、超国家的統合、地域統合、などである。

教科書 /Textbooks

坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』（芦書房）
坂井一成編『グローバリゼーション国際関係論』（芦書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 授業内容の説明、「ヨーロッパ」とは何か
 - 2回 ヨーロッパでの主権国家体系の誕生と拡大(1)【ウェストファリア条約】
 - 3回 ヨーロッパでの主権国家体系の誕生と拡大(2)【ヨーロッパ協調】
 - 4回 ヨーロッパ統合の歴史【地域統合】【ECSC】【EEC】【EC】
 - 5回 共通外交・安全保障政策の進展史【EDC】【EPC】【CFSP】【NATO】
 - 6回 立憲体制と市民的自由の保障の拡大史【入国管理】【EU市民権】【欧州憲法】
 - 7回 教育・文化交流政策の発展史【アイデンティティ】【ソフトパワー】【ヨーロッパ文化】
 - 8回 「多様性の中の統合」の展開【補完性原理】【文化的多様性】【地域政策】
 - 9回 フランス外交とヨーロッパ統合の関係史【ドゴール主義】【国家主権】【対独関係】
 - 10回 ドイツのヨーロッパ統合への対応【半主権国家】【地方分権】【東方政策】
 - 11回 イギリスにおけるヨーロッパ政策の国内化【大西洋主義】【CFSP】【通貨統合】
 - 12回 ベネルクス3国とヨーロッパ統合の関係史【小国】【超国家的統合】【ECSC】
 - 13回 北欧諸国の対外政策と対ヨーロッパ政策の変遷【北欧協力】【福祉国家】【国民投票】
 - 14回 ヨーロッパ統合のゆくえ【欧州憲法条約】【中東欧諸国】【トルコ】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 期末筆記試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ヨーロッパに関する知識があることを前提とはしないが、多少なりともヨーロッパの政治や歴史に興味をもつことが必要である。授業前の予習は特に必要ないが、授業前後にはテキストを一読しておくことより理解が深まる。学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容を全て講義できない点に留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今年度は、まず東欧革命を手がかりに、政治文化の変化と政治システムの変動との関係を考察し、次に戦間期の政治システムの変化を危機の政治思想やファシズムの政治思想との関連で取り上げ、その背後にある政治文化、とりわけ日独の政治文化を比較してみる。また、ポスト・モダンの政治思想を取り上げながら、今後の新しい政治について模索してみる。

教科書 /Textbooks

中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は毎回、講義中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治文化とは何か【政治システム】【政治文化】【政治的社会化】
- 第2回 政治文化と政治システムの変動との関連について【東欧革命】【民主化】【市民社会】
- 第3回 民主主義体制の崩壊と政治文化について【政治体制】【政治文化】
- 第4回 ワイマル共和制の理念と現実【ワイマル憲法】【基本的権力関係】
- 第5回 政治制度の諸問題【政党制】【主要政党の特徴】【比例代表制】【大統領内閣制】
- 第6回 議会制民主主義の危機と大統領独裁【指導者民主主義】【ウェーバー】【シュミット】
- 第7回 ナチズムの思想、運動、体制【イデオロギー】【プロパガンダ】【強制的同質化】
- 第8回 文化的絶望の政治について【文化ベシミズム】【ラガルド】【ラングヘーン】【メラー】
- 第9回 ドイツ統一と民族問題【憲法愛国主義】【過去の克服】
- 第10回 近代批判の思想について【満洲】【大東亜共栄圏】【近代の超克】【歴史意識】
- 第11回 近代批判の思想について【未完のプロジェクト】【啓蒙の弁証法】
- 第12回 国民国家のゆらぎ【国民国家の虚構性】【ポスト国民国家】
- 第13回 自然との共生【環境倫理学】【コモンズの原理】
- 第14回 政治文化の日独比較について【市民文化】【複眼主義】【価値判断の相対性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート提出：有（ただし、任意）
 期末試験：各学期末に実施するが、評価は総合して行う。
 出席点の加味の有無：有
 平常授業中の小テスト：有（添削および問題解説）
 出席... 10% 小テスト... 10% 試験... 80% レポート(任意) 十分評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所をよく読んでおくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政党政治論 【昼】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、西欧諸国を中心として特に政党と政党システムに焦点をあてて比較検討を行う。西欧諸国の政党および政党システムには、どのような類似点や相違点があるのかを考察する。さらに、各国の政党組織や政府形成の特徴についても検討を行う予定である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川有美編『EU諸国』(自由国民社)
馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック』(東京大学出版会)
坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』(芦書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 授業内容の説明、政党とは何か 【大衆政党】【包括政党】【政党の機能】
 - 2回 政党のイデオロギーと組織(1) 【自由主義】【民主主義】【自由民主主義】【権威主義】
 - 3回 政党のイデオロギーと組織(2) 【社会主義】【社会民主主義】【新保守主義】【第三の道】
 - 4回 選挙制度と政党システム 【二党制】【穏健な多党制】【小選挙区制】【比例代表制】
 - 5回～6回 イギリス 【二党システム】【サッチャー】【ブレア】
 - 7回～8回 フランス 【ゴリスト】【中央集権】【コアビタシオン】
 - 9回～10回 ドイツ 【連邦制】【5%条項】【ドイツ統一】
 - 11回～12回 オランダ・ベルギー 【地域問題】【多文化主義】【多極共存デモクラシー】
 - 13回 イタリア 【多党】【分極化】【オリーブの木】
 - 14回 北欧諸国 【社会民主主義】【合意】【女性】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末筆記試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容を自分でまとめてノートに取る訓練をすること。学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容を全て講義できない点に留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本社会が激変している中で、多くの地方都市は経済的に疲弊しており、同時に都市再生を模索して様々な動きを始めている。多様な人材・施設・機能が集積する都市において、住民・企業・団体の様々なニーズに応えながら、都市機能を高め、地域経済の活性化を進めるためにどのような政策手法が有効であるかを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

牛嶋正著『現代の都市経営』(1999)有斐閣ブックス
吉田民雄著『都市行政の新しい設計』(1995)中央経済社
小林英夫著『産業空洞化の克服 - 産業転換期の日本とアジア』(2003)中公新書
中沢孝夫著『<地域人>とまちづくり』(2003)講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市政策論とは何か
- 2回 都市が直面する課題
- 3回 都市政策の前提とこれからの都市政策
- 4回 都市政策と人材確保
- 5回 魅力ある都市づくり
- 6回 国の産業政策・地域振興政策
- 7回 産業集積の理論と実態
- 8回 産業クラスター政策と課題
- 9回 中小企業振興の取組み
- 10回 新産業創出の取組み
- 11回 企業誘致の実態とその課題
- 12回 小売り商業と商店街の実態と課題
- 13回 中心市街地の再生
- 14回 雇用政策
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理（行政計画、政策評価、人事・組織・予算管理）など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 - 2回 ガイダンスと概論 授業の進め方、成績評価について説明するので必ず出席すること。あわせて社会福祉サービスの政策的視点、行政組織・財政概要などを説明します。	福祉サービスの政策的視点、行政組織・財政概要などを説明します。
第3回 - 6回 高齢者福祉と介護保険 ホームヘルプサービスや特別養護老人ホームなど在宅・施設サービスの内容と実施体制を理解します。介護保険から今後の福祉政策全般の動向を考えます。	体制を理解します。介護
第7回 - 9回 児童福祉 児童養護施設などを中心に在宅・施設サービスの内容と実施体制を理解します。保育所改革、児童虐待、少子化対策などの政策課題を考えます。	育所改革、児童虐待、少
第10回 - 15回 障害者福祉 グループホームなどを中心に在宅・施設サービスの内容と実施体制を理解します。自立支援制度の動向、障害者と雇用などの政策課題を考えます。	自立支援制度の動向、障

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100% 出席・・・次のような加算を行う
(試験は100点満点、60点以上で合格。概ね40～59点の人に対して出席1回につき2点程度の加算を行い、その結果60点を越えた人は合格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解してもらう。われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。また、地球温暖化、国境のない環境問題（黄砂現象、ごみの国家間移動など）やアメリカ、ドイツの環境問題やその対策についても考えてみる。
講義全体のキーワード；環境、環境問題、環境政策（政策手段）、環境影響、国際環境問題。

教科書 /Textbooks

- ①飯島伸子（2000）、環境問題の社会史、有斐閣
- ②東アジア環境情報発信所(2006)、環境共同体としての日中韓、集英社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇沢弘文（1974）、自動車の社会的費用、岩波新書
- 山村恒年（1996）、環境保護の法と政策、信山社
- James P. Lester(1989) Environmental Politics and Policy, Duke Univ. Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 授業や本の紹介など（自分の環境概念について、書いてもらう）
- 第 2 回 公害、環境（問題）とその構造（被害者、加害者等）、
- 第 3 回 環境問題の特性とその構造（環境、社会構造と制度、技術、自然＝資源、人口）
- 第 4 回 日本の環境問題と歴史
- 第 5 回 環境権、環境政策の特徴 1（日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国）
各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター。
- 第 6 回 環境権、環境政策の特徴 2（日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国）
- 第 7 回 環境政策の手段（間の比較分析）1；補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等。
- 第 8 回 環境政策の手段（間の比較分析）2；有料化、road pricing等
- 第 9 回 自治体の環境政策（環境計画、公害防止規制、横だし、上乘せの条例等）、環境自治体。
- 第 10 回 廃棄物はどこにいくのか（アジアへ、私の食卓へ、そして体へ）
- 第 11 回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 第 12 回 地球温暖化、
- 第 13 回 生物多様性、国際環境問題(黄砂、光化学スモッグ、海ごみ)
- 第 14 回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 第 15 回 まとめ（試験などの質問）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・試験・発表・出席状況などから総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。併せて、企業活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方行政改革論【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、地方行政改革がなぜ必要とされているのか、そこでの改革手法としてどのような手法が用いられているのか、現在進む地方行政改革の実態と課題を論じたい。改革の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。とくに今年は、自治体改革のブームともなっている「自治基本条例」を大きく取り扱うことにする。自治体の基本的なルールともいえる自治基本条例を定めるケースが増えているが、自治基本条例の将来的可能性ないし課題について考えることにしたい。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の組織【官僚制の理論】
- 3回 地方自治体の組織【自治体の特性】
- 4回 組織改革①【自治体組織の改革】
- 5回 組織改革②【自治体組織の改革】
- 6回 組織改革③【自治体組織の改革】
- 7回 地方公務員の改革①【公務員制度】
- 8回 地方公務員の改革②【人事管理改革】
- 9回 地方公務員の改革③【求められる公務員とは】
- 10回 行政と住民の関係①【市民参加】
- 11回 行政と住民の関係②【自治体内分権】
- 12回 行政と住民の関係③【コミュニティ自治】
- 13回 近年の課題①【自治基本条例の全体像】
- 14回 近年の課題②【自治基本条例による改革進展】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート試験...89% 特定課題...11%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。この授業の内容からすると、すでに地方自治論を履修していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本政治論【昼】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の政治に関する基礎的な知識と、今日一般に指摘されている問題点や改革論議に対する社会科学的視点を、受講生の皆さんが習得することです。まず日本の政策決定過程についての全般的な説明を行います。つぎに具体的事例として租税政策の決定過程に着目します。さらに政策決定過程の中心的アクターである議員の選出方法を取り上げ、日本の選挙制度の特徴や問題点等を考察します。講義全体のキーワードは「これまでの政治とこれからの政治」です。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 政策決定過程-基礎①：政治制度とアクター
- 3回 政策決定過程-基礎①：政治制度とアクター
- 4回 政策決定過程-基礎②：政治制度とインターアクション
- 5回 政策決定過程-基礎②：政治制度とインターアクション
- 6回 政策決定過程-応用①：税制の政治（理論）
- 7回 政策決定過程-応用①：税制の政治（理論）
- 8回 政策決定過程-応用②：税制の政治（事例）
- 9回 政策決定過程-応用②：税制の政治（事例）
- 10回 政策決定過程-応用②：税制の政治（事例）
- 11回 政策決定過程-応用②：税制の政治（事例）
- 12回 選挙制度①：今日の選挙制度
- 13回 選挙制度①：今日の選挙制度
- 14回 選挙制度②：首相公選制
- 15回 総括

※受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- ◆日本の政治機構については「憲法機構論」、日本の行政については「日本行政論」、政治過程全般については「政治過程論」、政治制度全般については「政治学」の受講をお勧めいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する講師による「講義」、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにして考えています。

ただし、ゲスト・スピーカーを多数およびする関係からも、授業中の私語は厳しく取り締まります。私語をせずには講義を受けられないという学生は受講しないでください。

教科書 /Textbooks

早瀬昇・松原朗『NPOがわかるQ&A』(岩波書店、2004年)。
榎原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2009年3月)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------------------|------------|
| 1回 導入—講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など | |
| 2回 NPOの基礎知識 | 3回 第1回講演会 |
| 4回 福祉NPO(1) | 5回 第2回講演会 |
| 6回 福祉NPO(2)—社会福祉法人 | 7回 第3回講演会 |
| 8回 環境NPO(1) | 9回 第4回講演会 |
| 10回 環境NPO(2) | 11回 第5回講演会 |
| 12回 まちづくりNPO(1) | |
| 13回 第6回講演会 | |
| 14回 まちづくりNPO(2) | |
| 15回 講義のまとめおよびレポートについての説明 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席(授業貢献) ... 50 % レポート... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もってテキストを読む等をして授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

途上国開発論 【昼】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

めまぐるしく変化する現在の世界において、今世紀は開発途上国がその中心舞台に躍り出ることが予想されている。そのテーマはといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどである。この講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはバングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みたい。同じ地球に生きる人間として、途上国の問題にも真正面からぶつかって欲しい。

教科書 /Textbooks

○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
* 中村尚司『人びとのアジア - 民際学の視座から』岩波新書、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい
第2回～4回 担当教員の途上国での体験からの受講生への問題提起 【バングラデシュ】
第5回～6回 開発論の歴史：成長概念と貧困概念を中心に 【成長】【貧困】【SD】
第7回～8回 開発論の課題：人口増加と資源・環境問題 【人口増加】【環境問題】
第9回～10回 途上国での農村・農業問題 【農村】
第11～12回 世銀の開発方針とNGO 【世銀】【NGO】
第13～14回 途上国での都市問題と社会開発 【都市問題】【社会開発】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 小課題の提出 ... 10 % 試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アジア地域社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、韓国、インドネシア、バングラデシュを対象に、アジアの文化・生活・社会の断面を紹介していきます。担当教員の体験や関心から出発しているので、若干（かなりかも）、マニアックになるのはお許しください。アジア大好き人間になり、学生時代には一度は同国に出かけてください。アジアに少しでも興味ある学生なら誰でも歓迎です。

教科書 /Textbooks

その都度配布
○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 大橋正明・村山真弓編『バングラデシュを知るための60章【第2版】』明石書店、2009年
- * バク・ジョンヒュン『韓国人を愛せますか?』講談社+α新書、
- * 倉沢愛子『ジャカルタ路地裏フィールドノート』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---|-----------|
| 1 回 「アジア地域社会論」に関する授業方針と内容の説明 | |
| 2 回 韓国、インドネシア、バングラデシュへのスタディ・ツアーの写真を通しての比較説明 | |
| 3 回 上記三か国の統計数値による比較説明 | 【統計数値】 |
| 4 回 絵本を通しての三か国の生活・文化比較 | 【絵本】 |
| 5 回 イスラーム教の紹介 | 【イスラーム教】 |
| 6 回 バングラデシュの農村社会 | 【農村社会】 |
| 7 回 バングラデシュの都市社会（隣人関係） | 【隣人関係】 |
| 8 回 バングラデシュの都市社会（開発・環境に関する意識） | 【開発・環境意識】 |
| 9 回 バングラデシュの都市社会（清掃人・ウェイストピッカー） | 【清掃人・WP】 |
| 10 回 韓国の文化の特徴 | 【韓国文化】 |
| 11 回 韓国の現代社会と伝統 | 【韓国社会】 |
| 12 回 韓国社会の国際化（移民政策・多文化共生政策） | 【多文化共生】 |
| 13 回 インドネシアの社会（ゴトンロンとRT/RW） | 【ゴトンロヨン】 |
| 14 回 インドネシア・カンブンの概念と実例 | 【カンブン】 |
| 15 回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 30 % 小課題の提出 ... 20 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対外政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

このクラスでは、資本・貿易や経済の国際化などの国際システム・レベルの要因が、先進諸国の経済政策にどのような影響を与えるのか、つまり各国は国際経済の制約下いかなる経済政策を実行するのかを検証する。まず資本・貿易や経済の国際化がどのような環境を創出したかを概観し、次にこの環境が諸国にいかなる制約を課するかを分析する。そしてその制約下各国政府がいかなる経済政策を施行するかを検証する。

教科書 /Textbooks

Thomas Oatley. 2008. International Political Economy: Interests and Institutions in the Global Economy, 3rd ed. New York: Pearson Longman.

(なぜ英語のテキストを使うのかも含めて、私のクラスについては、<http://www.ne.jp/asahi/sakamoto/sakamoto/basicideas.htm>を参照)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そういう覚悟で履修登録すること。毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

1. イントロ; 2. 国際政治経済とは何か; 3. Political Economy of International Trade Cooperation; 4. Society-Centered Approach to Trade Politics; 5. State-Centered Approach to Trade Politics; 6. International Monetary System; 7. International Monetary Arrangements; 8. Society-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy; 9. State-Centered Approach to Monetary and Exchange-Rate Policy; 10. Catch-Up and Review; 11. Catch-Up and Review; 12. International Finance; 13. Import Substitution Industrialization; 14. Market Reform; 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言参加が50%、(2)研究論文が50%。授業での発言・参加と論文提出のどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、どれだけ積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は学期末提出の研究論文の質で決める。研究論文はA4紙にダブルスペースで13枚程度。研究論文の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、抽象的な哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。

また、学期半ばに研究の計画書を提出してもらおう。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。学生はこのアウトラインに沿って研究を進め、論文をまとめる。当然のことながら、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を必ず読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計、国際関係論、国際経済論を勉強することを強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○下村恭民他『開発援助の経済学（第4版）』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

- 第1回 開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
- 第4回 1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
- 第5回 南北交渉の時代【新国際経済秩序（NIEO）】、【資源ナショナリズム】
- 第6回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）戦略】
- 第7回 途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
- 第8回 1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】
- 第9回 グローバル・イシューズの時代【国連主催会議】、【NGOフォーラム】
- 第10回 開発援助の新潮流【人間開発】、【社会開発】
- 第11回 人間開発概念の発展【人間の安全保障】、【保護する責任】
- 第12回 日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
- 第13回 日本のODAの仕組み【無償資金協力】、【有償資金協力】、【技術協力】
- 第14回 日本のODAの理念と世界との比較【ODA大綱】、【自助努力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第2次世界大戦後の歴史について復習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor 千知岩 正継 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習します。紛争予防を目的として、どのような活動がどのような主体によって行われているのか、効果的な紛争予防策はあるのかなどについて、具体的な事例をもとに学習します。

教科書 /Textbooks

メアリー・アンダーソン『諸刃の援助』明石書店、2006年。
大平剛『国連開発援助の変容と国際政治』有信堂高文社、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○東大作『平和構築』岩波新書、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 第1回 冷戦終結の影響【民主的平和】、【国内紛争】、【アイデンティティ・ポリティックス】
- 第2回 PKOの変容と限界【平和執行型PKO】、【予防展開】
- 第3回 「予防の文化」と平和構築アプローチ【予防開発】、【紛争サイクル】
- 第4回 平和構築と人道・開発援助活動の拡大【紛争分析手法】、【構造的要因】、【引き金要因】
- 第5回 「保護する責任」(総論)【人道的介入】
- 第6回 「保護する責任」(各論)【脆弱国家】、【早期警報】
- 第7回 安全保障部門改革(SSR)と武装解除、動員解除、兵士の社会復帰(DDR)【SSR】、【DDR】
- 第8回 東ティモールとアフガニスタンの事例検証：SSRとDDRの具体的な事例
- 第9回 国際開発援助レジームの変容【援助協調】、【援助の調和化】
- 第10回 復興援助と条件付け【ピース・コンディショナリティ】
- 第11回 Do No Harm原則①【平和へと向かう現地の力】、【戦争へと向かう現地の力】
- 第12回 Do No Harm原則②【コネクター】、【ディバイダー】
- 第13回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ①
- 第14回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際協力論Iを履修していれば、本講義の理解に役立ちます。国際協力論Iが基礎的な事項を学習するのに対して、国際協力論IIはより実践的な内容となっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者福祉論I【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められてきた。障害者自立支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、地域生活、施設利用などでの問題を取り上げながら、以下の点について吟味する。権利保障とは何かについて検討する。また障害をもつ人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。さらにはこれまでタブー視されてきた障害者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

小賀 久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立支援】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【地域生活】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【ケアマネージメント】
- 5回 権利擁護システム① 【成年後見制度】
- 6回 権利擁護システム② 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 7回 権利擁護システム③ 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
- 8回 障害者福祉法制の到達点と課題① 【労働支援】
- 9回 障害者福祉法制の到達点と課題② 【生活支援】
- 10回 障害者福祉法制の到達点と課題③ 【家族支援】
- 11回 障害者福祉のこれから① 【障害者介護】
- 12回 障害者福祉のこれから② 【施設解体】
- 13回 障害者福祉のこれから③ 【地域生活支援】
- 14回 障害者福祉のこれから④ 【性の支援】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者福祉論II 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

障害をもつ人の自立と地域生活、施設利用などの問題を取り上げながら、権利保障とは何かについて検討する。また権利侵害の実態を紹介し、政府がつくる権利擁護システムの問題点や課題を整理し、あるべき権利擁護システムを検討する

教科書 /Textbooks

小賀 久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の注意と講義の総論
- 2回 障害概念と障害者①【ICF】
- 3回 障害概念と障害者②【身体障害、知的障害】
- 4回 障害概念と障害者③【精神障害、内部障害等】
- 5回 現代社会と障害者福祉理念①【ノーマライゼーション、インテグレーション】
- 6回 現代社会と障害者福祉理念② - 理念の影響
- 7回 現代社会と障害者福祉理念③ - 我が国障害者の生活標準
- 8回 障害者福祉の法制度①【障害者基本法と障害者計画】
- 9回 障害者福祉の法制度②【障害者自立支援法】
- 10回 障害者福祉の法制度③【利用契約】
- 11回 障害者福祉のサービス体系① - 児童福祉法と障害児サービス体系
- 12回 障害者福祉のサービス体系② - 身体障害者福祉法とサービス体系
- 13回 障害者福祉のサービス体系③ - 知的障害者福祉法とサービス体系
- 14回 障害者福祉のサービス体系④ - 精神保健福祉法とサービス体系
- 15回 関連法とサービス体系、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老人福祉論I【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

産業化をベースとして、近代化が成熟するとともに、人口構造の高齢化が社会現象として多くの課題をもたらすことになった。更には人口減少が始まり、人口転換が急速に進展すると予測されている。このような現状では人口高齢化を単なる社会問題として把握するにとどまらず、社会経済的視野に立脚した人間洞察ができるような視点を身につけることが要求される。高齢者福祉論1では高齢者の生活実態と社会情勢、人口構造、介護需要とともに、介護の概念や対象及び理念、制度・政策の歴史的経緯、介護保険法や老人福祉法等を概説する。さらに、行政組織や民間団体の役割、財政等の理解を促すよう講義を進める予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2010年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
他は講義の中で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【キーワード】

- 第1回～第2回 現代社会と人口減少、少子・高齢化問題と必要な政策課題【人口転換】
- 第3回～第5回 高齢者の生活実態や社会関係及び高齢者の生活支援の課題【生活支援】
- 第6回～第7回 老人福祉の歴史的経緯【施設・居宅サービス】【ノーマリゼーション】
- 第8回～第9回 老人福祉の法律と制度【老人福祉】
- 第10回～第11回 介護保険制度の概要【介護保険、権利擁護】
- 第12回～第14回 行政組織や民間団体の役割、財政等【行財政、民間活動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70% 授業態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障制度における社会福祉の位置づけや基本的制度に関する知識

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老人福祉論II 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人口構造の転換が始まっている。このことは多くの課題をもたらすことになる。老人福祉論2では、各論として介護保険制度や老人福祉制度等、関連する法制度について講義をする予定。また、介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方及び専門職としての人間観に基づく相談援助、認知症や週末期ケア等について理解を促す予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2010年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店

その他は講義の中で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【キーワード】

- 第1回～第2回 老人福祉制度と関連法【老人福祉】
- 第3回～第4回 介護保険法と制度【介護保険】
- 第5回～第6回 介護保険法における組織及び団体【組織及び団体の役割】
- 第7回～第8回 介護専門職の役割と地域包括支援センター【地域包括】
- 第9回～第10回 介護予防に関する専門技術及び、相談援助の方法【介護予防】
- 第11回～第12回 認知症や週末期ケア、高齢者虐待等と権利擁護【介護過程、権利擁護】
- 第13回～第14回 老人福祉関連分野の活動 - 住宅、環境整備、サービス団体・組織【民間活動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70% 授業態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障制度における社会福祉の位置づけや基本的制度に関する知識

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論 【昼】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂が公開されています。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 2回 人的資源管理の歴史的発展【人事管理論】【人的資源管理論】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務設計【職務拡大】【職務充実】
 - 5回 組織設計【分業】【調整】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 職能資格制度と人事考課制度【人事等級制度】【人事考課】
 - 8回 専門職制度【組織内プロフェッショナル】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 教育訓練制度とキャリア開発【選択型研修】【自律的キャリア】
 - 11回 福利厚生制度【カフェテリア・プラン】
 - 11回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【雇用形態の多様化】
 - 12回 女性労働【ジェンダー】【ダイバーシティ】
 - 13回 労使関係【企業別労働組合】
 - 14回 人的資源管理領域における最近の学説【戦略的人的資源管理論】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% (出席は不定期に取り、単位の修得条件とする) 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくことよい。
また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、企業の財務活動に関する基礎知識を提供することを目的とします。具体的には、企業（株式会社）の事業活動の元手となる資本を提供している株主の観点から、企業がどのように資本調達を行い、実物資産へ投資し、また、投資からのリターンを投資家に返すべきか（ペイアウト）を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹、『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス（改訂版）』，創成社（2009年4月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸、『コーポレート・ファイナンス入門』，日本経済新聞社（2004年9月）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン コーポレート・ファイナンスの世界
- 2回～4回 コーポレート・ファイナンスの世界【期待リターン，リスク（標準偏差），証券，発行市場，流通市場，ゴーイング・コンサーン，減価償却費，配当，内部留保】
- 5回 投資の基礎知識【設備投資，研究開発投資，金融投資，貸借対照表，損益計算書】
- 6回～7回 資本調達の基礎知識：自己資本調達【額面，時価，創業者利得，IPO，普通株，優先株，ハイリスク・ハイリターン，ROA，ROE】
- 8回～9回 資本調達の基礎知識：負債資本調達【普通社債，ワラント債，転換社債，MSCB】
- 10回～11回 配当の基礎知識【配当政策，配当性向，配当利回り，自社株買い戻し，株式分割】
- 12回～14回 コーポレート・ガバナンス【所有と経営の分離，エージェンシー問題，モラルハザード 取締役会制度，執行役員制度，大株主，敵対的買収，メインバンク，株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% 課題...10% 試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回「電卓」を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII 【昼】

担当者名 /Instructor 松本 守 / Mamoru Matsumoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は企業ファイナンスIで学習した内容をふまえて、株主の観点から、企業の財務活動を考える上で必要になる理論的基礎を与えることを目的とします。具体的には、「将来の1万円と現在の1万円ではどちらの方が価値が高いか」、「企業価値を最大化するための資本構成は存在するか」などを学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹, 『すらすら読めて奥まで分かる コーポレート・ファイナンス(改訂版)』, 創成社(2009年4月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸, 『コーポレート・ファイナンス入門』, 日本経済新聞社(2004年9月)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 企業ファイナンスIの復習
- 2回~3回 現在価値計算
【現在価値(PV), 将来価値(FV), 安全利子率, リスクプレミアム, 投資信託】
- 4回~6回 株式価値・負債価値と企業価値【金融商品, 利付債, 割引債, クーボン, 配当割引モデル(DDM), 企業価値, 株式価値, 負債価値】
- 7回~9回 資本コスト【資本コスト, 最低要求収益率, 安全資産, 加重平均資本コスト, ポートフォリオ, マーケット・ポートフォリオ, 資本資産評価モデル(CAPM), β (ベータ)】
- 10回~11回 投資決定の基礎理論【投資決定, 割引キャッシュフロー(DCF)法, 正味現在価値(NPV), 内部収益率(IRR), 回収期間法】
- 12回~14回 資本構成の基礎理論【レバレッジ効果, MM理論, 裁定取引, 法人税, 倒産コスト, トレード・オフ・モデル】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% 課題...10% 試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回「電卓」を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、（2007年11月）、1,800円（当時）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会计学）とは何か？【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【売却時価】
- 7回 発生主義と実現主義【費用の発生】【収益の実現】
- 8回 資産とは何か 【流動・固定分類】
- 9回 負債とは何か 【債務】
- 10回 原価と時価【有用性】
- 11回 純資産とは何か【資本】【利益】
- 12回 企業会計のルール【企業会計原則】
- 13回 明瞭性の原則【ディスクロージャー】
- 14回 財務報告【投資家】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む） ... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、（2007年11月）、1,800円（当時）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会（2005年）、4,600円（当時）○
西澤健次『負債認識論』国元書房（2005年）、2,300円（当時）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計と言語【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 費用配分という考え方【期間損益】
- 4回 減価償却について【定額法】【定率法】
- 5回 引当金の会計（その1）【退職給付会計】
- 6回 引当金の会計（その2）【条件付債務】【修繕引当金】
- 7回 負債概念について【退職給付会計】
- 8回 有価証券の会計【評価益】
- 9回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 10回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 11回 有価証券評価益と実現概念【原価】【時価】
- 12回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 13回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 14回 財務報告【金融商品取引法】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論の講義をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中小企業論 【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていくことを、本コースの目的とする。

教科書 /Textbooks

5月頃発売予定の中小企業庁編「2010年版中小企業白書」経済産業調査会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】 【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】 【問屋制下請】 【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 "
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】 【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理
 - 第13回 "
 - 第14回 "
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
出席・課題等の平常点・・・30% 期末レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。授業のキーワードは「スポーツを科学する」である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

必要時、授業時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。また、授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。なお、体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習)レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにすること。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 第 1 回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2 回 防犯の心得【警察官】：被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3 回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4 回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5 回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6 回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7 回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8 回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9 回 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10 回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせて行う。
- 第 11 回 救急法II火災や自然発生災害時での身の守り方救急法などを学習する
- 第 12 回 障害とノーマラージュエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13 回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14 回 自己管理まとめ【保健師】：ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①出席：60% (出席と毎回のミニレポート) ②まとめ(ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布したレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(1)
- 3回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(2)
- 4回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(3)
- 5回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(4)
- 6回 サービスの基礎練習(1)
- 7回 サービスの基礎練習(2)
- 8回 ボレーやスマッシュの基礎練習(1)
- 9回 ボレーやスマッシュの基礎練習(2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ドロップ・ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1、3対2) (1)
- 6回 応用練習 (2対1、3対2) (2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (1)
- 10回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド、速攻など) (2)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム (2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム (3)
- 14回 ゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修についての諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム (1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム (2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム (3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム (4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム (1)
- 11回 ゲーム (2)
- 12回 ゲーム (3)
- 13回 ゲーム (4)
- 14回 ゲーム (5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修についての諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 ○『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第一講 「今西錦司と自然学」
- 二講 「私とあなたの自然学」
- 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
- 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
- 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
- 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
- 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
- 第九講 人々はどのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
- 第十講 人々はどのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
- 第十一講 人々はどのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
- 第十二講 人々はどのように自然を利用していきけるか - 日本の竹産業と政策
- 第十三講 人々はどのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
- 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
- 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたくなったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球は今から約46億年前に誕生した。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。この授業では、現在の地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

丸山茂徳・磯崎行雄『生命と地球の歴史』岩波書店
川上紳一『生命と地球の共進化』日本放送出版協会NHKブックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回 生きている地球2【ウェゲナーと大陸移動説】
- 4回 地球惑星の起源と進化【太陽系の起源】
- 5回 水の惑星の誕生と地球生命の起源【生命の起源】
- 6回 目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 7回 凍りついた地球【全球凍結】
- 8回 生物進化史上最大の事変【カンブリア爆発】
- 9回 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%，ミニ課題・レポート：30%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミニ課題・レポートは提出期限を厳守のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 重信 幸彦 / 基盤教育センター, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）の学芸員が、北九州の自然と自然史博物館の魅力、そして各学芸員の調査や研究について紹介をする授業です。北九州市は多様な化石を産する化石の一大産地です。また、多様な自然に囲まれた都市でもあります。このような恵まれた北九州の自然と、それを展示している当博物館を、まずみなさんに知ってもらうことが、この授業の大きな目的です。各学芸員は、海外での発掘や、調査・研究も積極的にを行っています。講義では、海外の話題も含めた、各自然史分野の最先端の話も聞くことができると思っています。よりグローバルな視点から、自然史を学んでもらうことも、この授業の目的としています。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各担当者の講義のテーマは下記のとおりです（【 】内はキーワード、()内は担当学芸員の名前です）。講義の順番は未定です。下記の講義以外に、博物館見学も予定しています。

- ・ 昆虫分類学の歴史（上田）：【分類】【化石昆虫】
- ・ 化石が語る魚類の進化（籾本）：【魚類化石】
- ・ 二次的自然と哺乳類（馬場）：【都市近郊に棲む哺乳類】【生物多様性の価値】
- ・ 絶滅危惧と鳥類（武石）：【絶滅危惧】
- ・ ちょっと前の自然～植物の世界を例に（真鍋）：【里山】【二次的自然】【生態遷移】
- ・ 化石記録が語るいのちのたび「絶滅と繁栄」（太田）：【化石】【生命史】【絶滅】
- ・ カエルとサンショウウオのおはなし（山根）：【両生類】【身近な生き物たち】
- ・ 宝石鉱物の魅力と不思議（森）：【宝石】【鉱物】
- ・ 深海生物～その形と適応的意義～（下村）：【深海】
- ・ 日本列島のおいたち：付加体の重要性（御前）：【プレートテクトニクス】【日本の地質】

※北九州市立自然史・歴史博物館のホームページ： <http://www.kmnh.jp/>

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート... 80% 博物館見学レポート 20...% なお、予め定められた2回の博物館見学を、レポート提出の条件とし、単位取得の必須条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【昼】

担当者名 /Instructor 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳) 『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』 丸善 (1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳) 『沈黙の春』 新潮社 (1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳) 『奪われし未来』 翔詠社 (1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシン.....史上最強の毒物【ダイオキシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 小松 佐穂子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今現在，“心理学”の分野で明らかになっていることについて学ぶことを通して，自分や他者の“こころ”について考える。基本的に，心理学についての新たな知識の獲得を目指す，獲得した知識をふまえて，自ら，現代社会の問題に取り組み，考える態度を学んで欲しい。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【心理学】
- 2回 心理学の研究法【実験法】【観察法】【調査法】
- 3回 ものの見え方，感じ方(1)【知覚】
- 4回 ものの見え方，感じ方(2)
- 5回 学習のしくみ【条件づけ】【学習】
- 6回 人間の記憶のしくみ(1)【記憶】【認知】
- 7回 人間の記憶のしくみ(2)
- 8回 母と子の結びつき【愛着】
- 9回 対人コミュニケーション【感情】【表情】
- 10回 心の病【心身症】【神経症】
- 11回 気分のコントロール【うつ病】【認知のゆがみ】
- 12回 高齢化社会【中年期】【老年期】
- 13回 女性の社会進出に伴う生き方【アイデンティティ】
- 14回 こころの知能指数【情動性知能】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題)...30% ミニレポート...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて展開されてきた主要な思想の流れを解説する。この時代が「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想に着目してゆく。これらの発想をヒントにして、自我の成立、他者との関係性を考え直すことが、本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存主義の思想(1) 概説
- 3回 実存主義の思想(2) キルケゴール
- 4回 実存主義の思想(3) ハイデガー
- 5回 実存主義の思想(4) サルトル
- 6回 実存主義の思想(5) メルロ=ポンティ
- 7回 中間テスト
- 8回 精神分析の思想(1) フロイト1
- 9回 精神分析の思想(2) フロイト2
- 10回 精神分析の思想(3) メラニー・クライン
- 11回 精神分析の思想(4) ジャック・ラカン
- 12回 フェミニズムの思想(1)
- 13回 フェミニズムの思想(2)
- 14回 フェミニズムの思想(3)
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※中間テストを受験していない者は期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第七回に中間テスト(第三回~第六回の確認テスト)を実施するので、受講希望者は遅くとも第三週目から出席しておく必要がある。このテストを受験していない者には単位を認めない。
また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペなど)が発覚したレポートは即座に零点となるので、十分に注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名
/Instructor

岩本 真理子 / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科, 水本 弘文 / 比較文化学科
馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるだろうか。文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高い。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ、フランス語と生まれ変わることもある。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で日本語、英語、ドイツ語などで書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促す。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・詩とは何か
 - 2回 ドイツの詩
 - 3回 ドイツの詩
 - 4回 イギリスの詩
 - 5回 イギリスの詩
 - 6回 イギリスの詩
 - 7回 アメリカの詩
 - 8回 アメリカの詩
 - 9回 フランスの詩
 - 10回 フランスの警句とことわざ
 - 11回 言葉から形へ
 - 12回 言葉から形へ
 - 13回 日本の詩
 - 14回 日本の詩
 - 15回 まとめ
- (各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
 第2回~第8回 「正義」の応用問題
 ~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
 第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
 第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、I・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）
J・リンスほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞・グロバリゼーションとデモクラシー【第三の波】【市民社会】
- 第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
- 第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
- 第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
- 第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
- 第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
- 第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
- 第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席重視、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、
定期試験と出席などで総合評価
出席 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人権といえば特別なことというイメージを持つかもしれない。しかし、実際には気付かない、知らないというだけで自分自身の人権が侵害されていたり、無意識のうちに他者の人権を侵害していることがある。

本講義では、識字問題や在日外国人問題など様々な事例から、現存する人権課題とその社会的背景を考察する。そして、人権とは非常に身近で重要なものであるということを実感していただきたい。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所 発行）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に提示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回テーマを決め、ビデオ等を交えながら授業を行う。
出席確認と授業の理解を深めるため、毎回「感想」を書き込む用紙を配布する。

(【 】はキーワード)

- 1回 わたしにとっての人権
- 2回 人権の歴史(1)【近代革命】
- 3回 人権の歴史(2)【国連】
- 4回 人権概念の整理(1)【国家】【憲法】
- 5回 人権概念の整理(2)【国際人権】
- 6回 日本における人権課題(1)【部落問題】
- 7回 日本における人権課題(2)【冤罪】
- 8回 生活の中の人権(1)【ハンセン病】
- 9回 生活の中の人権(2)【平和】
- 10回 教育マイノリティの現状【識字】
- 11回 教育マイノリティの現状と課題【夜間中学】
- 12回 外国人の人権(1)【国籍】
- 13回 外国人の人権(2)【在日コリアン】
- 14回 海外における人権課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験と出席状況で評価する
出席 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

女性の名前に「美」が付くことが多いのはなぜか、工学部や法学部、経済学部に女子学生が少ないのはなぜか、子育ては母親の役割とされているのはなぜか、男女の賃金に差があるのはなぜか-そんな身の回りの「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。講義のキーワードは「ジェンダー」「ポリティクス」。

教科書 /Textbooks

伊藤公雄・樹村みのり・国信潤子『女性学・男性学-ジェンダー論入門』（有斐閣、2002/02、1月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』岩波書店
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』明石書店
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 女であることの損・得 / 男であることの損・得【ジェンダー役割】【性の二重基準】
 - 2回 作られる<男らしさ><女らしさ>【男らしさ】【女らしさ】【メディア・リテラシー】
 - 3回 女性学って何?【女性の視点】【周縁化】【名前のない病】
 - 4回 あなたとわたし【ジェンダー】【セクシュアリティ】
 - 5回 ジェンダー・フリーな教育のために【隠れたカリキュラム】【ジェンダー・トラッキン グ】
 - 6回 恋愛の女性学・男性学【ロマンティック・ラブ・イデオロギー】【デートDV】
 - 7回 男性学って何?【男性の鏡】【自殺】【専業主夫】
 - 8回 ジェンダーと労働【賃金格差】【間接差別】【ワーク・ライフ・バランス】
 - 9回 花子さんの見た未来?【多様な生き方】【多様な働き方】【多様な家族】
 - 10回 多様な家族に向かって【近代家族】【婚姻制度】【選択的夫婦別姓】【婚外子差別】 【DV】
 - 11回 育児はだれのもの【母性愛神話】【三歳児神話】【育児休業法】
 - 12回 国際化のなかの女性問題・男性問題【グローバル化】【移住労働の女性化】【人身取引】
 - 13回 平和の思想と<男らしさ>【平和】【暴力】【軍事化】
 - 14回 ジェンダー・フリー社会の見取り図【男女共同参画社会】【国連女性差別撤廃条約】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と授業中の積極的な発言...25%、ワークショップでのプレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

メディア表現、法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発表、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイント資料を用いるため、スキルを見つけておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 山本 光英 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科, 落合 俊行 / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 國武 英生 / 法律学科
 中山 布紗 / 法律学科, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 狭間 直樹 / 政策科学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年						
対象入学年度 /Year of School Entrance				1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
												○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法とってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第2回 人間社会とルール（マナーとルール、社会と規範、規範と法則、法と社会、法と道德の違いなど）（山本）
- 第3回 裁判とは何か（民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など）（岡本）
- 第4回 民事少額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 基本的人権とは何か（基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など）（落合）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（國武）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など）（矢澤）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（中山）
- 第11回 労働者の権利と生活の保障（労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など）（國武）
- 第12回 生存と環境保護（公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など）（岡本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 （予備日）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート（計3本）を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による（鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする）。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

共生の作法【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしぶりや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、北九州の文化を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知と一と！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 小倉郷土会①
- 3回 小倉郷土会②
- 4回 小倉郷土会③
- 5回 北九州の人と文学
- 6回 北九州の方言
- 7回 北九州の民話・伝承
- 8回 北九州の祭り
- 9回 海峡花火
- 10回 門司港の観光
- 11回 小倉城
- 12回 上野焼
- 13回 北九州の食文化
- 14回 北九州の農業
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容、スケジュールは一応の予定です。ゲストの都合等により変更になることがあります。詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメは事前に配布するつもりですので、配布したレジュメをよく読んで受講してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生を果たした。欧米から日本的経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。曰く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

そうすると社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちが資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジユメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理』（山内友三郎・塚崎智監訳）昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 現代における人命の価値（1）【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値（2）【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値（3）【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値（4）【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値（5）【自己意識】、【F L O】
- 7回 現代における差別の問題（1）【人種差別】
- 8回 現代における差別の問題（2）【差別反対論】
- 9回 現代における差別の問題（3）【種差別】
- 10回 現代における差別の問題（4）【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義（1）【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義（2）【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義（3）【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義（4）【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小レポート含む）... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 /Instructor
山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を思想的に考察する。講義全体のキーワードは【ポストコロナリズムの思想課題】【国際情勢】

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』（知の攻略 思想読本4）、作品社、2003（第3刷）、2000円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

関連文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教科書の紹介、授業のガイダンス
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか(1)(2)【ポストコロナリズム】
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文 【ポスト構造主義】
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文 【カルチュラル・スタディーズ】【植民地主義】
【帝国】
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文 【フェミニズム】
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文 【植民地近代性】【ナショナリズム】
【グローバリズム】
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 轡田竜蔵論文 【オリエンタリズム】
- 11回 第III部の1、朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文 【アイデンティティ】【ジェンダー】
- 13回 第III部の3、高橋哲哉論文 【過去の克服】
- 14回 第III部の4、野村浩や・鄭暎恵論文 【他者】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（2~3本）、授業参加への熱意など

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書のなかに登場する概念、理論を勉強しつつ、関連文献を自主的に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ボトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解釈』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、基礎文法を扱った教材を通して特にリスニング及びリーディング力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

石井隆之 他著「Access to simple English」成美堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
- 2回 Chapter 1 基本時制
- 3回 Chapter 2 進行形
- 4回 Chapter 3 完了形
- 5回 Chapter 4 受動態
- 6回 Chapter 6 5文型
- 7回 Chapter17 助動詞
- 8回 Chapter 8 不定詞
- 9回 Chapter 9 動名詞
- 10回 Chpater10 分詞
- 11回 Chapter15 関係代名詞
- 12回 Chapter16 関係副詞
- 13回 Chapter18 仮定法
- 14回 Chapter22 比較
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト50% + 期末テスト50%
欠席2回まで。遅刻2回で1回で欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC問題を扱った教材を通して、特にリスニング及びリーディング力の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

寺西雅之 他著 「TOEIC Test Success」 南雲堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテストを受験する学生は、授業とは別に個人のスコアにあった問題集で自習することを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
- 2回 Lesson 1 English Studies
- 3回 Lesson 2 Scheduling and Planning
- 4回 Lesson 3 English Language Proficiency Tests and Business
- 5回 Lesson 4 Dating, Relationships, and Advice
- 6回 Lesson 5 Music and Style
- 7回 Lesson 6 Jobs and Employment
- 8回 Lesson 7 Health and Fitness
- 9回 Lesson 8 Finding Purpose and Setting Life Goals
- 10回 Lesson 9 Money and Happiness
- 11回 Lesson 10 Travel and Adventure
- 12回 Lesson 11 Movies and Preferences
- 13回 Lesson 12 Museums and Culture
- 14回 Lesson 13 Disabilities and Access
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト50% + 期末テスト50%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業予習を必ずしてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : Readingの向上をめざす。

教科書 /Textbooks

“British Life Today : An Introduction” 南雲堂
TOEIC : プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (授業の進め方、プリントによるListening演習)
- 2回 授業前半 : TOEIC演習 : Chapter 1 から順次進めていく。
授業後半 : Unit 1 から順次進めていく。
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEIC : 英語力の向上とスコアのアップを目的とする。
Reading : Readingの向上をめざす。

教科書 /Textbooks

“British Life Today : An Introduction” 南雲堂
TOEIC : プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
授業前半 : TOEIC演習 : Chapter 1 から順次進めていく。
授業後半 : Reading : Unit 1から順次進めていく。
- 2回
3回
4回
5回
6回
7回
8回
9回
10回
11回
12回
13回
14回
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 60% TOEIC確認テスト ... 30% 平常の学習状況 ... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Reading : 前もって読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

SF作家Fredric Brownの短編小説を題材にしたテキストを用いて、「鑑賞のポイント」で重要構文を学習して読解力を高めると同時に、その小説世界を味わいます。仕上げとして演習問題に取り組み、学んだ知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

高本孝子 / 池園宏編 “Let's Enjoy SF Short-Shorts: English Learning through Fredric Brown's Astounding Stories” 開文社、2010年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 “Daisies” (1) 「隠れている成句表現を見つけよう」
- 2回 “Daisies” (2) 「基本動詞の概念をつかもう(1)」
- 3回 “Sentence” (1) 「主節の主語・述語動詞を見つけよう」
- 4回 “Sentence” (2) 「基本動詞の概念をつかもう(2)」
- 5回 “Pattern” (1) 「過去形と過去分詞形を見分けよう」
- 6回 “Pattern” (2) 「時制に気をつけよう」
- 7回 “Solipsist” (1) 「andが結ぶものを見つけよう」
- 8回 “Solipsist” (2) 「関係代名詞の省略を見抜こう」
- 9回 “Preposterous” (1) 「類義語はひとまとめで考えよう」
- 10回 “Preposterous” (2) 「知らない単語の意味は接辞・語根から推測しよう」
- 11回 “Reconciliation” (1) 「場面を思い描きながら読もう」
- 12回 “Reconciliation” (2) 「形容詞+名詞で多彩な表現をしよう」
- 13回 “Answer” (1) 「関係代名詞の訳は『ところの』でなくても良い」
- 14回 “Answer” (2) 「難解な単語に振り回されないようにしよう」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 小テスト... 20% 期末試験... 60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をして授業に臨みましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律政2 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ジョン・グリシャム原作の法廷映画Rainmakerを教材にしたテキストとDVDを用いてアメリカの陪審員制度、訴訟などへの理解を深めながら、法廷で使われる専門用語も覚えていきます。またListeningやComprehensionなどの演習に取り組み、英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

穂本浩美 / 濱田真由美著、American Justice in Focus
マクミランランゲージハウス (2007年)、2100円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
This Would Be a Great Place to Work
- 2回 This Would Be a Great Place to Work
- 3回 Do You Have a Lawyer?
- 4回 And Still, She Can't Leave Him
- 5回 How're You Feeling, Donny Ray?
- 6回 Do You Want to Settle, Rudy?
- 7回 It's Just a Deposition
- 8回 Get This Boy Some Coffee
- 9回 This Is a Courthouse of the U.S.!
- 10回 The Boy Is Dead, Isn't He?
- 11回 That \$10,000 Was Just Blackmail
- 12回 It Was Self-Defense
- 13回 Just Another Shark in the Dirty Water
- 14回 Just Another Shark in the Dirty Water
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 小テスト... 20% 期末試験... 60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習して授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 クラス 律政2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
(1)インターネットを利用し、ワークブックのactivityを通じて基本的事項を段階的に学習する
(2)オンラインニュースを読み、語彙を増やすとともに速読の能力を高める
(3)英語資格試験に必要な文法事項を学習する

教科書 /Textbooks

“Web-enhanced Reading & Writing: Basic Internet Skills and Online News”
by Keiko Miyake (イソース、2008年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容の詳細はホーム・ページ (<http://kmiyake.com>) で確認すること。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 PartI Introduction to the Internet
- 第3回 1. Basic Computer Terms
- 第4回 2. Online Dictionaries
- 第5回 3. Typing
- 第6回 4. Search Engines
- 第7回 1. News Sites (Part II Reading)
- 第8回 2. Headlines
- 第9回 3. Abbreviations and Acronyms
- 第10回 4. The Lead
- 第11回 5. News Summaries
- 第12回 1. The Paragraph (Part III Writing)
- 第13回 2. Transitions
- 第14回 3. Paraphrasing & Summarizing
- 第15回 4. Supportive Information

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席、発表 (20%)
- ・ ワークブックの活用、提出物 (20%)
- ・ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 律政2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)パラグラフレベル、更にパッセージレベルといったより大きな単位で、英語の速読のトレーニングに取り組む。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)英語のReading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

Power Reading 2 - Reading in Paragraphs 土屋武久、Bill Benfield他 (成美堂)、2010年1月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集 Vol.3 (発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Unite 1 English Rakugo (Reading Skill in Focus: Predicting)
- 第2回 Unite 2 Silent CEOs (Reading Skill in Focus: Phrase Reading)
- 第3回 Unite 3 Cappadocia (Reading Skill in Focus: Increasing WPM)
- 第4回 Unite 4 Eco-cars (Reading Skill in Focus: Finding Main Ideas)
- 第5回 Unite 5 Finance for Kids (Finding Main Ideas at the Passage Level)
- 第6回 Unite 6 Jazz (Scanning for Words)
- 第7回 Unite 7 Britain's National Trust (Scanning for Information)
- 第8回 Unite 8 How Fast Can Humans Run (Skimming for the Central Ideas)
- 第9回 Unite 9 Pitfalls of Statistics (Skimming for Point of View)
- 第10回 Unite 10 Hot Spring (Vocabulary Building)
- 第11回 Unite 11 Abraham Lincoln (Understanding Text Organization1: Time Oder)
- 第12回 Unite 12 Eating Oil (Understanding Text Organization2: Cause & Effect)
- 第13回 Unite 13 We Love Sitcoms (Understanding Text Organization3)
- 第14回 Unite 14 Regenerative Medicine (Evaluating Facts & Opinions)
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席、発表 (20%)
- ・ レポート、小テスト (20%)
- ・ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是～的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (出席・学習態度・小テストを含む) ...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 大連交換教員 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 大連交換教員 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 3回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 4回 このコンピュータは誰のものですか【人称・所有代名詞】【助詞2】
- 5回 トイレはどこにありますか【存在の有無】【助詞3】
- 6回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 7回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 8回 二日間予約したいですが【漢数詞】【年月日の言い方】
- 9回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 10回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 11回 土曜日には会社に行きません【用言の否定形】
- 12回 海に行きたいです【願望形】
- 13回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 14回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『チャレンジ！韓国語』白水社（2009年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』（野間秀樹・ナツメ社）を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

正確な発音の能力を高めながら、初級文法をもとに会話表現を学び、基礎レベルでの日常会話の能力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉 他 『チャレンジ！韓国語』白水社（2009年3月）、2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 3回 時間ありますか【存在の有無】【助詞】
- 4回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 5回 それは何ですか【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 6回 何時ですか【固有数詞】【時間】【助数詞】
- 7回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 8回 初デートの約束【漢数詞】【年月日】【電話番号】
- 9回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 10回 何が好きですか【うちとけた丁寧形】【用言の否定形】【願望形】
- 11回 週末には何をしましたか【過去形】【接続詞1】
- 12回 週末には何をしましたか【過去形】【接続詞1】
- 13回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 14回 スープが冷たくておいしいです【接続語2】【逆接】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...10% 課題・小テスト...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』（野間秀樹・ナツメ社）を薦める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課①【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課②【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課①【教室でロシア語】
- 9回 第2課②【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課①【家族の紹介】
- 12回 第3課②【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 演習
/Class Format

クラス 律政1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社
ビデオ教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしまいましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後に私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】 「
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか？【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか？【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか？【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロツパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロツパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎文法の習得を目標とします。具体的には品詞・文型・文の種類・時制・法（モード）を学びます。音声化を重視するので、つづり字の読み方を早く覚え、積極的に発音し、文を音で覚えるようにしましょう。6月に実施される実用フランス語技能検定試験（仏検）5級に合格すれば成績Cを保証します。その場合でも定期試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み方、母音の発音の方法
- 2回 つづり字の読み方
- 3回 名詞と不定冠詞、定冠詞、エリズイオンについて
- 4回 <-er> 動詞の活用
- 5回 文の種類（否定文・疑問文）
- 6回 形容詞と<etre>の活用
- 7回 限定詞（指示形容詞と所有形容詞）
- 8回 <avoir>の活用と部分冠詞
- 9回 <aller> <venir>の活用
- 10回 縮約形
- 11回 <-ir> 動詞の活用
- 12回 命令文
- 13回 疑問代名詞・疑問形容詞・疑問副詞
- 14回 副詞的代名詞 yとen
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

一学期に続いて文法の基礎知識を広げて表現力の充実を目標とします。11月の仏検4級を合格すれば、成績Cを保証します。その場合でも期末試験を必ず受験してください。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉 他 『フランス語を12の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習
- 2回 比較級、最上級
- 3回 目的語人称代名詞の形と語順
- 4回 代名動詞
- 5回 複合過去の形と用法1
- 6回 複合過去 つづき
- 7回 単純未来
- 8回 半過去の形と用法
- 9回 受動態
- 10回 関係代名詞
- 11回 モード1 条件法
- 12回 中性代名詞
- 13回 現在分詞とジェロンディフ
- 14回 モード2 接続法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席と小テストなど ... 30% 期末試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。1学期は「実用フランス語検定5級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著、朝日出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則各回1課進み、1学期で終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍をいう
- 3回 名前・持ち物をいう
- 4回 友人・家族を紹介する
- 5回 人・物を説明する
- 6回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 7回 人、物、場所、時についてたずねる
- 8回 食べ物・飲み物についていう
- 9回 時刻・天候をいう
- 10回 物を比較する
- 11回 人称代名詞目的語を使った表現
- 12回 過去のことを話す
- 13回 未来のことを話す
- 14回 実用フランス語5級模擬試験（5級模擬試験は別の回に実施するかもしれませんが）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

（仏検受験者へ：今年6月の仏検5級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。2学期は「実用フランス語検定4級」相当のフランス語力をつけることを目指します。講義全体のキーワードは、修得表現250。

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II』（加藤雅郁著、駿河台出版社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全10課、配列に従って原則毎回3ページずつ進む。

簡単な会話のスケッチの聞き取りと解説の後、書かれた質問に答えて会話内容の確認と書く練習を行い、次いで聞こえてきた質問に答えて聞き取り練習を行う。

- 1回 映画を見に行く
- 2回 家族の誕生日について話す
- 3回 レストランで注文する
- 4回 住んでいた町について話す
- 5回 昨日したことを話す
- 6回 宿題について話す
- 7回 知っている人・好きな人のことを話す
- 8回 電話をする
- 9回 将来のことを話す
- 10回 頼みごとをする
- 11回 明日のことを話す
- 12回 会う約束をする
- 13回 自分の趣味・意見を言う
- 14回 自らの考え・気持ちを話す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 期末試験...80%

(仏検受験者へ：今年11月の仏検4級以上合格者には最低合格点Cは保証、ただし、仏検合格の場合も定期試験は必ず受験すること。また、仏検合格を単位認定として希望する者は定期試験時に必ず合格通知を提示すること、以後の連絡には応じない。なお、定期試験の日時が合格通知に先行する場合は、試験前の最終講義日までにその旨を申し出ること)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

仏和辞典を各自用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語を公用語とする国は、ヨーロッパに1つ、アフリカに1つ、中南米に19（プラス1自治領）あり、その話者の数は、アメリカ合衆国にいるhispanicの人たちも含めると3億をはるかに超え、英語、中国語、ヒンズー語に続き、ロシア語と同じか、やや多いと言われています。ラテン語（ローマ帝国の言語）を起源とし、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、ルーマニア語とともにロマンス語と呼ばれる仲間に入ります。コロンブスのアメリカ大陸発見（1492年）以降、スペイン語は中南米の植民地の言語になったので、現在のように多くの中南米の国で使われています。その特徴は、これだけ広い地域で用いられているのに、コミュニケーションの妨げになるほどの差がないことです。スペイン、メキシコ、キューバなど、どの国の方の間でもコミュニケーションには問題は生じません。その広大な文化圏のドアを開けるための第1歩として、スペイン語の基礎を学びましょう。未知の世界が広がっていくはずですよ。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 発音とアクセントの仕組み
- 2回 発音とアクセントの仕組み
- 3回 発音とアクセントの仕組み
- 4回 発音とアクセントの仕組み
- 5回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 6回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 7回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 8回 規則動詞の活用と基本的な文の作り方
- 9回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 10回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 11回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法
- 12回 ser・estar（英語のbeに相当）の活用と用法。
- 13回 復習とスペイン語圏の文化に触れる視聴覚教材の提示
- 14回 復習とスペイン語圏の文化に触れる視聴覚教材の提示
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に上記で述べた平常点を最大30点まで加算します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返や中途の退学が見つかった場合は即座に失格とします。辞書については最初の講義で話しをします。電子辞書も奨めます。詳しく説明するので、辞書の購入は最初の講義まで待っててください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級から中級程度のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。具体的にはスペイン語Iのテキストの続きをある程度複雑な文や、スペイン語に独特な文を作るようなレベルまで進みます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』青木・辻・エルナンデス共著 弘学社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)
 スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)
 スペイン(増田監修:新潮社)
 スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)
 スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)
 スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)
 スペイン語基礎文法(口ボ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 2回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 3回 不規則動詞現在形の活用の仕組みと用法を中心に。
- 4回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 5回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 6回 6課から8課で習う過去や未来の時制の活用と用法。
- 7回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 8回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 9回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 10回 与格と対格の代名詞と再帰代名詞を用いた表現。
- 11回 従属節を含む文の理解。
- 12回 従属節を含む文の理解。
- 13回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 14回 スペイン語圏の国々について:視聴覚教材を用いて
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に上記で述べた平常点を最大30点まで加算します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

語学は基本的には演習科目なので出席は必要条件だけど、十分条件ではないので、そのことを自覚してしっかりと取り組んで欲しい。定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。また、代返や中途の退室が見つかった場合は即座に失格とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語の発音・読み方からはじめ、テキストの簡単な会話表現を覚えていきます。スペイン語の発音は日本語話者に易しいので、テキストの単語を発音しながらスペイン語の音に慣れましょう。
文法事項を押さえながら学ぶ会話表現なので、理解しやすくスペイン語の基礎固めになります。

教科書 /Textbooks

エウヘニオ・デル・プラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書については開講時に指示しますが、薦めるものとしては『クラウン西和辞典』三省堂、2005、『現代スペイン語辞典』白水社、1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語圏について、アルファベットの読み方
- 2回 発音 アクセント、母音、子音
- 3回 発音 アクセント、二重子音
- 4回 挨拶、名詞の性・数
- 5回 冠詞、主格人称代名詞
- 6回 ser動詞、活用と用法
- 7回 ser動詞、疑問文・否定文
- 8回 estar動詞、活用と用法
- 9回 estar動詞とhay、疑問詞(1)
- 10回 ser/estar動詞と形容詞
- 11回 時刻の表現、疑問詞(2)
- 12回 -ar動詞
- 13回 主な前置詞、所有形容詞(前置形)
- 14回 -er / -ir 動詞、指示形容詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 70% 平常点 ... 30% (出席 ... 20%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲの続きから、更に表現を学んでいきます。Ⅲと同様、文法項目を押さえながら学ぶ会話表現です。理解したうえで聞き取り、会話表現を発展させていきます。

教科書 /Textbooks

Ⅲと同じテキストを使用。
(エウヘニオ・テル・ブラド他『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞書についてはⅢの開講時に指示したものと同じです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Ⅲの復習、-ar / -er / -ir動詞
- 2回 直説法現在、1人称単数不規則動詞とその用法
- 3回 直接目的格人称代名詞、天候表現
- 4回 直説法現在、語幹母音変化動詞とその用法
- 5回 不定詞表現(1)、疑問詞(3)
- 6回 所有形容詞(後置形)
- 7回 直説法現在、不規則動詞とその用法
- 8回 不定詞表現(2)、感嘆文
- 9回 間接目的格人称代名詞
- 10回 動詞gustar、gustar型動詞
- 11回 再帰動詞
- 12回 比較級と最上級
- 13回 直説法現在完了
- 14回 不定語と否定語
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 70% 平常点 ... 30% (出席 ... 20%、小テストなど ... 10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 A 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

共通の目標は、普段使っている日本語について、ごく基本的なトレーニングを積むと同時に、大学生活についての話題に触れ、入学当初に必要な知識を身につけること。また、個人の目標に応じるため、チュートリアルを導入する。

教科書 /Textbooks

世界思想社編集部編『大学生の日本語トレーニング』世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【チューター】
- 2回 高校・日本語学校と大学の違い【アカデミックジャパニーズ】【チュートリアル】
- 3回 履修登録とシラバス【必修】【教養】【専門】【時間割】
- 4回 キャンパスツアー【教務課】【学生課】【学生相談室】【生協】【図書館】【自習室】
- 5回 チュートリアルとは何か(1)【学習者オートノミー】【ポートフォリオ】
- 6回 チュートリアルとは何か(2)【リソース】【大学生の学習】
- 7・9・11・13・15・17・19・21・23・25・27回 チュートリアル
- 8回 講義の受け方【講義を聴く】【ノートを取る】【レジュメ】
- 10回 模擬講義による実践練習
- 12・14回 大学教員・職員との付き合い方【メール】【掲示板】【敬語】
- 16・18回 情報の探し方【掲示板】【図書館】【インターネット】
- 20・22回 勉強以外のこと【部活】【サークル】【アルバイト】【ビジターセッション】
- 24・26回 将来のこと【キャリア】【就職】【ビジターセッション】
- 28回 友人を作ろう
- 29回 自己評価
- 30回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 学習者評価 ... 20 % 教員評価 ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

大学生活への準備のつもりで、気軽に取り組んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語 B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での研究活動に必要な「プレゼンテーション力」を中心に、総合的な日本語運用能力の育成を目指します。講義を聞き取る聴解スキルや、発表に必要な語彙・表現を身に付け、さらに、実際に課題テーマのプレゼンテーションをおこなうことで、「発表」の方法を学びます。また、口頭発表の準備や練習をピア (仲間)で行うことによって、自律的に学ぶ体験をします。

教科書 /Textbooks

犬飼康弘『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク
上村和美・内田充美『プラクティカル・プレゼンテーション』くろしお出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦香苗他『アカデミックプレゼンテーション入門』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 授業オリエンテーション
- ② ノートテイキング【メモ】【構成】
- ③ 基本練習テーマ「食中毒」【全体の流れ】【基本的表現】
- ④ 「言葉と文化」【背景説明】【方向付け】
- ⑤ 「不登校」【予告】【本論】【データ提示】
- ⑥ 「高校生とバイク」【データの説明】【データの解釈】
- ⑦ 「食料自給率」【データ比較】
- ⑧ 応用練習テーマ「少子化」【序論・本論・結論の構成確認】
- ⑨ プレゼンテーションの基礎【プレゼンテーションとは】【構成】【表現】
- ⑩ クラスメイト紹介【他者紹介】
- ⑪ セルフチェック【姿勢・表情・視線】【身振り・手振り】【声】【服装】
- ⑫ 施設紹介【視点コントロール】【サンドイッチ構成】
- ⑬ 案内状を作る【5W1H】
- ⑭ 日常生活で目にするものを説明する【比較】【マトリックス】
- ⑮ ポスター発表【ポスター発表】【ポスターの構成】
- ⑯ 1年間をふりかえる【時系列】【トピック】
- ⑰ まとめ【評価】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 … 40% 発表・課題 … 40% 自己評価…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語C 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター, 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

レポートを作成することは学生にとっても、指導する教員にとっても挑戦的なことである。1篇の長いレポート(論証型)を作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成にいたる一連の過程を学ぶことを目標とする。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

大島弥生他『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』ひつじ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アカデミック・ジャパニーズ研究会『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アルク

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1・2回 授業の目的及び必要性を知る【知る】
- 3・4回 レポートとは何かを考える【論証型レポート】
- 5・6回 レポートのテーマを考える【構想マップ】【練る】
- 7・8回 情報をカード化する【情報の信頼性】【調べる】
- 9・10回 目標を仮に規定する【情報の整理】【絞る】
- 11・12回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】【組み立てる】
- 13～16回 パラグラフライティング【中心文】【支持文】【説明文】【書く】
- 17～20回 文章を点検する【校正】【表現の点検】【形式の点検】
- 21～22回 レポートの完成【体裁】
- 23～24回 発表を準備する【レジュメの作成】【発表の練習】【発表の意義】
- 25～28回 発表する【話し手】【聞き手】
- 29・30回 学習プロセスを振り返り、自己評価する【自己評価】【振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(課題の提出を含む) ... 40% レポート・発表 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃から時事問題に関心を持ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語D 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師, 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、学術論文を読むための基礎的な読解力を育成します。論理的な文章をピア(仲間の学習者)同士で読むことで、それぞれの学びから、論理的思考による理解が深まることを期待します。また、授業の半分を使って、学習者の自律を目指した個別対応型の「チュートリアル」を導入した授業をおこないます。学習者が自身の学習内容・方法・リソースを選択し、その選択に基づいて計画・実行・評価を行うことによって、自分の学習を自分自身で管理できる力を身に付けることを目的としています。

教科書 /Textbooks

アカデミックジャパニーズ研究会編著『大学・大学院留学生の日本語3 論文読解編』アルク

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

産能短期大学『日本語を学ぶ人たちのための日本語を楽しく読む本中・上級』凡人社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 「ピアラーニング」
- ①第I部 基本編 異文化適応【書き言葉】【和語】【漢語】
 - ②第I部 基本編 多様化の中のテレビ【論の展開①】【文の構造】
 - ③第I部 基本編 安全でおいしい水を飲むために【論の展開②】【未知語処理】【推測】
 - ④第I部 基本編 がん告知【要約】【慣用表現】【重要語句】
 - ⑤第II部 実践編 論文を読む①【全体構成】【序論】
 - ⑥第II部 実践編 論文を読む②【本論】
 - ⑦第II部 実践編 論文を読む③【副詞】
 - ⑧第II部 実践編 論文を読む④【結論】
 - ⑨第II部 実践編 論文を読む⑤総合練習
 - ⑩振り返る【自己評価】【他者評価】
- 「チュートリアル」
- ①現在の自分の状況を認識する【意識する】
 - ②実践する内容を具体的計画する【学習目標】【学習計画】【評価方法】【リソース】
 - ③実行する【学習管理】【修正】
 - ④振り返る【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 40% 発表・課題 ... 40% 自己評価 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 .北九州空港と韓国仁川国際空港の役割
- 第3回 お伊勢参りから宇宙旅行までの日本人の旅行ブーム
- 第4回 TOTOのウオッシュレット開発
- 第5回 私のデートコース案内-イギリスと北九州-
- 第6回 新幹線を作った男たち
- 第7回 トロンの世界
- 第8回 秀吉の朝鮮出兵と九州の窯元
- 第9回 安川電機とロボット産業軍事とアジアを読み解く
- 第10回 日本の経営の特徴とその変化
- 第11回 戦後日本経済 (1)
- 第12回 戦後日本経済 (2)
- 第13回 戦後日本経済 (3)
- 第14回 軍事とアジアを読み解く
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

留学生諸君は、日本のことが知りたくて本学の学生となったことと思う。
そこでこの講義では日本についてのさまざまなテーマを講義したい。
具体的には日本の政治、経済、歴史、文化、慣習などを韓国、中国、オーストラリア、イギリスと比較することによってより分かり易くする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「北九州市立大学の就職状況について」
- 第3回 洞海湾クルージング 小倉港 13 ; 00 集合
北九州市役所 16 ; 00 - 17 ; 00
- 第4回 「宮本武蔵の精神」
- 第5回 「日本の文化-本音と建前-」
- 第6回 「寿司作り実演を通じて日本文化を語る」
- 第7回 「日本の文化-洋間のある日本の家」
- 第8回 「私の青春時代-日伯に掛ける橋-」
- 第9回 今日の日本を取り巻く世界経済
- 第10回 「脳の科学-認識と行動」
- 第11回 憲法第9条と世界の軍備
- 第12回 「中国とはどんな国? - 留学体験から」
- 第13回 学長を囲んで大学のあり方についての意見交換
- 第14回 戸畑図書館長から見た日本の図書館
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験の成績だけでなく
出席と毎回提出するレポートを重視

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義テーマは、変更することがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

アメリカ法の入門的な文献を用いてアメリカの法制度の概要を理解する。

教科書 /Textbooks

Stanley V. Kinyon, Introduction to Law Study and Law Examinations (West)
(アメリカのロー・スクールの新入生向けの文献です)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究I【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス民法（なかでも、フランス債務法）に関する基礎的知識を、原著を講読することを通じて獲得することがこの授業の主たるねらいである。具体的には、フランス民法（債務法）の体系書（比較的読みやすいもの）を輪読する。わが国の民法との法制度比較を通じて、わが国の民法上の法制度の理解をいっそう深めることがこの授業における大きな目標である。

教科書 /Textbooks

※使用しない。輪読する文献についてはコピーを配布する。ただし、仏和辞書については、各自毎回持参すること（色々種類はあるが、特に指定しない。第二外国語の授業で使っていたもので充分である。）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山口俊夫『フランス債権法』（東京大学出版会、1986年）
- 山口俊夫（編）『フランス法辞典』（東京大学出版会、2002年）
- 山口俊夫『概説フランス法下』（東京大学出版会、2004年）
- レモン・ギリアン、ジャン・ヴァンサン編著（Terme juridique研究会 中村紘一ほか監訳）『フランス法律用語辞典 第2版』（三省堂、2002年）
- 滝沢正『フランス法 第3版』（三省堂、2008年）
- 北村一郎（編）『フランス民法典の200年』（有斐閣、2006年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス：授業の進め方の決定（受講生からも要望を出してよい。）。
※受講生の民法（財産法分野）についての関心、フランス語の習熟度についてアンケートをとる予定である。その結果を踏まえ、輪読する文献・箇所を当方で選定する。
- 第2回 フランス民法（債務法）の基礎知識について講義。
※輪読する文献のコピーをこの回で配布する予定である。
- 第3回～第10回（予定）文献輪読。「訳せたところまで読む。」という方式で行う。
- 第11回（予定）フランス民法判例の基礎知識について講義。
- ※以降のスケジュールは、受講生の習熟度によって変更される場合がある。
- 第12回～第14回（予定）フランス民法判例の講読。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、文献邦訳能力の向上度など... 80%
- 定期試験（フランス債務法分野のテキストの邦訳試験）... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

何よりも、フランス法（民法）に関心を持ち、フランス語にも関心を持ち、邦訳作業を進めることが肝要である。フランス語の基本文法については各自学修を進めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II 【夜】

担当者名 國武 英生 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

イギリス労働法の最新基本文献を素材にして、比較法研究の作法等について基本から学ぶことを目的とする。この講義を通じて、日本法をより良く知り、また相対化するための視座を得ることを目指したい。
文献の講読は、部分的な全文訳と章・節単位の概要に関する報告とを交互に行う。折にふれて、文献に登場した基本テーマについて、参加者に調査・報告を依頼して、議論する機会をもちたい。

教科書 /Textbooks

開講時に示す。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者と相談して決定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 40%、発言内容... 30%、出席... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法哲学専門演習II【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

2学期の夜間主の演習では、広い意味で「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的主題にかかわる範囲で、テキストをゼミ参加者の希望により選び出し、全員で順番に報告を分担し精読する。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。ゼミ参加者の問題関心や希望に応じて、テキストを決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキストの選択に応じて指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回は、はじめに。第2～第3回はあらかじめ用意したプリントにより報告分担、議論をする。第4回～第13回は、ゼミ参加者が希望するテキストを、順番に報告を分担し、全員で討論しながら読み進める。第14回～第15回は、まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 60% 報告... 20% 質問等の状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2学期の演習では特に、参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性が問われる。各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を考えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法制史専門演習I【夜】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中世日本人の罪と刑罰観念について考察する。引き続き中世刑法についての史料講読

教科書 /Textbooks

- 1 中世の罪と罰 網野.石井.笠松.勝俣著 東京大学出版会
- 2 中世政治社会思想上 岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回目はテキスト等の解説。2回目からは担当者による発表と討論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 50 % 参加の度合い 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習I【夜】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

憲法専門演習では、わが国の人権状況について、主要な憲法判例を素材として考えていきます。図書館で裁判判決を報じた当時の記事を調べたり、インターネットでさまざまな情報を検索したりして、学びます。憲法に保障されている人権がどのような問題状況にあるのか、それに対して裁判所はどのような判決を下しているのか、それについてみなさんはどのように考えるのか、どう感じるのか、法廷にもちこまれた裁判を通して学びます。主権者・国民として差別・偏見の問題に主体的に関わっていく姿勢を培っていくことが、この演習の目標です。

教科書 /Textbooks

中川義朗『現代の人権と法を考える』（第二版）（法律文化社、2006年、2500円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』（第5版）（有斐閣）
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第2回 情報社会と人権
第3回から第4回 自己決定権
第5回から第6回 環境と人権
第7回から第8回 子どもの人権
第9回から第10回 女性の人権
第11回から第12回 外国人の人権
第13回から第14回 身近な差別と偏見

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...50% 報告・発表 ...30 % 授業中の質問・議論 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告者は課題判例について「判例時報」や「判例タイムス」などを調べて、裁判所の判決文を全文読むことが必要です。毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅱ【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

最新の人権判例について、参加者が条文・学説・判例を整理して、報告・討論することを通じて、「人権論」に関する理解を深めることを目的とする。

しかし、それよりも、公共的な問題について、大学における演習という公共的空間（ないし擬似公共的空間）において、「調査」「報告」「討論」することを通じて、一人の市民・社会人として将来必要とされる素養を身につけていただきたいと考えている。従って、専門的知識を習得するという事もあることながら、学生らしい自由で闊達な議論をしていただきたいと切に願っている。自分の意見を遠慮することなく主張し、相手の意見を真摯に聞いたうえで議論するという、ある意味では学生だけに許される経験を体験して欲しい。

教科書 /Textbooks

○高橋和之他編『憲法判例百選I・II（第5版）』別冊ジュリ186・187（有斐閣・2007年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 判例研究
- 3回 判例研究
- 4回 判例研究
- 5回 判例研究
- 6回 判例研究
- 7回 判例研究
- 8回 判例研究
- 9回 判例研究
- 10回 判例研究
- 11回 判例研究
- 12回 判例研究
- 13回 判例研究
- 14回 判例研究
- 15回 判例研究

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50 % 判例研究 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習I【夜】

担当者名 山本 光英 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選I総論 [第6版]』(有斐閣)2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

立石二六著『刑法総論・第三版』(成文堂)平成16年3月、4000円+税
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態、テーマの決定
第2回～第3回 テーマ1について報告・質義応答
第4回～第5回 テーマ2について報告・質義応答
第6回～第7回 テーマ3について報告・質義応答
第8回～第9回 テーマ4について報告・質義応答
第10回～第11回 テーマ5について報告・質義応答
第12回～第13回 テーマ6について報告・質義応答
第14回～第15回 テーマ7について報告・質義応答

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回出席をとり、出席点と授業態度、レポートの評価による総合評価(出席点30%、授業態度30%、レポート評価40%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法専門演習II【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論・刑法各論における基本的な問題（テーマ）を取り上げて、判例及び学説を整理しながら、具体的・合理的かつ体系的整合性をもった解決策を考察していきます。この演習では、体系的に展開される講義と連携して、刑法理論における基礎的事項及び概念の体系的な理解を一層深めることを、目的のひとつとしています。また、資料を収集・分析し、問題の解決策（自己の見解）をまとめ、ディスカッションを通じて見解を発展させ、またそれを自分の言葉で説得的に提示するという、法律学の基礎的な能力を習得することを、もうひとつの目的としています。講座全体のキーワードは、法的思考力及び論理的説得力の習得です。

教科書 /Textbooks

テキストを特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西田典之 / 山口厚〔編〕『刑法の争点(新・法律学の争点シリ-ズ)』(有斐閣・2007.10)
- 阿部純二ほか〔編〕『刑法基本講座 1～6巻』(法学書院・1992.10～1994.10)
- ※開講時に基本的な文献を紹介するほか、適宜必要と思われる資料を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回 担当テーマに関する問題の所在及び参考文献の検討
- 3回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポート・レジュメを含む)…50% 討論及び発言内容…50%
※無断欠席を厳禁します。また、少なくとも2/3以上の出席が必要です。
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当テーマについて研究レポートを作成してもらいます。報告担当者は、レポートに基づいて個別報告を行い、受講者全員でディスカッションを行います。受講者の積極的な発言を期待しています。
少なくとも「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I・II」を履修していること(または履修中であること)が望ましいです(上掲「ねらい」を参照)。また、専門演習IIは、専門演習Iと連続して展開することを予定していますので、専門演習Iも併せて履修することを推奨します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習I【夜】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法の判例を取り扱う。具体的事件に関する判例を検討することを通じて、生きた刑事訴訟法を把握することを目的とする。演習は、報告者の報告を中心にして行う。報告者はレジメを事前に提出しておくことが原則である。

教科書 /Textbooks

- ①松尾ほか編「刑事訴訟法判例百選（第8版）」（有斐閣）。
- ②庭山・岡部編「刑事訴訟法」第3版（青林書院）。
- ③松尾浩也「刑事訴訟法・上巻（新版）」（弘文堂）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

刑事訴訟法の講義のシラバスに挙げている参考文献。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

報告の順序など、最初の演習の時間に決めていきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ... 50 % 報告 ... 30 % 質疑応答 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

報告する判例を十分に事前に検討し議論が活発になるように準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法専門演習I【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、いわゆる「国際問題」に関連する「事例」や「判例（国内判例も含む）」等の研究を通じ、国際社会を規律する主要な法体系としての「国際法」が、規範の面で、またそれを担保するシステムの面で、どのような現状に置かれているのか、また、国際政治や国際経済などどのようにかかわってきているのか、その理解をより一層深めていくことを目的とします。【事例 / 判例研究を通じた国際法の基本的運用力の涵養】また社会人基礎力として必要とされる諸能力の涵養を目指します。【社会人基礎力の涵養】国際法専門演習IIとセットで受講してください。4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

教科書 /Textbooks

松井芳郎『ベーシック条約集』（東信堂・最新版）○必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 第1回 コースガイダンス，係決め | 第2回 リサーチの仕方 |
| 第3回 特定課題テーマの提示と調査 | 第4回 フリー・ディスカッション |
| 第5回 学生が選定するグループ課題① | 第6回 グループ準備（テーマ調査） |
| 第7回 グループ準備（主張等の整理） | 第8回 グループ準備（プレゼン資料の作成） |
| 第9回 発表等 | 第10回 学生が選定するグループ課題② |
| 第11回 グループ準備（テーマ調査） | 第12回 グループ準備（主張等の整理） |
| 第13回 グループ準備（プレゼン資料の作成） | 第14回 発表等 |
| 第15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。

ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実際の指導は選抜時より始めます。予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法専門演習II【夜】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、学生が社会に出る / 出ようとするときに、国際法ゼミで勉強してきたことを少しでも活かすことができるようにするためのプログラムを用意します。つまりなぜこの仕事・進路を選ぼうとしているのかとの問いに対し、大学の国際法ゼミで勉強してきたなかで○○の点に興味を持ったからだと明確に答えられるようにするためのプログラムです。ここまでやりましたと胸を張って言えるものを、頑張っ一緒に作って行きましょう。【キャリアと国際法】国際法専門演習IIとセットで受講してください。4年次に個別研究指導の受講を希望する学生を優先します。

教科書 /Textbooks

必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス、役職決め
- 第2回 国際法ゼミとの関連でのキャリア研究：グループ分け
Group A: 自治体と国際法, Group B: 企業と国際法, Group C: 国際機関と国際法 など
受講者の進路希望・数によって実際のグループ分けは異なります。
- 第3回 グループによる予備調査①
- 第4回 グループによる予備調査②
- 第5回 精読文献等の選定・提出 (各グループ)
- 第6回 文献精読①「自治体と国際法G」(全員)
- 第7回 同②「企業と国際法G」(全員)
- 第8回 同③「国際機関と国際法G」(全員)
- 第9回 グループ作業(プレゼン準備)
- 第10回 グループ作業(プレゼン準備)
- 第11回 グループ作業(プレゼン準備)
- 第12回 Group Aの発表
- 第13回 Group Bの発表
- 第14回 Group Cの発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度(積極的な発言など)を基準として評価することになります。
ゼミへの参加...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習I【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：「契約法に関する重要判例の検討～じっくり考える民法解釈～」本演習では、民法財産法、なかでも契約法分野の重要判例の検討を通じて、契約法理論の理解をいっそう深めることを目的とする。また、受講生同士の議論や教員との議論などを通じて、自身の見解（法的判断）を、他者に分かりやすく、説得力あるかたちで正確に伝える力を養うことも本演習の目的である。議論への積極的参加が本演習における絶対的義務である。

教科書 /Textbooks

- ①中田裕康ほか編『民法判例百選II債権[第6版]（別冊ジュリストNO196）』（有斐閣、2009年）
- ②中野次雄編『判例とその読み方（三訂版）』（有斐閣、2009年）
- ③最新版の六法（判例つきの六法が望ましい）
- ④民法（契約法または債権各論）の体系書・基本書（受講生が普段使用しているもの）
- ⑤民事訴訟法の基本書（受講生が普段使用しているもの）※「5点セット」を必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (※以下のスケジュール等は、受講人数により左右されるので、あくまで予定。)
- 初回授業時に、代表的判例を紹介する。その中から報告判決を選択してもらう。報告形式は、受講人数が6名以下の場合には一人で報告。7名以上の場合は、受講生を3グループに分けて報告をしてもらう。いずれにせよ、報告者（報告グループ）は当然、報告に当たっていない受講生も、積極的に議論に参加することが要求される。報告者（報告グループ）は、採り上げる判決について、（1）事実関係（2）訴訟経過（3）最高裁判所の判決理由（4）争点の所在・従来の学説や判例理論と報告判決との関係（5）調査官解説や判例評釈で示されている見解（6）報告判決についての報告者（報告グループ）の検討結果（判決理由中のどの部分が「判例」か。採り上げた判例の射程なども含め。）を明示しなければならない。報告者（報告グループ）以外の受講生は、（1）～（6）につき、質問・指摘などを報告者（報告グループ）に対して浴びせなければならない。その他、ゼミの詳細な運営方針については、初回時に説明・協議する。
 - 最終授業終了時に、報告した判決についての判例評釈をレポートとして提出してもらう。
 - 第1回ガイダンス、第2回報告順の決定、第3回～第14回報告・議論、第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告の内容など... 80%
- レポート（判例評釈）の内容... 20% ※レポート未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト②をゼミ開講後、できる限り早い段階で通読しておくこと。報告準備などを入念に行うのは当然のことである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法専門演習II【夜】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：「契約法文献研究～そしてゼミ論文へ～」。本演習の大きな目的・目標は、二つである。一つは、報告（輪読）を通じてゼミ生みんなが「民法学（本演習では契約法学）の本格的な研究書を一冊読み抜くこと」である。もう一つは、1学期演習で培った契約法に関する重要判例・学説についての知見等を駆使して、受講生諸君の演習における研究成果を「ゼミ論文」というかたちで結実させることである。また、他者（教員を含む）との議論を重ねることで、自身の見解（法的判断）を他者に対して分かりやすく、説得的に伝える力を一層向上させることも本演習の目的といえる。

教科書 /Textbooks

- ①野澤正充 編著『瑕疵担保責任と債務不履行責任』（日本評論社、2009年）
 - ②最新版の六法（判例つき六法が望ましい）
 - ③民法（契約法）の体系書・基本書（受講生が普段使用しているもの）
- ※上記「3点セット」を必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (※以下のスケジュール等は、受講人数により左右されるので、あくまで予定。)
- 初回授業時に、各受講生からゼミ論文の構想を発表してもらおう。なお、報告形式（研究書輪読）は1学期同様、受講人数が6名以下の場合原則一人。7名以上の場合は、受講生を3グループに分けて報告をしてもらう。いずれにせよ、報告者（報告グループ）は、報告担当箇所の要約・関連文献・判例の検討、そして、私見をそれぞれ明示して報告しなければならない。報告者（報告グループ）以外の受講生は、質問・意見などを遠慮なく報告者（報告グループ）に対して浴びせなければならない。積極的な議論がゼミの生命線である。その他、ゼミの詳細な運営方針については、初回時に説明・協議する。「じっくり腰を据えて」契約法の基礎理論を研究しましょう！
 - 最終授業終了時に、「ゼミ論文（10,000字以上）」を提出してもらおう。
 - 第1回 ガイダンス、第2回 テキスト①輪読箇所・報告順等の決定、第3回～第14回（予定）各受講生（ないしグループ）による報告・議論（この間、ゼミ論文の添削・指導も行うので、オフィス・アワーなどを積極的に活用すること。）、第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 出席状況、授業中の発言内容、議論への積極的参加、報告内容など...70%
- 「ゼミ論文」の内容...30% ※「ゼミ論文」未提出者には原則として単位を付与しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキスト①をゼミ開講後、できる限り早い段階で通読しておくこと。報告準備を入念に行うことなどは当然である。また、ゼミ論文については、添付ファイルで原稿（途中経過）を授業日の前々日までに教員に毎週送付すること。受け身の姿勢ではゼミにいる意味は全くない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習I【夜】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する基本的な論点について学習し、知識を習得することを目的とします。毎回、判例について、報告者から報告を受け、全員で討議します。

教科書 /Textbooks

最初の講義のときに紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義のときに紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進行方法についての説明、報告者の決定
- 2回 以下、順次、個別報告
- 3回
- 4回
- 5回
- 6回
- 7回
- 8回
- 9回
- 10回
- 11回
- 12回
- 13回
- 14回
- 15回

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 ... 50 % レポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法専門演習II 【夜】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

後日揭示

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習I【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習II【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献ともに最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、出席...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法I・IIを履修済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代法曹論II 【夜】

担当者名 /Instructor 中野 敬一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

弁護士業務の具体的事例をもとに、法曹実務に触れながら、主要な法律理論を理解する。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義において都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 弁護士業務の概要 【予防法務】 【紛争解決】
 - 2回 法律相談業務I 【相続】 【離婚】
 - 3回 法律相談業務II 【債権回収】 【債務整理】
 - 4回 契約書作成・審査業務I 【契約審査の2手法】
 - 5回 契約書作成・審査業務II 【期限の利益喪失】 【担保】 【解除】
 - 6回 交渉業務I 【内容証明郵便】
 - 7回 交渉業務II 【示談書】
 - 8回 民事訴訟関連業務I 【民事保全・執行】 【処分権主義】
 - 9回 民事訴訟関連業務II 【弁論主義】 【主張と立証】
 - 10回 倒産法関連業務 【破産・民事再生】
 - 11回 家族法関連業務 【遺産分割】
 - 12回 刑事関係業務I 【逮捕・勾留】 【保釈】
 - 13回 刑事関係業務II 【証拠意見】 【尋問技術】
 - 14回 弁護士の能力 【法曹倫理】 【インタビュー能力】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20%、課題... 30%、期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容によって、数回課題を出す予定である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法思想史【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探求する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることとする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたいうえてそれを相対化することもまた、可能となってくるであろう。

教科書 /Textbooks

○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 深田三徳, 濱真一郎編『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房）
- 田中成明, 竹下賢, 深田三徳, 亀本洋, 平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店）、○三島淑臣『法思想史』（青林書院）
- F・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法思想史とは
- 第2回～第6回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想の展開
【トマス・アクィナス】【ホッブズ】【ロック】【ケルゼン】【ハート】
- 第7回～第13回 現代正義論への法思想の展開
【アリストテレス】【実践哲学の復権】【ロールズ】【ノジック】【ドゥオーキン】
【共同体主義】【マルチカルチュラリズム】
- 第14回～第15回 法思想史のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「現代正義論」を1年次に受講していれば、より理解しやすい。講義前には、テキストの該当箇所を読み、講義後には各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本法制史【夜】

担当者名 岡 邦信 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古代から中世の法と制度、特に中世の国制、武家政権の支配機構、裁判制度について、適宜資料等を配布し、解説する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石井良助「日本法制史概説」創文社
- 牧・藤原編「日本法制史」青林書院
- 義江彰夫 日本通史I「歴史の曙から伝統社会の成熟へ」山川出版
- 水林彪 日本通史II「封建制の再編と日本の社会の確立」山川出版
- 網野善彦 「日本社会の歴史」上・中・下 岩波書店
- 水林・大津・新田・大藤編 新体系日本史2 「法社会史」山川出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法制史とは何か
- 2回 時代区分論
- 3回～4回 律令継受以前の国制【天津罪】【国津罪】【盟神探湯】
- 5回～6回 律令と律令国家の実態【官位相当性】【蔭位制】【八虐】【五刑】
- 7回～9回 律令制の解体と荘園公領制【負名田堵】【初期荘園】【雑役免系荘園】【寄進地型荘園】
- 10回～12回 武士団【国衙軍制】
- 13回～16回 中世国家と封建制)【レーエン制】【フューダリズム】
- 17回～18回 中世主従関係【家礼型】【家人型】
- 19回～20回 鎌倉期の法源【幕府法】【在地領主法】
- 21回～23回 鎌倉幕府訴訟制度【所務沙汰】【雑務沙汰】【検断沙汰】【引付】
- 24回 建武政権と南北朝
- 25回～30回 室町幕府と室町期の法源【一揆契状】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストは使用しませんので、参考文献を利用し、予習復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

紛争処理論 【夜】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義「紛争処理論」は、法社会学の一分野です。従って、皆さんが普段学んでいる実定法解釈学とは別の視点から、法現象・社会現象を観察・分析・理論化していく、というスタンスは、法社会学と共通です。その上で、本講義では、とりわけ社会で生じる紛争や社会問題を基点にして、それらがもつ構造・対立点・社会的意味、および処理・解決のフレームを「社会的に観察」していきます。ですから、本講義は、紛争を法的 / 非法的に処理・解決していくための方法（ノウハウ）や技術、ましてやその正しさを—そんなものがあれば、ですが—教授する / 暗記してもらおうものではありません。むしろそれとは正反対の方向、すなわち、紛争や社会問題の「とらえ難さ」や処理・解決の「困難性」を見据えた上で、それらをできる限り多角的に考察していくこととなります。

私たちの生きる現代社会は、しばしば、価値の多元化・複雑化などと形容されます。このことは同時に、私たちの社会が、さまざまな価値観どうしの矛盾・対立・衝突を内包していることも表しているでしょう。この意味で紛争とは、その可能性までを含めるならば、まさに日常的な出来事である、といっても過言ではありません。そして、日常的な出来事であるにもかかわらず / であるからこそ、ややもすれば、私たちはそうした紛争や社会現象を、例えば常識で、例えば善 / 悪二元論で、場合によっては（法をはじめとする）専門知によって、ただちに解決しようとする「欲望」にかられてしまいがちです。しかしながら、そこに問題はないのでしょうか。本講義では、こうした問題を不問にして、いきなり安直・自明な解決策にぶら下がりたいたいという気持ちをグッとこらえ、逆に、この問題を直視し悩みながら、その周りをうろうろと（否むしろオロオロと！）歩き続けるといった、きわめて「地道な」作業を行います。

以上のとおり、本講義はきわめて抽象度が高く、同時にマニアック（！）です。即効的実用性や法解釈学への直接的寄与を期待する向きにはまるでお奨めできません。この点十分に注意してください。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。テーマごとにプリントを配布します（参考文献はその都度指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (0) イントロ (紛争や問題は構築 / 隠蔽されるものであり、常に観察 = 解釈に開かれている)
- (1) 自明性への問い (秩序・法の妥当性への問い、法システムのパラドクスの観察)
- (2) 社会現象への問い (リスク社会論、情報社会論、消費社会論の「現代的」文脈)
- (3) 規範現象への問い (正義論、公共性論、合意論、責任論の社会的観察)

成績評価の方法 /Assessment Method

全編論述式の期末試験（約70%）、および、あなた自身の「思考軌跡」としてのレスポンスペーパー（約30%）により、総合かつ厳格に評価します（詳しくは初回の講義で説明しますので欠席なさらぬよう）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義は、法学や社会が自明視する諸概念や、現代社会で問題となっているテーマを俎上にのせていきますが、それらに正解をあてはめるものではありません。自明なものや紋切りの社会現象を前にして重要になってくるのは、そこに【「いかなる別様の問いを立てるか」という「問い」】です。ですので、講義と併走しつつ、そういった「問い」を立て、考えつづけていく準備のある方を歓迎します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにさせていただきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

各回ごとにレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大隈義和他『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）
- 浦部法穂『憲法学教室（全訂第2版）』（日本評論社・2006年）
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第4版）』（岩波書店・2007年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社・2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義 - 【国家権力の授権と制限】
- 第2回 憲法の展開 - 【近代から現代、そして未来へ】
- 第3回 人権総論① - 【人権の保障と制限】
- 第4回 人権総論② - 【裁判所による人権保障】
- 第5回 統治機構総論① - 【国民主権の意義】
- 第6回 統治機構総論② - 【日本の政治制度】
- 第7回 統治機構総論③ - 【司法制度と違憲審査制】
- 第8回 平和主義論① - 【憲法9条の制定・意義】
- 第9回 平和主義論② - 【平和主義の現実と未来】
- 第10回 平和主義論③ - 【憲法9条と裁判所】
- 第11回 地方自治 - 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第12回 象徴天皇制 - 【天皇制の継続と断絶】
- 第13回 憲法保障 - 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 総括
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法訴訟論【夜】

担当者名 落合 俊行 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国の最高法規を守り人権を保障するために、裁判所には違憲審査権が付与されています(81条)。「法の支配」原理にたつこの違憲審査制度は、日本国憲法の最大の特徴です。裁判所は「憲法の番人」といわれる所以です。わが国の違憲審査制度は具体的・付随的な違憲制度であり、具体的な民事・刑事・行政訴訟が提起されて、そのなかで憲法問題が争点となった裁判を憲法訴訟といいます。事件性の要件をみたした訴訟は民事訴訟法、刑事訴訟法、行政事件訴訟法などの法律が用意されていますが、「憲法訴訟法」という体系的な法律があるわけではありません。憲法訴訟を体系的に勉強するためには、実定法の理解のみならず憲法体系を支える憲法理論(人権と統治)の理解が不可欠となります。人権に関する憲法判例を検討・分析するさいに、憲法訴訟の理論が必要となります。この講義では、人権裁判において適用される合憲性の審査基準に関する理論、憲法判断の要件・手続・方法に関する理論など、具体的な訴訟を素材にして憲法判断についてのルールについて詳細に学びます。

教科書 /Textbooks

手島・安藤『新基本憲法学』(法律文化社、2600円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高見勝利『芦部憲法学を読む』(有斐閣)
野中・中村・高橋・高見『憲法II』(有斐閣)
高橋・長谷部・石川『憲法判例百選I・II』(第5版)(有斐閣)
笹田・井上・大沢・工藤『ケースで考える憲法入門』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回から第2回 司法権の意義
第3回から第4回 裁判所の構成と機能(裁判員制度の批判的検討)
第5回から第6回 司法権の独立(司法官僚と司法の危機)
第7回から第8回 司法権の限界
第9回から第10回 違憲審査制度と憲法訴訟をめぐる諸問題
第11回から第12回 違憲審査基準と方法
第13回から第14回 最高裁法令違憲判決の検討

成績評価の方法 /Assessment Method

出席 ...20% 課題レポート ...20% 定期試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日、新聞を読んでください。テレビのニュースやドキュメント番組などをみてください。
毎日、図書館を利用してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政争訟法 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description
後日揭示

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治法 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期 (ペア) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地方自治に関する法制度の原理と仕組みを理解することをねらいとする。
憲法は「地方自治の本旨」に基づく地方制度を予定しているが、現実の具体的な地方自治のあり方はどのように設定されているのか、そこにどのような問題点があるのか、今後のあり得る方向性はどうか等について検討する。

教科書 /Textbooks

中川義朗編『21世紀の地方自治を考える』（2010年、法律文化社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇賀克也著『地方自治法概説【第3版】』（2009年、有斐閣）
- 磯部力ほか編『地方自治判例百選〔第三版〕』（2003年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1～2回 「地方自治の意義と歴史」 | 17～18回 「国と地方公共団体との関係」(1) |
| 3～4回 「地方自治に関する法源」 | 19～20回 「国と地方公共団体との関係」(2) |
| 5～6回 「地方公共団体の種類」 | 21～22回 「情報公開制度」(1) |
| 7～8回 「地方公共団体の事務」 | 23～24回 「情報公開制度」(2) |
| 9～10回 「地方公共団体の権能」 | 25～26回 「個人情報保護制度」 |
| 11～12回 「地方公共団体の機関」(1) | 27～29回 「住民監査請求と住民訴訟」 |
| 13～14回 「地方公共団体の機関」(2) | 30回 まとめ |
| 15～16回 「住民の権利義務」 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 課題 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

憲法および行政法の各科目を履修済みであることが望ましい。
当然ながら予習復習が必要である。
(復習のための課題の提出を求める。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目で扱う「刑法総論」は、すべての犯罪に共通する犯罪成立要件の体系(犯罪論体系)を考察する法分野です。この意味で、犯罪と刑罰に関する法(=刑事法)の起点となります。講義では、具体的事例をもとにして、犯罪の成否に関する一般的な法理論を考察して、体系的整合性、論理的思考力を習得することを目的としています。

教科書 /Textbooks

(参考)山中敬一『刑法概説I総論』(成文堂・2008.10) ※テキストの選択は任意。
(参考)井田良『講義刑法学・総論』(有斐閣・2008.12)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○井田良『基礎から学ぶ刑事法(有斐閣アルマ)』3版(有斐閣・2005.12)
○山中敬一『コースクール講義 刑法総論』(成文堂・2005.04)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがあります。

1回 ガイダンス・刑事司法過程の全体像	16回 緊急行為①【正当防衛】
2回 犯罪論の基本構造【犯罪論体系】	17回 緊急行為②【対物防衛・偶然防衛】
3回 刑法の基礎理論①【罪刑法定主義】	18回 緊急行為③【緊急避難】
4回 刑法の基礎理論②【学派の争い】・【刑罰論】	19回 【原因において自由な行為】
5回 刑法の基礎理論③【違法論】	20回 故意論【故意の種類・未必の故意】
6回 刑法の基礎理論④【責任論】	21回 過失論【過失論】【信頼の原則】
7回 行為と構成要件【構成要件】	22回 錯誤論①【具体的事実の錯誤】
8回 【実行行為】と【不能犯】・構成要件の結果	23回 錯誤論②【抽象的事実の錯誤】
9回 【未遂罪】と【予備罪】・【実行の着手】	24回 共犯論の基礎【間接正犯】
10回 【中止犯】	25回 【共同正犯】
11回 【不作為犯】	26回 【共謀共同正犯】
12回 因果関係①【条件関係】	27回 【承継的共同正犯】
13回 因果関係②【相当因果関係】	28回 狭義の共犯【教唆犯】
14回 因果関係③ 因果関係の諸問題	29回 狭義の共犯【幫助犯】
15回 【正当行為】・【被害者の承諾】	30回 罪数論・科刑論

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
小テストの成績を成績評価において考慮する場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメを配布する予定です。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習(基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。)・復習(講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。)を十分に行ってください。この講義を受講した後に、「刑法犯罪各論I・II」及び「刑事訴訟法」を受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論I【夜】

担当者名 /Instructor 福永 俊輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法各論は、刑法第2編「罪」を対象とし、個別の犯罪の種類・成立要件を具体的に考察することを課題とします。本講義では、財産犯を除く個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、及び、国家的法益に対する罪を取り扱います。
講義形式という制約がありますが、出来る限り双方向的な講義になるように工夫をしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

西田典之『刑法各論（第四版補正版）』（弘文堂 2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西田典之ほか編『刑法判例百選II各論（第六版）』（有斐閣 2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 生命に対する罪①
- 3回 生命に対する罪②
- 4回 身体に対する罪①
- 5回 身体に対する罪②
- 6回 自由に対する罪①
- 7回 自由に対する罪②
- 8回 名誉・信用に対する罪
- 9回 社会的法益に対する罪①
- 10回 社会的法益に対する罪②
- 11回 社会的法益に対する罪③
- 12回 社会的法益に対する罪④
- 13回 国家的法益に対する罪①
- 14回 国家的法益に対する罪②
- 15回 国家的法益に対する罪③

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として定期試験で評価します(一〇〇点満点)。また、毎回の講義の開始時に、用紙を配ります。それに質問、意見や講義の質問を書き込んでもらい、講義終了時に回収します。もともと、提出は任意です。回答がなされた場合、その内容に従って評価の対象とし、定期試験の得点に加えます(提出をもって最低一点で換算します。)なお、回答は加算のみで、減点はしません。ただし、無記名の回答、何も書いていない回答、あるいは何も書いていないに等しい回答は対象としません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義を履修する上で、刑法総論を履修済みであることが望ましい(単位の取得は問わない)。また、本講義と併せて刑法犯罪各論IIを履修することを推奨する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論II 【夜】

担当者名 福永 俊輔 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法各論は、刑法第2編「罪」を対象とし、個別の犯罪の類型・成立要件を具体的に考察することを課題とします。本講義では、財産犯を取り扱います。講義形式という制約がありますが、出来る限り双方向的な講義になるように工夫をしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

西田典之『刑法各論（第四版補正版）』（弘文堂 2009年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西田典之ほか編『刑法判例百選II各論（第六版）』（有斐閣 2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 財産犯総論①
- 3回 財産犯総論②
- 4回 窃盗罪
- 5回 強盗罪①
- 6回 強盗罪②
- 7回 詐欺罪①
- 8回 詐欺罪②
- 9回 横領罪
- 10回 背任罪
- 11回 盗品に関する罪
- 12回 毀棄・隠匿罪①
- 13回 毀棄・隠匿罪②
- 14回 予備
- 15回 予備

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として定期試験で評価します(一〇〇点満点)。また、毎回の講義の開始時に、用紙を配ります。それに質問、意見や講義の質問を書き込んでもらい、講義終了時に回収します。もともと、提出は任意です。回答がなされた場合、その内容に従って評価の対象とし、定期試験の得点に加えます(提出をもって最低一点で換算します。)なお、回答は加算のみで、減点はしません。ただし、無記名の回答、何も書いていない回答、あるいは何も書いていないに等しい回答は対象としません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義を履修する上で、刑法総論を履修済みであることが望ましい(単位の取得は問わない)。また、本講義と併せて刑法犯罪各論Iを履修することを推奨する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑事訴訟法各論【夜】

担当者名 吉村 弘 / hiromu yosimura / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑事訴訟法には捜査、公訴、公判、裁判、上訴などの手続段階がある。本講義では、その中から、ある段階を選んで、具体的に講義する。今回は、捜査を取り上げ、詳細に条文の解釈などを行っていく。

教科書 /Textbooks

(主・テキスト) 松尾浩也「刑事訴訟法・上巻(新版)」(弘文堂)。
(副・テキスト) 庭山・岡部編「刑事訴訟法」(第3版)(青林書院)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

田宮裕編「刑事訴訟法」(北樹出版)、三井誠「刑事手続法(1)」(有斐閣)、松尾ほか編「刑事訴訟法判例百選第8版」(有斐閣)、福井厚「刑事訴訟法講義」(法律文化社)、田口守一「刑事訴訟法」(弘文堂)、鴨「刑事訴訟法の基本理念」(九大出版会)、白取祐司「刑事訴訟法」(日本評論社)、光藤「口述刑事訴訟法・上下」(成文堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 捜査の意義【証拠収集】、【身体の保全】
- 2回 捜査の主体【検察官】、【警察官】
- 3回 捜査の方法【逮捕】、【勾留】、【押収】、【搜索】
- 4回 捜査の規制【強制処分法定主義】、【令状主義】
- 5回～7回 逮捕【通常逮捕】、【現行犯逮捕】、【緊急逮捕】
- 8回～10回 勾留
- 11回～12回 逮捕・勾留に関する諸問題【別件逮捕】
- 13回～14回 搜索・押収
- 15回 搜索・押収に関する諸問題

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

犯罪学【夜】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

犯罪学という学問は、「なぜ人は犯罪を犯すのか」「なぜ犯罪が生起するのか」という素朴な疑問に答えようとする科学的試みの中で生成・発展してきたものです。本授業では、犯罪原因に関する「理論」をできるだけ多く取り上げて、各理論の長所・短所などを批判的に分析・検討することにします。

教科書 /Textbooks

藤本哲也『犯罪学原論』（日本加除出版、2003年）4,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 瀬川 晃『犯罪学』成分堂(1998年)3,500円
- G.B.ヴォルド=T.J.バーナード『犯罪学：理論的考察[原書第3版]』東大出版会(1990年)
- 宮澤浩一・藤本哲也・加藤久雄編『犯罪学』青林書院(1995年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～4回 犯罪および犯罪学の基礎的概念についての入門的説明。【犯罪の定義】【刑事政策】【刑事学】【犯罪学】【暗数】
- 5回～11回 犯罪学上の代表的な「パラダイム」の分析・検討。【理論】【パラダイム】【パースペクティブ】【古典主義犯罪学】【実証主義犯罪学】【批判的犯罪学】
- 12回～26回 各理論の成立した時代的背景、主張内容、批判・反批判、政策的含意などの分析・検討。【シカゴ学派】【異質的接触理論】【アノミー理論】【非行副次文化理論】【ラベリング理論】【コンフリクト理論】【社会統制理論】【セルフコントロール理論】【発達論的犯罪学】【異質的機会理論】
- 27回～29回 各種犯罪の現状とその原因論的説明。【凶悪犯罪(殺人・強盗)】【性犯罪(強姦、セクシャルハラスメント)】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門教育科目の「刑事司法政策I&II」(本年度は昼間主のみ)をあわせて受講すればわかりやすい。授業にあたっては、テキストの指定された部分を読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

所得保障法 【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

福祉国家として発展はしてきたものの、貧困はかならずしも過去の問題とはいえない深い根を持つ問題である。貧困解消のために積み重ねられてきた過去の立法の歴史を踏まえて、現代の所得保障制度の体系、対象、方法を理解することを目的とするとともに、他国の制度改革を参考に、わが国の所得保障の課題について理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

河野正輝他「社会保障論」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義の際に示す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代社会と貧困および所得格差 [ワーキングプア、ホームレス、見えない貧困]
- 2,3回 所得保障制度の歴史 [救貧法、「貧困の発見」、ビスマルク社会保険]
- 4,5回 所得保障法の体系・方法 [公的扶助、社会手当、社会保険]
- 6,7回 高齢者に対する所得保障 [老齢基礎年金、老齢厚生年金]
- 8回 障害者に対する所得保障 [障害基礎年金、障害厚生年金]
- 9回 遺族に対する所得保障 [遺族基礎年金、遺族厚生年金]
- 10,11回 医療費、介護費等の費用の保障 [医療保険、介護保険、児童手当]
- 12回 最低生活の保障 [生活保護制度]
- 13回 海外の年金改革の動向 [概念上の確定拠出型年金、保証年金]
- 14回 海外の最低保障制度の改革 [アクティブエイション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に、現代の貧困について、各自で情報を収集しておく、関心を持って講義に望められる。
社会法総論とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

雇用関係法 【夜】

担当者名 /Instructor 國武 英生 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

雇用関係法は、労働者と使用者の個別の関係を規律する法領域である。働くうえで直面する法律問題の多くはこの法分野に関わるものであり、雇用関係法は労働法の体系において中心的な位置を占めている。
この講義では主に、雇用関係の成立、展開、終了という雇用関係の変遷に関する問題と、雇用関係の内容に関わる法規制について学習する。また、実定法の解説にとどまらず、実際に社会規範、裁判規範としてどのように労働法が社会的に意味をもつのかを理解できることも目指す。

教科書 /Textbooks

村中孝史ほか編『労働判例百選 [第8版]』有斐閣 (2009年)
六法 (小さなものでよいが、なるべく新しいもの。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第 1 回の講義の際に具体的に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回～第 2 回 ガイダンス～労働法の全体像～
【市民法原理の修正】【労働関係の規律構造】
- 第 3 回～第 4 回 雇用関係法の基本構造
【労働法上の当事者】【労働条件決定システム】
- 第 5 回～第 6 回 雇用関係の成立
【採用】【試用】【労働契約上の権利義務】
- 第 7 回～第 8 回 雇用関係の展開(1)
【配転】【出向】【就業規則の不利益変更】
- 第 9 回～第 10 回 雇用関係の展開(2)
【賃金請求権】【労働時間、休憩、休日】【時間外労働】
- 第 11 回～第 12 回 雇用関係の終了
【退職】【解雇】【懲戒権の根拠】
- 第 13 回～第 14 回 女性労働保護と労災・安全衛生
【セクハラ】【業務災害】【安全配慮義務論】
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%、コメントカード... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

労働法は実定法の中でもいわば応用的な分野です。雇用関係法を学ぶうえでは民法の知識を必要としますので、民法総則等の科目を履修した後に受講することをお勧めします。また、労働法の理解を深めるためには、「労使関係法」をあわせて受講すると良いでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法I【夜】

担当者名 /Instructor 中川 智治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組の修得を目指します。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、条約集が必要（出版社は問わない）。
講義は講師作成のレジュメ配布を予定している

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

長谷川正国（訳）『現代国際法入門』（成文堂、1999年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 紛争社会としての国際社会【国内社会と国際社会】
- 2回 国際紛争の解決方法の歴史I【正戦論】【中立】【不戦条約】
- 3回 国際紛争の解決方法の歴史II【憲章第2条4項】【自衛権】【司法的解決手続】
- 4回 国際裁判制度I【国際司法裁判所】【選択条項】【仮保全措置】
- 5回 国際裁判制度II【国際海洋法裁判所】【みなみマグロ事件】
- 6回 国際法の法源I【ICJ規程第38条】【慣習国際法】【条約】
- 7回 国際法の法源II【法の一般原則】【衡平と善】
- 8回 国際責任I【国際責任の発生】【国際責任の解除】
- 9回 国際責任II【外交的保護】【対抗措置】【無過失責任主義】
- 10回 国際責任III【国際責任の限界】【事例研究】
- 11回 条約法I【重大な違反】【不遵守手続】【条約の無効】
- 12回 条約法II【条約の批准と承認】【国会承認条約】【条約の自動執行性】
- 13回 条約法III【条約の国内実施】【一元論と二元論】
- 14回 法システムとしての国際法【合意原則としての国際法】【慣習国際法の形成】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校までの日本史や世界史の知識を前提とします。憲法・民法・刑法についての知識があるとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際法Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 中川 智治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組の修得を目指します。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、条約集が必要（出版社は問わない）。
講義は講師作成のレジュメ配布を予定している。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

長谷川正国（訳）『現代国際法入門』（成文堂、1999年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際社会における犯罪の取り締まり【外国人犯罪】【戦争犯罪人】
- 2回 犯罪の国際的取り締まりI【刑外国外犯規定】【国家管轄権】【属人主義】
- 3回 犯罪の国際的取り締まりII【通貨偽造】【海賊】【逃亡犯罪人】【政治犯】
- 4回 犯罪の国際的取り締まりIII【ハイジャック】【麻薬密輸】【国際刑事裁判所】
- 5回 犯罪の国際的取り締まりIV【事例検討】
- 6回 人権の国際的保障【国籍】【難民】【人権の履行メカニズム】
- 7回 領域主体としての国家I【属地主義】【領域主権】【領域使用の管理責任】
- 8回 領域主体としての国家II【領海】【接続水域】【排他的経済水域】【大陸棚】
- 9回 領域主体としての国家III【無害通航権】【国際海峡】【深海底】
- 10回 領域主体としての国家IV【領域権原】
- 11回 国際法上の国家I【国家の権利義務】【国家承認】【政府承認】
- 12回 国際法上の国家II【外交関係】【領事関係】
- 13回 国際法上の国家III【主権免除】【国内問題不干涉】【破綻国家】
- 14回 国際法上の国家IV【国際組織】【国連】【NGO】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校までの日本史や世界史の知識を前提とします。憲法・民法・刑法についての知識があるとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際私法【夜】

担当者名 /Instructor 小林 啓一 / NAKABAYASHI KEIICHI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本人同士の日本での結婚・売買等には日本の法律（民法など）が適用される。それでは、日本人が外国人と結婚・売買等をおこなう場合に適用されるのはいずれの国の法律であろうか。国際私法はこのような問題を解決するための法律である。この授業の目的は、上述のような法律関係がどのように規律されているかを理解することにある。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松岡博編『国際関係私法入門（第2版）』（有斐閣、2009年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際民事訴訟法(1)【財産関係事件の国際裁判管轄】
- 2回 国際民事訴訟法(2)【身分関係事件の国際裁判管轄】
- 3回 国際私法序論【国際私法の意義と必要性、法的性質】
- 4回 国際私法総論(1)準拠法の決定【法性決定、連結点の意味】
- 5回 国際私法総論(2)準拠法の特定【反致、公序】
- 6回 国際家族法(1)属人法と、婚姻の準拠法【国際結婚と法】
- 7回 国際家族法(2)離婚、親子関係の準拠法【国際離婚と法】
- 8回 国際家族法(3)その他の問題【氏、相続など】
- 9回 国際財産法(1)契約の準拠法(1)【当事者自治の原則】
- 10回 国際財産法(2)契約の準拠法(2)【特徴的給付、消費者契約、労働契約】
- 11回 国際財産法(3)不法行為の準拠法【一般不法行為、生産物責任、名誉毀損】
- 12回 国際財産法(4)自然人、法人【渉外的法律関係の主体と準拠法】
- 13回 国際財産法(5)その他の問題【知的財産、物権、債権譲渡】
- 14回 国際民事訴訟法(3)【外国判決の承認執行】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民法の各科目とあわせて受講すればわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法総則【夜】

担当者名 /Instructor 河津 八平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 4単位
学期 /Semester 1学期 (ベア)
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私法の中核法としての民法は、私法上の生活に係るほとんどの領域で適用があり、民法を理解するには、その法源としては、民法典だけでなく、多くの特別法や判例や慣習法等もマスターする必要があります。

この講義の対象である民法総則は、その文字が示すように、ほとんどの民法領域に関連する民法法規の総則的な規定であります。従って、民法全般を理解するには、まず民法総則をマスターする必要があります。

ところで、民法総則を学ぶということは、単にその条文を記憶すればよいというものではありません。この授業のねらいは、法の解釈適用にあります。社会には色々の民法上の事件が発生します。その事件を法的にどのように解決するかが法を学ぶ者に課せられた役割です。皆さんには、この法の解釈適用の技術をマスターしてもらいたい。法学は学問が技術かについては議論がありますが、技術という表現が妥当でないとする人はこれを学問と言い換えても結構です。

いずれにしても、1学期(6限、7限の連続2コマ(ベア))で、民法総則の解釈適用をマスターしていただくわけですが、そのためには、法学に独特な理論を学んでいただくことになります。受講者は1年生ですので、始めは少し理解しにくいところがありますが、慣れれば案外と面白くなるかと思えます。

民法総則は、民法の基本法ですから、この科目を履修する者は、6限(2単位)、7限(2単位)の2コマ(計4単位)を連続して受講していただきたい。なお、講義は教科書にそって行いますから、教科書は必ず携行してください。また、六法も必ず携行してください。

教科書 /Textbooks

伊藤 真(試験対策講座 1)「民法総則」(最新版)(出版社-弘文堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特には指定しない。講義のおり必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記に記述するものは、民法総則の(6限目)と(7限目)の講義内容です。この科目は6限目と7限目がベアとなっていますから、6限目と7限目は連続して、下記の内容で、1回目から順次講義します。

- 1回 民法とは何か-民法の全体像を把握する(法律関係、契約、物権等)。
- 2回 民法の考え方-価値判断と法律構成。
- 3回 民法総則の位置づけ-民法総則の概観、基本原理。
- 4回 私権の主体-自然人(権利能力、意思能力、行為能力)
- 5回 私権の主体-法人(法人制度の改革、法人の種類、)
- 6回 私権の主体-法人(権利能力なき社団、法人の能力、法人の不法行為能力)
- 7回 私権の客体-物(不動産と動産、主物と従物)
- 8回 私権の変動-法律効果(法律行為、契約、事件、契約締結上の過失)
- 9回 契約の有効性-当事者に関わる一般的有效要件(意思表示、心裡留保)
- 10回 契約の有効性-当事者に関わる一般的有效要件(虚偽表示)
- 11回 契約の有効性-当事者に関わる一般的有效要件(錯誤)
- 12回 契約の有効性-当事者に関わる一般的有效要件(詐欺・強迫)
- 13回 契約の有効性-契約内容に関わる一般的有效要件(適法性、強行法規と任意法規)
- 14回 契約の有効性-無効と取消し
- 15回 代理とはなにか-代理の機能、代理の本質。
- 16回 本人と代理人との関係(相手方の保護)-代理権の発生原因。授權行為の瑕疵(授權行為、109条による救済)。
- 17回 本人の利益と相手方の保護-代理人の権限濫用(93条但書の類推適用)。代理人と相手方の通謀虚偽表示-(信義則)。
- 18回 代理人と相手方の関係-代理行為の瑕疵(代理人の善意悪意)。
- 19回 無権代理-概説(狭義の無権代理、表見代理)。
- 20回 無権代理と相続-本人死亡の場合、無権代理人死亡の場合。
- 21回 表見代理-概説(109条、110条、112条の表見代理)。
- 22回 表見代理-110条の表見代理。
- 23回 条件と期限-停止条件、解除条件、不確定期限。
- 24回 時効と除斥期間-総論。
- 25回 消滅時効-消滅時効の起算点。
- 26回 取得時効-自主占有と他主占有。
- 27回 時効の効果と援用・放棄-援用(不確定効果説)。
- 28回 説明の不足した部分を補足する。
- 29回 復習。
- 30回 予備。

民法総則【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席、ペーパーテストの成績、

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記の講義の回数とそれに対応する内容はあくまでも目安です。なお、教科書及び六法を必ず携行してください。また、予習及び復習も必ずしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

物権法 【夜】

担当者名 畑中 久彌 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

主に民法第2編（物権編）に規定されている法的ルールを学ぶ。私人間における物の支配・利用のあり方にはどのようなものがあるか、それについてどのような法的ルールがあるか、その法的ルールをどのように現実問題に適用していけばよいかを検討する。

教科書 /Textbooks

淡路剛久・鎌田薫・原田純孝・生熊長幸『民法2物権（第3版補訂）』有斐閣（平成21年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山野目章夫『初歩からはじめる物権法（第5版）』日本評論社（平成19年）
- 『民法判例百選（第6版）』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【民法典の編別】【物権の種類】
- 2回 所有権①【所有権】【相隣関係】【物権的請求権】
- 3回 所有権②【所有権の取得】
- 4回 所有権③【共有】【区分所有】
- 5回 用益物権【地上権】【永小作権】【地役権】【入会権】
- 6回 物権変動①【物権変動入門】【法律行為による物権変動】【物権変動の時期】
- 7回 物権変動②【不動産登記制度】
- 8回 物権変動③【不動産に関する物権変動の対抗要件】
- 9回 物権変動④【動産に関する物権変動の対抗要件】
- 10回 物権変動⑤【動産の即時取得】
- 11回 物権変動⑥【不動産取引における94条2項の類推適用】
- 12回 担保物権①【抵当権】
- 13回 担保物権②【質権】【譲渡担保】【仮登記担保】
- 14回 担保物権③【留置権】【先取特権】
- 15回 講義のまとめ【物権と債権の性質の違い】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...30% 期末試験...70%
期末試験では六法等の資料の持ち込みは認めない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の教科書該当箇所およびそこで引用されている条文を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事訴訟法各論【夜】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法について、判決手続に関するより重要な問題について学習します。民事訴訟法総論（民事判決手続I）に比べると、内容は高度ですので、民事訴訟法総論を履修していると本講義の理解が深いものとなります。

教科書 /Textbooks

テキストを使用します。後日、指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の際に紹介します。適宜、プリントを配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1回 当事者について | 【当事者能力】、【訴訟能力】 |
| 2回 代理人について | 【法定代理人】、【任意代理人】 |
| 3回 裁判所について | 【管轄】、【移送】 |
| 4回 訴えの提起 | 【訴え提起】、【二重起訴】 |
| 5回 口頭弁論I | 【訴訟要件】、【処分権主義】、【一部請求】 |
| 6回 口頭弁論II | 【弁論主義】、【主要事実】、【当事者の欠席】 |
| 7回 訴訟行為 | 【訴訟上の合意】、【訴訟行為の性質、効果】 |
| 8回 証拠I | 【自白】、【文書提出命令】 |
| 9回 証拠II | 【証明】、 |
| 10回 判決I | 【相殺の抗弁】、【口頭弁論終了後の承継人】 |
| 11回 判決II | 【和解調書】、【訴訟の終了】 |
| 12回 上訴 | 【上訴の利益】 |
| 13回 多数当事者訴訟 | 【共同訴訟】、【訴訟参加】 |
| 14回 請求の複数 | 【訴えの客観的併合】、【訴えの変更】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 30% 課題レポート... 10% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 「民事訴訟法総論」が基礎的な科目なので、先ず「総論」を履修するようにして下さい。
- ・ 1学期に比べ、内容的に高度なので、テキストによる予習、配布プリント・板書ノート等による予習・復習を欠かさないことが重要です。
- ・ 授業の進行状況により、授業スケジュールが前後することがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民事執行法【夜】

担当者名 /Instructor 中村 仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

民事執行法の基礎を学ぶ。私法上の権利が最終的にどのようにして実現されるのか，その手続に関する基礎的知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

授業でレジメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

有斐閣双書 「民事執行・保全法概説」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

民事執行法の基礎について順次概説する。総論に重きを置く。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則期末試験のみ。採点は辛めである。出席点はつけない。
講義中に抜き打ちでテストを行うことや，レポートの提出を求めることもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民事執行法を理解する前提として民事訴訟法の基礎知識(訴訟物・既判力・執行力など)が必要であるから履修の有無にかかわらず，各自学習しておくこと。民事訴訟法の教科書を持っていない学生には有斐閣双書「民事訴訟法」を勧める。また実体法の知識なしに手続法を学んでも意味がないから，実体法，特に民法は学習すること。
講義には六法を持参すること。
授業で配布するレジメはよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義のねらいは、『商法典』中の「商法総則」「商行為編」部分、『会社法典』中の「会社法総則」部分に関わる重要な法律問題をいくつか取り上げ、これらにつき解説をすることです。また、必要な限りで、『不正競争防止法』などが特別に定めているルールについても触れる予定です。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成22年度版であることが必要です。毎回、必ず持参してください。なお、期末試験実施時には、「判例つき」の六法の持ち込みは認められませんので、十分注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順で進みますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。

(【 】はキーワード)

- 1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 2回 民法に対する商法の特色は？【営利性】【外観主義】【公示主義】
- 3回～4回 商人とは？商行為とは？【絶対的商行為】【相対的商行為】【附属的商行為】
- 5回 企業形態と武装手段 【会社の種類】【政治献金】【会社制度の濫用】
- 6回～8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール【商号・商標】
- 9回～11回 会社と従業員との関係—【商業使用人】【雇用】
- 12回～13回 会社と消費者との関係—【普通取引約款の利用】【消費者保護法】
- 14回 営業・事業に関する重要事項の「公示」はどのように行われるべきか？【商業登記】
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義期間中に実施予定の小テスト・レポート... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義が対象とする「商法」は、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、民法の財産法に関わる科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業取引法II【夜】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

電子債権取引の時代になっても、いまだに手形は企業決済や金融の手段として広く使われている。手形取引は実務的であると同時に、手形法学において精緻な理論体系が構築され、独自の面白さがある。本講義では、主に約束手形を対象として、また具体的な判例を取り上げることで、手形に係る有価証券法理を明らかにしていきたい。

教科書 /Textbooks

大塚龍児他「商法III-手形・小切手〔第3版〕」(有斐閣Sシリーズ・2006年)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川村正幸「手形・小切手法〔第3版〕」(新世社・2005年)、関俊彦「金融手形小切手法〔新版〕」(商事法務研究会・2003年)。落合誠一他編「手形小切手判例百選〔第6版〕」(別冊ジュリスト173号)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～第2回 手形・小切手の経済的機能と法的構造【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形行為の意義と成立要件【手形理論】
- 第4回 手形行為と原因関係【商業手形、融通手形】
- 第5回 手形行為と法律行為【意思表示の瑕疵】
- 第6回 他人による手形行為と偽造・変造【無権代理、偽造手形、変造手形】
- 第7回 手形要件と白地手形
- 第8回 裏書の意義
- 第9回～第11回 裏書の連続と善意者保護【善意取得】【人的抗弁】
- 第12回 支払・支払拒絶・遡求・手形保証
- 第13回 為替手形・小切手
- 第14回 手形上の権利の消滅・利得償還請求権・除権決定・手形訴訟
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。場合によって、小テスト、レポート等を課す場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最新版の六法(但し小型のものでよい)を必携のこと。また、講義を受ける前にテキストを予習した上で、講義に出ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場と法 【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の対象は金融商品取引法です。金融商品取引法は、投資家に対する情報開示、不公正な取引の禁止、証券会社等の行為規制を柱として様々なルールを定めていますが、講義では主として株式市場を念頭に金融商品取引法の基本的な仕組みや考え方について説明します。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 証券市場の仕組みと機能
- 3回 金融商品取引法の基礎概念【有価証券】【金融商品取引法の目的】
- 4回 金融商品取引法の特徴
- 5回～6回 発行市場における開示規制【有価証券届出書】【目論見書】
- 7回～8回 流通市場における開示規制【有価証券報告書】
- 9回 M&Aと金融商品取引法【公開買付け】【大量保有報告書】
- 10回～11回 不公正な取引【インサイダー取引】【相場操縦】【損失補填】
- 12回～13回 金融商品取引業者に対する規制【説明義務】【適合性原則】
- 14回 金融商品取引の規制主体【証券取引等監視委員会】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

法律科目では会社法、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのため、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどういう研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ごとに挙げていく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 日本における貧困問題・・・北九州市と福岡市のネットカフェ難民調査から
- 5回 日本における子どもの貧困(1)・・・日本の現状を考える
- 6回 日本における子どもの貧困(2)・・・比較の視座から考える
- 7回 社会実験(1)・・・社会実験とは何か
- 8回 社会実験(2)・・・事例の分析・検討
- 9回 循環型社会(1)・・・導入
- 10回 循環型社会(2)・・・容器包装リサイクル法
- 11回 循環型社会(3)・・・家電リサイクル法
- 12回 介護保険(1)・・・導入
- 13回 介護保険(2)・・・現状分析
- 14回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 15回 介護保険(4)・・・問題点とその検討

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業貢献度など ... 50 % レポート ... 50 %。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いていただき成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政策過程論 【夜】

担当者名 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会・政策の決定(合理的決定・ゴミ箱決定、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams, 政策の窓 (Policy Window)、政策実施・調整 (Policy Learning &Changes)・政策変数、終了・評価の政策過程と、アクターの参加 (内閣・官僚・国会、政府間関係、専門家組織、世論とメディア、NPO)とその構造 (補助金・Rent-Seekingのような利益誘導型政治等)について理論・事例を広く検討し、理解してもらう。
(キーワード ; 公私、公共政策、政策の決定、実施、政策調整、終了、アクターの参加、メディアの役割、ガバナンス)

教科書 /Textbooks

- ① 早川純一 貴 外 (2004)、政策過程論、学陽書房
- ② 足立幸男 (2006)、公共政策決定の理論 ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中郵章、竹下讓 (1987)、日本の政策過程 : 自民党・野党・官僚、梓出版社
- 中野実 (1992)、現代日本の政策過程、東京大学出版会
- 草野厚 (1997) 政策過程分析入門、東京大学出版会
- 中村昭雄 (1997)、日本政治の政策過程、芦書房、その他。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 授業や本の紹介など
- 第 2回 政策の対象、政策の必要性、費用と利益、政策の種類など。
- 第 3回 政策過程、参加者、政策資源、
- 第 4回 政策過程の理論 1 (川辺川ダム決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 第 5回 政策過程の理論 2 (政策の窓、イシューネットワーク論、無意思決定論など、中野実 (1992)、草野厚 (1997) を参考。
- 第 6回 政策過程の理論 3 (新聞、インターネットとかで検索した事例分析)
- 第 7回 ~ 第10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、アクター、官僚と国会、政府間関係、利益誘導政治)、実施過程に関する論文などの参考、
- 第 11回 後援会、地域政治構造、
- 第 12回 地域政治と政策過程、中野実 (1992) などを参考。
- 第 13回 政策評価と市民参加、
- 第 14回、第 15回、関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・試験・発表・出席状況などから総合的に判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治過程論【夜】

担当者名 /Instructor 松田 憲忠 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「政治過程」は、政治制度の下で繰り広げられる様々なアクターによるインターアクションのプロセスを表す概念です。本講義は政治過程についてジャーナリスティック・感覚的にではなく、理論的・実証的に即ち社会科学的に考察します。まず、有権者がニーズを訴える過程（「入力過程」）に目を向けます。つぎに、入力された有権者のニーズを受けて政策を決定・実施・評価する過程（「出力過程」）に焦点を当てますが、本講義では特に政策決定過程を取りあげます。最後に、政策を決定するシステム（「公共システム」）の特徴を、市場システムと比較しながら、描出します。

教科書 /Textbooks

講義ノート（担当教員のウェブサイトからダウンロード・プリントアウトしてください）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田浩・松田憲忠編(2009)『現代日本の政治-政治過程の理論と実際』ミネルヴァ書房。
その他、第1回講義で紹介いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- [入力過程]
 - 2回 投票行動 3回 投票行動
 - 4回 投票参加 5回 投票参加
 - 6回 投票参加 7回 世論とメディア
- [出力過程]
 - 8回 政策決定過程におけるアクター 9回 政策決定過程におけるアクター
 - 10回 政策決定・政策過程のモデル 11回 政策決定・政策過程のモデル
 - 12回 政策決定・政策過程のモデル
- [公共システム]
 - 13回 公共システムと市場システム 14回 公益と政策
 - 15回 総括

※受講生の人数や理解度等に応じて、上記スケジュールは変更される可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（学期末試験では、本講義で提供された知識の習得、社会科学的思考の実践、社会問題や政治状況等についての日常的な観察といった多様な側面からの評価が行われます）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ◆授業には、講義ノートの該当箇所を持参してください。
- ◆政策決定を含めた政策過程全般について深く勉強を進めたい場合は「政策過程論」、行政府や官僚等については「日本行政論」、政策立案・分析・議論における公益等の諸価値の問題については「政策構想論」、政党システムや欧州諸国の政党については「政党政治論」、政党・利益集団・行政省庁に代表される組織全般については「行政組織論」、政治過程のルールである政治制度については「政治学」、日本の政治過程については「日本政治論」の受講をお勧めいたします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自治体政策研究【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代日本において地方分権改革は最重要課題の一つとあってよい。しかしながら、現在の自治体が、「分権の受け皿」として、政策過程のなかで積極的かつ効果的な役割を担っているか（あるいは担えるか）といえれば必ずしもそうとはいえない。つまり、これまで中央政府で決定された公共政策の単なる実施機関との位置づけが濃かった日本の自治体が、自ら「政策形成の担い手」になりうるかどうか、あるいは、自らが決定した政策に関して政策評価等を通じ住民への説明責任を十分に果たすことができるかどうかは今後極めて挑戦的課題になるのである。本講義では、こうした問題を政策プロセスにおける住民参加の問題やNPOの問題などを含め多角的視点から検討・考察し、現代日本におけるいわば「政策自治体」の可能性・ありかたを模索することにした。

また、人口減少期のまちづくりはどのようにするべきかといった問題（コンパクトシティ）、さらには中山間地域の限界集落と都市の限界コミュニティの問題など、これから地方自治体が直面する問題や先進的取り組みについても議論することにした。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想（青森市、富山市など）
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-くしとお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落（1）-限界集落とは何か
- 6回 限界集落（2）-限界集落の事例、綾部市の「水源の里」
- 7回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは
- 8回 北九州市の局地的高齢化と限界コミュニティ
- 9回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり（1）-市民参加と協働
- 10回 福岡県宗像市の条例によるまちづくり（2）-コミュニティ
- 11回 グリーンツーリズム、移住政策
- 12回 三鷹市のまちづくり（1）-市民参加の実験都市
- 13回 三鷹市のまちづくり（2）-市民参加の様々な試みの紹介
- 14回 北九州市の市民センター
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・授業貢献度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、論文、新聞記事などを読んだうえで講義に参加していただきたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経済論 【夜】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。併せて、企業活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
(大学のホームページから受講者がダウンロードすること)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 レポート作成・提出

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方行政改革論【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、地方行政改革がなぜ必要とされているのか、そこでの改革手法としてどのような手法が用いられているのか、現在進む地方行政改革の実態と課題を論じたい。改革の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。とくに今年、自治体改革のブームともなっている「自治基本条例」を大きく取り扱うことにする。自治体の基本的なルールともいえる自治基本条例を定めるケースが増えているが、自治基本条例の将来的可能性ないし課題について考えることにしたい。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治体の組織【官僚制の理論】
- 3回 地方自治体の組織【自治体の特性】
- 4回 組織改革①【自治体組織の改革】
- 5回 組織改革②【自治体組織の改革】
- 6回 組織改革③【自治体組織の改革】
- 7回 地方公務員の改革①【公務員制度】
- 8回 地方公務員の改革②【人事管理改革】
- 9回 地方公務員の改革③【求められる公務員とは】
- 10回 行政と住民の関係①【市民参加】
- 11回 行政と住民の関係②【自治体内分権】
- 12回 行政と住民の関係③【コミュニティ自治】
- 13回 近年の課題①【自治基本条例の全体像】
- 14回 近年の課題②【自治基本条例による改革進展】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期レポート試験...89% 特定課題...11%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。この授業の内容からすると、すでに地方自治論を履修していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本行政論【夜】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

行政とはなにか、なぜ行政がわたしたちの生活に不可欠な存在なのか、行政はどのように形づくられているのか、そしてその問題点とは何か。行政の歴史的展開、現代の行政の仕事、そして改革される行政、今後の行政の姿など総合的に行政について考えていきたい。

教科書 /Textbooks

今村都南雄 (2009) 『ホーンブック基礎行政学』北樹出版など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西尾勝 (2001) 『行政学』有斐閣 .
- 森田朗 (1996) 『現代の行政』放送大学教育振興会 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
- 2回 行政の歴史①【市民革命】【自由主義】
- 3回 行政の歴史②【行政国家化】
- 4回 行政学史①【官僚制の理論】
- 5回 行政学史②【アメリカ行政学】【科学的管理法】
- 6回 行政学史③【人間関係論】【現代組織論】
- 7回 現代の行政制度①【国会】【議院内閣制】
- 8回 現代の行政制度②【内閣制度】【総理大臣と政治リーダーシップ】
- 9回 現代の行政制度③【官僚制と政策過程】
- 10回 現代の行政制度④【公務員制度】【公務員改革】
- 11回 「官から民へ」の意味①【民営化】
- 12回 「官から民へ」の意味②【市民がつくるパブリック】【ガバナンス】
- 13回 行政改革の方向性①【改革の背景】【各国の主要動向】
- 14回 行政改革の方向性②【規制緩和・民営化・情報公開・構造改革特区】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域統合論 【夜】

担当者名 五月女 律子 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパ統合を分析する理論的側面として地域統合論を解説し、ヨーロッパ統合を現実に推し進めることになった理念とともに、EUの組織・機構や意思決定過程について学ぶ予定である。また、EUにおける各分野の政策に関して、その発展過程を理解するとともに問題点を探ることを目指す。国際社会において、EUがアメリカとは異なる政策や立場を選択する事例や、国際組織やアジアとの関係についても触れ、ヨーロッパの統合過程において現れ始めている問題点についても考えたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』(芦書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 内はキーワード)
- 1回 授業内容の説明、EUの歴史と概要
 - 2回 地域統合論【地域】【統合】【新機能主義】【交流主義アプローチ】
 - 3回 ヨーロッパ統合の理念と歴史【ECSC】【EURATOM】【EEC】【EC】
 - 4回 EUの組織・機構と意思決定過程(1)【欧州委員会】【欧州理事会】
 - 5回 EUの組織・機構と意思決定過程(2)【欧州議会】【閣僚理事会】
 - 6回 域内市場政策(1)【単一市場】【単一欧州議定書】
 - 7回 域内市場政策(2)【域内市場統合】
 - 8回 単一通貨政策【ウェルナー】【ECB】【ユーロ】
 - 9回 共通農業政策(1)【CAP】【補助金】
 - 10回 共通農業政策(2)【財政問題】
 - 11回 共通外交・安全保障政策(1)【CFSP】
 - 12回 共通外交・安全保障政策(2)【欧州緊急対応部隊】【ESDP】
 - 13回 国際社会における主体としてのEU【アジア】【ASEM】【国連】
 - 14回 ヨーロッパ統合における負の側面【外国人排斥】【エリートvs. 大衆】【EU懐疑主義】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の小テスト ... 40% 期末筆記試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容を自分でまとめてノートに取る訓練をすること。「西洋政治史」および「政党政治論」を履修することにより、ヨーロッパの国際関係や国内政治に関する知識を身につけておくこと効果的な学習ができる。学生の希望に添って授業の速度を落とした場合、予定した内容を全て講義できない点に留意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論I【夜】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○下村恭民他『開発援助の経済学（第4版）』有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【 】内は各回の内容を示すキーワード

- 第1回 開発援助の主体について【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 南北問題台頭の時代【南北問題】、【UNCTAD】
- 第4回 1960年代の開発援助【近代化論】、【トリクル・ダウン仮説】
- 第5回 南北交渉の時代【新国際経済秩序（NIEO）】、【資源ナショナリズム】
- 第6回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）戦略】
- 第7回 途上国世界の分裂【石油危機】、【累積債務危機】
- 第8回 1980年代の開発援助【構造調整政策】、【ワシントン・コンセンサス】
- 第9回 グローバル・イシューズの時代【国連主催会議】、【NGOフォーラム】
- 第10回 開発援助の新潮流【人間開発】、【社会開発】
- 第11回 人間開発概念の発展【人間の安全保障】、【保護する責任】
- 第12回 日本のODAの歴史【戦後賠償】、【黒字還元】
- 第13回 日本のODAの仕組み【無償資金協力】、【有償資金協力】、【技術協力】
- 第14回 日本のODAの理念と世界との比較【ODA大綱】、【自助努力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第2次世界大戦後の歴史について復習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力論II 【夜】

担当者名 /Instructor 千知岩 正継 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力として取り組むべき課題のなかでも、1990年代以降活発に議論されている平和構築について学習します。紛争予防を目的として、どのような活動がどのような主体によって行われているのか、効果的な紛争予防策はあるのかなどについて、具体的な事例をもとに学習します。

教科書 /Textbooks

メアリー・アンダーソン『諸刃の援助』明石書店、2006年。
大平剛『国連開発援助の変容と国際政治』有信堂高文社、2008年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○東大作『平和構築』岩波新書、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 冷戦終結の影響【民主的平和】、【国内紛争】、【アイデンティティ・ポリティックス】
- 第2回 PKOの変容と限界【平和執行型PKO】、【予防展開】
- 第3回 「予防の文化」と平和構築アプローチ【予防開発】、【紛争サイクル】
- 第4回 平和構築と人道・開発援助活動の拡大【紛争分析手法】、【構造的要因】、【引き金要因】
- 第5回 「保護する責任」(総論)【人道的介入】
- 第6回 「保護する責任」(各論)【脆弱国家】、【早期警報】
- 第7回 安全保障部門改革(SSR)と武装解除、動員解除、兵士の社会復帰(DDR)【SSR】、【DDR】
- 第8回 東ティモールとアフガニスタンの事例検証：SSRとDDRの具体的な事例
- 第9回 国際開発援助レジームの変容【援助協調】、【援助の調和化】
- 第10回 復興援助と条件付け【ピース・コンディショナリティ】
- 第11回 Do No Harm原則①【平和へと向かう現地の力】、【戦争へと向かう現地の力】
- 第12回 Do No Harm原則②【コネクター】、【ディバイダー】
- 第13回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ①
- 第14回 ケース・スタディ ポスニア・ヘルツェゴヴィナ②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 20% 課題... 20% 学期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

国際協力論Iを履修していれば、本講義の理解に役立ちます。国際協力論Iが基礎的な事項を学習するのに対して、国際協力論IIはより実践的な内容となっています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老人福祉論I【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

産業化をベースとして、近代化が成熟するとともに、人口構造の高齢化が社会現象として多くの課題をもたらすことになった。更には人口減少が始まり、人口転換が急速に進展すると予測されている。このような現状では人口高齢化を単なる社会問題として把握するにとどまらず、社会経済的視野に立脚した人間洞察ができるような視点を身につけることが要求される。高齢者福祉論1では高齢者の生活実態と社会情勢、人口構造、介護需要とともに、介護の概念や対象及び理念、制度・政策の歴史的経緯、介護保険法や老人福祉法等を概説する。さらに、行政組織や民間団体の役割、財政等の理解を促すよう講義を進める予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2010年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
他は講義の中で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【キーワード】

- 第1回～第2回 現代社会と人口減少、少子・高齢化問題と必要な政策課題【人口転換】
- 第3回～第5回 高齢者の生活実態や社会関係及び高齢者の生活支援の課題【生活支援】
- 第6回～第7回 老人福祉の歴史的経緯【施設・居宅サービス】【ノーマリゼーション】
- 第8回～第9回 老人福祉の法律と制度【老人福祉】
- 第10回～第11回 介護保険制度の概要【介護保険、権利擁護】
- 第12回～第14回 行政組織や民間団体の役割、財政等【行財政、民間活動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70% 授業態度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障制度における社会福祉の位置づけや基本的制度に関する知識

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論【夜】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂が公開されています。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 2回 人的資源管理の歴史的発展【人事管理論】【人的資源管理論】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務設計【職務拡大】【職務充実】
 - 5回 組織設計【分業】【調整】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 職能資格制度と人事考課制度【人事等級制度】【人事考課】
 - 8回 専門職制度【組織内プロフェッショナル】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 教育訓練制度とキャリア開発【選択型研修】【自律的キャリア】
 - 11回 福利厚生制度【カフェテリア・プラン】
 - 11回 非正規従業員と人材ポートフォリオ【雇用形態の多様化】
 - 12回 女性労働【ジェンダー】【ダイバーシティ】
 - 13回 労使関係【企業別労働組合】
 - 14回 人的資源管理領域における最近の学説【戦略的人的資源管理論】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% (出席は不定期に取り、単位の修得条件とする) 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくといよい。
また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスI【夜】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業ファイナンスは企業の財務的意思決定（資本調達、投資、配当）を分析する学問です。その際、株式市場での価格メカニズムを理解し、株式価値を上げるためにはどのような財務政策をとるべきかを考察します。企業ファイナンスIでは、企業の財務的意思決定に関する基礎知識を学習し、最適な意思決定の前提となる株式価値評価、資本コストの考え方について学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読めて奥までわかる コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社、2009年。
(注意) 2009年発行の改訂版を使用しますので、注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：企業の財務的意思決定とは？【投資】【資本調達】【配当】
- 2回 企業ファイナンスの世界【レバレッジ効果】【流通市場】【減価償却費】
- 3回 投資の基礎知識【設備投資】【金融投資】【ROA】
- 4回 資本調達の基礎知識1：自己資本調達【新株発行】【内部資本調達】【ROE】
- 5回 資本調達の基礎知識2：負債資本調達【普通社債】【転換社債】【ワラント債】
- 6回 投資、資本調達についてのまとめ
- 7回 配当の基礎知識【配当性向】【配当利回り】【自社株買い戻し】
- 8回 現在価値計算【現在価値計算】【リスク・プレミアム】
- 9回 金融商品の価格決定1【社債価格】【株価】【配当割引モデル】
- 10回 金融商品の価格決定2【一定配当モデル】【一定成長モデル】
- 11回 現在価値計算と金融商品の価格決定についてのまとめ
- 12回 資本コストの定義【資本コスト】
- 13回 自己資本コスト、負債資本コストと加重平均資本コスト【WACC】
- 14回 CAPMと企業評価の考え方【CAPM】【DCF法】
- 15回 資本コストのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの予習・復習を十分に行い、授業で提示する練習問題を繰り返し解くこと。毎回、電卓を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業ファイナンスII【夜】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業ファイナンスは企業の財務的意思決定（資本調達、投資、配当）を分析する学問です。その際、株式市場での価格メカニズムを理解し、株式価値を上げるためにはどのような財務政策をとるべきかを考察します。企業ファイナンスIIでは、企業の最適な投資決定、資本構成、配当政策に関するさまざまな理論を学習します。

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読めて奥までわかる コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社、2009年。
(注意) 2009年発行の改訂版を使用しますので、注意してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業ファイナンスの世界【期待収益率】【標準偏差】【レバレッジ効果】
- 2回 投資決定の基礎理論1【正味現在価値法】【内部収益率法】
- 3回 投資決定の基礎理論2【割引率】
- 4回 投資決定のまとめ
- 5回 資本構成の基礎理論1【MMの資本構成無関連命題】
- 6回 資本構成の基礎理論2【負債の節税効果】【倒産コスト】
- 7回 資本構成の基礎理論のまとめ
- 8回 配当政策の基礎理論1【MMの配当政策無関連命題】
- 9回 配当政策の基礎理論2【配当税制】【顧客効果】
- 10回 配当政策の基礎理論のまとめ
- 11回 資本構成・配当政策の応用理論1：【株式のエージェンシー・コスト】【新株発行】
- 12回 資本構成・配当政策の応用理論2：【負債のエージェンシー・コスト】【資産代替】
- 13回 資本構成・配当政策の応用理論3：【負債のエージェンシー・コスト】【過小投資】
- 14回 資本構成・配当政策の応用理論4：【シグナリング理論】【日本企業の財務政策】
- 15回 資本構成・配当政策の応用理論のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

企業ファイナンスIで扱う現在価値計算、配当割引モデル等の考え方を理解しておく必要があります。テキストの予習・復習を十分に行い、授業で提示する練習問題を繰り返し解くこと。毎回、電卓を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【夜】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会計学入門』新世社、（2007年11月）、1,800円（当時）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【売却時価】
- 7回 発生主義と実現主義【費用の発生】【収益の実現】
- 8回 資産とは何か 【流動・固定分類】
- 9回 負債とは何か 【債務】
- 10回 原価と時価【有用性】
- 11回 純資産とは何か【資本】【利益】
- 12回 企業会計のルール【企業会計原則】
- 13回 明瞭性の原則【ディスクロージャー】
- 14回 財務報告【投資家】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む） ... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計監査論 【夜】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業から独立した立場にある公認会計士が、財務諸表の信頼性を検証し担保する外部監査について、その本質と目的、手続と報告方法、さらには監査職能の証券市場への関わりについて考察する。経済学部履修者や資格試験受験者にとっては、これまでに学んできた会計関連科目の総まとめにもなる。しかしながら、専門職が社会に対して担う責任の拡がりを、広く考察するので、これまでに会計科目を学んだことがない人であっても、関心があれば積極的に受講されたい。講義時間中には、監査に関わりを持つ、社会的な視点や事件をも広く紹介したい。

教科書 /Textbooks

教科書等は、初回オリエンテーション時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 内はキーワード。なお、講義順は入れ替わることがある。)

- 1回：オリエンテーション～会計監査論を学ぶ意義と役立ちを考える～
- 2回：会計専門職の職業倫理【会計専門職】【職業倫理】
- 3回：「一般に認められた監査基準【GAAS】」について
- 4回：「監査基準書【SAS】」とその体系について
- 5回：監査契約と監査計画について【監査契約】【監査計画】
- 6回：内部統制の理解と経営者による報告書について【内部統制】
- 7回：監査一巡の手続きと監査リスクについて【監査リスク】
- 8回：実証テストと監査手続について【実証テスト】【監査手続】
- 9回：監査報告書とその種類について【監査報告書】
- 10回：今日の企業経営環境とゴーイング・コンサーン問題について【GC問題】
- 11回：四半期レビューとレビュー報告書について【レビュー】
- 12回：米国企業改革法の趣旨と、その日本への影響について【法と厳格監査】
- 13回：日・米の公認会計士試験問題等の一部紹介【公認会計士試験】
- 14回：粉飾決算の防止と、財務報告品質改善のための視点【粉飾決算】
- 15回：まとめと展望

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の要素の組み合わせ等により、総合的に評価する。

定期試験の成績 凡そ70%。 レポートの質 凡そ20%。 出席率や積極性 凡そ10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回、出席を確認し、レポートをも課す。本科目は、期末試験の山カケだけで単位が取れる科目ではない。動機づけをしっかりとった学生諸君の履修に期待したい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 重信 幸彦 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、「文化」という言葉を、ごく日常的に使う。「日本文化」「アメリカ文化」「中国文化」から、「若者文化」「大学文化」「会社文化」まで・・・何でも「文化」であり、どこにも「文化」がある、といったありさまである。そして私達はしばしば、「文化」と名づけられたものは、人間にとって良きものである、というイメージをいだきがちである。しかし、人間は「文化」という御旗をかかげて、互いに諍い、排除しあい、また殺しあうことすらある。「文化」とは、何か？ 本講義では、「文化」の否定的側面にも向き合いながら、人間にとっての「文化」について検討したい。 キーワード 【差異】【ことば】【他者】【アイデンティティ】【国民国家】

教科書 /Textbooks

テキストは指定しない。参考文献は講義中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一部 「文化」とは何か？
- 1回 「文化」って、何でしょう？
 - 2回 「文化」という言葉に何を託そうとしてきたか：「文化」という概念の変容
 - 3回 「文化」を語る時代・近代
 - 4回 「文化」の発見：博物館という装置から
 - 5回 「文化」が違う、とはどういうことか：文化相対主義から
 - 6回 語られるものとしての「文化」
 - 7回 「文化」の学はいかに可能か？
- 第二部 語られる<沖縄>・語る<沖縄>：文化の政治性を問うために
- 8回 <沖縄>という場所と近代
 - 9回 <沖縄>の「文化」への視線：「日琉同祖」という物語
 - 10回 「詩の国・夢の国」という物語
 - 11回 「国語」と沖縄の桎梏
 - 12回 沖縄方言論争と<沖縄>の「文化」の位置
 - 13回 抗争する「文化」というアリーナ：「文化と政治」へ
 - 14回 まとめ
 - 15回 質問日

成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポート... 80% 授業中の小レポート等 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のアウトラインに関するレジュメは配布しない。講義をよくきき十分にノートをとられたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこで、この授業では、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代において生命科学は広く社会に浸透・貢献しているとともに、遺伝子操作や生命操作等、生命倫理に新たな問題を投げかけている。本講では「生命科学と現代社会」をテーマとし、生命科学についての基礎教養を身につけるとともに、研究をとりまく社会や文化背景についての知識を身につけ、将来に向けた研究のあり方・考え方を学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東京大学生命科学教科書編集委員会『文系のための生命科学入門』羊土社2008年、福岡伸一『生物と無生物のあいだ』講談社2007年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 私たちの生活と遺伝子【遺伝】、【遺伝子】、【DNA】
 - 2回 生物の基本単位【細胞】、【核】
 - 3回 生命の誕生【ウイルス】、【DNA】、【進化】
 - 4回 遺伝子と染色体【細胞分裂】、【遺伝】、【ゲノム】
 - 5回 遺伝子の発見と研究の歴史(1)【DNA】、【RNA】、【タンパク質】
 - 6回 遺伝子の発見と研究の歴史(2)【転写】、【翻訳】
 - 7回 遺伝子操作の原理【遺伝子操作】
 - 8回 遺伝子と生命操作【ES細胞】、【iPS細胞】
 - 9回 医療分野における貢献(1)【がん】、【免疫】
 - 10回 医療分野における貢献(2)【生活習慣病】、【老化】
 - 11回 遺伝子と個人情報【DNA鑑定】、【遺伝子診断】
 - 12回 産業分野における貢献【遺伝子組換え作物】
 - 13回 生命観と生命科学研究【クローン胚】、【倫理】
 - 14回 娯楽作品にみる生命科学【映画】、【小説】、【クローン人間】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校生物を履修していない者は関連する項目について教科書や参考文献を読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

くらしと化学 【夜】

担当者名 竹之下 芳也 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、中国食品への化学物質の混入等で社会問題になっています。私たちの生活・環境にとって、化学物質は重大な関心事になっています。また、サプリメントの中には怪しい化学を歌っているものも多いです。このような中で、正しい判断力を磨くのも、現代人の資質だと思います。

教科書 /Textbooks

E.Jhon (渡邊正訳) 『逆説・化学物質...あなたの常識に挑戦する』 丸善 (1996) ¥2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R.Carson (青木梁一訳) 『沈黙の春』 新潮社 (1974年)
T.Colbon,D.Dumanoski&P.Myers (長尾力訳) 『奪われし未来』 翔詠社 (1997年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 化学の基礎①
- 2回 化学の基礎②
- 3回 香水.....うるわしい、かぐわしい、においの正体は？【香水】
- 4回～5回 砂糖と人工甘味料.....砂糖を科学する【単糖類】【オリゴ糖】
- 6回 アルコール.....上手につきあうためには【エチルアルコール】【アセトアルデヒド】
- 7回 コレステロール、脂肪、繊維.....メタボ対策の秘策は
- 8回 くすり.....アスピリンは万能薬【鎮痛剤】【鎮静剤】【麻薬】
- 9回～10回 ポリ塩化ビニール.....【プラスチック】【ポリマー】【環境問題】
- 11回～12回 ダイオキシン.....史上最強の毒物【ダイオキシン類】【環境汚染】
- 13回 無機窒素肥料.....有機肥料との違いは【窒素サイクル】【硝酸イオン】
- 14回 二酸化炭素.....地球温暖化の元凶【地球温暖化】【炭素サイクル】
- 15回 化学の時代へ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2006年度以前入学生は、授業科目「薬とくらし」、「栄養とくらし」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。
2007年度以降入学生は、授業科目「自己管理論」との関連性が深いので、併せて履修すると良い。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理学・心理士の立場から、発達障害リスク児への地域支援について考える。発達障害リスク児の早期スクリーニングとその後の療育的支援・就学移行支援について、行政・医療・教育・福祉・心理などの専門家と子ども本人やその家族が一緒になって地域支援体制を整えてきた具体例を参考に、発達障害リスク児に対する乳児期から小学校への移行支援について“地域で支える”地域連携の視点も踏まえて検討する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大神英裕(2008)『発達障害の早期支援 研究と実践を紡ぐ新しい地域連携』ミネルヴァ書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : オリエンテーション
- 第2回 : 早期幼児特別支援教育を巡る施策と研究の動向
- 第3回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(1)
- 第4回 : 乳幼児健診事業と心理・発達アセスメント(2)
- 第5回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(1)
- 第6回 : 乳幼児期コミュニケーション行動の定型発達過程(2)
- 第7回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(1)
- 第8回 : 発達障害リスク児の早期スクリーニング(2)
- 第9回 : 発達障害リスク児の早期支援(1)
- 第10回 : 発達障害リスク児の早期支援(2)
- 第11回 : 発達障害リスク児の早期支援(3)
- 第12回 : 小学校への移行支援(1)
- 第13回 : 小学校への移行支援(2)
- 第14回 : 移行支援における地域連携の重要性と課題
- 第15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植、着床前診断、中絶といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)、○平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)、○川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)
- 田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版](有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは何か ~ 本講義の構成と概説
第2回~第8回 「正義」の応用問題
~ 生命倫理と法【安楽死・尊厳死】【着床前診断】【中絶】【脳死・臓器移植】
第9回~第13回 「現代正義論」【ロールズ】【ノジック】【共同体主義】【裁判員制度】
第14回~第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80% 講義中に課す感想文(出席調査を兼ねる)... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会の諸問題【夜】

担当者名
/Instructor

山本 光英 / 法律学科, 今泉 恵子 / 法律学科
植木 淳 / 法律学科, 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
岡 邦信 / 法律学科, 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科
落合 俊行 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
高橋 衛 / 法律学科, 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科
福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科, 吉村 弘 / YOSHIMURA, Hiroshi / 社会システム研究科 博士後
期課程
小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。
本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「個人と国家との関係」(落合)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
山崎 勇治 / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この科目では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。プリントを適宜配布するか、ホームページからのダウンロードを指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。
- 1回 グローバル化とは何か(定義、諸説、歴史)
 - 2～3回 日本・米国経済のグローバル化 【ブラザ合意】 【FTA】
 - 4～6回 EU経済とグローバル化 【ユーロ】 【安定成長協定】
 - 7～8回 アジア経済とグローバル化 【WTO】 【技術移転】
 - 9～10回 企業の国際的活動とグローバル化 【多国籍企業】 【直接投資】 【国際経営比較】
 - 11～13回 金融規制緩和とグローバル化 【証券化】 【為替制度】
 - 14回 グローバル化の展望と世界経済への影響 【貧富の差】 【経済発展】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布されるプリントの予習復習を心がけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣 2006年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民党政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本史【夜】

担当者名 /Instructor 内山 一幸 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

境界・領域・国家といった観点から、日本の歴史上の諸問題について考えていく。例えば現代において「国境」というものは容易に越えがたいものであるが、中世の日本では「境界」は容易に越えうるものであった。それはなぜか、そのことが意味するものは何か、といったことを考えてみることで、古代から現代に至る各時代の「日本」の輪郭を示していく。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 網野善彦『「日本」とは何か』(講談社、2000年 / 講談社学術文庫、2008年)
- 神野志隆光『「日本」とは何か』(講談社現代新書、2005年)
- 村井章介『境界をまたぐ人びと』(山川出版社、2006年)
- 小熊英二『「日本人」の境界』(新曜社、1998年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史を学ぶ意義とは?【過去との対話】【史料】
- 第2回 「日本」とは何か(1)【国号】【日本】【倭】
- 第3回 「日本」とは何か(2)【鎖国】
- 第4回 「日本」とは何か(3)【日本人】
- 第5回 境界から考える(1)【蝦夷】【アイヌ】
- 第6回 境界から考える(2)【北海道開拓】
- 第7回 境界から考える(3)【琉球】【薩摩】
- 第8回 境界から考える(4)【琉球処分】【沖縄】
- 第9回 境界から考える(5)【対馬】
- 第10回 境界から考える(6)【博多】
- 第11回 「帝国日本」の形成と解体(1)【日清戦争】【台湾】
- 第12回 「帝国日本」の形成と解体(2)【日露戦争】【日韓併合】
- 第13回 「帝国日本」の形成と解体(3)【満蒙問題】【満洲国】
- 第14回 「帝国日本」の形成と解体(4)【敗戦】【引き揚げ】【講和条約】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

西洋史【夜】

担当者名 /Instructor 疇谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、ヨーロッパ諸国の動向と植民地帝国の編成・変化を見ることによって、「西洋史」を立体的に把握することを目指します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 中世ヨーロッパの世界観【プレスター・ジョン】
 - 3回 イベリア諸国の形成【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガル【アヴィス朝革命】
 - 5回 大航海時代と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガルのアジア進出【アルブケルケ】
 - 7回 ポルトガルによる植民地帝国の形成①【点と線の支配】
 - 8回 ポルトガルによる植民地帝国の形成②【南蛮貿易】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成①【エンコミエンダ制】
 - 10回 スペインによる植民地帝国の形成②【ポトシ】
 - 11回 オランダ、イギリスの台頭【東インド会社】
 - 12回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編【三角貿易】
 - 13回 環大西洋世界の展開①【環大西洋革命】
 - 14回 環大西洋世界の展開②【産業革命】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【夜】

担当者名 /Instructor 内田 直文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

古来より中国は様々な民族を吸収しながら変容を繰り返しており、周辺諸地域もその影響を受けつつ独自の国家形成を行ってきた。講義では、東アジアの歴史の変遷を考察することで、①中国・朝鮮・日本を始めとする東アジア諸地域の特異性について明らかにする。さらにそれを通じて②東アジア諸地域の未来像を自ら構想することのできる力を養いたい。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-講義の目標-
- 2回 モンゴル帝国の拡張 【チンギス=ハーン・分封・ケシク制】
- 3回 クビライ世界帝国の構想 【ジャムチ・大都】
- 4回 蒙古襲来と高麗・日本 【文永の役・弘安の役・石築地・鎌倉幕府】
- 5回 モンゴル帝国の遺産 【モンゴルシステム】
- 6回 明朝「中華世界システム」の形成(1)-朝貢・朝貢貿易・海禁 【前期倭寇・洪武帝】
- 7回 明朝「中華世界システム」の形成(2)-永楽帝とその時代 【鄭和・モンゴル親征】
- 8回 琉球王朝からみたアジア 【閩人三十六姓・万国津梁の鐘・唐営】
- 9回 明朝朝貢体制の崩壊(1)-国際交易の活発化と後期倭寇 【銀流通・王直】
- 10回 明朝朝貢体制の崩壊(2)-豊臣秀吉の「唐入り」と清朝政権の台頭 【文禄・慶長の役】
- 11回 明清交替とアジア諸地域の対応 【華夷変態・鄭成功】
- 12回 大清皇帝とその版図支配(1)-入関前の清朝政権 【ヌルハチ・ホンタイジ】
- 13回 大清皇帝とその版図支配(2)-入関後の清朝政権 【康熙帝・雍正帝・乾隆帝・軍機処】
- 14回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(1) 【華夷秩序・軍事政権】
- 15回 大清帝国・朝鮮王朝・江戸幕府-18世紀の東アジア世界(2) 【朝貢・大君外交】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 20% 定期試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、まず、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。ついで、「集団・組織」、「家族」、「階層」、「国際化」といった社会の各領域に焦点をあて、社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

『現代の社会的解釈』（山本努・辻正二・稲月正著、学文社、2006）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で、その都度、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～2回 社会学の基本的考え方【社会的行為】、【社会関係】、【社会構造】。
- 3回～4回 社会と個人 - デュルケムの方法『自殺論』【自己本位的自殺】【アノミー的自殺】
- 5回～6回 個人と社会 - ウェーバーの方法 - 『プロ論』【理解社会学】【行為の意味連関】
- 【意図せざる結果】
- 7回～8回 集団と組織【第1次集団】【準拠集団】
- 9回～10回 家族【家族】【機能】【産業化】【近代家族】
- 10回～13回 社会階層と社会移動【ジニ係数】【移動指標】【地位の非一貫性】
- 14回 グローバル化とエスニシティ【グローバリゼーション】【多文化共生】【統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって、各回テキストならびに配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倫理学 【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

哲学や宗教との関わりを通して倫理という言葉の基本的な意味を概観したあと、古代から現代にいたる主要な倫理学説を紹介してゆく。思想の歴史において倫理学というジャンルがどのように発展してきたのかを学ぶことが本授業の目的である。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岩田靖夫ほか『西洋思想のあゆみ—ロゴスの諸相』有斐閣、1993年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書、2006年。
- 熊野純彦『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書、2006年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 倫理学の考え方
- 2回 哲学と倫理 (1) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【ソクラテス】
- 3回 哲学と倫理 (2) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【プラトン】
- 4回 哲学と倫理 (3) 古代ギリシャにおける倫理学の成立【アリストテレス】
- 5回 宗教と倫理 (1) ユダヤ-キリスト教の倫理【ユダヤ教】
- 6回 宗教と倫理 (2) ユダヤ-キリスト教の倫理【原始キリスト教】
- 7回 宗教と倫理 (3) ユダヤ-キリスト教の倫理【教父哲学】
- 8回 宗教と倫理 (4) ユダヤ-キリスト教の倫理 (補足)
- 9回 近代倫理学の誕生 (1) イギリス経験論
- 10回 近代倫理学の誕生 (2) 契約説の確立
- 11回 近代倫理学の発展 (1) カント
- 12回 近代倫理学の発展 (2) 功利主義
- 13回 近代倫理学への批判 (1) ニーチェ
- 14回 近代倫理学への批判 (2) 徳倫理
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小レポート含む) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教養教育科目の「現代社会と倫理」・「思想と現代」とあわせて受講すれば、この分野に関する理解がいつそう深まるはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政夜 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング ユニット1～5、リーディング 序章
- 3回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第2章
- 5回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第3章
- 6回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第4章
- 7回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第5章
- 8回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第6章
- 9回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第7章
- 10回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第8章
- 11回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第9章
- 12回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第10章
- 13回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第11章
- 14回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第12章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Introduction to the course: Self introduction
- 第2回 My favourite place in Japan
- 第3回 My important friends
- 第4回 The sports I enjoy to watch and play
- 第5回 The places I want to visit
- 第6回 The food I like and what I can make
- 第7回 My favourite movies and actors/actresses
- 第8回 Countries of the world
- 第9回 What I would buy with 10 million yen
- 第10回 My family
- 第11回 The music I like
- 第12回 What I want to have for my dinner
- 第13回 What I do in the morning (routine)
- 第14回 The season I like
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【夜】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course will focus on writing. The topic will change weekly and students will be asked to write their creative compositions in class for marking and evaluating.

教科書 /Textbooks

No textbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) My summer holiday
- 第2回 The pets I like / the animals I hate
- 第3回 Health and fitness
- 第4回 The crossword puzzle
- 第5回 The person I want to meet
- 第6回 What I want for Christmas this year
- 第7回 My stress in my life and how I relieve stress
- 第8回 Sporting heroes
- 第9回 The TV programmes I like to watch
- 第10回 My skills
- 第11回 My future dream
- 第12回 How I get the news in my life
- 第13回 My three most important possessions
- 第14回 My biggest worry at the moment
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 60%, class participation and positive attitude 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【夜】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 律政夜2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またエッセイや英字新聞の記事を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指すことを目的とする。

教科書 /Textbooks

リスニング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
リーディング教材：生協の教科書リストに指定するので確認されたい。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスニング ユニット1～5、リーディング 序章
- 3回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第1章
- 4回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第2章
- 5回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第3章
- 6回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第4章
- 7回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第5章
- 8回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第6章
- 9回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第7章
- 10回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第8章
- 11回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第9章
- 12回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第10章
- 13回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第11章
- 14回 リスニング ユニット1～5、リーディング 第12章
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80% 授業への貢献 20%
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業、指定された作業とリーディング教材の予習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 律政夜2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの英語の4つのスキルのうち、リーディングとリスニングのスキルを高める。TOEICの問題演習を通じて英語力を高める。

教科書 /Textbooks

大学生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Picture Questions Reading
- 2 回 Picture Questions Reading
- 3 回 Picture Questions Reading
- 4 回 Question-Response Reading
- 5 回 Question-Response Reading
- 6 回 Question-Response Reading
- 7 回 Short Conversations Reading
- 8 回 Short Conversations Reading
- 9 回 Short Conversations Reading
- 1 0 回 Short Conversations Reading
- 1 1 回 Short Talks Reading
- 1 2 回 Short Talks Reading
- 1 3 回 Short Talks Reading
- 1 4 回 Short Talks Reading
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 80% 小テスト・課題等 ... 20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の前半は、テキストを使ってTOEICの問題演習を行い、授業の後半は、プリントを使ってリーディングを行う。プリントを使ったリーディングについては、予習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII【夜】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義・他 クラス 律政夜2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with learners: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

Rost, M., "Longman English Interactive Online (Level 2)," Pearson Education, 2008

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course
- 2回 Registering to the online course
- 3回 Greetings, occupations
- 4回 Introducing other people
- 5回 Food and restaurants
- 6回 Talking about one's weekend
- 7回 Talking about technology
- 8回 Talking about illness and health
- 9回 Giving directions
- 10回 Making plans
- 11回 Talking about shopping
- 12回 Talking about household chores
- 13回 Giving advice
- 14回 Group performances
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on attendance (25%), homework (25%), tests (25%), and effort speaking English in class (25%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。

講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説、発音【声調】【母音】【子音】
- 2回 発音、練習問題
- 3回 発音、練習問題
- 4回 発音、練習問題
- 5回 第1課 北京は中国の首都【代詞】【形容詞述語文】【主述述語文】【是構文】
- 6回 第1課 北京は中国の首都、練習問題
- 7回 第2課 美しい杭州【動詞述語文】【的の用法】【時間の表し方】
- 8回 第2課 美しい杭州、練習問題
- 9回 第3課 端午節【名詞述語文】【方位詞】【存在の表現】【所有の表現】
- 10回 第3課 端午節、練習問題
- 11回 第4課 中国老師教我們中文【了の用法】【二重目的語】【連動文】
- 12回 第4課 中国老師教我們中文、練習問題
- 13回 第5課 中国的“情人節”【是~的構文】【動作の進行】【動作・状態の持続】
- 14回 第5課 中国的“情人節”、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語II【夜】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。発音から始め、講読を通して日中の文化を理解し、特に読み書きの能力アップを図り、日常生活に必要なことは表現できるように訓練していきます。
講義全体のキーワードとしては、発音、語彙力、文法、読解です。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-講読編』中国書店(2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第6課 九州非常有意思【過去の経験】【動量】【時量】
- 2回 第6課 九州非常有意思、練習問題
- 3回 第7課 八月十五中秋節【助動詞】【完全否定】【部分否定】
- 4回 第7課 八月十五中秋節、練習問題
- 5回 第8課 泡温泉賞紅葉【前置詞】【助動詞】
- 6回 第8課 泡温泉賞紅葉、練習問題
- 7回 第9課 “福倒”与“福到”【結果補語】【存現文】
- 8回 第9課 “福倒”与“福到”、練習問題
- 9回 第10課 閩門海峡【方向補語】【把構文】【複文】
- 10回 第10課 閩門海峡、練習問題
- 11回 第11課 月光族【様態補語】【程度補語】【複文】
- 12回 第11課 月光族、練習問題
- 13回 第12課 日本跟中国都是亞州国家【比較の表現】【複文】
- 14回 第12課 日本跟中国都是亞州国家、練習問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出席・学習態度・小テストを含む)...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回必ずCDを聞く、新出単語を覚えるなど予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス 済営律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概説【中国と中国語について】
- 2回 発音【母音】
- 3回 発音【子音】
- 4回 発音【声調など】
- 5回 発音の総合練習
- 6回 第1課【“是”構文、形容詞述語文】
- 7回 第2課【主述述語文、動詞述語文】
- 8回 総合練習
- 9回 第3課【名詞述語文、“在”、“有”】
- 10回 第4課【“了”の用法、連動文】
- 11回 総合練習
- 12回 第5課【“是～的”構文、進行、持続の表現】
- 13回 第6課【過去の経験など】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点 (暗誦テストを含む) ...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 済営律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語の発音の基礎をマスターしながら、中国語の初級段階に必要な文法、語彙、表現を習得し、中国語を使って実用的なコミュニケーションが取れることを目指す。

教科書 /Textbooks

石川泰成 等『五星漢語-会話編』中国書店 (2010年3月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課【完全否定と部分否定】
- 2回 第8課【助動詞、前置詞】
- 3回 総合練習
- 4回 第9課【結果補語、存現文】
- 5回 第10課【方向補語、“把”構文、複文1】
- 6回 総合練習
- 7回 第11課【様態補語、程度補語、複文2】
- 8回 第12課【比較の表現、複文3】
- 9回 総合練習
- 10回 第13課【可能補語、使役表現】
- 11回 第14課【“被”構文、複文4】
- 12回 総合練習
- 13回 第15課、復習【複文5】
- 14回 復習練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20%、平常点(暗誦テストを含む)...40%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず毎回予習・復習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ【夜】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 /Credits

1単位

学期 /Semester

1学期

授業形態 /Class Format

講義

クラス 済営律政夜1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金貞愛他『しっかり初級韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞【ある・無い】【～に】
- 13回 指示代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど表】【何、なぜ、誰 等】【パソコンの入力方法】
- 14回 人称代名詞【私が男の場合】【私が女の場合】【韓国社会における人の呼び方】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅲの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語II【夜】

担当者名
/Instructor

チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 /Credits

1単位

学期 /Semester

2学期

授業形態 /Class Format

講義

クラス 済営律政夜1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
								○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現によって異なる言葉遣いにおける学習、短文の読解ができるための基礎文法を学習することを目標とする。

教科書 /Textbooks

金貞愛他『しっかり初級韓国語』（白水社）、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳(朝日出版社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Iの学習内容確認、丁寧形1【합니다体】
- 2回 助詞1、漢数字1【1～、分数・小数】
- 3回 助詞2、漢数字2【電話番号】【年月日】【誕生日】
- 4回 時制表現【昨日・今日・明日】【四季】【毎週・毎月・毎年】
- 5回 丁寧形2【해요体】文法説明
- 6回 丁寧形2【해요体】ドリル
- 7回 「해요体」の不規則、固有数字1【一つ、二つ...】
- 8回 「해요体」のドリル、固有数字2【年齢】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】及びドリル
- 10回 数量単位名詞【漢数字の場合】【固有数字の場合】
- 11回 希望及び願望【～たい】【～たがる】
- 12回 否定形、不可能形【안～,～지 않습니다】【못～,～지 못합니다】
- 13回 過去形【합니다体の過去】【해요体の過去】【日記】
- 14回 過去形の否定及び不可能【～지 않았습니다.】【～지 못했습니다.】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生はこの講義と朝鮮語IVの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語(韓国語)を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社)定価2,300円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)『朝鮮語辞典』(小学館)定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第1課 基本母音と基本子音(1)
- 2回 第2課 基本母音と基本子音(2)
- 3回 第3課 濃音と合成母音
- 4回 第4課 終声(パッチム)について
- 5回 発音のルール【有声音化】【濃音化】【連音化】
- 6回 発音のルール【激音化】
- 7回 発音のルール【鼻音化】【二つの字母の終声】【その他】
- 8回 第5課「私は～です」指定詞のハムニダ体(1)【肯定文と疑問文とその助詞】
- 9回 指定詞のハムニダ体(2)【否定文とその助詞】
- 10回 動詞と形容詞【基本形】
- 11回 動詞と形容詞のハムニダ体の作り方
- 12回 第6課「時間ありますか?」存在詞のヘヨ体【肯定文と否定文】
- 13回 時間と場所を表す単語とその助詞、位置を表すことば
- 14回 第7課「それは何ですか?」指定詞のヘヨ体の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題・小テスト...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第7課「それは何ですか?」【復習】指示代名詞と疑問詞・用言の尊敬形
- 2回 第8課「日曜日に何をしますか?」
- 3回 動詞と形容詞のへヨ体の作り方
- 4回 固有数詞と漢数詞
- 5回 第9課「何が好きですか?」動詞と形容詞のへヨ体【否定形】
- 6回 動詞と形容詞の変則について
- 7回 第10課「週末に何をしましたか?」
- 8回 動詞と形容詞のへヨ体【過去形】確認表現・願望表現
- 9回 第11課「明日は何をするつもりですか?」
- 10回 意思表現・行動の理由や根拠・丁寧な命令表現
- 11回 第12課「スープが冷たくておいしいです」
- 12回 並列と反意の接続語尾
- 13回 第13課「一度遊びに来てください」
- 14回 勧誘表現・約束表現など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...30% 課題・小テスト...20% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音（1）、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方（1）
- 3回 子音（2）、疑問詞のある疑問文と答え方（2）、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方（3）、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化（対格）、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化（前置格）、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化（生格）、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2-3回毎に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【夜】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 クラス 済営律政夜1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アルファベットの読み
- 2回 文字と発音：母音と母音文字、アクセント、母音の発音規則
- 3回 発音しにくい子音、硬子音と軟子音、名詞の性の判別
- 4回 所有代名詞表現、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、文の種類とイントネーション型
- 6回 50音のロシア文字表記法、文字の書き方練習
- 7回 一課前半 テキストの繰り返し読み、挨拶表現、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの繰り返し読み、人称代名詞、名詞複数形、所有表現の練習
- 9回 二課前半 テキストの繰り返し読み、動詞の現在変化練習
- 10回 二課後半 テキストの繰り返し読み、動詞を使った和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの繰り返し読み、所有表現練習、場所表現問題
- 12回 三課後半 テキストの繰り返し読み、形容詞変化の練習、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの繰り返し読み、1-10までの個数詞と時間表現の練習
- 14回 四課後半 テキストの繰り返し読み、生格用法の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2 - 3回に1回の割合で単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。習ったことの復習に時間をかけて授業準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス 済営律政夜1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

聞き取り・発音、会話に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの繰り返し読み、動詞未来表現、「・・・と一緒に」の表現練習
- 4回 五課後半 テキストの繰り返し読み、与格表現の練習、命令形の作り方練習
- 5回 六課前半 テキストの繰り返し読み、行先表現の練習、不規則動詞の発音練習
- 6回 六課後半 テキストの繰り返し読み、「どこへ」「どこで」「どこから」の表現練習
- 7回 七課前半 テキストの繰り返し読み、数量表現の練習、「雨・雪が降る」の表現
- 8回 七課後半 テキストの繰り返し読み、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの繰り返し読み、無人称文における述語表現の練習、月名の発音
- 10回 八課後半 テキストの繰り返し読み、義務・可能性表現の練習、「・・・は・・・が痛い」表現
- 11回 九課前半 テキストの繰り返し読み、年齢表現・年月日表現の練習
- 12回 九課後半 テキストの繰り返し読み、値段表現・仮定法表現の練習
- 13回 十課前半 テキストの繰り返し読み、関係代名詞構文の練習、形容詞格変化練習
- 14回 十課後半 テキストの繰り返し読み、単文と複文の練習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト ... 20% 授業への参加度 ... 20%
(出席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語力・文法事項の理解力を問う小テストを行う。また、本課に入れば、2回に1回の割合で、和文露訳の問題を課する。復習に力を入れて授業準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音】
- 2回 自己紹介【動詞の現在人称変化(1)、名詞】
- 3回 英語の君は話すの?【動詞の現在人称変化(2)、数詞】
- 4回 あなたの名前は何か?【動詞の現在人称変化(2)、時刻】
- 5回 私は父にこの本を贈ります。【人称代名詞、家族】
- 6回 私の夫はオーストリア人です。【冠詞類、月・季節】
- 7回 君は今日、暇ですか?【定形の位置(1)、曜日】
- 8回 もし私に暇があれば、小倉へ行きます。【定形の位置(2)】
- 9回 母の代わりに父が料理をします。【前置詞(1)】
- 10回 私は明日、街へ行きます。【前置詞(2)】
- 11回 ここに車を停めることができますか?【話法の助動詞(1)】
- 12回 私はこの手紙を日本へ送りたいのですが。【話法の助動詞(2)】
- 13回 なぜ君はパーティーにいかなかったの?【動詞の3基本形(1)】
- 14回 私には熱がありました。【動詞の3基本形(2)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音: ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語II【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

教科書 /Textbooks

『気分はドイツ』三修社、本郷建治 他
(Deutsch macht Spaß!)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。【(現在)完了形(1)】
- 2回 君は昨日何をしましたか?【(現在)完了形(2)】
- 3回 フランクフルト行きの列車はいつ発車するのですか?【分離動詞(1)】
- 4回 私はどこで下車しますか?【分離動詞(2)】
- 5回 私達はドイツのレストランへ行きます。【形容詞】
- 6回 私はベンチの上に座ります。【再帰動詞】
- 7回 雨が降っています。【esの用法】
- 8回 あなたが訪ねるその男性は私の友人です。【関係代名詞(1)】
- 9回 私が昨日見た映画は面白かった。【関係代名詞(2)】
- 10回 オーストリアではドイツ語が話されます。【受動(1)】
- 11回 山々は雪で覆われています。【受動(2)】
- 12回 夏にヨーロッパへ行く、と山下さんは言っています【接続法(1)】
- 13回 暇があれば、私もヨーロッパへ行くのになあ。【接続法(2)】
- 14回 ドイツ語を学ぶことは難しくありません。【分詞・zu不定詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音:ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じる事。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検5級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名詞の性と数
- 2回 不定冠詞、定冠詞
- 3回 リエゾン
- 4回 主語人称代名詞、第1群規則動詞
- 5回 第1群規則動詞、疑問文
- 6回 否定文、疑問文への答え方、形容詞(1)
- 7回 所有形容詞、動詞(être)
- 8回 動詞(avoir)、冠詞の変形
- 9回 第2群規則動詞、指示形容詞、形容詞(2)
- 10回 冠詞の宿約、部分冠詞
- 11回 動詞(aller)
- 12回 動詞(venir)、命令法
- 13回 疑問代名詞、直接目的語代名詞
- 14回 間接目的語代名詞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語II 【夜】

担当者名 /Instructor 山下 高之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

仏検4級が受験できる程度以上の文法知識を習得する。

教科書 /Textbooks

内藤陽哉・玉田健二『フランス語を1、2の3』（白水社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 比較級、最上級
- 2回 代名動詞
- 3回 複合過去
- 4回 単純未来
- 5回 関係代名詞(1)、半過去
- 6回 大過去
- 7回 条件法現在
- 8回 条件法過去
- 9回 現在分詞、ジェロンディフ
- 10回 過去分詞の一致、疑問形容詞、人称代名詞強勢形
- 11回 非人称構文、受動態、指示代名詞
- 12回 関係代名詞(2)、中性代名詞
- 13回 接続法現在
- 14回 接続法過去
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(出欠含む) ... 40% 期末試験... 40% 小テスト... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あらかじめテキストを熟読しておくこと。
動詞変化を宿題として出すので、覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法のクラス(「フランス語I・基礎I」と併せて受講し6月の仏検で5級に合格できる力をつけることを目指します。
 キーワード・・・仏検5級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話I(CD付き)』(加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 フランス語と授業のやり方についての説明。
- 2回 1課
- 3回 2課
- 4回 3課
- 5回 4課
- 6回 5課
- 7回 6課
- 8回 7課
- 9回 8課
- 10回 9課
- 11回 10課
- 12回 復習1
- 13回 復習2
- 14回 復習3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%

※6月の仏検で5級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 水本 弘文 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

フランス語の初歩的な会話表現を学びます。文法クラスの授業と併せて11月の仏検で4級に合格できる力をつけることを目指します。
キーワード・・・仏検4級

教科書 /Textbooks

『ラビッド・フランス語会話II (CD付き)』 (加藤雅郁著、駿河台出版社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストは会話文を学ぶ10課構成。進度の目安は一回一課。原則毎回復習の小テストを行います。

- 1回 1課
- 2回 2課
- 3回 3課
- 4回 4課
- 5回 5課
- 6回 6課
- 7回 7課
- 8回 8課
- 9回 9課
- 10回 10課
- 11回 復習1
- 12回 復習2
- 13回 復習3
- 14回 復習4
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・・・50% 定期試験・・・50%
※11月の仏検で4級に合格した人には最低でもCを保証。ただ仏検に合格していても期末試験を受験しなかった場合は成績が出せませんので、期末試験は必ず受験してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。この授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、文法・講読に重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業はテキストの練習のほか、動詞を中心にスペイン語文の構造を理解したいと思います。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びます。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ、弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語とは? その歴史
- 2回 アルファベット・発音・アクセント
- 3回 名詞の性・数・冠詞
- 4回 人称代名詞・基本動詞の変化
- 5回 直説法現在形の規則活用
- 6回 文の種類、肯定文、否定文、特殊疑問文
- 7回 基本的文章表現
- 8回 不規則動詞の活用と基本表現
- 9回 形容詞の性・数変化
- 10回 指示詞、所有形容詞
- 11回 代名詞目的格と基本表現
- 12回 不規則動詞と慣用的表現
- 13回 不定詞の用例
- 14回 重要表現の反復練習(プリント)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

スペイン語の動詞活用はやや難解です。連続して欠席するとついて行けません。分からない語彙は事前に辞書で調べることを。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語II【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語Iの続編です。この授業で、スペイン語の初級文法を習得します。映像などを利用してスペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語で表現しよう』（青木・辻・マリアJ, 弘学社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現在完了形
- 2回 過去形(完了過去・不完了過去)
- 3回 不定語とその例文
- 4回 天候表現
- 5回 不規則動詞の過去形
- 6回 現在分詞、進行形と例文
- 7回 名詞節・副詞節・形容詞節
- 8回 未来形・条件未来・過去完了
- 9回 同上
- 10回 直接話法・間接話法(時制の一致)
- 11回 再帰動詞(1)
- 12回 再帰動詞(2)その用例
- 13回 接続法現在形と命令文
- 14回 接続法とその用例
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

欠席は好ましくありません。根気とパシオンでがんばること。予習・復習を行い、スペイン語検定4級くらいは合格しよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

スペイン語は「エスパニョール」といいます。授業では、アルファベットから発音練習に慣れ親しみながら、日常の生きた初歩的な会話表現を重点的に学び、スペイン語の入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入的なお話、スペイン語とスペイン語圏について
- 2回 アルファベット、単語の読み方
- 3回 名詞の性と数、冠詞、挨拶表現
- 4回 動詞serを用いた表現
- 5回 動詞serを用いた特殊表現
- 6回 動詞estar, hay...を用いた表現(反復練習)
- 7回 動詞ester, hay...を用いた疑問文・返答文
- 8回 時刻表現、形容詞など
- 9回 規則動詞(1)、所有形容詞
- 10回 規則動詞(2)、指示形容詞
- 11回 規則動詞(3)、指示代名詞
- 12回 動詞活用と基本的表現のプラクティス
- 13回 重要な不規則動詞の基本表現
- 14回 便利な日常会話表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80% 小テスト...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

外国語を学ぶには辞書は不可欠。聴いて話す(発声)ことを反復すること。動詞の活用が難解です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 済営律政夜1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は1学期開講のスペイン語Ⅲの続編です。初歩的な会話表現に重点を置き、入門的基礎力を習得します。授業は教員からの一方的な講義ではなく、「聴く・話す(発音)」方式で行われます。また映像などを利用して、スペインの歴史・文化・社会の諸相を学びたいと思います。

教科書 /Textbooks

『スペイン語でスケッチ』第三書房、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○岡田たつお『現代スペイン語講座』芸林書房、その他、図書館にあります。
辞典は必須です。『現代スペイン語辞典』白水社、『西和中辞典』小学館、『クラウ西和辞典』三省堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペイン語Ⅲの復習-動詞の活用と基本表現
- 2回 直説法現在 不規則動詞、直接目的格、天候表現
- 3回 天候表現、時刻表現
- 4回 不規則動詞、不定詞、所有形容詞
- 5回 反復練習-日常会話表現
- 6回 間接目的格と動詞gustar
- 7回 直接目的格・間接目的格
- 8回 再帰動詞(1)
- 9回 再帰動詞(2)
- 10回 ビデオでイスパニア圏を旅する
- 11回 比較級と最上級
- 12回 直説法現在完了
- 13回 命令形(1)
- 14回 日常会話表現集
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 80% レポート... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから動詞の活用を繰り返し練習。辞書はいつでも携帯する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords